

HP Email Archiving software
for IBM Lotus Domino
Version 2.1

インストールおよび管理ガイド



ご注意

© Copyright 2007?2010–NaN Hewlett–Packard Development Company, L.P.

Hewlett–Packard Companyは、本書についていかなる保証 (商品性および特定の目的のための適合性に関する黙示の保証を含む) も与えるものではありません。Hewlett–Packard Companyは、本書中の誤りに対して、また本書の供給、機能または使用に関連して生じた付随的損害、派生的損害または間接的損害を含め、いかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護されている機密情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett–Packard Companyの事前の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他の言語に翻訳することはできません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。Lotus®、Domino®、Lotus Notes®、LotusScript®、AIX®、AS/400®、iSeries®、RS/6000®、pSeries®、OS/390®、およびzSeries®は、米国におけるIBM Corporationの登録商標です。iNotes™は、米国におけるIBM Corporationの商標です。Java™は、Sun Microsystems, Incの米国における商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett–Packard Company製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。

目次

1	HP EAs Dominoの概要	15
1.1	概要	17
	インストールの前提条件	17
	HP Integrated Archive Platformとアーカイブソフトウェア	17
	HP EAs Dominoで使用する用語	18
1.2	Lotus Dominoのアーキテクチャーとサポートされている構成	21
	Lotus Dominoのネットワークアーキテクチャー	21
	HPゲートウェイサーバー	21
	HP EAs Dominoの設定	23
	HP EAs Dominoを現在のシステムや設定と組み合わせて動作させる方法	23
	マイニングの設定	24
	アクティブゲートウェイの設定	25
	専用ジャーナルサーバーの設定	26
	複製ジャーナルの設定	27
	スケーラブルなマルチゲートウェイの配置	28
	その他のHP EAs Dominoの設定	29
	高度なフィルタリング	29
	DWA Extensionの設定	30
	Export Searchの設定	31
	一括アップロードの設定	33
1.3	システム要件	35
	IAPの要件	35
	ユーザーDominoサーバーの要件	35
	サポートされるオペレーティングシステムとLotus Dominoのバージョン	35
	サポートされるLotus Notesクライアント	38
	IAP Webインターフェイス	38
	Export Search Webインターフェイス	38
	サポートされる文字セット	39
2	HPゲートウェイのインストール	41
2.1	HPゲートウェイ環境の準備	43
	HPゲートウェイサーバーへのWindowsソフトウェアのインストール	43
	日付と時刻の調整	44
	Lotus DominoサーバーソフトウェアのHPゲートウェイサーバーへのインストール	44
	組織単位の証明書の作成	44
	Lotus Dominoサーバーソフトウェアのインストール	44
	マスターサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行	45
	Dominoサーバーの実行	47

Lotus Notesクライアントソフトウェアのインストール	47
Java Runtime Environmentのインストール	48
追加のHPゲートウェイサーバーのインストール	49
追加のHPゲートウェイサーバーの登録	49
追加のHPゲートウェイサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行	51
サーバー接続文書の作成	53
Notes IDとDomino Directoryのバックアップ	53
2.2 HPゲートウェイサーバーの設定	55
HP GatewayドメインのDomino Administratorクライアントへの追加	55
HPゲートウェイサーバーのセキュリティの設定	56
Agent Managerのパラメーター値の編集	57
ユーザーのメールサーバーに対する接続文書の作成	57
外部のSMTPドメイン文書の作成と設定	58
SMTP接続文書の作成と設定	58
HPゲートウェイサーバーの設定文書の作成	59
ログファイルサイズの制限	60
JavaMaxHeapSizeの変更	60
2.3 ユーザーのDominoメールドメインの設定	63
HPゲートウェイサーバーへのアクセス権の設定	63
信頼できるサーバーの設定	63
2.4 HP EAs Dominoソフトウェアの説明	65
HP EAs Dominoデータベース	65
HP EAs Dominoデータベースのテンプレート	66
HP EAs Domino notes.iniのエントリー	67
HP EAs Dominoのバイナリ	68
2.5 マスターHPゲートウェイサーバーへのHP EAs Dominoソフトウェアのインストール	69
ソフトウェアをインストールする前に	69
HP EAs Dominoソフトウェアのインストール	69
アクセス制御リスト (ACL) の設定	71
2.6 HPゲートウェイサーバーでのDASの準備	73
概要	73
DASのプロセスの変更	73
統合ディレクトリの作成	74
Directory Catalogerの処理のスケジュール設定	78
Directory Assistanceのデータベースの作成と設定	78
ポインターの設定	80
LDAP設定の確認	81
DAS Names Configuration文書の編集	81
Directory Information (ディレクトリ情報)	81
Directory Fields (ディレクトリフィールド)	83
Directory Entry Settings (ディレクトリエントリーの設定)	83
Group Cache settings (グループキャッシュの設定)	85
Logging (ログ機能)	86
HP EAs-D DAS Namesデータベースの設定	86
DAS Namesに対するACLの設定	86
Populate DAS Namesエージェントの有効化	86

サーバーの再起動	87
DAS関連のデータベースのビューの再構築	87
DASバックアップサーバーの設定	88
2.7 追加のHPゲートウェイサーバーの設定	91
設定手順	91
追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開	91
2.8 ユーザー環境でのHP EAs Dominoコンポーネントのインストール	97
2.9 旧バージョンのEAs Dominoソフトウェアからのアップグレード	99
2.10 HP EAs Dominoソフトウェアのアンインストール	101
HP EAs Dominoソフトウェアのアンインストール	101
Windowsサーバー	101
Linux、Solaris、およびAIX	102
Dominoの設定ファイルの削除	104
エンドユーザーのクライアントシステム	104
IAP	104
3 HP EAs Domino環境の設定	105
3.1 HP EAs-D APIのメインビュー	107
3.2 Global Configuration文書の編集	109
概要	109
設定の構成	110
[General Settings (全般設定)]	110
[Additional Modules (追加モジュール)]	111
[Address Conversion Settings (アドレス変換設定)] (グローバル)	111
[SMTP Alias (SMTPエイリアス)]	111
[Multiple Domino Domain (複数Dominoドメイン)]および[Multiple Domino Domain (Group) (複数Dominoドメイン (グループ))]	112
[Agent Settings (エージェント設定)]	112
[DWA Index Settings (DWAインデックス設定)]	112
[Error Messages (エラーメッセージ)]	113
[Administration Alert (管理アラート)]	113
3.3 Server Definition文書の設定	115
概要	115
設定の構成	116
[Server Settings (サーバー設定)]	116
[Archiving Options (アーカイブ オプション)]	117
[Address Conversion Settings (アドレス変換設定)]	119
[Profile Agent Settings (Profileエージェント設定)]	119
[Execution Settings (実行設定)]	119
[Session Settings (セッション設定)]	119
[Program Control settings (プログラム制御設定)]	120
[DWA Settings (DWA設定)]	121
[Gateway server (ゲートウェイサーバー)]	122

[Logging (ログ機能)]	123
[Administration Alert (管理アラート)]	124

4 IAPへの電子メールのアーカイブ 127

4.1 Selective Archivingの設定 129

Selective Archivingプロセス	129
マイニングルールの設定	130
[Time Conditions (期間条件)]	131
[Folders Settings (フォルダー設定)]	132
[Exceptions Settings (例外設定)]	133
[Special Fields (特殊フィールド)]	133
[Attachments & Doc size (添付ファイルとドキュメントのサイズ)]	134
[Other Macro Formula (その他のマクロ式)]	135
[User Membership (ユーザーメンバシップ)]	135
ワイルドカードパターンの定義	137
[Reference Database (Referenceデータベース)]	137
[Tombstone Settings (Tombstone設定)]	138
[Session Settings (セッション設定)]	142
[Reference Limits (リファレンスリミット)]	142
[Session Limits (セッション制限)]	142
[Archive Strategy (アーカイブ戦略)]	143
[User Notification (ユーザー通知)]	144
[Administration Alert (管理アラート)]	144

4.2 メッセージの前処理 145

前処理の概要	145
Preprocessing Control文書の設定	146
[Databases Location (データベースロケーション)]	147
[Encapsulation Settings (カプセル化設定)]	148
[Agent Log Settings (エージェント ログ設定)]	149
[Execution Settings (実行設定)]	150
[Logging (ログ機能)]	151
PreProcessエージェントのスケジュール設定と有効化	151

4.3 Archiveエージェントの設定 153

Profileエージェントの操作	153
Mail Detail文書の表示	153
Profileエージェントのスケジュール設定	155
他のHP EAs-D Userエージェントの有効化	155
Statistics User Activity Alertエージェント	155
エージェントの値の編集	156
エージェントのスケジュール設定	156
Purge Not Synchronized person documentエージェント	156
Purge Selective Archive Logエージェント	157
PreProcessエージェントの有効化	157
Get Held Messagesの設定	158
Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化	158

4.4 アーカイブジョブの実行 161

アーカイブジョブのスケジュール設定	161
追加のプログラム文書	163

アーカイブジョブの手動実行	163
リファレンス文書の表示	166

4.5 ログファイルの操作 169

HP EAs-D Logデータベース	169
ログファイルの表示	169
ログエントリーの削除	173

4.6 Compliance (ジャーナル) Archivingの設定 175

Compliance Archiving用のメールサーバーの設定	175
高度なフィルタリングのインストール	176
高度なフィルタリングモジュールのインストール	176
Mail-inジャーナルデータベースの作成	178
EAs-D APIデータベースのアクセス権の設定	178
Mail-In Database文書の作成	179
ジャーナリングルールの作成 (高度なフィルタリング)	179
[Traffic Definition (トラフィック定義)]タブ	180
[Sender/Receiver Exceptions (送信者/受信者の例外)]タブ	181
[Content Exceptions (コンテンツの例外)]	182
[Journal Database (ジャーナルデータベース)]	183
[Rules Status (ルールステータス)]	183
ジャーナリングルールの編集 (高度なフィルタリング)	184
Lotus Dominoネイティブジャーナリング	185
Mail-inジャーナルデータベースの作成	185
ジャーナルからのMail-to-Meメッセージの削除	186
[Advanced Inbound Message Options (インバウンドメール詳細オプション)]の設定	186
ジャーナリングの有効化	187
同一のサーバー上での高度なフィルタリングとDominoネイティブジャーナリングの設定	189
ジャーナリングされたメッセージのアーカイブ	190
マイニングルールの設定	191
ジャーナルユーザーの追加	193
Preprocessing Control文書の編集	194
PreProcessエージェントとArchiveエージェントの有効化	194
Compliance Archivingジョブのスケジュール設定	194

4.7 一括アップロードの使用 195

一括アップロードソフトウェアのインストール	195
ローカルの一括アップロードファイルのインストール	195
HPゲートウェイサーバーでの一括アップロードファイルのインストール	196
一括アップロードプロセス	197
一括アップロードマイニングルールの編集	197
Preprocessing Control文書の編集	198
エージェントの有効化	198
メールファイルのスキャン	198
メールファイル所有者の検出	199
Mail Detailレコードの確認	200
メールファイルのアーカイブ	200

5 IAPからの電子メールの取得 203

5.1 DWA Extensionの設定 205

概要	205
----------	-----

DWA Extension:のインストール	206
DWA ExtensionのACLの設定	208
DWAにIAP SSOを設定する	208
DWA Extensionの設定手順	209
Proxy Gateway文書の設定 (オプション)	210
Tombstone Prototype文書の設定	211
[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブの編集	216

5.2 Export Searchの使用 219

概要	219
Export Search Desktopツールを使用してメッセージをエクスポートする	219
検索結果の保存	221
サーバーを使用したメッセージのエクスポート	221
サーバーサイドのExport Searchのインストール	221
Export SearchのACLの設定	223
Lotus Notesクライアントを使用したメッセージのエクスポート	225
メッセージのエクスポート	225
メッセージの抽出	225
エクスポート要求の編集または再実行	229
Export Search Webインターフェイスを使用してメッセージをエクスポートする	229
Export Search文書の設定	230
Export Search要求の作成	230
Export Searchエージェントの実行	235
Export Searchエージェント	235
PopulateFolderFilesエージェント	235
Export Searchエージェントのスケジュール設定	235

5.3 IAPシングルサインオンの設定 237

HP EAs-D SSOデータベースの作成	237
HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定	238
Search The IAP Archiveエージェントの設定	242
実装プロセス	243
設計要素のテンプレートからのコピー	243
Search The IAP Archiveエージェントの変更	244
IAPでのSSOの設定	245
秘密鍵のインストール	245
ユーザー名マッピングの変更	246
クライアントコンピューターの設定	247

5.4 HP EAs Dominoクライアントアプリケーションの操作 249

IAP Webインターフェイスの使用	249
Notesナビゲーションペインでのリンクの作成	250
Webインターフェイスへのリンクの作成	250
シングルサインオンの設定	251
Local Cacheの使用	251
Local Cacheのインストール	252
Local Cacheの設定	253
キャッシュからのメッセージの削除	257
Local Cacheのアンインストール	257
Windows Notes Clientプラグインの使用	258
プラグインインストーラーの設定	258
プラグインのインストール	261
Windows Notes ClientプラグインとLocal Cacheの使用	261

tombstoneアイコンの追加	262
カプセル化されたメッセージの取得と表示	263
Lotus NotesおよびDWAでカプセル化されたメッセージを取得して開く手順	263
IAP Webインターフェイスでカプセル化されたメッセージを開いて表示する手順	264
Lotus Notesでカプセル化されたメッセージを開く	264

6 トラブルシューティングとパフォーマンスの向上 265

6.1 トラブルシューティング 267

HPサポート向けデータの収集	267
収集する情報	267
Heldメッセージの処理	267
メッセージの再処理	268
HPサポート担当者向けのHeldメッセージの収集	269
Referenceデータベースのトラブルシューティングツール	270
サーバーの安定性	270
サーバーの不安定さの防止	270
マイニングプログラムのシャットダウン	270
JVM panic gc0 error	271
メールのルーティングに関する問題	271
メールのバックアップのチェック	271
Hold状態またはDead状態のメッセージ	272
mail.boxファイルの統合	272
HPゲートウェイサーバーからメールサーバーへのルートがない	272
HPゲートウェイサーバーからDominoメールサーバーへのアクセスが許可されていない	272
HPゲートウェイサーバーからメールファイルへのアクセスが許可されていない	272
HPゲートウェイサーバーからIAPへのルートがない	272
HPゲートウェイルーターに低優先度のメッセージが残る	272
Dominoのdebug/パラメーター	273
Dynamic Account Synchronization (DAS) の問題	273
ユーザーのDomino DirectoryからHPゲートウェイの統合ディレクトリにデータをコピーする際の問題	273
DASでユーザーをロードできない	273
ユーザーがすでに存在する	275
ユーザーがIAPのWebインターフェイスにログオンできない	275
アーカイブに関する問題	276
アーカイブ処理が実行されていない	276
電子メールが正しくない	276
「Unable to open index table of Mail Details records (Mail Detailsレコードのインデックステーブルを開けません)」エラー	276
グループのメンバーの電子メールがマイニングされない	276
ATTxxxxxという名前のメッセージ添付ファイル	277
大きいMail Detailログ レコード	277
正しくないコンテンツタイプ	277
Microsoft Office 2007 MIMEタイプのサポートの追加 (Lotus Domino 7.x)	278
クライアントアプリケーションの問題	278
Notes Clientプラグインのトラブルシューティング	279
Phone Message (伝言メモ) に内容が2回表示される	279
Lotus Notesでミーティング要求を開くときにエラーになる	279
Export Search (デスクトップツール) のトラブルシューティング	279
ファイルタイプの確認	279
ファイルタイプの関連付けの作成	280
ファイルタイプの関連付けの変更	280

6.2 パフォーマンスの向上	283
データベースの縮小	283
HPゲートウェイサーバーの設定の編集	283
HPゲートウェイサーバーの監視	284
7 付録	285
A インストール準備のためのワークシート	287
お客様情報	287
IAPに関する情報	288
HPゲートウェイの環境	289
マイニングの対象となるDominoサーバー	291
HP EAs Dominoの機能 (Dominoサーバー)	292
HP EAs Dominoの機能 (クライアントシステム)	293
B インストール後のチェックリスト	295
インストール: マスターHPゲートウェイサーバー	295
インストール: 追加のHPゲートウェイサーバー	296
設定: 電子メールのアーカイブ	296
C IAPの設定	299
LNMの設定	299
フォルダーサポートの無効化	299
デフォルトのLDAP属性のマッピング	299
ディレクトリの統合	300
IAPで統合ディレクトリ機能を有効化	300
正しい実行の確認	301
統合ディレクトリ機能の無効化	303
トラブルシューティング	304
アカウントのセキュリティ	304
DASジョブの作成と実行	305
LDAPサーバー接続の作成	305
DASジョブの作成	306
HTTPポータル割り当て	309
DASジョブの起動、スケジュール、および停止	310
DAS履歴ログの表示	310
D 新しいEAs Dominoデータベースの作成	311
ReferenceデータベースとPreProcessデータベースの作成	311
新しいEAs Dominoデータベースの作成	311
E 日本語データ用のHP EAs Dominoの設定	313
電子メールストレージの形式	313
ISO-2022-JPと半角カナ文字	313
HPゲートウェイサーバーの設定文書の変更	314
F インデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ	317
G サポートとその他の資料	319
参考資料	319

関連情報	319
サポート	319
表記上の規則および記号	320

索引	321
----------	-----

目 一 覧

1 HPゲートウェイ用のDominoドメイン	22
2 アクティブゲートウェイによるリモートマイニング	25
3 専用ジャーナルサーバーによるリモートマイニング	26
4 複製ジャーナルによるリモートマイニング	27
5 スケーラブルなアクティブゲートウェイの導入	28
6 高度なフィルタリングの設定	30
7 DWA Extensionの設定	31
8 クライアントシステムでのExport Search	32
9 Lotus DominoサーバーでのExport Search	32
10 一括アップロードの設定	33

表一覽

1 管理者向けのIAPおよびEAs Dominoアプリケーション	18
2 ユーザー向けのIAPおよびEAs Dominoアプリケーション	18
3 サポートされるプラットフォームとオペレーティングシステムアーカイブ	36
4 サポートされるプラットフォームとオペレーティングシステムその他のEAs Dominoアプリケーション	37
5 サポートされるブラウザ	38
6 IAPでサポートされる文字セット	39
7 HP EAs Dominoのバイナリ	68
8 IAPでインデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ	317
9 表記上の規則	320

Part 1. HP EAs Dominoの概要

- ・ 概要 (17ページ)
- ・ Lotus Dominoのアーキテクチャーとサポートされている構成 (21ページ)
- ・ システム要件 (35ページ)

1.1 概要

- ・ [インストールの前提条件](#) (17ページ)
- ・ [HP Integrated Archive Platformとアーカイブソフトウェア](#) (17ページ)
- ・ [HP EAs Dominoで使用する用語](#) (18ページ)

HP Email Archiving software for IBM Lotus Domino (EAs Domino) は、Lotus Notesの電子メールメッセージを対象とする、スケーラブルで柔軟性の高いアーカイブソリューションです。本書では、EAs Dominoのインストール、アーカイブソフトウェアの設定および管理について説明します。本書は、『HP Integrated Archive Platform Installation Guide』と『HP Integrated Archive Platform管理者ガイド』と併せてお読みください。

インストールの前提条件

この製品をインストールするための前提条件は、次のとおりです。

- ・ IBM Lotus DominoおよびLotus Notesについての知識があること
- ・ IAP/EAs Dominoのトレーニングを受けていること
- ・ 本書、IAPインストールガイド、IAP管理者ガイドを通読していること
- ・ インストール先が最低限のインストール要件を満たしていること
「[システム要件](#)」(35ページ)を参照してください。
- ・ EAs Dominoのインストールチェックリストの条件が満たされていること
「[インストールのためのワークシート](#)」(287ページ)を参照してください。
- ・ 最新情報についてリリースノートまたはreadmeを確認していること

HP Integrated Archive Platformとアーカイブソフトウェア

HP Integrated Archive Platform (IAP) は、安全なハードウェアとソフトウェアのフォールトトレランスシステムです。組織の電子メールメッセージや添付ファイルをアーカイブし、ユーザーが自身のアーカイブされたメッセージにアクセスできるようにします。IAPの主な機能は、次のとおりです。

- ・ 組織がデータストレージ要件や法的な要件に適合するための自動的でアクティブな電子メールアーカイブ
- ・ アーカイブされた電子メールを、さまざまな基準に従って検索して取得する対話型データクエリ

HP Email Archiving software for IBM Lotus Domino (EAs Domino) は、IAPに付属している管理および設定用ソフトウェアです。

HPのサービス担当者とDominoの管理者は、次のツールを使用してこのシステムの設定、管理、トラブルシューティングを実行できます。

表1 管理者向けのIAPおよびEAs Dominoアプリケーション

アプリケーション	説明
HP EAs Dominoサーバーソフトウェア	システム管理者はこのソフトウェアを使用して、マイニングおよびジャーナリングのルールを作成し、電子メールメッセージをアーカイブするためのエージェントを設定することができます。
IAP PCC (Platform Control Center)	管理者はIAPシステムのステータスや性能の監視およびトラブルシューティングを実行し、Webブラウザを使用してIAPユーザーアカウントを管理することができます。

管理者、コンプライアンス担当者、およびユーザーは、システムとのやり取りに次のアプリケーションを使用できます。

表2 ユーザー向けのIAPおよびEAs Dominoアプリケーション

アプリケーション	タスク
IAP Webインターフェイス	ユーザーは、Webブラウザを使用してシステムにアーカイブされた電子メールを検索、表示、送信し、検索クエリの定義とその結果を保存して再利用することができます。
HP EAs Dominoクライアントアプリケーション (カスタマーオプション)	Windows Notes Clientプラグインがインストールされている場合は、ユーザーはアーカイブされたメッセージをLotus Notesのメールボックスで表示および開くことができます。また、アーカイブされたメッセージをローカルキャッシュに保存することや、メッセージをIAPからNotesデータベースにエクスポートすることもできます。
HP EAs Domino DWA Extension (カスタマーオプション)	Domino Web Access (iNotes) のサポートが設定されている場合は、アーカイブされたメッセージをDWAで表示および開くことができます。

HP EAs Dominoで使用する用語

本書では次のHP EAs Dominoの用語を使用します。

Integrated Archive Platform (IAP)

アーカイブシステム。HPサーバーとグリッドストレージの技術、ネイティブで提供されるコンテンツのインデックス作成機能、検索、およびポリシー管理ソフトウェアが、工場を組み立て済みの1台のラックシステムに統合されています。

HP EAs Domino

IAPに統合されたIBM Lotus Domino用の電子メールアーカイブソフトウェアです。

レポジトリ

電子メールと電子メールの添付ファイルは、レポジトリにアーカイブされます。レポジトリは、ルーティング規則別（文書の保存）およびアクセス制御リスト別（文書の取得）に、特定のユーザーに関連付けられた文書の仮想集合です。ユーザーは、自身にアクセス権のあるレポジトリにアーカイブされたメッセージのみ検索できます。

HPゲートウェイサーバー

DominoのメールドメインとIAPの中継になりいくつかの重要な処理をするコンポーネントです。Lotus Dominoのメールデータベースやジャーナルからメッセージのマイニングを行い、これをRFC 822 MIME形式に変換して、IAP上のユーザーのレポジトリにルーティングします。

HPゲートウェイドメイン

HPゲートウェイサーバーは、HP Gateway Dominoドメインに属します。これはユーザーのDominoメールドメインとは別個のドメインです。

リモートマイニング

Lotus Dominoのメールサーバーやジャーナルサーバーでのメールデータベースのマイニングは、HPゲートウェイサーバーからリモートで実行します。

Compliance Archiving

Compliance Archivingは、ジャーナルマイニングとも呼ばれ、法的または規制の目的で実施するジャーナルデータベースのアーカイブです。

高度なフィルタリング

EAs Dominoではメッセージのジャーナル化に、ネイティブのDominoジャーナリングルールを使用する方法と、EAs Dominoソフトウェアで定義したルールを使用する方法のいずれかを使用できます。EAs Dominoのジャーナル化プロセスは、高度なフィルタリングとも呼ばれます。

Selective Archiving

Selective Archivingは、ユーザーメールボックスマイニングとも呼ばれ、メールファイルをアーカイブして、メールサーバーのプライマリストレージの容量を軽減します。EAs Dominoソフトウェアでは、アーカイブ対象のメッセージを定義するルールをカスタマイズできます。たとえば、所定の日数を経過したメッセージや、所定のサイズを超過したメールボックスなどをアーカイブの対象とすることができます。

tombstone

メッセージには、IAPにアーカイブされた後でtombstone化処理が行われます。この処理では、アーカイブの後で、メールファイルの中でメッセージを保持する、メールファイルからメッセージを削除する、メッセージをIAP上にアーカイブされたメッセージへのリンク (*tombstone*) に置き換えるといったアクションのいずれかを実行できます。Compliance Archivingでは、アーカイブ処理が正しく行われた後で、tombstone化プロセスによってメッセージをジャーナルから削除します。Selective Archivingでは、通常はアーカイブされたメッセージがtombstoneに置き換わります。

一括アップロード

メールデータベース (NSF形式のファイル) をIAPに一括アップロードをする機能です。たとえば退職した従業員のアクティブでないメールファイルに対して使用します。

DWA Extension

Domino Web Access (iNotes) 内にアーカイブされたメッセージを取得するための機能です。

risminer

EAs Dominoのマイニングの実行可能プログラムです。

hprim

HP EAs Dominoデータベースを配置するDominoのデータディレクトリのフォルダーです。

HP EAs-D API

メインの設定データベースであり、設定文書、マイニングルール、ジャーナリングルール（高度なフィルタリングを使用する場合）、およびその他の設定オプションが記録されます。

HP EAs-D Users

マイニング対象であるメールファイルのユーザーのメールレコードが記録されるデータベースです。

Referenceデータベース

EAs DominoのMiningエージェントと、マイニングされたメッセージに対するリファレンスが記録されます。Selective Archiving、Compliance Archiving、一括アップロード用に、別々のReferenceデータベースがありません。

PreProcessデータベース

署名付きメッセージや暗号化メッセージなど、いくつかのメッセージタイプでは、すべてのメッセージデータがそのまま保持される形式でアーカイブできるように、カプセル化する必要があります。この処理は、PreProcessデータベースのエージェントによって実行されます。Selective Archiving、Compliance Archiving、一括アップロード用に、別々のPreProcessデータベースがあります。

Dynamic Account Synchronization (DAS)

DASはIAPのプロセスであり、Domino DirectoryのPerson文書およびMail-In文書から得た情報に基づいてIAPのユーザーアカウントやグループアカウントを作成および更新します。

HP EAs-D DAS Namesデータベース

IAPでユーザーアカウントを作成および更新するためにDASが使用するデータが保存されているEAs Dominoデータベースです。

1.2 Lotus Dominoのアーキテクチャーとサポートされている構成

- ・ Lotus Dominoのネットワークアーキテクチャー (21ページ)
- ・ HPゲートウェイサーバー (21ページ)
- ・ HP EAs Dominoの設定 (23ページ)

Lotus Dominoのネットワークアーキテクチャー

次のページの図1は、一般的なDominoのハブアンドスポーク型のネットワーク構成で、メールサーバーがクラスター化されていない例を表しています。HPゲートウェイサーバーは、専用のDominoドメインに導入されています。

HPゲートウェイサーバー

HPゲートウェイサーバーは、組織のメール環境とIAPの中間に位置する中心的なコンポーネントです。HPゲートウェイサーバーは1台または複数台設置できます。これらのサーバーは、専用のDominoドメインであるHP Gatewayドメインに属します。Dominoメールドメインとは別個のドメインです。

HPゲートウェイサーバーが複数台ある場合は、1台のゲートウェイが他のゲートウェイサーバーに対する「マスター」となります。マスターはDASに使用されるゲートウェイサーバーです。また、少なくとも他の1台のゲートウェイサーバーを、DASバックアップサーバーとして指定する必要があります。

メイン設定データベース (HP EAs-D API) とユーザーデータベース (HP EAs-D Users) は、マスターから他のゲートウェイサーバーに複製されます。いくつかのEAs Dominoデータベース (Archiveエージェントが含まれるReferenceデータベースなど) は、各HPゲートウェイサーバーで固有になります (複製されません)。

HPゲートウェイサーバーは、主に次の3つの機能を実行します。

1. 同期化:Domino DirectoryデータとIAPにあるユーザーレポジトリとの間で同期処理を実行します。
2. アーカイブ:
 - ・ EAs Dominoのマイニングプログラムとエージェントを実行して、マイニングルールの診断と実行をします。
 - ・ Dominoメールドメインにあるメールファイルとジャーナルをマイニングします。
3. メッセージの変換と配信:
 - ・ Notesのネイティブ形式のデータとリッチテキスト形式をRFC 822 MIME形式に変換します。
 - ・ 変換した電子メールをLotus Domino SMTPを使用してIAPにルーティングします。

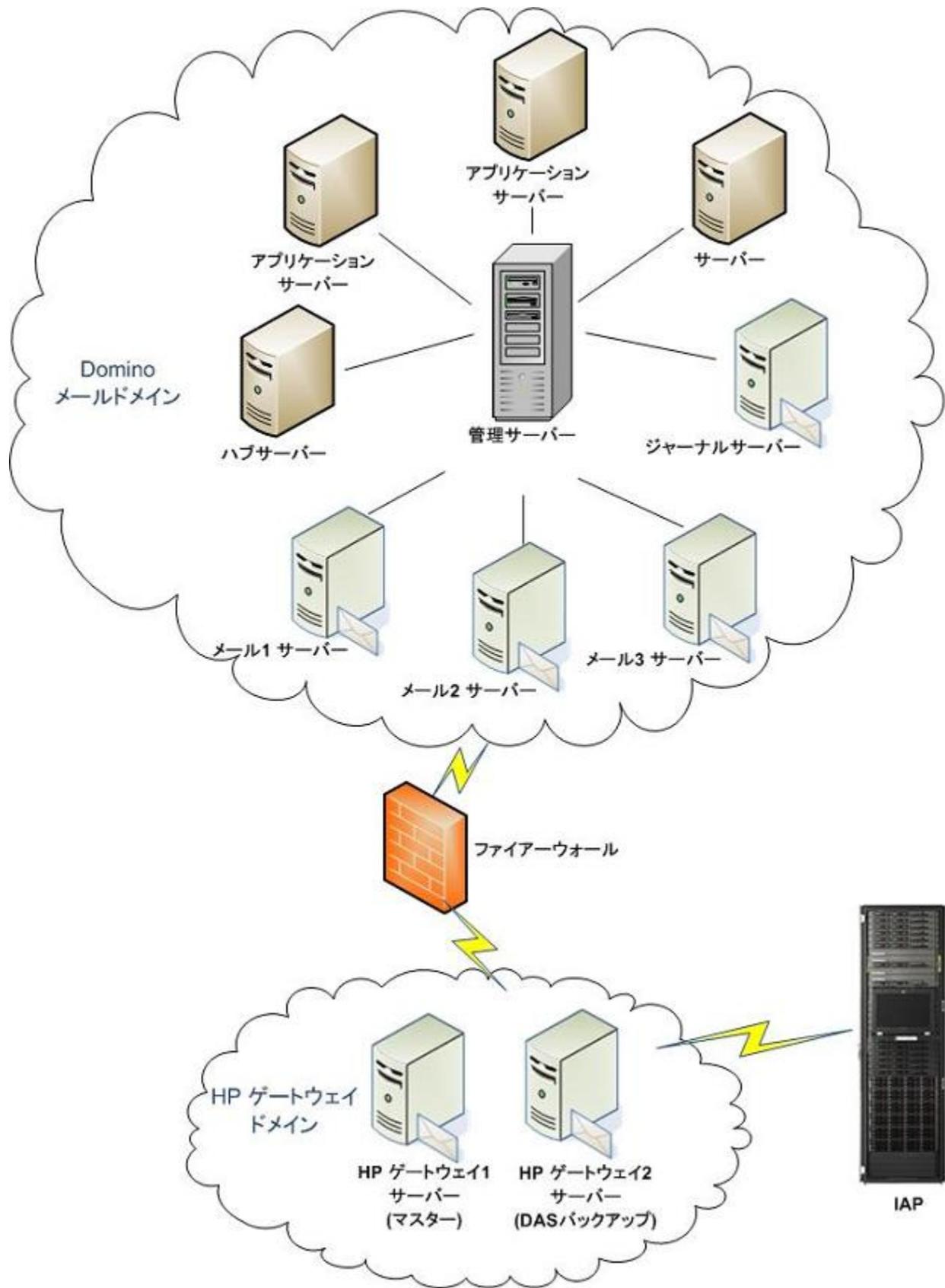


図1 HPゲートウェイ用のDominoドメイン

HP EAs Dominoの設定

EAs Domino 2.1では、組織のジャーナルやメールファイルのマイニングは、HPゲートウェイサーバーから実行します。アーカイブソフトウェアはゲートウェイサーバーにインストールします。サポートしているマイニング設定は、「[マイニングの設定](#)」(24ページ)で説明します。

オプションのEAs Dominoの機能の中には、Dominoメールアドレスにあるサーバーに、いくつかのEAs Dominoソフトウェアをインストールする必要があるものがあります。これらの設定については「[その他のHP EAs Dominoの設定](#)」(29ページ)で説明します。

HP EAs Dominoを現在のシステムや設定と組み合わせて動作させる方法

- ・ クラスタ化は、EAs Dominoに影響を及ぼしません。
- ・ パーティション化は、EAs Dominoに影響を及ぼしません。
- ・ 共有メールは、EAs Dominoに影響を及ぼしません。
- ・ HP Gatewayサーバーは、ユーザーのメールアドレスとは別のDominoドメインに属し、専用の統合Domino Directoryを持ちます。
- ・ データベースは、組織のDomino Directoryから取り出された情報のコピーが置かれるHPゲートウェイサーバーにインストールします。このデータベースは、DASプロセス (IAPのユーザーアカウントとの同期) 中に読み込まれます。これはHPゲートウェイサーバーにのみ使用され、ユーザーのメールアドレスにあるDomino Directoryとは完全に切り離されています。EAs Dominoは、ユーザーのメールアドレスにあるDomino Directoryは更新しません。
- ・ Lotusから提供されるすべてのメールテンプレートは、EAs Dominoで動作します。しかし、標準的なLotus Notesのメールテンプレートに機能を追加するためにカスタマイズされたメールテンプレートは、EAs Dominoの動作を阻害する可能性があります。メッセージの再保存や、データ値、データ型、標準的な設計要素の削除または変更を伴うあらゆるカスタマイズは、Lotus NotesおよびDominoで問題を招く可能性が高く、EAs Dominoでも問題を招きます。

EAs Dominoでは、ユーザーエクスペリエンスを向上させることを目的とする、エンドユーザーの標準メールテンプレートのカスタマイズオプションは提供していません。

マイニングの設定

HP EAs Dominoでは、メールファイルやジャーナルのマイニングのために、複数の導入オプションを用意しています。ここで説明する各オプションでは、DominoメールサーバーではなくHPゲートウェイサーバーからマイニング機能を実行するリモートマイニングを使用しています。

導入するマイニングの選択には、次のような多数の要素が関与します。

- ・ メッセージの量
- ・ 組織のDominoメールサーバーおよびジャーナルサーバーの物理的な場所
- ・ HPゲートウェイサーバーとDominoメールサーバーまたはジャーナルサーバー間の帯域幅
- ・ Dominoサーバーのクラスター化

リモートマイニングには、次の設定を使用できます。

- ・ [アクティブゲートウェイの設定](#) (25ページ)
- ・ [専用ジャーナルサーバーの設定](#) (26ページ)
- ・ [複製ジャーナルの設定](#) (27ページ)
- ・ [スケーラブルなマルチゲートウェイの配置](#) (28ページ)

ソフトウェアのインストールと設定

アーカイブ用の実行可能ファイル (rissminer) は、HPゲートウェイサーバーのDominoプログラムディレクトリにインストールされます。

EAs Dominoデータベースは、HPゲートウェイサーバーのDominoデータディレクトリにあるhprimフォルダーにインストールされます。

EAs DominoアーカイブソフトウェアをHPゲートウェイサーバーにインストールする手順については、「[マスターHPゲートウェイサーバーへのHP EAs Dominoソフトウェアのインストール](#)」(69ページ)および「[追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開](#)」(91ページ)で説明します。

アーカイブソフトウェアを設定および管理する手順については、「[HP EAs Domino環境の設定](#)」(105ページ)および「[IAPへの電子メールのアーカイブ](#)」(127ページ)で説明します。

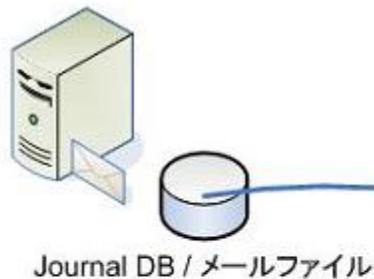
アクティブゲートウェイの設定

アクティブゲートウェイの設定では、HPゲートウェイサーバーでマイニングとメッセージの変換およびルーティング機能の両方を実行します。メッセージは、ユーザーのDominoメールサーバーにあるジャーナルファイルやメールファイルからマイニングされます。

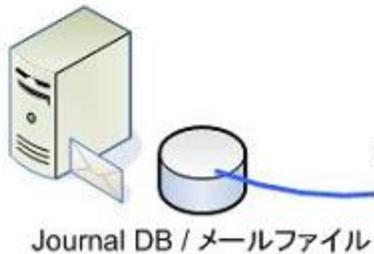
アクティブゲートウェイサーバーからは、ユーザーのDominoサーバーに対して信頼されたサーバーアクセスが要求されます。これによって、EAs DominoソフトウェアからNotes Remote Procedure Callプロトコル（1352番ポートを使用する標準のNRPCトラフィック）を使用する標準のNotes API呼び出しでメールジャーナルやユーザーのメールファイルにアクセスできるようになります。

また、アクティブゲートウェイサーバーには、ユーザーのメールファイルやジャーナルに対するアクセス権を付与する必要があります。

Lotus Domino メールサーバー



Lotus Domino メールサーバー



アクティブゲートウェイ

- EAs-D DAS Name DB
- Directory Assistance/
統合Dominoディレクトリ
- rissminerプログラム
- EAs-D API および EAs-D User DB
- EAs-D Miningエージェント
- CD-to-MIME変換
- IAPへのSMTPルーティング

Compliance / Selective Archivingエージェント

Compliance / Selective Archivingエージェント

SMTPメール

IAP

図2 アクティブゲートウェイによるリモートマイニング

専用ジャーナルサーバーの設定

この設定は、組織のDominoメールドメインにあり、複数のジャーナルデータベースが配置されているジャーナルサーバーのマイニングに対応しています。

アクティブゲートウェイサーバーは、ジャーナル化されたメッセージをアーカイブして、そのメッセージをIAPにルーティングします（ゲートウェイサーバーは、次の図に示すように、Dominoメールサーバーでメールファイルを選択的にアーカイブ（Selective Archiving）できます）。

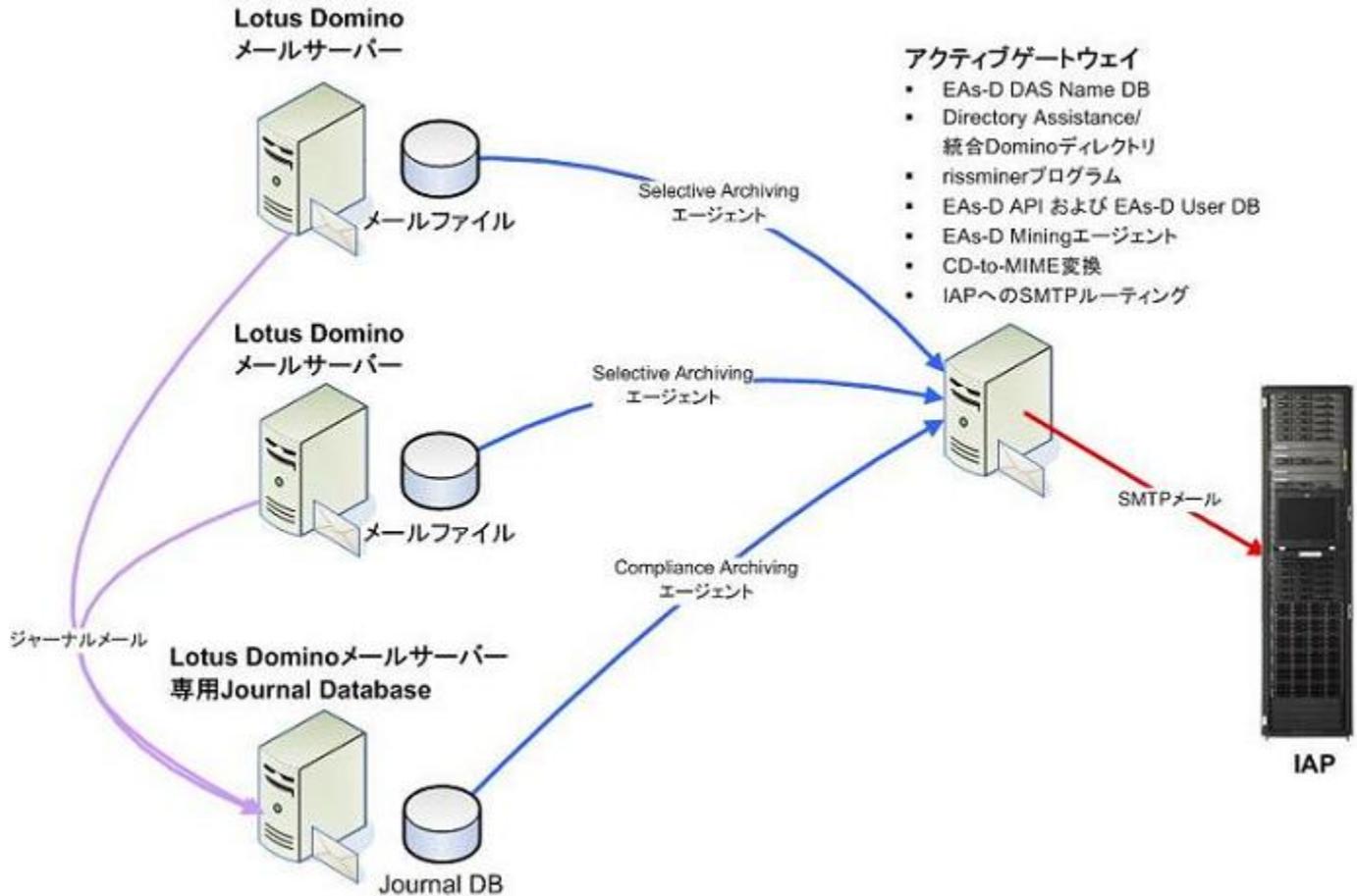


図3 専用ジャーナルサーバーによるリモートマイニング

複製ジャーナルの設定

この設定では、データセンターの外部にあり、帯域幅や他の条件に制約のあるDominoサーバーから、データセンターの内部にあるDominoサーバーにジャーナルデータベースを複製します。標準的なDominoの接続文書は、双方向の複製用に設定されています。HPゲートウェイサーバーは、これらの複製ジャーナルデータベースからメッセージをアーカイブします。これと同時にDominoのレプリケーション機能によって tombstone プロセスによって作成された削除スタブがソースサーバーに戻されます。

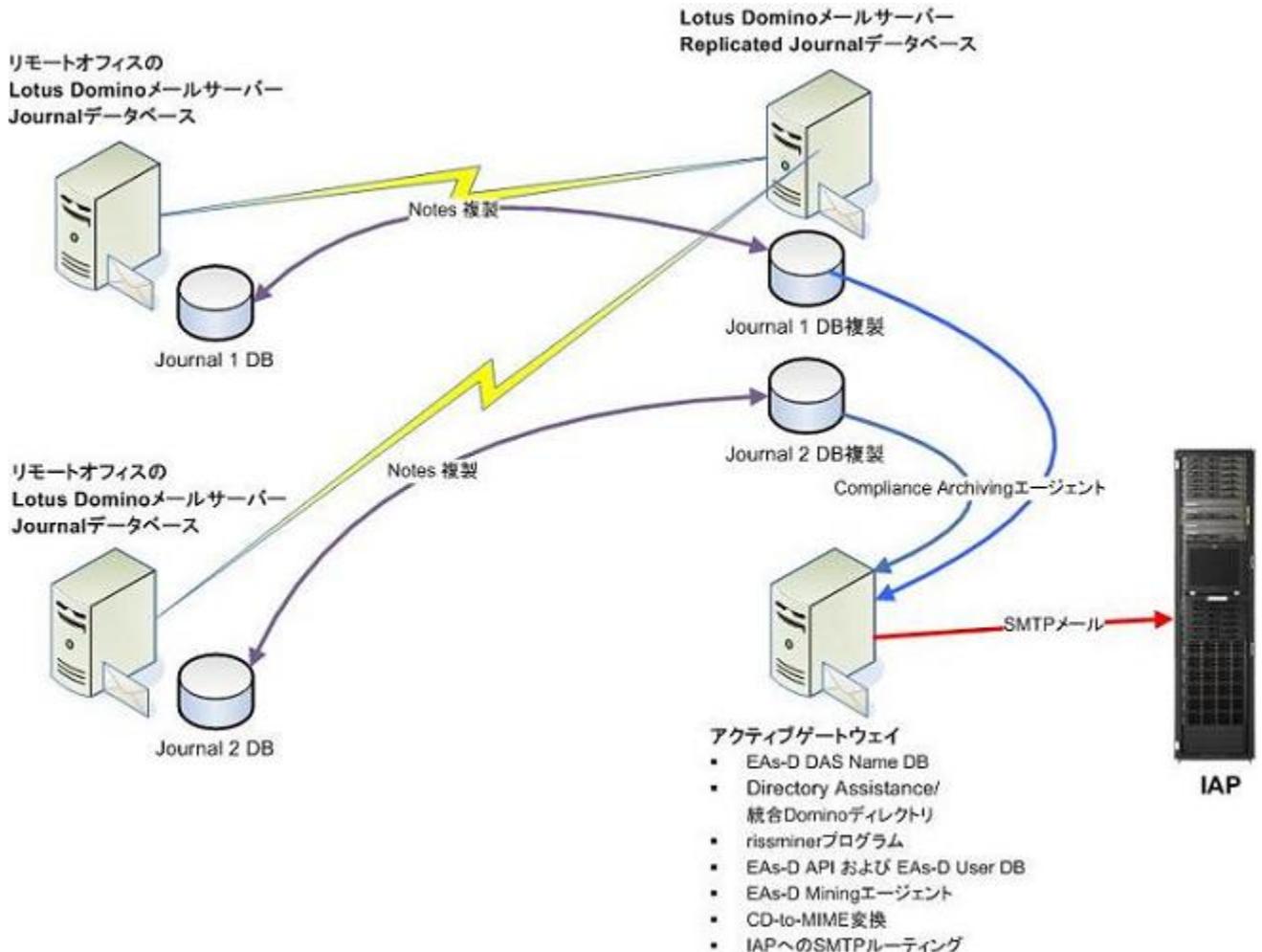


図4 複製ジャーナルによるリモートマイニング

① 重要:

どのような状況においても、ジャーナルデータベースをHPゲートウェイサーバー上に直接作成しないようにします。ただし、ユーザーのサーバー上で管理されているデータベースのレプリカは除きます。

スケーラブルなマルチゲートウェイの配置

HPゲートウェイサーバーは、ゲートウェイサーバーを複数配置して処理用の専用サーバーをそれぞれ複数のシステムに指定することによって、企業の導入目的に合わせることができます。次の図は、次のようなシナリオを表しています。

- Dominoサーバーはジャーナリング専用です。すべてのメールサーバーが、このサーバー上の1つ以上のMail-inジャーナルデータベースに電子メールをジャーナリングします。1台のアクティブゲートウェイは、専用のジャーナルサーバーからメッセージをマイニングします。
- また、他の2台のアクティブゲートウェイは、Dominoメールサーバーにあるユーザーのメールファイルを選択的にマイニングします。

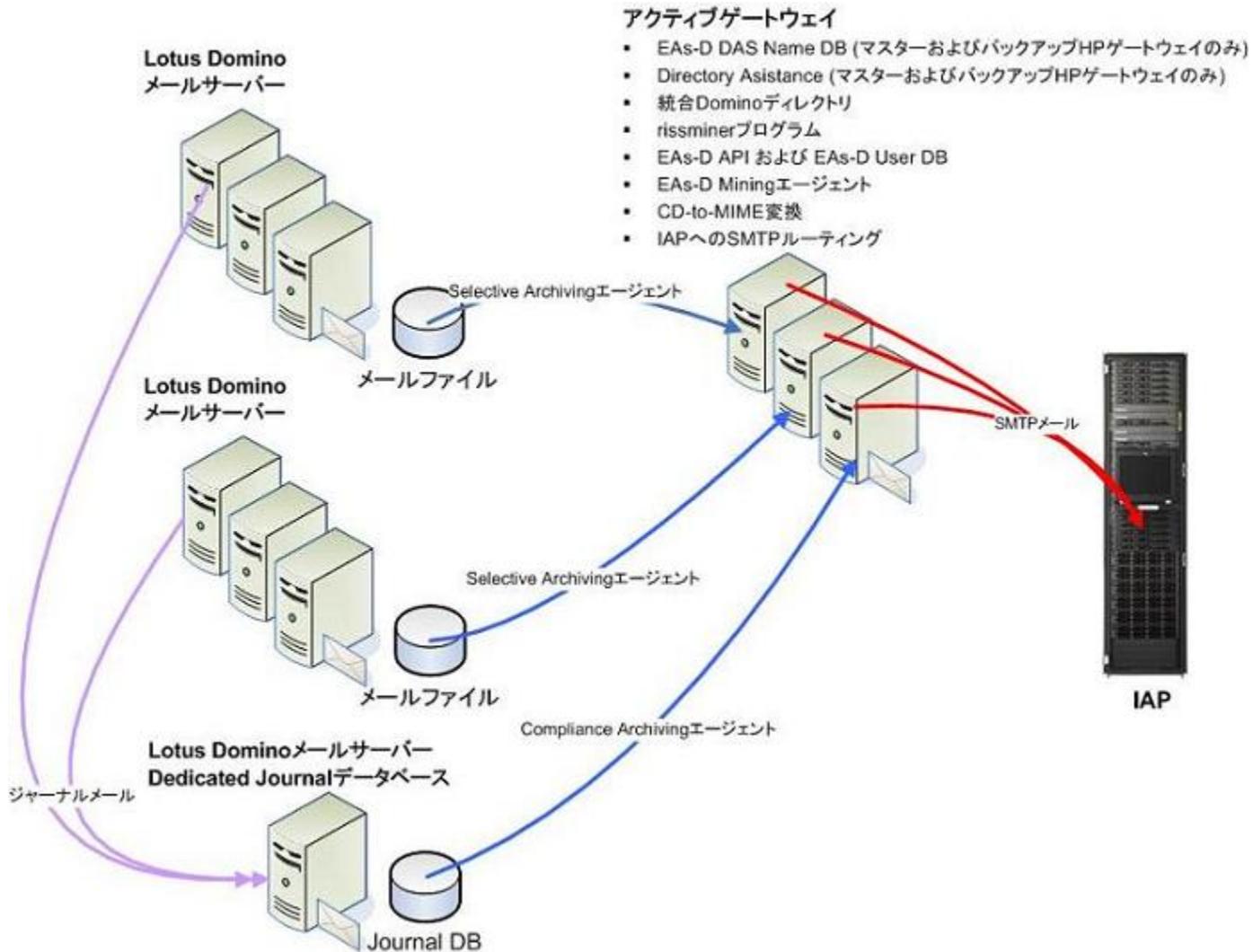


図5 スケーラブルなアクティブゲートウェイの導入

その他のHP EAs Dominoの設定

これらのオプションのEAs Domino機能のいずれかを導入する場合は、組織の電子メール環境にあるサーバーにEAs Dominoソフトウェアをインストールします。

- ・ [高度なフィルタリング](#) (29ページ)
- ・ [DWA Extensionの設定](#) (30ページ)
- ・ [Export Searchの設定](#) (31ページ)

❗ 重要:

設定データベース (HP EAs-D API) は、これらのオプション機能のすべてに設置する必要があります。HP EAs-D APIのインスタンスは各組織の電子メール環境に固有のものであり、HP Gatewayドメインで使用するHP EAs-D APIインスタンスとは完全に別個のものです。データベースは、これらのオプションのEAs Domino設定を行っているユーザーのサーバー間で複製する必要があります。

高度なフィルタリング

EAs Dominoは、次のいずれかの方法でジャーナリングされたメッセージをアーカイブします。

- ・ **Dominoネイティブジャーナリング**
これはLotus Dominoソフトウェアに備わっている方法です。これを有効にすると、Dominoルーターを通過するすべてのメッセージがジャーナルにコピーされます。
- ・ **高度なフィルタリング (HP EAs Dominoジャーナリング)**
高度なフィルタリングは、Dominoネイティブジャーナリングに代えてメッセージのジャーナル化に使用できます。この方法では、EAs Dominoで定義されたジャーナリングルールに適合するメッセージのみを取得します。たとえば、高度なフィルタリングを使用して、組織内のある部門や特定のユーザーによって送受信されるメッセージを取得することができます。
高度なフィルタリングを使用する場合は、ジャーナリングルールのFilter、Listeningエージェント、およびHP EAs-D APIデータベースをLotus Dominoのメールサーバーにインストールします。高度なフィルタリングのソフトウェアは、ジャーナルサーバーにはインストールできません。

ジャーナルデータベースに入れられたメッセージは、HPゲートウェイサーバーによってマイニングされ、ユーザーのメールファイルにあるメッセージと同様に処理されます。

次の図は、高度なフィルタリングの例を示しています。

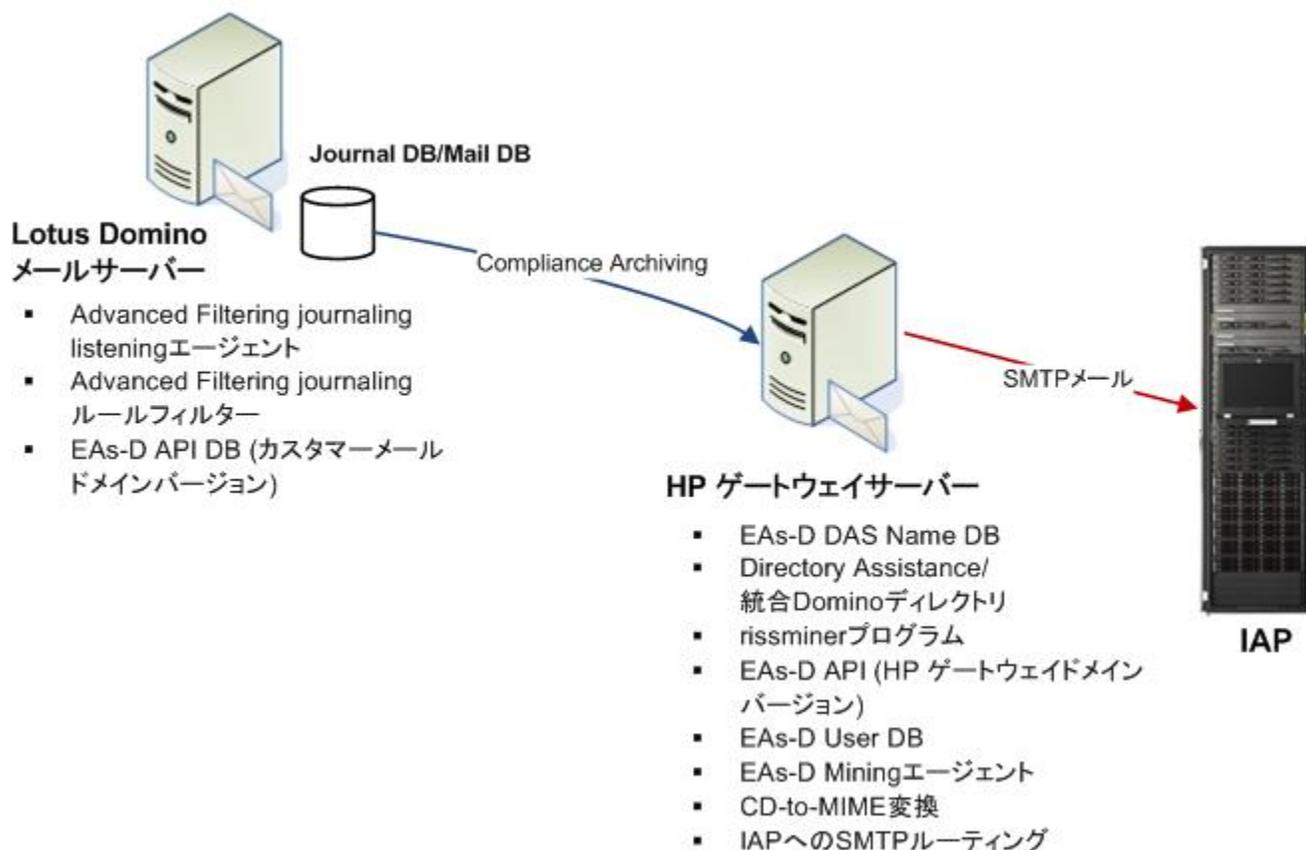


図6 高度なフィルタリングの設定

ソフトウェアのインストールと設定

ジャーナリングルールとListeningエージェントは、メールサーバーのDominoデータディレクトリにインストールします。「[HP EAs Dominoのバイナリ](#)」(68ページ)を参照してください。ユーザー用の設定データベース (HP EAs-D API) は、Dominoデータディレクトリのhprimフォルダーにインストールします。

メールサーバーにあるnotes.iniを変更する場合は、「[HP EAs Domino notes.iniのエントリー](#)」(67ページ)を参照してください。

高度なフィルタリングのソフトウェアをインストールおよび設定する手順については、「[高度なフィルタリングのインストール](#)」(176ページ)で説明します。

DWA Extensionの設定

DWA Extensionは、Domino Web Access (iNotes) 内にアーカイブされたメッセージを取得するためのソフトウェアです。メッセージは、Lotus Domino DWAサーバーまたはDWAプロキシサーバーを使用して取得できます。大量のDWAトラフィックが見込まれる企業の場合は、EAs Dominoの処理による影響を軽減するために、プロキシサーバーを使用することを推奨します。

DWA Extensionを実行するには、次に示すようないくつかのEAs DominoデータベースをDWAサーバーまたはプロキシにインストールする必要があります。

- HP EAs-D API。設定データベースのユーザー用インスタンスです。これは、ユーザーがDWAでtombstoneのURLをクリックしたときに実行される検索処理に対応するために使用されます。

- ・ HP EAs-D DWAインデックス。アーカイブされたメッセージを取得する要求を受け入れて処理し、要求したユーザーのブラウザに戻すためのソフトウェアが含まれています。
- ・ EAs Dominoログファイル。

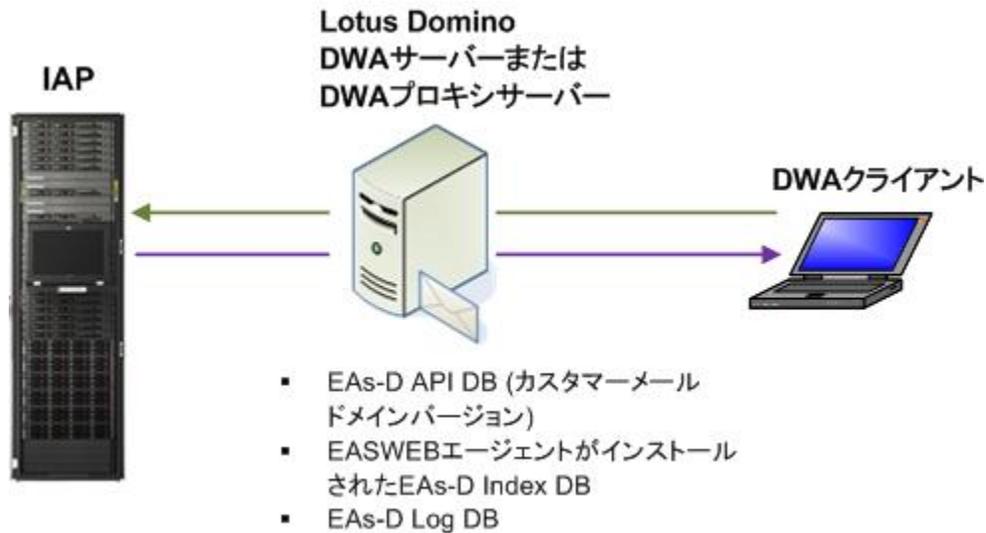


図7 DWA Extensionの設定

ソフトウェアのインストールと設定

HP EAs-D API、HP EAs-D DWAインデックス、およびHP EAs-D Logは、DWAまたはプロキシサーバーのDominoデータディレクトリにあるhprimフォルダーにインストールします。

DWA Extensionソフトウェアをインストールおよび設定する手順については、「[DWA Extensionの設定](#)」(205ページ)で説明します。

Export Searchの設定

Export Searchは、ユーザー（通常はコンプライアンス担当者）がLotus Notesデータベースに対してIAPの検索を行った結果をエクスポートするためのソフトウェアです。Export Searchは、Windowsクライアントまたはユーザーのサーバー上で実行できます。

クライアントバージョンは、ユーザーのデスクトップ上でスタンドアロンのJavaベースのプログラムとして動作します。Windowsクライアントマシンには、次のソフトウェアをインストールする必要があります。

- ・ ExportSearch.exe
この実行可能ファイルは、Local Cacheインストールパッケージに含まれています。
- ・ Java Runtime Environment (JRE) バージョン1.6以上。
Local Cache/Export Searchをインストールする前にインストールする必要があります。

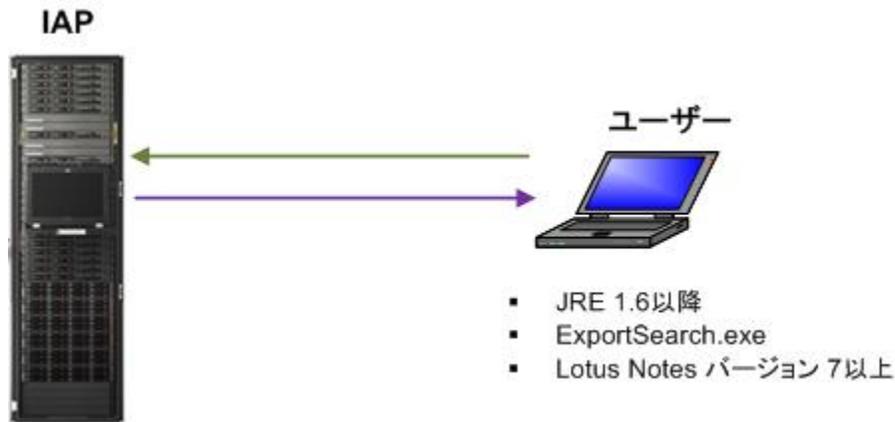


図8 クライアントシステムでのExport Search

サーバーバージョンは、Lotus DominoサーバーにあるExport SearchデータベースでJavaエージェントとして動作します。エクスポート要求は、ユーザーのコンピューターにあるNotesクライアントまたはWebブラウザを経由して、サーバーで作成されます。HP EAs-D APIデータベース、HP EAs-D Locale Configurationデータベース（画面のメッセージとフォームのローカライズ版が付属）およびHP EAs-D Logの固有のインスタンスもDominoサーバーにインストールします。

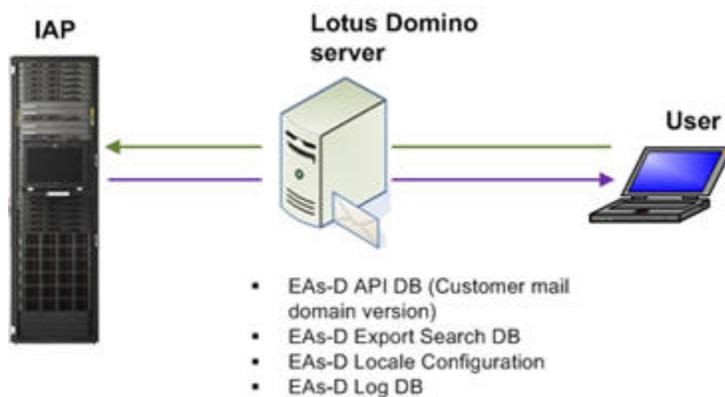


図9 Lotus DominoサーバーでのExport Search

ソフトウェアのインストールと設定（クライアント）

Export Searchの実行可能ファイルは、クライアントのNotesディレクトリのLocalcacheフォルダーにインストールします。Export Searchクライアントソフトウェアのインストール手順については、「[Local Cacheのインストール](#)」(252ページ)で説明します。

Export Searchクライアントを使用してメッセージをエクスポートする手順については、「[Export Search Desktopツールを使用してメッセージをエクスポートする](#)」(219ページ)で説明します。

ソフトウェアのインストールと設定（サーバー）

HP EAs-D API、HP EAs-D Export Search、HP EAs-D Locale Configuration、およびHP EAs-D Logは、サーバーのDominoデータディレクトリにあるnprimフォルダーにインストールします。

サーバーソフトウェアをインストールする手順と、サーバー上のExport Searchデータベースを使用してメッセージをエクスポートする手順については、「[サーバーを使用したメッセージのエクスポート](#)」(221ページ)で説明します。

一括アップロードの設定

一括アップロードとは、アクティブではないメールファイル（退職した従業員のファイルなど）のスキャンや、これらのファイルをアーカイブできるよう準備するために使用するユーティリティです。

この処理は、アプリケーションサーバー上でローカルに実行されます。アクティブでないメールファイルは、最初にローカルメールサーバーからアプリケーションサーバーにコピーされます。一括アップロードは、実稼動環境にあるアプリケーションサーバーやメールサーバーにはインストールしないでください。

メールファイルのマイニングは、HPゲートウェイサーバーから実行します。

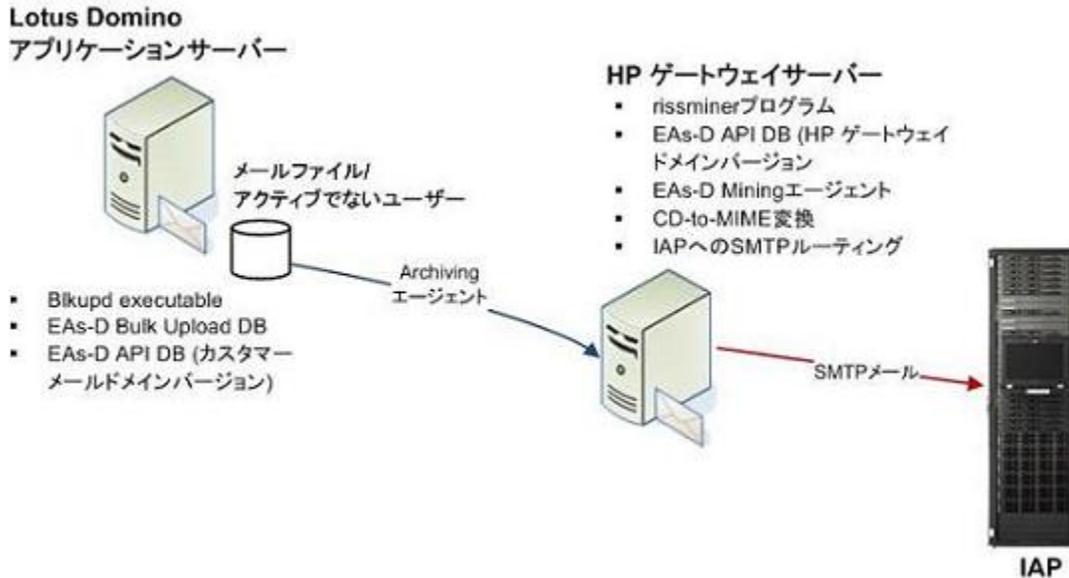


図10 一括アップロードの設定

ソフトウェアのインストールと設定

一括アップロードの実行可能ファイルは、アプリケーションサーバーのDominoデータディレクトリにインストールします。「[HP EAs Dominoのバイナリ](#)」(68ページ)を参照してください。

一括アップロードのデータベースとHP EAs-D APIのメールドメインバージョンは、Dominoデータディレクトリのhprimフォルダーにインストールします。

一括アップロードのソフトウェアをインストール、設定、および実行する手順については、「[一括アップロードの使用](#)」(195ページ)で説明します。

1.3 システム要件

HP EAs Dominoをインストールするためのシステム要件は、次のトピックで説明しています。

- ・ [IAPの要件](#) (35ページ)
- ・ [ユーザーDominoサーバーの要件](#) (35ページ)
- ・ [サポートされるオペレーティングシステムとLotus Dominoのバージョン](#) (35ページ)
- ・ [サポートされるLotus Notesクライアント](#) (38ページ)
- ・ [IAP Webインターフェイス](#) (38ページ)
- ・ [Export Search Webインターフェイス](#) (38ページ)
- ・ [サポートされる文字セット](#) (39ページ)

IAPの要件

IAPは、HP EAs Dominoと互換性のある唯一のアーカイブプラットフォームです。

HP EAs Domino 2.1では、IAPソフトウェアのバージョン2.1およびIAP2.0.4以上をサポートしています。

ユーザーDominoサーバーの要件

- ・ 高度なフィルタリング (EAs Dominoジャーナリング) を使用してジャーナリングを行っている場合、メールサーバーはIBMのシステム要件のほかに以下の要件を満たす必要があります。
 - ・ サーバーごとに512MBの追加RAM
 - ・ サーバーごとに200MBの空きディスク容量
- ・ Dominoネイティブジャーナリングを使用している場合は、メモリ追加に関する要件はありません。
- ・ 署名付きメッセージと暗号化メッセージの検証を行うには、オプションのDWA Extension機能用にLotus Dominoサーバーにさらに空き容量が必要になります。必要な容量は、処理される署名付きメッセージと暗号化メッセージの数やサイズによって異なります。サーバーが不安定になるのを防止し、十分なディスク容量を確保するために、署名付きメッセージと暗号化メッセージのデータ量を調べてその値の2倍の容量を準備します。

サポートされるオペレーティングシステムとLotus Dominoのバージョン

HPゲートウェイの環境では、HPゲートウェイサーバーにWindows ServerソフトウェアとLotus Dominoバージョン8.5.1が必要です。

ユーザーのメール環境にインストールできるEAs Dominoコンポーネントを次の表に一覧します。

表3 サポートされるプラットフォームとオペレーティングシステムアーカイブ

プラットフォーム	OS	EAs-Dの高度なジャーナルフィルタリング	HPゲートウェイ経由でのサポートのみ
		Lotus Dominoのリリース	
Intel 32ビット	Windows Server 2008	8.5.x	8.5.x
	Windows Server 2003	7.x、8.0.x、8.5.x	7.x、8.0.x、8.5.x
	Windows Server 2000		7.x
	Red Hat Enterprise Linux 5		8.0.x、8.5.x
	Red Hat Enterprise Linux 4		7.x
	SUSE Linux Enterprise 11		8.5.2
	SUSE Linux Enterprise 10		7.x、8.0.x、8.5.x
	SUSE Linux Enterprise 9		7.x
Intel 64ビット	Windows Server 2008	8.5.x	8.5.x
	Windows Server 2003	8.5.x	8.0.x、8.5.x
	Red Hat Enterprise Linux 5		8.0.x、8.5.x
	Red Hat Enterprise Linux 4		7.x
	SUSE Linux Enterprise 11		8.5.2
	SUSE Linux Enterprise 10		7.x、8.0.x、8.5.x
Sun SPARC	Sun Solaris 10		7.x、8.0.x、8.5.x
	Sun Solaris 9		7.x
IBM pSeries (RS6000)	AIX 6.1 (64ビット)		8.5.x
	AIX 5.3 (32ビット)		7.x、8.0.x
	AIX 5.3 (64ビット)	7.x、8.0.x、8.5.x	7.x、8.0.x、8.5.x
	AIX 5.2 (32ビット)		7.x
	AIX 5.2 (64ビット)		7.x
IBM iSeries (AS/400)	I5/OS V7リリース1		8.5.2
	I5/OS V6リリース1		8.0.x、8.5.x
	I5/OS V5リリース4		7.x、8.0.x、8.5.x
IBM zSeries	任意	日本HPまでお問い合わせください	日本HPまでお問い合わせください
IBM OS/390	任意	日本HPまでお問い合わせください	日本HPまでお問い合わせください

表4 サポートされるプラットフォームとオペレーティングシステムその他のEAs Dominoアプリケーション

プラットフォーム	OS	DWA Extension/ Export Search	一括アップロード
		Lotus Dominoのリリース	
Intel 32ビット	Windows Server 2008	8.5.x	8.5.x
	Windows Server 2003	7.x、8.0.x、8.5.x	7.x、8.0.x、8.5.x
	Windows Server 2000		7.x
	Red Hat Enterprise Linux 5	8.0.x	8.0.x
	Red Hat Enterprise Linux 4		7.x
	SUSE Linux Enterprise 10	7.x	7.x、8.0.x
	SUSE Linux Enterprise 9	7.x	7.x
Intel 64ビット	Windows Server 2008	8.5.x	8.5.x
	Windows Server 2003	8.0.x、8.5.x	8.0.x、8.5.x
	Red Hat Enterprise Linux 5		8.0.x
	Red Hat Enterprise Linux 4		7.x
	SUSE Linux Enterprise 10	7.x、8.0.x	7.x、8.0.x
Sun SPARC	Sun Solaris 10	7.x、8.0.x	7.x、8.0.x
	Sun Solaris 9		7.x
IBM pSeries (RS6000)	AIX 5.3 (32ビット)	7.x、8.0.x	7.x、8.0.x
	AIX 5.3 (64ビット)	7.x、8.0.x、8.5.x	7.x、8.0.x、8.5.x
	AIX 5.2 (32ビット)		7.x
	AIX 5.2 (64ビット)		7.x
IBM iSeries (AS/400)	I5/OS V6リリース1	8.0.x	8.0.x
	I5/OS V5リリース4	7.x	7.x、8.0.x
IBM zSeries	任意	日本HPまでお問い合わせ してください	日本HPまでお問い合わせ ください
IBM OS/390	任意	日本HPまでお問い合わせ してください	日本HPまでお問い合わせ ください

サポートされるLotus Notesクライアント

HP EAs Domino 2.1でサポートされるオペレーティングシステムとLotus Dominoクライアントのバージョンは以下のとおりです。

- Windows Vistaの場合: Lotus Notes 7.0.x、8.0.x、8.5.x (StandardおよびBasic)
- Windows XP: Lotus Notes 7.0.x、8.0.x、8.5.x (StandardおよびBasic)
- Windows 2000: Lotus Notes 7.0.x、8.0.x (StandardおよびBasic)
- Red Hat LinuxおよびMacintosh OS: 8.0.x (Standard) (HPへの要求による)

IAP Webインターフェイス

次の表に、IAP Webインターフェイスとしてテスト済みのブラウザを一覧します。

表5 サポートされるブラウザ

ブラウザ/バージョン	サポートされるクライアントOS	ブラウザの要件	ディスプレイの要件
Microsoft Internet Explorer (IE) 7.0	Microsoft Windows XP Professional - SP 2	128ビットの暗号強度 インターネットオプション: JavaScript v 1.0またはv 1.1 が使用可能	最小要件: 1024 x 768 @ 16ビットカラー
Microsoft Internet Explorer (IE) 7.0	Microsoft Windows XP Professional - SP 3	128ビットの暗号強度 インターネットオプション: JavaScript v 1.0またはv 1.1 が使用可能	最小要件: 1024 x 768 @ 16ビットカラー
Microsoft Internet Explorer (IE) 8.0	Microsoft Windows XP Professional - SP 2	128ビットの暗号強度 インターネットオプション: JavaScript v 1.0またはv 1.1 が使用可能	最小要件: 1024 x 768 @ 16ビットカラー
Mozilla Firefox 3.58	Microsoft Windows XP Professional - SP 2	Mozilla/5.0 (Windows、U、 Windows NT 5.1、en-US、rv: 1.9.1.8) Gecko/20100202 Firefox/3.5.8 (.NET CLR 2.0.50727) インターネットオプション: JavaScript v 1.0またはv 1.1 が使用可能	最小要件: 1024 x 768 @ 16ビットカラー

Export Search Webインターフェイス

Export Search Webインターフェイスには、次のブラウザからアクセスできます。

- Microsoft Internet Explorer for Windowsバージョン6.x、7.x、および8.x
- Mozilla Firefoxバージョン2.xおよび3.x

サポートされる文字セット

次の表に、EAs Domino 2.1およびIAP 2.1でサポートされる文字セットを一覧します。

IAPでは、自動文字セット検出は実行しません。電子メールメッセージに文字セットが指定されていない場合、システムではデフォルトのISO-8859-1 (Latin1) を使用します。

日本語文字が記述された電子メールをIAPで処理する場合の制限事項については、「[日本語データ用のHP EAs Dominoの設定](#)」(313ページ)を参照してください。

表6 IAPでサポートされる文字セット

サポートされる文字セット	説明
ISO-8859-1	西欧言語、拡張ASCII
ISO-8859-15	西ヨーロッパ言語 (ISO-8859-1バリエーション)
WINDOWS-1252	西ヨーロッパ言語 (WindowsのISO-8859-1バリエーション)
US-ASCII	7ビットAmerican Standard Code for Information Interchange (ASCII)
UTF-8	ユニコード/汎用文字セット (すべての現代言語)
ISO-8859-2	東欧言語
KOI8-R	キリル文字 (ロシア語およびブルガリア語)
ISO-8859-5	キリル文字 (ブルガリア語、ベラルーシ語、ロシア語)
WINDOWS-1251	キリル文字
WINDOWS-1254	トルコ語 (WindowsのISO-8859-9バリエーション)
ISO-8859-9	トルコ語
GB18030	中国語 (中国)
BIG5	中国語 (台湾)
GB2312	中国語 (中国)
GBK	中国語、GB2312の簡体字拡張 (中国)
ISO-2022-KR	韓国語
EUC-KR	韓国語
KS_C-5601-1987	韓国語
ISO-2022-JP	日本語
EUC-JP	日本語
SHIFT-JIS	日本語

Part 2. HPゲートウェイのインストール

ここでは、Lotus DominoサーバーのファイルとHP EAs DominoのファイルをHPゲートウェイ環境にインストールする方法について説明します。

ソフトウェアのインストールは、HPのサービス担当者か、Dominoの管理者が実行してください。

- ・ [HPゲートウェイ環境の準備 \(43ページ\)](#)
- ・ [マスターHPゲートウェイサーバーの設定 \(55ページ\)](#)
- ・ [ユーザーのDominoメールアドレスの設定 \(63ページ\)](#)
- ・ [HP EAs Dominoソフトウェアの説明 \(65ページ\)](#)
- ・ [マスターHPゲートウェイサーバーへのHP EAs Dominoソフトウェアのインストール \(69ページ\)](#)
- ・ [HPゲートウェイサーバーでのDASの準備 \(73ページ\)](#)
- ・ [追加のHPゲートウェイサーバーの設定 \(91ページ\)](#)
- ・ [ユーザー環境でのHP EAs Dominoコンポーネントのインストール \(97ページ\)](#)
- ・ [旧バージョンのEAsソフトウェアからのアップグレード \(99ページ\)](#)
- ・ [HP EAs Dominoソフトウェアのアンインストール \(101ページ\)](#)

① 重要:

ソフトウェアをHP ProLiant DL360 G6サーバーにインストールする場合は、インストール用に外付けのUSB CD/DVDドライブを用意してください。このサーバーには、内蔵CD/DVDドライブが搭載されていません。

2.1 HPゲートウェイ環境の準備

この章では、HPゲートウェイサーバーにLotus Dominoソフトウェアをインストールする方法について説明します。HPのサービス担当者は、以下の作業を実行します。

- ・ [HPゲートウェイサーバーへのWindowsソフトウェアのインストール](#) (43ページ)
- ・ [日付と時刻の調整](#) (44ページ)
- ・ [Lotus DominoサーバーソフトウェアのHPゲートウェイサーバーへのインストール](#) (44ページ)
- ・ [Lotus Notesクライアントソフトウェアのインストール](#) (47ページ)
- ・ [Java Runtime Environmentのインストール](#) (48ページ)
- ・ [追加のHPゲートウェイサーバーのインストール](#) (49ページ)
- ・ [サーバー接続文書の作成](#) (53ページ)
- ・ [Notes IDとDomino Directoryのバックアップ](#) (53ページ)

HPゲートウェイサーバーへのWindowsソフトウェアのインストール

HPゲートウェイサーバーは、Windows Server 2008 R2ソフトウェアを1つのネットワークインターフェイスと固定IPアドレスを使用して、ユーザーネットワークにインストールする必要があります。

1. ProLiantのファームウェアを、HP SmartStart CD (バージョン7.7以上) またはHP Firmware Maintenance CDを使用してアップデートします。
2. HPゲートウェイサーバーに付属しているWindowsサーバーソフトウェアをインストールします。
 - ・ HP ProLiant DL360 G6ゲートウェイサーバーの場合は、64ビットのWindows Server 2008 R2ソフトウェアをインストールします。
 - ・ Windows Server 2003 R2ソフトウェアを実行している古いゲートウェイをアップグレードする場合は、32ビットのWindows 2008 R2サーバーソフトウェアをインストールしてください。
3. ソフトウェアをインストールした後、以下の手順を実行してください。
 - ・ TCP/IPを設定し、DNSで定義されている固定IPアドレスとホスト名を割り当てます。
 - ・ 以下に示すファイアウォールのポートを開きます。(Windows server 2008では、ファイアウォールのポートはデフォルトで閉じられています。)
 - ・ すべてのHPゲートウェイサーバーで、ポート80、443、1352、および2050を開きます。
 - ・ マスターHPゲートウェイおよびDASバックアップに使用するゲートウェイサーバーの場合は、LDAPサービス用にポート389と636を開きます。
 - ・ オプションで、HPゲートウェイサーバーをWindowsドメインに参加するよう設定します。これはEAs Dominoのためには必須ではありません。
4. Microsoftのセキュリティアップデートを適用します。
5. HP SmartStart CDを使用して、ProLiantドライバーをアップデートします。

日付と時刻の調整

HPゲートウェイサーバーの日付と時刻が、ユーザー環境内にある指定したサーバーと同じになっていることを確認します。

HPゲートウェイから、画面の右下角にある日付をダブルクリックして、日付、タイムゾーン、時刻をユーザー環境内にあるサーバーに合わせて設定します。

注記:

HPゲートウェイサーバーがWindowsドメインに参加している場合は、ゲートウェイサーバーの時刻は自動的にドメインコントローラーに合わせてられます。

Lotus DominoサーバーソフトウェアのHPゲートウェイサーバーへのインストール

Windowsサーバーソフトウェアをインストールした後、Lotus DominoサーバーソフトウェアをHPゲートウェイサーバーにインストールして、サーバーのセットアッププログラムを実行します。

組織単位の証明書の作成

実装を開始する前に、Domino管理者は特別な組織単位の証明書を作成する必要があります。この証明書はサーバーIDやユーザーIDを作成するためにHPが使用します。

証明書は、マイニングの対象となっているメールサーバーと同じ組織内にある必要があります。これによって、HPゲートウェイサーバーとメールサーバーがアイデンティティを互いに認証できるようになります。これはサーバー間で正常に機能する接続を確立するための最初のステップです。

例: /ou=hparcive/o=acme (ここで、hparciveは、組織acme内の組織単位です)

証明書の推奨するファイル名は、HPCert.idです。この証明書をHPゲートウェイサーバーのC:\lotus\ids\にコピーします。

証明書を使用する場合には、相互認証は必要ありません。

Lotus Dominoサーバーソフトウェアのインストール

以下の手順に従って、Lotus Dominoバージョン8.5.1サーバーソフトウェアをHPゲートウェイサーバーにインストールしてください。

注記:

HPゲートウェイサーバーで64ビット版のWindowsサーバーソフトウェアを実行している場合でも、Dominoソフトウェアは必ず32ビット版をインストールします。

1. EAsD 2.1 Domino ServerインストールCDをHPゲートウェイサーバーのCD/DVD-ROMドライブに入れるか、インストール用の実行可能ファイルをダブルクリックして、インストールプログラムを開始します。
2. Domino管理者より特に指定がなければ、[Location to Save Files (ファイルを保存する場所)]ダイアログボックスで[Next (次へ)]をクリックしてデフォルトの場所のままにします。
3. [Welcome (ようこそ)]ダイアログボックスで[Next (次へ)]をクリックします。

4. [I accept the terms in the license agreement (ライセンス契約条項に同意する)]をクリックして、[Next (次へ)]をクリックします。
5. [Program Files Directory Name (プログラムファイルのディレクトリ名)]にc:\lotus\dominoと入力して指定し、[Next (次へ)]をクリックします。
6. [Data Files Directory Name (データファイルのディレクトリ名)]にc:\lotus\domino\dataと入力して指定し、[Next (次へ)]をクリックします。
7. [Domino Enterprise Server]をクリックし、[Next (次へ)]をクリックします。
8. インストールの場所と機能を確認し、[Next (次へ)]をクリックしてDominoサーバーのインストールプロセスを開始します。
9. インストールの成功を示すダイアログボックスで[Finish (完了)]をクリックします。

マスターサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行

以下の手順に従って、マスターHPゲートウェイでLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムを実行してください。

追加のゲートウェイサーバーを設定するには、「[追加のHPゲートウェイサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行](#)」(51ページ)を参照してください。

1. [Start (スタート)]メニューから、Dominoサーバーアプリケーションを起動します。
サーバーのセットアッププログラムが起動しない場合は、Windowsのエクスプローラーを使用してc:\lotus\dominoに移動し、nserver.exeをダブルクリックしてプログラムを起動します。
2. [Service (サービス)]ウィンドウから以下のように操作します。
 - a. [Start Domino as a Windows service (DominoをWindowsサービスとして起動)]をクリックします。
 - b. [Always start Domino as a service at system startup (システム起動時にDominoを常にサービスとして起動)]チェックボックスを選択します。
 - c. [Next (次へ)]をクリックします。
3. [Fonts (フォント)]ダイアログボックスで、[Next (次へ)]をクリックして次に進みます。
4. [Setup the first server or a stand-alone server (1台目のサーバーまたはスタンドアロンサーバーを設定)]をクリックし、[Next (次へ)]をクリックして、以下の手順を実行します。
 - a. サーバー名とタイトルを指定します。
 - ・ [Server Name (サーバー名)]: サーバー名を入力します。たとえばHPGateway1とします。
 - ・ [Server Title (サーバーのタイトル)]: タイトルを入力します。たとえば、HP Gateway Server 1などとします。
 - b. [Next (次へ)]をクリックします。
 - c. [I want to use an existing certifier ID file (既存の証明書IDを使用する)]を選択して、[Browse (参照)]をクリックし、「[組織単位の証明書の作成](#)」(44ページ)で作成した証明書を選択します。
 - d. [Next (次へ)]をクリックします。
 - e. プロンプトが表示されたら、証明書IDのパスワードを入力します。
 - f. HPゲートウェイサーバー用に使用するDominoのドメイン名を指定します。通常はHPGatewayになります。
 - g. [Next (次へ)]をクリックします。

5. 管理者の名前とパスワードを指定します。
 - a. [Last Name (名前)]: 管理者の名前を入力します。通常はHPAdminになります。(これは一般的なアカウント名として使用します)。
 - b. [Password (パスワード)]: Domino管理者は、HP管理者のパスワードを入力して、確認する必要があります。

 **注記:**

管理者のパスワードを記憶しておいてください。

- c. [Also save a local copy of the ID file (IDファイルのローカルコピーも保存)]チェックボックスを選択します。C:\lotus\ids\ディレクトリを指定して、ファイル名をHPAdmin.idとします。
 - d. [Next (次へ)]をクリックします。
6. Dominoサーバーが提供するインターネットサービスで[Customize (カスタマイズ)]をクリックします。
 7. [Advanced Domino Services (高度なDominoサービス)]で、以下のように操作します。
 - a. 以下のDominoタスクだけが選択されていることを確認します。
 - ・ [Database Replicator]
 - ・ [Mail Router]
 - ・ [Agent Manager]
 - ・ [Administration Process]
 - ・ [LDAP Server (LDAPサーバー)]
LDAP Serverタスクは、マスターサーバー (およびDASバックアップに使用するHPゲートウェイ) に対してのみ選択してください。
 - ・ [SMTP Server (SMTPサーバー)]
他のタスクはすべて選択解除します。
 - b. [OK]をクリックしてから[Next (次へ)]をクリックします。
 8. [Network settings (ネットワーク設定)]ダイアログボックスで、[Customize (カスタマイズ)]をクリックします。
 9. [Advanced Network Settings (高度なネットワーク設定)]で、以下の操作を行います。
 - a. [NetBIOS over TCP/IP]を選択解除します。
 - b. [TCP/IP]を必ず選択します。
 - c. HPゲートウェイサーバーの完全修飾DNS名が定義されていることを確認します。
DNS名はインターネットで使用できるよう完全な形式である必要があります。DominoルーターがメールをIAPに正しくルーティングするには、「.」と拡張子が必要です。例: HPGateway1.acme.com
 - d. [OK]をクリックしてから[Next (次へ)]をクリックします。
 10. セキュリティに関する両方のチェックボックスが選択されていることを確認して、[Next (次へ)]をクリックします。
 11. 設定の選択項目を確認して、正しければ[Setup (設定)]をクリックします。
正しくない場合は、[Back (戻る)]をクリックしてその選択項目の箇所まで戻り、内容を変更し、再度この画面に戻ります。
 12. [Congratulations (設定完了)]ダイアログボックスで、[Finish (完了)]をクリックして設定プロセスを終了します。

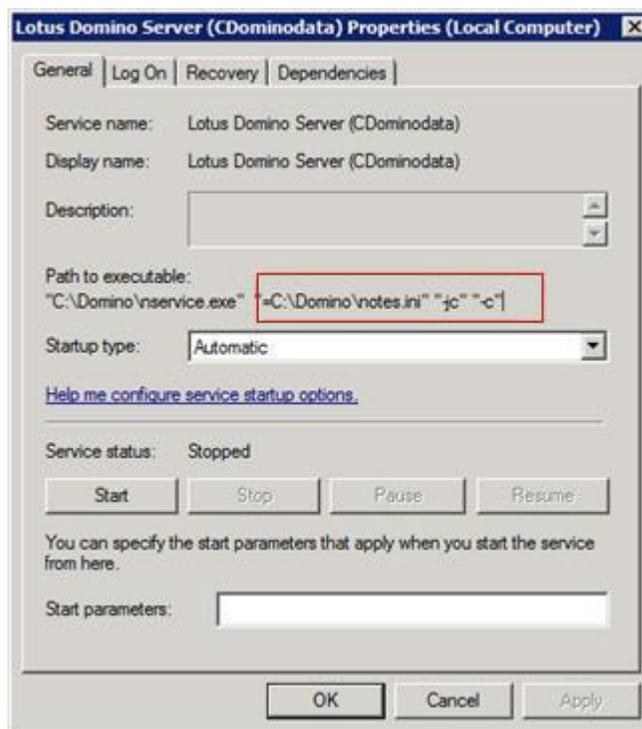
Dominoサーバーの実行

Windows Server 2008では、Dominoサーバーなどのサービスをコンソールに表示することができません。Dominoサーバーのコンソールウィンドウが表示されるようにするには、サーバーをサーバーコントローラーの下で実行する必要があります。

Javaベースのサーバーコントローラーは、Dominoサーバーソフトウェアのインストール時に自動的にインストールされます。また、Lotus Domino Serverサービスが起動するときに起動し、関係するオプションが実行可能プログラムに付加されます。

サービスを起動するには、以下の手順を実行します。

1. HPゲートウェイサーバーで、[Start (スタート)] > [Administrative Tools (管理ツール)] > [Services (サービス)]の順に選択します。
2. [Lotus Domino Server (Lotus Dominoサーバー)]を選択し、[Properties (プロパティ)]を選択します。
3. 実行可能プログラムに、jcオプションとcオプションが付加されていることを確認します。これらのオプションはデフォルトで付加されます。



4. [Startup type (起動タイプ)]を必ず[Automatic (自動)]にします。
5. [Start (起動)]をクリックし、[OK]をクリックして、サービスを起動します。

Dominoコンソールはサービスの起動時には表示されません。表示するには、コンソールをダブルクリックします。コンソールは自動的にDominoサーバーとサーバーコントローラーに接続します。

Lotus Notesクライアントソフトウェアのインストール

HPの管理者IDを使用して、Lotus Notes 8.5.1 (Standard版) Administrator、Designer、NotesクライアントをHPゲートウェイサーバーにインストールします。クライアントソフトウェアのインストールは、サポートやHP CPEのために必要です。HPゲートウェイが複数台ある場合は、それぞれのゲートウェイサーバーにクライアントをインストールするのがよい方法です。

Lotus Notesクライアントソフトウェアは、EAsD 2.1 Lotus ClientsインストールCD/DVDに収録されていません。

1. EAsD 2.1 Lotus ClientsインストールCD/DVDをHPゲートウェイサーバーのCD/DVD-ROMドライブに入れるか、インストール用の実行可能ファイルをダブルクリックして、インストールプログラムを開始します。
2. インストールファイルを一時的な場所に解凍します。
3. [Welcome (ようこそ)]画面でライセンス契約の条項を読み、同意してから[Next (次へ)]をクリックします。
4. ユーザーの情報を入力し、[Next (次へ)]をクリックします。
5. プログラムファイルとデータファイルのデフォルトの場所を変更しないでください。[Next (次へ)]をクリックします。
6. [Custom Setup (カスタムセットアップ)]ダイアログボックスで、インストールする3つのプログラムをすべて選択し、[Next (次へ)]をクリックします。
 - ・ [Notes Client (Notesクライアント)]: インストールの対象として選択します。リストを展開して、[Client Single Logon Feature (クライアントシングルログオン機能)]と[Migration Tools (移行ツール)]は選択解除します。
 - ・ [Domino Designer]: インストールの対象として選択します。
 - ・ [Domino Administrator]: インストールの対象として選択します。リストを展開して、[Domino Directory Windows Sync Services (Domino Directory Windows同期サービス)]は選択解除します。
7. Notesがデフォルトの電子メール、カレンダー、連絡先プログラムになるようチェックボックスを選択します。
8. [Install (インストール)]をクリックします。
9. [Install Wizard Completed (インストールウィザードの終了)]ダイアログボックスが表示されたら、[Finish (完了)]をクリックします。
10. システムの環境変数を表示します。Path変数に、Notesのプログラムフォルダーが記述されていることを確認します。

たとえば、%PATH%;C:\lotus\notesのようになります。

Java Runtime Environmentのインストール

Java Runtime Environment (JRE) バージョン1.6以上 (32ビット) をHPゲートウェイサーバーにインストールします。このソフトウェアは以下のサイトからダウンロードできます。

<http://www.java.com/en/download/manual.jsp> (英語)

インストールした後、以下の手順を実行してください。

1. システムの環境変数を表示します。
2. Path変数に、Javaのbinフォルダーが記述されていることを確認します。

たとえば、%PATH%;C:\Java\jdk1.6.0_018\binのようになります。

Path変数に変更を加える場合は、EAs Dominoソフトウェアをインストールする前にHPゲートウェイサーバーを再起動してJREが有効になるようにします。

追加のHPゲートウェイサーバーのインストール

DominoドメインのHP Gatewayに複数台のサーバーがある場合は、2台目以降の各ゲートウェイサーバーで以下の手順を実行します。

1. 以下の追加のHPゲートウェイサーバーの登録の説明に従って、サーバーを登録します。
2. 「[Lotus Dominoサーバーソフトウェアのインストール](#)」(44ページ)の説明に従って、Lotus Dominoサーバーソフトウェアをインストールします。
3. 「[追加のHPゲートウェイサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行](#)」(51ページ)の説明に従って、Lotus Dominoサーバーのセットアップを実行します。
4. 「[Dominoサーバーの実行](#)」(47ページ)の説明に従って、Dominoサーバーサービスを起動します。
5. 「[Lotus Notesクライアントソフトウェアのインストール](#)」(47ページ)の説明に従って、Lotus Notes、Administrator、Designerの各クライアントをインストールします。
6. 「[Java Runtime Environmentのインストール](#)」(48ページ)の説明に従って、Java Runtime Environmentをインストールします。

追加のHPゲートウェイサーバーの登録

DominoドメインのHP Gatewayにサーバーを登録します。この処理によって、新しい各HPゲートウェイサーバーのサーバーIDファイルとサーバー文書がDomino Directoryに作成されます。

1. HPゲートウェイの管理者IDを使用して、Domino Administratorクライアントを開きます。
2. [Configuration (設定)]タブで、[Server (サーバー)]を展開し、[All Server Documents (すべてのサーバー文書)]を選択します。
マスターHPゲートウェイサーバーのサーバー文書が表示されます。
3. [Tools (ツール)]リストで、[Registration (登録)]を展開して、[Server (サーバー)]を選択します。
4. 表示される[Choose a Certifier (証明書を選択)]ダイアログボックスで以下の操作を行います。
 - ・ [Server (サーバー)]に対しては、マスターHPゲートウェイを登録サーバーとして指定します。たとえばHPGateway1とします。
 - ・ 証明書IDに対しては、「[組織単位の証明書の作成](#)」(44ページ)で説明した組織単位の証明書を使用します。
5. [OK]をクリックします。
証明書IDの詳細が[Register Servers (登録サーバー)]ダイアログボックスに表示されます。
6. [Continue (続行)]をクリックして、[Register New Server(s) (新しいサーバーの登録)]フォームを起動します。

このフォームでは、複数のサーバーの登録情報を入力できます。

7. フォームに入力します。

Register New Server(s)

Basics

Registration Server: HPGateway1

Certifier: #parchive/acme

Advanced

Server name: HPGateway3

Server title: HP Gateway 3

Domino domain name: HPGateway

Server administrator name: HPadmin/acme

ID file password: [Empty]

Location for storing server ID:

In Domino Directory

In file: Set ID File... C:\Program Files\...\servers\HPGateway3.id

Buttons: [OK] [Cancel] [New Server]

Server Name ^	Registration Status ^	Date ^
HPGateway2	Ready for registration	06/24/2009

Buttons: [Register All] [Register] [Remove] [Done]

各HPゲートウェイサーバーについて、以下のように入力します。

- a. [Server name (サーバー名)], [Server title (サーバーのタイトル)], [Domino domain name (Dominoドメイン名)], [Server administrator name (HPゲートウェイ管理者)]を指定します。
[ID file password (IDファイルのパスワード)]フィールドには、パスワードを入力しないでください。
- b. サーバーIDを保存する場所として、[In file (ファイル)]チェックボックスを選択します。

❗ **重要:**

サーバーIDを保存する場所として、[In Domino Directory (Domino Directory)]は選択しないでください。このオプションには、サーバーIDと一緒に付与されるパスワードが必要です。これを選択すると、起動するごとにサーバーからパスワードが要求され、サーバーの自動再起動ができなくなります。

- c. HPゲートウェイサーバーについてのフォームの入力が完了したら、緑色のチェックマークを選択して、フォームの下部にあるサーバーのリストにサーバーを追加します。
- d. すべてのHPゲートウェイサーバーがリストされたら、[Register All (すべて登録)]をクリックします。

サーバーIDファイルが指定したファイルシステムのディレクトリに作成され、サーバー文書がHP GatewayドメインのDomino Directoryに作成されます。

Domino Directoryの[All Server Documents (すべてのサーバー文書)]ビューに、この後でHPゲートウェイサーバーとなる追加のDominoサーバーが表示されるようになります。これらのサーバーには、まだインストールが行われていないことに注意してください。

HPゲートウェイサーバーを登録した後、Lotus Dominoサーバーソフトウェアを各ゲートウェイサーバーにインストールできるようになります。サーバーはHP Gatewayドメインの追加のDominoサーバーとしてインストールされます。マスターHPゲートウェイサーバーをDomino Directoryを複製するサーバーとして指定します (names.nsf)。

追加のHPゲートウェイサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行

以下の手順に従って、追加のHPゲートウェイサーバーでLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムを実行してください。

1. Lotus DominoサーバーソフトウェアをHPゲートウェイにインストールします。
「[Lotus Dominoサーバーソフトウェアのインストール](#)」(44ページ)を参照してください。
2. [Start (スタート)]メニューから、Dominoサーバーアプリケーションを起動します。
サーバーのセットアッププログラムが起動しない場合は、Windowsのエクスプローラーを使用してc:\lotus\dominoに移動し、nserver.exeをダブルクリックしてプログラムを起動します。
3. [Service (サービス)]ウィンドウから以下のように操作します。
 - a. [Start Domino as a Windows service (DominoをWindowsサービスとして起動)]をクリックします。
 - b. [Always start Domino as a service at system startup (システム起動時にDominoを常にサービスとして起動)]チェックボックスを選択します。
 - c. [Next (次へ)]をクリックします。
4. [Fonts (フォント)]ダイアログボックスで、[Next (次へ)]をクリックして次に進みます。

5. [Setup an additional server (追加のサーバーのセットアップ)]をクリックし、[Next (次へ)]をクリックします。
6. [The server ID file is stored on a floppy disk, CD or network drive (サーバーIDをフロッピーディスク、CDまたはネットワークドライブから供給する)]を選択します。「[追加のHPゲートウェイサーバーの登録](#)」(49ページ)で作成したサーバーIDファイルを指定して、[Next (次へ)]をクリックします。
サーバーIDに対応するサーバー名が表示されます。
7. [Next (次へ)]をクリックします。
8. Dominoサーバーが提供するインターネットサービスで[Customize (カスタマイズ)]をクリックします。
9. [Advanced Domino Services (高度なDominoサービス)]で、以下のように操作します。
 - a. 以下のDominoタスクだけが選択されていることを確認します。
 - ・ [Database Replicator]
 - ・ [Mail Router]
 - ・ [Agent Manager]
 - ・ [Administration Process]
 - ・ [SMTP Server (SMTPサーバー)]
 - ・ [LDAP Server (LDAPサーバー)] (DASバックアップに使用するサーバーのみ)他のタスクはすべて選択解除します。
 - b. [OK]をクリックしてから[Next (次へ)]をクリックします。
10. [Network settings (ネットワーク設定)]ダイアログボックスで、[Customize (カスタマイズ)]をクリックします。
11. [Advanced Network Settings (高度なネットワーク設定)]で、以下の操作を行います。
 - a. [NetBIOS over TCP/IP]を選択解除します。
 - b. [TCP/IP]を必ず選択します。
 - c. HPゲートウェイサーバーの完全修飾DNS名が定義されていることを確認します。
例: HPGateway2.acme.com
 - d. [OK]をクリックしてから[Next (次へ)]をクリックします。
12. セキュリティに関する両方のチェックボックスが選択されていることを確認して、[Next (次へ)]をクリックします。
13. 表示されたシステムデータベースウィンドウで、以下のフィールドに入力して、[Next (次へ)]をクリックします。
 - ・ [Other Domino server name (他のDominoサーバー名)]: マスターHPゲートウェイサーバーの名前を入力します。たとえばHPGateway1/Acmeとします。
 - ・ [Optional network address (追加ネットワークアドレス)]: マスターゲートウェイサーバーのDNS/ホスト名またはIPアドレスを入力します。たとえば、HPGateway1.acme.comとします。
14. 設定の選択項目を確認して、正しければ[Setup (設定)]をクリックします。
正しくない場合は、[Back (戻る)]をクリックしてその選択項目の箇所まで戻り、内容を変更し、再度この画面に戻ります。
15. [Congratulations (設定完了)]ダイアログボックスで、[Finish (完了)]をクリックして設定プロセスを終了します。

サーバー接続文書の作成

複数台のHPゲートウェイサーバーがある場合は、マスターHPゲートウェイサーバー上に追加の各ゲートウェイサーバーに対するサーバー接続文書を作成します。

1. マスターゲートウェイサーバーのAdministratorクライアントから、[Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[Connections (接続)]をクリックします。
2. [Add Connection (接続の追加)]をクリックします。
3. [Basics (基本情報)]タブで以下の情報を設定します。
 - ・ [Connection type (接続タイプ)]: [Local Area Network (ローカルエリアネットワーク)]を選択します。
 - ・ [Source server (送信側サーバー)]: マスターHPゲートウェイサーバーの名前を入力します。デフォルトでは、このフィールドには現在のサーバー名が入力されています。
 - ・ [Source domain (送信側ドメイン)]: HP Gatewayドメインの名前を入力します。
 - ・ [Use the port(s) (使用するポート)]: [TCP/IP]
 - ・ [Destination server (受信側サーバー)]: ターゲットHPゲートウェイサーバーの名前を入力します。
 - ・ [Destination domain (受信側ドメイン)]: HP Gatewayドメインの名前を入力します。
 - ・ [Optional network address (追加ネットワークアドレス)]: ターゲットゲートウェイサーバーの完全修飾ホスト名またはIPアドレスを入力します。
4. [Replication/Routing (複製/配信)]タブで、複製の種類を[Pull Push (プルプッシュ)]に設定します。
5. [Schedule (スケジュール)]タブで、以下のフィールドを設定します。
 - ・ [Connect at times (接続時刻)]: 12:00 AM - 11:59 PM each day
 - ・ [Repeat interval of (繰り返し間隔)]: 60 minutes
 - ・ [Days of week (実行日)]: すべての曜日を選択します。
6. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
7. 手順2～6を繰り返して、追加の各HPゲートウェイサーバーに対する接続文書を作成します。

Notes IDとDomino Directoryのバックアップ

Lotus Dominoサーバーソフトウェアを各HPゲートウェイサーバーにインストールした後、以下のディレクトリをバックアップします。

- ・ C:\lotus\ids
- ・ C:\lotus\domino\data\names.nsf

2.2 HPゲートウェイサーバーの設定

以下の手順を実行して、HPゲートウェイサーバーでDominoサーバーを設定します。

- ・ [HP GatewayドメインのDomino Administratorクライアントへの追加](#) (55ページ)
- ・ [HPゲートウェイサーバーのセキュリティの設定](#) (56ページ)
- ・ [Agent Managerのパラメーター値の編集](#) (57ページ)
- ・ [ユーザーのメールサーバーに対する接続文書の作成](#) (57ページ)
- ・ [外部のSMTPドメイン文書の作成と設定](#) (58ページ)
- ・ [SMTP接続文書の作成と設定](#) (58ページ)
- ・ [HPゲートウェイサーバーの設定文書の作成](#) (59ページ)
- ・ [ログファイルサイズの制限](#) (60ページ)
- ・ [JavaMaxHeapSizeの変更](#) (60ページ)

HP GatewayドメインのDomino Administratorクライアントへの追加

Lotus Domino Administratorクライアントは、Dominoサーバーの管理作業に使用する標準的なツールです。HPゲートウェイサーバーの操作が容易になるように、各ゲートウェイサーバーをDomino Administratorのサーバーのリストに追加します。

1. Domino Administratorクライアントを起動します。
2. HPゲートウェイ管理者ID (HPゲートウェイサーバーのインストール時に作成したもの) に切り替えます。
3. [File (ファイル)] > [Preferences (プリファレンス)] > [Administration Preferences (システム管理プリファレンス)]の順に選択して、[Administration Preferences (システム管理プリファレンス)]ダイアログボックスで[Basics (基本情報)]タブをクリックします。
4. [New (作成)]をクリックし、以下の項目を設定します。
 - ・ [Domain name (ドメイン名)]: インストール時にHPゲートウェイサーバー用に割り当てたDominoのドメイン名を入力します。
「[マスターサーバーでのLotus Dominoサーバーのセットアッププログラムの実行](#)」(45ページ)を参照してください。
 - ・ [Domino Directory servers (Domino Directoryサーバー)]: 各HPゲートウェイサーバーに対して作成したサーバーIDの完全修飾名を入力します。
5. [OK]をクリックします。

Domino Administratorクライアントのインターフェイスの左側にあるバーに、新しいブックマークが追加されます。アイコンにマウスのポインターを重ねると、ドメイン名が表示されます。

HPゲートウェイサーバーのセキュリティの設定

HPゲートウェイサーバーは、外部のDominoドメインに配置されています。既存のサーバーと管理者がHPゲートウェイサーバーを利用できるようにするために、セキュリティを設定する必要があります。

各HPゲートウェイサーバーで、以下の手順を実行します。

1. Domino AdministratorクライアントでHP Gatewayドメインを選択し、ゲートウェイサーバーを選択して、[People and Groups (ユーザーとグループ)]タブをクリックします。
2. マイニングの対象となるDominoサーバーをOtherDomainServersに追加します。
 - a. [Groups (グループ)]を展開し、[Groups (グループ)]のリストから[OtherDomainServers]を選択して、[Edit Group (グループの編集)]をクリックします。
 - b. グループのメンバーのリストに、HPゲートウェイサーバーがマイニングの対象とするユーザーのDominoサーバーの名前を追加します。
(単にメールサーバーのLocalDomainServersグループから名前をコピーして貼り付けることもできます。)
 - c. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
3. HPゲートウェイ管理者をLocalDomainAdminsに追加します。
 - a. [Groups (グループ)]のリストから[LocalDomainAdmins]を選択して、[Edit Group (グループの編集)]をクリックします。
 - b. グループのメンバーのリストに、HPゲートウェイ管理者とゲートウェイサーバーで管理作業を実行できる権限を持つユーザーの完全修飾されたNotes IDを追加します。
 - c. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
4. HPゲートウェイサーバーでアクセス権を設定します。
 - a. Domino Administratorクライアントでゲートウェイサーバーがまだ選択されている状態で、[Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開します。
 - b. [Current Server Document (現在のサーバー文書)]をクリックし、[Security (セキュリティ)]タブをクリックして、[Edit Server (サーバーの編集)]をクリックします。
 - c. 以下のフィールドに、LocalDomainServersとLocalDomainAdminsを追加します。
 - ・ Full Access Administrators (管理者 (フルアクセス))
 - ・ Administrators (管理者)
 - ・ Sign or run unrestricted methods and operations (制限なしで署名または実行)
 - ・ Sign or run restricted LotusScript/Java agents (制限付き LotusScript/Java エージェントの署名または実行)
 - ・ Run Simple and Formula agents (SimpleアクションとFormulaエージェントの実行)
 - ・ Create databases & templates (データベースとテンプレートの作成)
 - ・ Create new replicas (新規レプリカの作成)
 - ・ Create master templates (マスターテンプレートの作成)
 - d. [Access server (アクセスサーバー)]フィールドで、LocalDomainAdmins、LocalDomainServers、OtherDomainServersを[Access Server (アクセスサーバー)]リストに追加します。
 - e. 変更した内容を保存します。サーバー文書を開いたままにして、次のセクションでAgent Managerの値を変更できるようにします。

 注記:

上記の手順4cおよび4dで表示されたセキュリティのフィールドに特別な署名IDを使用する場合は、関係するフィールドに署名IDの完全修飾名を入力してください。

Agent Managerのパラメーター値の編集

HP EAs Dominoの推奨オプションをAgent Managerに設定して、サーバーが不安定になるのを防止します。HPゲートウェイサーバーのサーバー文書に対して、以下の操作を実行します。

1. [Server Tasks (サーバータスク)]タブをクリックします。
2. [Agent Manager]タブをクリックし、[サーバーの編集]をクリックします。
3. [Daytime Parameters (日中のパラメータ)]の値を以下のように変更します。
(状況によっては、HPのエンジニアスタッフがこれらの値を大きくするようにお勧めすることもあります。)
 - ・ [開始時刻]: 08:00 AMを入力します。
 - ・ [終了時刻]: 08:00 PMを入力します。
 - ・ [同時に実行できるエージェントの最大数]: 5を入力します。
 - ・ [LotusScript/Java の最長実行時間]: 480分を入力します。
 - ・ [しきい値 (%): 70を入力します。
4. [Nighttime Parameters (夜中に使用するパラメータ)]の値を以下のように変更します。
(状況によっては、HPのエンジニアスタッフがこれらの値を大きくするようにお勧めすることもあります。)
 - ・ [開始時刻]: 08:00 PMを入力します。
 - ・ [終了時刻]: 08:00 AMを入力します。
 - ・ [同時に実行できるエージェントの最大数]: 5を入力します。
 - ・ [LotusScript/Java の最長実行時間]: 480分を入力します。
 - ・ [しきい値 (%): 70を入力します。
5. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
6. 各HPゲートウェイサーバーについて、この手順を繰り返します。

ユーザーのメールサーバーに対する接続文書の作成

接続文書は、DominoメールサーバーまたはジャーナルサーバーからメールをアーカイブするためにHPゲートウェイサーバーに必要です。

ゲートウェイサーバーがマイニングの対象とするDominoサーバーごとに、別々の接続文書を作成します。

1. Administratorクライアントから、[Configuration (設定)]タブをクリックして、[Messaging (メッセージング)]を展開し、[Connections (接続)]をクリックします。
2. [Add Connection (接続の追加)]をクリックします。

3. [Basics (基本情報)]タブで以下の情報を設定します。
 - ・ [Connection type (接続タイプ)]: [Local Area Network (ローカルエリアネットワーク)]を選択します。
 - ・ [Source server (送信側サーバー)]: HPゲートウェイサーバーの完全修飾名を入力します。デフォルトでは、このフィールドには現在のサーバー名が入力されています。
 - ・ [Source domain (送信側ドメイン)]: HP Gatewayドメインの名前を入力します。
 - ・ [Use the port(s) (使用するポート)]: [TCP/IP]を指定します。
 - ・ [Destination server (受信側サーバー)]: 電子メールをアーカイブするためにHPゲートウェイがやり取りをする、最初のDominoメールサーバーまたはジャーナルサーバーの名前を入力します。
 - ・ (オプション) [Destination domain (受信側ドメイン)]: メールドメインの名前を入力します。
4. [Replication/Routing (複製/配信)]タブで、[Routing task (配信タスク)]ドロップダウンボックスから[None (なし)]を選択します。
5. [Schedule (スケジュール)]タブで、以下のフィールドを設定します。
 - ・ [Connect at times (接続時刻)]: 12:00 AM - 11:59 PM
 - ・ [Repeat interval of (繰り返し間隔)]: 60 minutes
 - ・ [Days of week (実行日)]: すべての曜日を選択します。
6. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
7. 手順2~6を繰り返して、HPゲートウェイサーバーがメッセージのアーカイブのためにやり取りをするメールサーバーおよびジャーナルサーバーごとに接続文書を作成します。

外部のSMTPドメイン文書の作成と設定

各HPゲートウェイサーバーで以下の手順を実行して、IAPに対する外部のSMTP文書を作成します。

1. Administratorクライアントから、HPゲートウェイサーバーを選択します。
2. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Messaging (メッセージング)]を展開し、[Domains (ドメイン)]をクリックします。
3. [Add Domain (ドメインの追加)]をクリックします。
4. [Basics (基本情報)]タブをクリックします。[Domain type (ドメインタイプ)]フィールドで、矢印をクリックして[Foreign SMTP Domain (異種SMTPドメイン)]を選択します。
5. [Routing (ルート)]タブをクリックし、以下の項目を設定します。
 - ・ [Internet Domain (インターネットドメイン)]: IAPのドメイン名を入力します。IAPにあるdomain.jcm1ファイルの先頭部分のNameフィールドの名前を使用します。この名前には空白を含めることはできず、1つ以上のピリオド(.)が必要です。たとえば、iap.comのようになります。
 - ・ [Internet host (インターネットホスト名)]: IAPのホスト名または仮想IP (VIP) アドレスを入力します。VIPアドレスを指定する場合は、大かっこで囲んでください。
6. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

SMTP接続文書の作成と設定

メールのルーティング用に、各HPゲートウェイサーバーからIAPシステムに接続を作成する必要があります。

1. Administratorクライアントから、HPゲートウェイサーバーを選択します。
2. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[Connections (接続)]をクリックします。

3. [Add Connection (接続の追加)]をクリックします。
4. [Basics (基本情報)]タブをクリックし、以下の項目を設定します。
 - ・ [Connection type (接続タイプ)]: [SMTP]を選択します。
 - ・ [Source server (送信側サーバー)]: HPゲートウェイサーバーの完全修飾名を入力します。
 - ・ [Connect via (接続の経由)]: [Direct connection (ローカルエリアネットワーク)]を選択します。
 - ・ [SMTP MTA relay host (SMTP MTAリレーホスト)]: BlackBoxConfig.bctにあるIAPのホスト名またはVIPアドレスを入力します。
VIPアドレスを指定する場合は、大かっこで囲んでください。
 - ・ [Destination domain (受信側ドメイン)]: IAPインターネットドメインの名前を入力します。これは前出の外部SMTP文書の設定時に入力したインターネットドメイン名と同じである必要があります。
5. [Replication/Routing (複製/配信)]タブをクリックし、以下の項目を設定します。
 - ・ [Replication task (複製タスク)]: 矢印をクリックし、[Disabled (無効)]を選択します。
 - ・ [Routing task (配信タスク)]: 矢印をクリックし、[SMTP Mail Routing (SMTPメール配信)]を選択します。
 - ・ [Route at once if (即時に配信する条件)]: 1を入力します。
 - ・ [Routing cost (配信コスト)]: 1 (デフォルト)のままにします。
6. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
7. 各HPゲートウェイサーバーで、上記の手順を繰り返します。

HPゲートウェイサーバーの設定文書の作成

以下の手順に従って、各HPゲートウェイサーバーに対するサーバー設定文書を作成します。

1. Administratorクライアントから、HPゲートウェイサーバーを選択します。
2. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Messaging (メッセージング)]を展開し、[Configuration (設定)]をクリックします。
3. このサーバーについての設定が存在しない場合は、[Add Configuration (設定の追加)]をクリックします。設定の作成を確認するダイアログボックスが表示されたら、[Yes (はい)]をクリックします。
4. 設定文書で、[Basics (基本情報)]タブをクリックして、[Group or Server name (グループ/サーバー名)]フィールドにHPゲートウェイサーバーの名前を入力します。
5. [Router/SMTP (ルーター/SMTP)]タブをクリックします。
 - a. [Basics (基本情報)]タブに以下の情報を設定します。
 - ・ [Number of mailboxes (メールボックス数)]: 3に変更します。
 - ・ [SMTP used when sending (送信する時、SMTPを使用)]: [Enabled (有効)]を選択します。
 - ・ [Exhaustive lookup (完全な名前参照)]: [Enabled (有効)]を選択します。
 - b. [Advanced (詳細)]タブをクリックし、[Controls (制御)]タブをクリックします。
 - c. [Additional Controls (追加設定)]領域で、[Hold Undeliverable Mail (配信できないメールの保持)]を[Enabled (有効)]に変更します。
 - d. [Restrictions and Controls (拡張と制御)]タブをクリックし、[Transfer Controls (転送制御)]タブをクリックします。
 - e. [Low Priority (低優先度)]のメールルーティング時間の範囲を[12:00 AM - 11:59 PM]に変更します。
6. [MIME]タブをクリックして、[Conversion Options (変換オプション)]タブをクリックします。

- [Outbound (アウトバウンド)]タブをクリックし、以下の項目を設定します。
 - [Message content (メッセージコンテンツ)]: [from Notes to HTML (NotesからHTMLへ)]に変更します。
 - [Lookup Internet address for (インターネットアドレスの検索)]: [Enabled (有効)]を選択します。
 - [Perform exhaustive lookups (完全な参照を行う)]: [Enabled (有効)]を選択します。
- [MIME]タブで、[Advanced (詳細)]タブをクリックし、[Advanced Outbound Message Options (アウトバウンドメール詳細オプション)]タブをクリックします。
- [Internet Mail server sends Notes private items in messages (インターネットメールサーバーのメール内のNotes独自アイテムの送信)]フィールドで[Enabled (有効)]を選択します。
- [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

注記:

日本語ユーザーの場合は、設定文書に設定する追加のオプションについて、「[日本語データ用のHP EAs Dominoの設定](#)」(313ページ)を参照してください。

ログファイルサイズの制限

ログエントリーの経過期間に基づいて、Dominoサーバーのログファイルのサイズを制限することができます。これにより、Dominoのログファイルが過度に大きくなることを防止できます(デフォルト設定では、7日後にDominoがログを削除します)。

- サーバーでnotes.iniを開きます。
- Logパラメーターの場所までスクロールします。

デフォルトのLogパラメーターはLog=log.nsf, 1, 0, 7, 40000と表示されています。それぞれの意味は以下のとおりです。

 - log.nsfはログデータベースのファイル名です。
 - 1はログをコンソールとログファイルの両方に出力するオプションです。
 - 0は未使用のオプションです。常に0に設定してください。
 - 7はエントリーをログファイルに保存する日数です。
 - 40000はエントリーの(最大)サイズで、バイトで指定します。
- 日数を変更します。

3日に設定することをお勧めします。
- ファイルを保存します。

ファイルは開いたままにして、次のセクションでJavaMaxHeapSizeを変更できるようにしてください。
- 各HPゲートウェイサーバーで、上記の手順を繰り返します。

JavaMaxHeapSizeの変更

notes.iniでJavaMaxHeapSizeのパラメーターを設定し、サーバーが不安定になることと、メモリの問題が発生することを防止します。

- notes.iniで、JavaMaxHeapSizeのパラメーターの場所に移動します。

2. 以下のガイドラインに従って、JavaMaxHeapSize (64MB) のデフォルト設定を変更してください。
 - ・ ユーザー数が5,000未満、グループ数が10,000未満の組織では、次のように128MBに設定します。

```
set config JavaMaxHeapSize=134217728
```
 - ・ ユーザー数が20,000以下、グループ数が20,000以下の組織では、次のように256MBに設定します。

```
set config JavaMaxHeapSize=268435456
```
 - ・ ユーザー数が40,000以下、グループ数が40,000以下の組織では、次のように512MBに設定します。

```
set config JavaMaxHeapSize=536870912
```
3. ファイルを保存して、サーバーを再起動します。

notes.iniのJavaMaxHeapSizeの値を変更した場合は常に、Agent Manager、Router、およびReplicatorの各サーバータスクを再起動する必要があります。IBMは、各タスクを再起動するかわりに、サーバーを再起動することを推奨しています。
4. 各HPゲートウェイサーバーで、上記の手順を実行します。

2.3 ユーザーのDominoメールアドレスの設定

以下の作業は、Lotus Domino管理サーバーで、Dominoの管理者が実行してください。これらの作業によって、ユーザーのDominoドメインにあるHPゲートウェイサーバーへのアクセスが確立されます。

HPゲートウェイサーバーへのアクセス権の設定

1. 管理サーバーのDomino Directoryから、[View (表示)] > [Groups (グループ)]の順に選択します。
2. ユーザーのメールファイルにアクセスできるDomino DirectoryにあるOtherDomainServersグループまたは同様のグループを選択し、ダブルクリックします。
3. [Edit Group (グループの編集)]をクリックします。
4. 各HPゲートウェイサーバーの完全修飾名を[Members (メンバー)]フィールドに追加します。
5. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

信頼できるサーバーの設定

HPゲートウェイサーバーとマイニング対象のDominoサーバーとの間に信頼関係を設定します。

1. 管理サーバーで、[Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[All Server Documents (すべてのサーバー文書)]をクリックします。
2. 1台目のメールサーバーまたはジャーナルサーバーを選択して、[Edit Server (サーバーの編集)]をクリックします。
3. [Security (セキュリティ)]タブをクリックして、[Server Access (サーバーアクセス)]領域を表示します。
4. [Trusted servers (信頼できるサーバー)]フィールドに、各HPゲートウェイサーバーの名前を入力します。
5. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
6. マイニングの対象となる各メールサーバーやジャーナルサーバーに対して手順2～5を繰り返します。

2.4 HP EAs Dominoソフトウェアの説明

この章では、HP EAs Dominoによってインストールされたファイルについて説明します。

- [HP EAs Dominoデータベース \(65ページ\)](#)
- [HP EAs Dominoデータベースのテンプレート \(66ページ\)](#)
- [HP EAs Dominoのバイナリ \(68ページ\)](#)
- [HP EAs Domino notes.iniのエントリー \(67ページ\)](#)

HP EAs Dominoデータベース

以下のEAs Dominoデータベースは、Dominoのデータディレクトリに作成されるhprimフォルダーにインストールされます。

- HP EAs-D API:hp_rissapi.nsf
メインの設定データベースであり、設定文書、マイニングルール、ジャーナリングルール (EAs Dominoの高度なフィルタリングを使用する場合)、およびその他の設定オプションが記録されます。
- HP EAs-D Users:hp_rissuser.nsf
EAs Dominoのユーザーのレコードを保持するデータベースです。
- HP EAs-D DAS Names:hp_dasnames.nsf
IAP上のユーザーレポジトリの作成またはアップデートのためにDASが使用するレコードを保持するデータベースです。
- HP EAs-D Stats:hp_easd_stats.nsf
Archiveエージェントの実行中に収集された統計値を記録するデータベースです。
- HP EAs-D Locale Configurations:hp_localecfg.nsf
さまざまな言語にローカライズできる設定テーブルが記録されるデータベース。これによって、メッセージやフォームをユーザーの母国語で表示できます。
- HP EAs-D Log:hp_risslog.nsf
EAs Dominoのコンポーネントのアクションを記録するデータベースです。
- HP EAs-D Journal:hp_riss_journal.nsf
EAs Dominoのメールジャーナルのデータベースです。
- HP EAs-D Export Search:hp_rissexportsearch.nsf
IAPからのメッセージをエクスポートするために使用するデータベースです。
- HP EAs-D Bulk Upload:hp_rissblkupd.nsf
アクティブでないユーザーの電子メールのアーカイブに使用するデータベースです。
- HP EAs-D DWA Index:hp_dwaindex.nsf
Domino Web Access (DWA) にアーカイブされたメッセージを取得するときに使用するデータベースです。
- HP EAs-D Server Requests:hp_rissreq.nsf

EAs Dominoの2.0より前のバージョンを使用してアーカイブされたメッセージをDWAで取得するときに使用するデータベースです。

- Referenceデータベース:
HP ArchiveエージェントおよびHP Tombstoneエージェントと、処理されるメッセージへのポインター（またはリファレンス）が記録されるデータベースです。
 - HP EAs-D Reference (miner):hp_riss_minerreferenc.nsf
 - HP EAs-D Reference (jrnl):hp_riss_journalreferenc.nsf
 - HP EAs-D Reference (blk):hp_riss_blkupreferenc.nsf
- PreProcessデータベース:
署名付きメッセージと暗号化メッセージを処理するためのプリプロセスエージェントが含まれるデータベースです。
 - HP EAs-D PreProcess (miner):hp_preproc_miner.nsf
 - HP EAs-D PreProcess (jrnl):hp_preproc_journal.nsf
 - HP EAs-D PreProcess (blk):hp_preproc_blk.nsf

HP EAs Dominoデータベースのテンプレート

インストールメディアのTemplatesディレクトリには、NTFファイルと、HP EAs Dominoデータベースの設計要素が格納されています。

このテンプレートは、以下の目的のために用意されています。

- HP EAs-D ToolsまたはHP EAs-D Get Held MessagesなどのEAs Dominoデータベースの作成
- 新たなReferenceデータベースとPreProcessデータベースの作成
- 新しいジャーナルデータベースの作成
- 複数のEAs Domino設計要素のソース
- データベース内の設計が破損した場合の緊急修復

① 重要:

EAs DominoテンプレートをHPゲートウェイサーバーのDominoデータディレクトリにコピーしないでください。終夜の設計プロセスによってエージェントの更新にテンプレートが使用され、エージェントがスケジュール情報を失ってしまう場合があります。テンプレートはNotesクライアントのデータディレクトリに配置できます。

HP EAs Dominoデータベースのテンプレートを以下に一覧します。

テンプレート名の末尾には必ずテンプレートのバージョンが付加されています。これはEAs Dominoソフトウェアリリースに対応します。たとえば、EAs Domino 2.1リリースのテンプレート名の末尾には2_1が付加されており、hp_apiテンプレートはhp_api_2_1.ntfとなります。ソフトウェアリリースのアップデートに対しては、3番目の数値が付加されます。たとえば、hp_api_2_1_1.ntf、hp_api_2_1_2.ntfなどになります。

新しいReferenceデータベース用のテンプレート

- HP EAs-D Reference:hp_referenc.ntf

新しいPreProcessデータベース用のテンプレート

- HP EAs-D PreProcess:hp_preproc.ntf

IAPから拒否されたメッセージを保存するデータベースのためのテンプレート

- HP EAs-D GHM:hp_getheldmsgs.ntf

Mail-to-Me管理、tombstone監査、メッセージ解析のためのテンプレート

- HP EAs-D Tools:hp_tools.ntf

新しいメールジャーナル用のテンプレート

- HP EAs-D Journal:hp_mailjrn.ntf

IAPシングルサインオン対応用のテンプレート

- HP EAs-D SSO Mail Sample:hp_ssomail_sample.ntf
- HP EAs-D SSO:hp_sso.ntf

設計コンポーネント付きのテンプレート

- HP EAs-D Shared Objects:hp_sharedobjects.ntf

その他すべてのデータベースのテンプレート

- HP EAs-D DWA Index:hp_dwaindex.ntf
- HP EAs-D API:hp_api.ntf
- HP EAs-D DAS Names:hp_dasnames.ntf
- HP EAs-D Export Search:hp_exportsearch.ntf
- HP EAs-D Log:hp_log.ntf
- HP EAs-D Users:hp_user.ntf
- HP EAs-D Bulk Upload:hp_blkupd.ntf
- HP EAs-D Server Requests:hp_req.ntf
- HP EAs-D Locale Configurations:hp_localecfg.ntf
- HP EAs-D Stats:hp_stats.ntf

HP EAs Domino notes.iniのエントリー

HP EAs Dominoのソフトウェアのインストール時に、notes.iniファイルの以下のエントリーが更新されます。

- hprim_api=hprim\hp_rissapi.nsf

このエントリーは、HPゲートウェイサーバーのnotes.iniに追加されます。また、サーバーに高度なフィルタリング、DWA Extension、Export Search、または一括アップロードがインストールされている場合は、メールドメインのDominoサーバーのnotes.iniにも追加されます。

- HPRISMINER_MAX_REF_SESSION=110000
- HP_EAS-D_CONTROL_IAP_HASHES_COLLISION=1

これらのエントリーは、HPゲートウェイサーバーのnotes.iniに追加されます。

以下のエントリーは、高度なフィルタリング (HP EAs Dominoのジャーナリング) を実行しているメールサーバーのnotes.iniに追加されます。

- EXTMGR_ADDINS = advsrv
- servertasks = mwadv
- \$MailWatcherServerName=CN=[server name]/O=[organization]
- MWADVSRVOTHERSERVICES=[anti-virus-real-time-task-name]

ジャーナリングの収集前にウイルス対策スキャンを実行できるようにします。

- Nortonアンチウイルスソフトウェア (たとえば、Symantecインターネットセキュリティスイートのrtvscan.exe) を使用する場合は、このエントリーを手作業で追加してください。

MWADVSRVOTHERSERVICESAO=[anti-virus-real-time-task-name]

HPゲートウェイサーバー、およびExport Searchを実行しているサーバーでは、notes.iniのJavaMaxHeapSize=[n]のサイズを、「JavaMaxHeapSizeの変更」(60ページ)のガイドラインに従って設定してください。

HP EAs Dominoのバイナリ

HP EAs Dominoソフトウェアには以下のバイナリファイルが含まれています。

表7 HP EAs Dominoのバイナリ

説明	オペレーティングシステム	ファイル名	インストールディレクトリ
メールボックスのマイニングの実行可能プログラムである、rissminer。 EAs Dominoのリファレンス文書を作成して、アーカイブのためのメッセージの識別や選択を制御します。 rissminerはHPゲートウェイサーバーにインストールして実行します。	Windows (32および64ビット)	nrisssminer.exe	Domino\data
ジャーナリングルールのフィルター メッセージのジャーナリングに高度なフィルタリング (HP EAs Dominoのジャーナリング) が使用されているときに、ユーザーのメールサーバーにインストールされます。	Windows (32および64ビット)	nmwadvt.exe	Domino\data
	Linux, Solaris, AIX (32および64ビット)	nmwadvt	/notesdata
ジャーナリングのListeningエージェント。 メッセージのジャーナリングに高度なフィルタリング (HP EAs Dominoのジャーナリング) が使用されているときに、ユーザーのメールサーバーにインストールされます。	Windows (32および64ビット)	nadvsvr.dll	Domino\data
	Linux, Solaris (32および64ビット)	libadvsvr.so	/notesdata
	AIX (32および64ビット)	libadvsvr.a	/notesdata
アクティブではないメールファイルの一括アップロード。 メールファイルの所有権を確認して、メッセージをIAPにアーカイブできるようにします。	Windows (32および64ビット)	nhpblkupd.exe	Domino\data
	Linux, Solaris, AIX (32および64ビット)	hpbkupd	/notesdata
アンインストーラー。 WindowsシステムにあるEAs Dominoソフトウェアの以前のバージョンをアンインストールします (この実行可能ファイルを実行するには、サーバーにJava Runtime Environmentバージョン1.6以降がインストールされている必要があります)。	Windows (32および64ビット)	Uninstaller.exe	Domino\data\ HPRIMUninstaller

2.5 マスターHPゲートウェイサーバーへのHP EAs Dominoソフトウェアのインストール

- ・ ソフトウェアをインストールする前に (69ページ)
- ・ HP EAs Dominoソフトウェアのインストール (69ページ)
- ・ アクセス制御リスト (ACL) の設定 (71ページ)

ソフトウェアをインストールする前に

EAs Dominoソフトウェアをインストールする前に、以下の項目を確認してください。

- ・ インストールメディアの内容が、HPゲートウェイサーバーの一時フォルダーに解凍されていること。
- ・ HPゲートウェイサーバーで、Agent Manager、Router、およびReplicatorの各タスクが実行されていること。
- ・ Lotus Notes以外のアプリケーションがすべて閉じられていること。
- ・ IAPでフォルダーの取得が無効になっていること。HP EAs Dominoではフォルダーの取得をサポートしていません。

IAPキックスタートサーバーの `/install/configs/primary/` にある `Domain.jcml` を開き、ドメインに対する `FolderSupportEnabled` パラメーターがデフォルト値の `false` に設定されていることを確認してください。

注記:

これらの説明はEAs Dominoソフトウェアの新規インストールに対するものです。ソフトウェアをアップグレードする場合は、アップグレードガイドを参照してください。

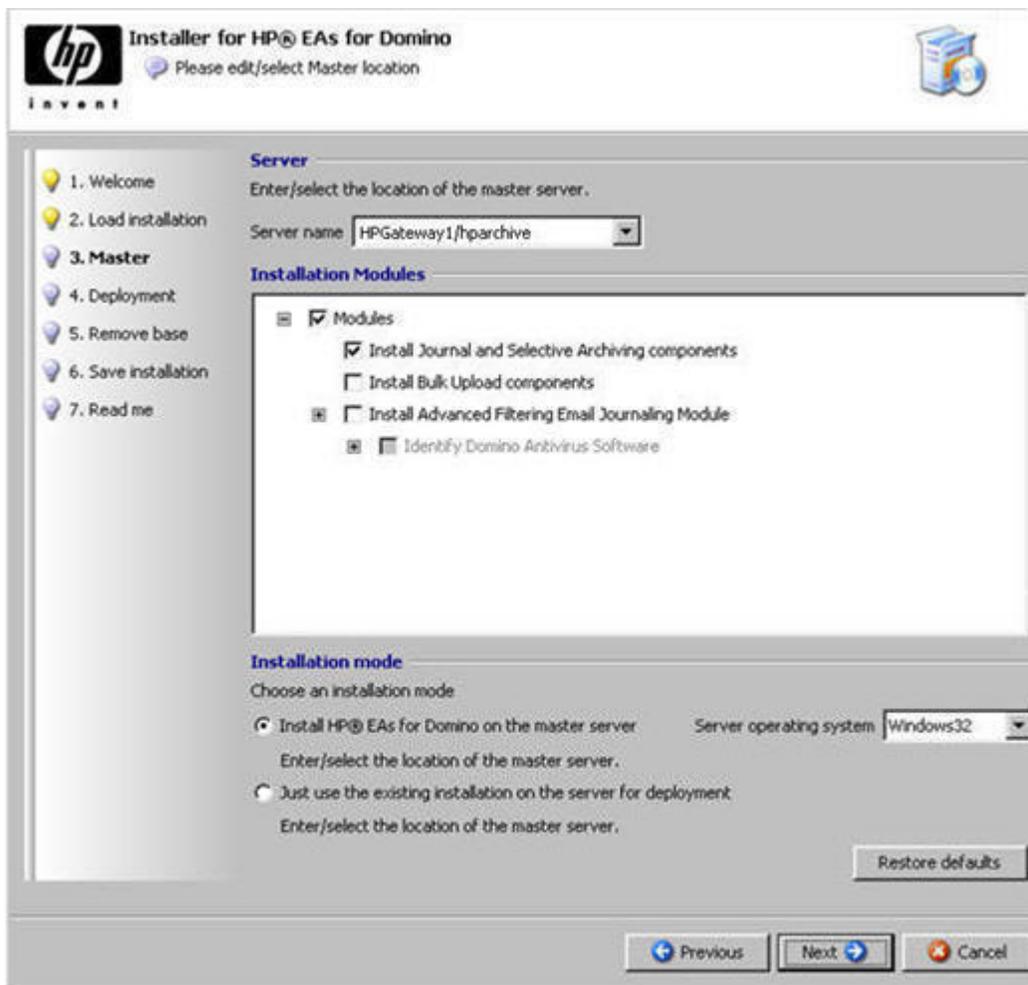
HP EAs Dominoソフトウェアのインストール

この項の説明に従って、HPゲートウェイサーバーにEAs Domino 2.1ソフトウェアをインストールしてください。

HPゲートウェイサーバーが複数台ある場合は、この説明に従ってマスターゲートウェイサーバーとして動作するサーバーにソフトウェアをインストールしてください。設定はインストーラーによって他のゲートウェイサーバーにもインストールされます (「追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開」(91ページ)を参照してください)。

1. HPゲートウェイの管理者IDを使用して、Domino Administratorクライアントを開きます。
 - a. データベースやエージェントの作成に他のIDを使用したい場合は、[File (ファイル)] > [Security (セキュリティ)] > [Switch ID (IDの切り替え)]の順に選択して、そのIDに切り替えます。
 - b. マスターHPゲートウェイサーバーとして使用されているサーバーを開きます。
2. Windowsエクスプローラを開き、EAs Dominoのインストールファイルが解凍されているフォルダーに移動します。serverディレクトリに移動して、Setup.exeをダブルクリックします。

3. [1. Welcome (1. はじめに)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
4. [2. Load installation (2. インストールのロード)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
5. [3. Master (3. マスター)]ウィンドウで、以下の操作を実行します。
 - a. [Server name (サーバー名)]ドロップダウンリストから、ソフトウェアをインストールするHPゲートウェイサーバーを選択します。
 - b. [Modules (モジュール)]チェックボックスを選択して、[Install Journal and Selective Archiving components (ジャーナルおよびSelective Archivingのコンポーネントのインストール)]を選択します。
 一括アップロードを使用する場合は、[Install Bulk Upload Components (一括アップロードのコンポーネントのインストール)]を選択します。
 - c. [Choose an installation mode (インストールモードの選択)]の下から、[Install HP EAs Domino on the master server (HP EAs Dominoをマスターサーバーにインストール)]を選択します。
 サーバーのオペレーティングシステムが正しく表示されていることを確認します。
 - d. [Next (次へ)]をクリックします。



6. パスワードを求めるダイアログボックスが表示されたら、そのIDに対するパスワードを入力します。
7. [4. Deployment (4. 導入)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。

8. [5. Remove Base (5. ベースの削除)]ウィンドウで、サーバーの一時的なインストールベース (hp_riss_install.nsf) を削除するかどうかを選択し、[Next (次へ)]をクリックします。
 - ・ インストールベースを保存する場合は、[No (いいえ)]をクリックします。
[No (いいえ)]を選択するとインストールベースが削除されずに残るため、インストール時に記録されたステータスメッセージを確認できます。
 - ・ インストールベースを保存しない場合は、[Yes (はい)]をクリックします。
9. [6. Save Installation (6. インストールの保存)]ウィンドウで、インストールを保存する場合は[Save this installation (このインストールを保存)]チェックボックスを選択します (たとえば、このインストールを他のHPゲートウェイサーバーに導入する場合など)。インストールを保存する場所を指定します。
インストールの設定はXMLファイルとして保存されます。
10. [7. Readme]ウィンドウで、以下の操作を実行します。
 - ・ ウィンドウの最上部にある[View readme (readmeを表示)]チェックボックスが選択されていることを確認します。
 - ・ インストール情報が正しいことを確認します。
[Install on master server (マスターサーバーにインストール)]が[Yes (はい)]に設定されていることを確認します。
11. [Install (インストール)]をクリックします。
インストールの進捗状況バーが表示されます。
ソフトウェアが正しくインストールされると、Readmeファイルが画面に表示されます。
12. [Finish (完了)]をクリックします。
13. 以下の操作を実行すると、マスターHPゲートウェイサーバーのインストールが完了します。
 - ・ 次の項の説明に従って、EAs DominoデータベースのACLを設定します。
 - ・ HP EAs-D APIデータベース内にあるGlobal Configuration文書とServer Definition文書を修正します。
「[Global Configuration文書の編集](#)」(109ページ)および「[Server Definition文書の設定](#)」(115ページ)を参照してください。
 - ・ HPゲートウェイサーバーにDASの設定を行います。
「[HPゲートウェイサーバーでのDASの準備](#)」(73ページ)を参照してください。

アクセス制御リスト (ACL) の設定

インストールされたEAs Dominoデータベースのアクセス制御の設定を行います。

1. Domino Administratorクライアントで、[Files (ファイル)]タブをクリックし、Dominoデータディレクトリにあるhprimフォルダーを選択します。
2. HP EAs-D APIを右クリックし、[Access Control (アクセス制御)] > [Manage (管理)]の順に選択します。

3. [Add (追加)]をクリックして、以下のユーザーを追加し、以下のようにアクセス権を設定します。
 - ・ LocalDomainAdmins (または代替りのグループ): [Manager (管理者)]
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ EAs Dominoデータベースのインストール時に、データベースとエージェントへの署名を行ったNotes ID。
このNotes IDがLocalDomainAdmins (または代替りのグループ) に含まれる場合は、個別のユーザーとして追加しないでください。
このNotes IDがLocalDomainAdminsに含まれておらず、このグループの中に入れたい場合は、IDを追加して、[Designer (設計者)]のアクセス権を割り当てます。このユーザーは、削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
4. [Default (デフォルト)]を[No access (なし)]に設定します。
5. 組織がデータベースへのアクセス権の設定に使用しているその他の設定を行います。
6. [OK]をクリックし、ウィンドウを閉じます。
7. ACLを他のhprimフォルダー内の他のデータベースにコピーします。
 - a. 最初のデータベースを右クリックし、[Access Control (アクセス制御)] > [Copy (コピー)]の順に選択します。
 - b. フォルダー内にあるHP EAs-D DAS Names以外のデータベースをすべて選択します。
(HP EAs-D DAS Namesへのアクセスは、この後「[DAS Namesに対するACLの設定](#)」(86ページ)で設定します。)
 - c. 右クリックし、[Access Control (アクセス制御)] > [Paste (貼り付け)]の順に選択します。

2.6 HPゲートウェイサーバーでのDASの準備

この章では、マスターHPゲートウェイサーバーの設定、DAS用のゲートウェイサーバーのバックアップ、IAPとのユーザーアカウントの同期の方法について説明します。

これらの処理は、HPのサービス担当者が実施します。

- ・ [概要](#) (73ページ)
- ・ [統合ディレクトリの作成](#) (74ページ)
- ・ [Directory Catalogerの処理のスケジュール設定](#) (78ページ)
- ・ [Directory Assistanceのデータベースの作成と設定](#) (78ページ)
- ・ [ポインターの設定](#) (80ページ)
- ・ [LDAP設定の確認](#) (81ページ)
- ・ [DAS Names Configuration文書の編集](#) (81ページ)
- ・ [HP EAs-D DAS Namesデータベースの設定](#) (86ページ)
- ・ [サーバーの再起動](#) (87ページ)
- ・ [DAS関連のデータベースのビューの再構築](#) (87ページ)
- ・ [DASバックアップサーバーの設定](#) (88ページ)

IAPに必要な操作の手順については、「[ディレクトリの統合](#)」(300ページ)を参照してください。

概要

DASの準備をするには、ユーザーのDomino Directoryのエントリをコピーし、マスターHPゲートウェイ上の1つの統合ディレクトリに集約します。その後で、統合ディレクトリ内の選択したデータをHP EAs-D DAS Namesデータベース(hprim\hp_dasnames.nsf)にコピーします。このデータベースは、IAP上のユーザーアカウントやグループアカウントの作成またはアップデートのためにDASによって使用されます。

DASのプロセスの変更

HP EAs Domino 2.1では、以下の3つの新機能がサポートされています。

- ・ 共有メールボックスに対するIAPレポジトリ。これはDomino Directory内のMail-inデータベースとして表現されます。アクセス制御は、ディレクトリグループからのマッピングで行います。
- ・ 各ユーザーまたは共有メールボックス用のDomino Directoryの属性によって設定するIAPレポジトリの保持期間。
- ・ 古い形式の電子メールアドレスのサポート。この機能によって、古い形式の電子メールアドレスでアーカイブされたメッセージにアクセスできるようになります。

DASプロセスは、これらの機能をサポートするように変更されています。「[ディレクトリの統合](#)」(300ページ)では、IAP側で変更する必要がある設定について説明しています。

EAs Dominoでは、新しいDAS NamesデータベースがDAS用のデータソースとして使用されます。このデータベースのPopulate DAS Namesエージェントは、DAS Names Configuration文書の設定を使用して、選択した情報を統合Domino Directoryからコピーし、カスタム値を加えます。

共有メールボックスのサポート

共有メールボックスは、統合Domino DirectoryにMail-In Database文書として保存され、DAS Namesデータベースを経由してIAPにグループとしてインポートされます。

DASプロセスでは、以下の処理を行います。

- 共有メールボックスのためのグループレポジトリを作成します。
- Mail-In Database文書から、関連するユーザーの電子メールアドレスなどの属性をインポートします。
- 共有メールボックスに対応づけられている電子メールアドレスのそれぞれに対して、単純なルーティングループを作成します。
- Mail-In Database文書内のユーザーに対応するユーザーをIAP内で探し、これらのユーザーに共有メールボックスレポジトリへのアクセス権を付与します。

アクセス制御は、Domino Directoryグループからのマッピングで行います。(グループがLDAPディレクトリなどの別のディレクトリで管理されている場合は、そのディレクトリとDomino Directoryとの間の同期はユーザーが行う必要があります。)

保持属性のサポート

オプションの*iapRepositoryRetention*属性は、ユーザーや共有メールボックスのレポジトリの保持期間の設定に使用できます。

この属性は、Domino Directory Person文書およびMail-In Database文書にあります。(この属性がLDAPディレクトリなどの別のディレクトリに作成されている場合は、そのディレクトリとDomino Directoryとの間の同期はユーザーが行う必要があります。)

ユーザーまたはグループのメールボックスがIAPにインポートされるときには、次の処理が行われます。

- DASによってレポジトリの保持期間が、ユーザーまたはグループに対応する*iapRepositoryRetention*属性の値になるよう設定されます。
- *iapRepositoryRetention*の期間は、*Domain.jcml*に設定されているIAPのドメイン保持期間より短い場合には採用されません。この場合、DASはレポジトリの保持期間をドメインの保持期間と同じになるように設定します。
- *Domain.jcml*に設定されているデフォルトの非規定レポジトリの保持期間は、*iapRepositoryRetention*属性がない場合や、まだ設定されていない場合に使用されます。

古い形式の電子メールアドレスのサポート

新しい形式の電子メールアドレスを持つユーザーが、自身の古い形式の電子メールアドレスでアーカイブされたIAPレポジトリ内のメッセージを正しく検索できるようになりました。このオプションの機能がDAS Names Configuration文書に設定され、DASジョブが実行されていると、古い形式の電子メールアドレスがIAPのユーザーレポジトリにエイリアス/プロキシとして追加されます。

IAP側には変更は必要ありません。ただし、この機能が実装されている場合、DASのジョブは実行に時間が長くなります。

この機能が導入される以前に収集され、最終的にIAPのCatchallレポジトリに入れられたメッセージは、IAPの再処理機能を使用して再度ルーティングすることができます。

統合ディレクトリの作成

EAs Dominoでは、統合Domino Directoryを使用して、Person文書、Mail-In文書、およびGroup文書を、アーカイブ処理で使用されていたユーザーのDomino Directoryから収集します。ユーザーのDomino Directoryは何の影響も受けません。

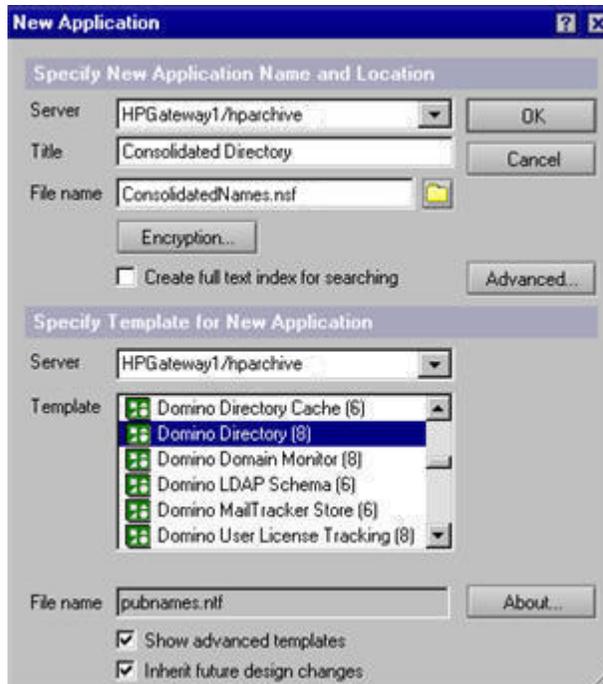
以下の手順で、マスターHPゲートウェイサーバーに統合ディレクトリを作成する方法について説明します。

(EAs Dominoの以前のバージョンからアップグレードしたユーザーの場合は、Domino DirectoryはDircatタスクを実行したときに統合ディレクトリに直接コピーされます。ユーザーのDomino Directoryのレプリカは、HPゲートウェイには作成されなくなります。)

 **注記:**

DAS/バックアップに使用するマスターHPゲートウェイサーバーおよびゲートウェイサーバーは、ユーザーのメールアドレスにある対象の各Domino Directoryに対してReader (読者) のアクセス権を持っている必要があります。

1. Administratorクライアントで、[File (ファイル)] > [Application (アプリケーション)] > [New (作成)]の順に選択します。
[New Application (新規アプリケーション)]ウィンドウが表示されます。
2. [Specify New Application Name and Location (新規アプリケーション名と場所の指定)]領域で、以下の操作を行います。
 - a. [Server (サーバー)]ボックスに、マスターHPゲートウェイサーバーを指定します。
 - b. [Title (タイトル)]ボックスに、Consolidated Directoryと入力します。
 - c. [Filename (ファイル名)]ボックスに、データベースConsolidatedNames.nsfを指定し、これをHPゲートウェイサーバーのDominoデータディレクトリに置きます。
3. [Template for New Application (新規アプリケーションのテンプレート)]領域で、以下の操作を行います。
 - a. [Server (サーバー)]ボックスで、HPゲートウェイサーバーを選択します。
 - b. [Show advanced templates (詳細テンプレートの表示)]チェックボックスを選択します。
 - c. [Domino Directory]を選択します。



4. [OK]をクリックし、ウィンドウを閉じます。

5. 表示される[Directory Profile (ディレクトリのプロファイル)]フォームで、[Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
6. [File (ファイル)] > [Application (アプリケーション)] > [Access Control (アクセス制御)]の順に選択して、以下のことを確認します。
 - ・ HPゲートウェイサーバーと、DASバックアップに使用するゲートウェイに、すべてのロールに対するManager (管理者) のアクセス権があること。
 - ・ エージェントの署名者 (サーバーIDでない場合) にReader (読者) のアクセス権があること。
7. 設定文書を作成します。
 - a. [Configuration (設定)]の下で、[Directory (ディレクトリ)]を展開し、[Extended Directory Catalog (拡張ディレクトリカタログ)]を選択します。
 - b. [Add Extended Directory Catalog (拡張ディレクトリカタログの追加)]をクリックします。

8. 拡張ディレクトリカタログの設定を行います。

- [Directories to include (取り込むディレクトリ)]: アーカイブプロセスで使用するユーザーの各 Domino Directoryを、CustomerServerName/CustomerOrg!!names.nsfの形式で入力します。

これらのディレクトリはDircatを実行したときに統合ディレクトリに直接コピーされます。

Group、Person、またはMail-Inデータベースエントリーだけを含むすべてのDomino Directoryを含めるようにしてください。
- [Additional fields to include (追加で取り込むフィールド名)]: リストの末尾に、MailServer、MailFile、HttpPassword、ShowPasswordを追加します。

古い形式の電子メールアドレスのサポートが必要で、このサポートの設定のために別のフィールドを使用する場合は、そのフィールドをリストに追加します。この設定(「エイリアスをスキャンするための別のフィールド」)は、[DAS Names Configuration文書](#)の[Directory Entry Settings (ディレクトリエントリーの設定)]タブで設定されます。
- [Remove duplicate users (重複するユーザーを取り除く)]: デフォルトの [Yes (はい)] のままにしておきます。
- [Group types (グループタイプ)]: デフォルトの [Mail and Multi-purpose (メールと多目的)] のままにしておきます。
- [Include Mail-In Databases (メール受信データベースを含む)]: デフォルトの [Yes (はい)] のままにしておきます。
- [Include Servers (サーバー名を含む)]: [No (いいえ)]。
- [Restrict aggregation to server (集約を制限するサーバー)]: マスターHPゲートウェイサーバーの名前を入力します。

Extended Directory Catalog	
Basics Advanced Administration	
Basics	
Directories to include:	ServerName/Org2!!names.nsf ServerName/Org5!!names.nsf
Additional fields to include:	FirstName MiddleInitial LastName Location MailAddress Shortname MailDomain InternetAddress MessageStorage Members AltFullName AltFullNameLanguage GroupType HttpPassword ShowPassword MailFile MailServer
Note: No fields means ALL	
Remove duplicate users:	Yes
Group types:	Mail and Multi-purpose
Include Mail-In Databases:	Yes
Include Servers:	No
Restrict aggregation to server:	HPGateway1/hparchive

9. 設定文書を保存して閉じ、その後で統合Domino Directoryを閉じます。
10. 複数台のHPゲートウェイサーバーがある場合は、統合ディレクトリを他のゲートウェイサーバーに複製します。

Directory Catalogerの処理のスケジュール設定

Directory Cataloger (Dircat) を実行する日付と時刻をスケジュールします。この処理では最初に拡張ディレクトリカタログに掲載されているユーザーのDomino Directoryからデータをコピーして、統合ディレクトリを作成します。その後、Dircatを実行して、統合ディレクトリとソースディレクトリの内容を同期します。

1. Administratorクライアントから、[Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[All Server Documents (すべてのサーバー文書)]をクリックします。
2. マスターHPゲートウェイサーバーのサーバー文書を選択して、[Edit Server (サーバーの編集)]をクリックします。
3. [Server Tasks (サーバータスク)]タブをクリックして、[Directory Cataloger (ディレクトリカタログ)]タブをクリックします。
4. 以下の設定を行います。
 - ・ [Directory catalog filenames (ディレクトリカタログファイル名)]: 作成した統合Domino Directoryのファイル名 (ConsolidatedNames.nsf) を追加します。
 - ・ [Schedule (スケジュール)]: [Enabled (有効)]を選択します。
 - ・ [Run Directory Cataloger task at (Directory Catalogerタスクの実行時刻)]: [00:00 - 23:59]を入力します。
 - ・ [Repeat interval of (繰り返し間隔)]: 30分を入力します。
 - ・ [Days of week (実行日)]: すべての曜日を選択します。
5. サーバー文書を保存します。
6. DASバックアップに使用するゲートウェイサーバーに対して、手順2~5を実行します。ただし手順4では、[Schedule (スケジュール)]を[Disabled (無効)]に設定してください。

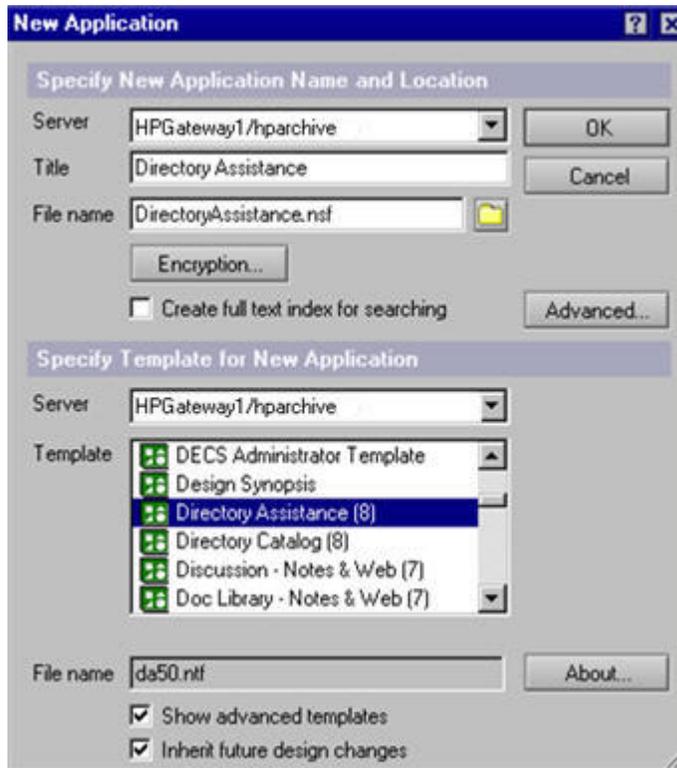
Directory Assistanceのデータベースの作成と設定

HPゲートウェイサーバーでは、統合ディレクトリ内のエンタリーの検索にDirectory Assistanceを使用します。

ここでは、Directory Assistanceのデータベースと文書の作成方法について説明します。

1. Administratorクライアントで、[File (ファイル)] > [Application (アプリケーション)] > [New (作成)]の順に選択します。
[New Application (新規アプリケーション)]ウィンドウが表示されます。
2. [Specify New Application Name and Location (新規アプリケーション名と場所の指定)]領域で、以下の操作を行います。
 - a. [Server (サーバー)]ボックスに、マスターHPゲートウェイサーバーを指定します。
 - b. [Title (タイトル)]ボックスに、Directory Assistanceと入力します。
 - c. [Filename (ファイル名)]ボックスに、データベースDirectoryAssistance.nsfを指定し、これをHPゲートウェイサーバーのDominoデータディレクトリに置きます。

3. ウィンドウの[Template for New Application (新規アプリケーションのテンプレート)]領域で、以下の操作を行います。
 - a. [Server (サーバー)]ボックスで、HPゲートウェイサーバーを選択します。
 - b. [Show advanced templates (詳細テンプレートの表示)]チェックボックスを選択します。
 - c. [Directory Assistance (ディレクトリアシスタンス)]を選択します。



4. [OK]をクリックし、ウィンドウを閉じます。
5. [File (ファイル)] > [Application (アプリケーション)] > [Access Control (アクセス制御)]をクリックして、マスターHPゲートウェイサーバー、DASバックアップに使用するゲートウェイサーバー、HP管理者IDに、すべてのロールに対するManager (管理者) のアクセス権を設定します。
6. [Directory Assistance database (Directory Assistanceデータベース)]で、[Add Directory Assistance (作成)]をクリックします。

7. [Basics (基本情報)]タブに以下の情報を設定します。
 - ・ [Domain type (ドメインタイプ)]: Notes
 - ・ [Domain name (ドメイン名)]: 実在しないドメイン名を入力します (この名前は、単にDominoが内部的な制御に使用します)。
 - ・ [Company name (会社名)]: 既存の会社名ではない名前を入力します。
 - ・ [Search Order (検索順)]: 1
 - ・ [Make this domain available to (このドメインを利用可能にする対象)]: 以下の両方のオプションを選択します。
 - ・ [Notes Clients Internet Authentication/Authorization (Notesクライアントとインターネットの認証/承認)]
 - ・ [LDAP Clients (LDAPクライアント)]
 - ・ [Group Authorization (グループの認可)]: [Yes (はい)].
 - ・ [Use exclusively for Group Authorization or Credential Authentication (グループの認可または資格情報の認証専用を使用する)]: [No (いいえ)]
 - ・ [Enabled (有効)]: [Yes (はい)]
8. [Naming Context (Rules) (名前付けのコンテキスト (ルール))]タブをクリックし、[N.C. 1]の列で以下の項目を設定します。
 - ・ [OrgUnit and Organization (組織単位/組織)]: *
 - ・ [Enabled (有効)]: [Yes (はい)]
 - ・ [Trusted for Credentials (証明書を信用)]: [Yes (あり)]
9. [Replicas (レプリカ)]タブをクリックします。
 - a. [Replica 1 (レプリカ1)]の行で、以下の項目を設定します。
 - ・ [Server Name (サーバー名)]: マスターHPゲートウェイサーバーの名前を入力します。
 - ・ [Domino Directory Filename (Dominoディレクトリファイル名)]: HP EAs-D DAS Namesデータベースの名前を追加します (hprim\hp_dasnames.nsf)。
 - ・ [Enabled (有効)]: [Yes (はい)]
 - b. [Replica 2 (レプリカ2)]の行で、手順aで使用した内容を設定し、[Server Name (サーバー名)]には1台目のDASバックアップサーバーを指定します。
 - c. [Replica 3 (レプリカ3)]～[Replica 5 (レプリカ5)]の行で、追加のDASバックアップサーバーに対して手順bを繰り返します。
10. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
11. Directory AssistanceデータベースをDASバックアップサーバーに複製します。

ポインターの設定

Directory Assistanceデータベースに対するポインターを設定します。

1. Domino Administratorクライアントで、[Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[All Server Documents (すべてのサーバー文書)]をクリックします。
2. マスターHPゲートウェイサーバーのサーバー文書を選択して、[Edit Server (サーバーの編集)]をクリックします。
3. [Basics (基本情報)]タブで、[Directory Information (ディレクトリ情報)]にある[Directory assistance database name (ディレクトリアシスタンスデータベース名)]フィールドに対して、Directory Assistanceデータベースのファイル名 (DirectoryAssistance.nsf) を入力します。
4. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

5. DASバックアップに使用する各HPゲートウェイサーバーで、手順2~4を繰り返します。

LDAP設定の確認

HP Gatewayディレクトリにあるサーバー設定文書内のLDAPの設定を確認します。

1. Domino Administratorクライアントで、[Configuration (設定)]タブをクリックします。
2. [Directory (ディレクトリ)]を展開し、[LDAP]を展開し、[Settings (設定)]をクリックします。
サーバー設定文書を作成することを確認するメッセージが表示されたら、[Yes (はい)]をクリックし、[Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。[F9]を押して更新します。
3. [Edit LDAP Settings (LDAP設定の編集)]をクリックします。
4. [Automatically Full Text Index (自動的に全文検索を作成しますか?)]までスクロールして、これがまだ選択されていない場合は[Yes (あり)]をクリックします。
5. [DN Required on bind (バインドのDN要求?)]までスクロールして、[Yes (はい)]をクリックします。
6. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

DAS Names Configuration文書の編集

DAS Names Configuration文書を修正して、DAS Namesデータベースの入力に使用する情報を指定します。

1. Domino Administratorクライアントで、[Files (ファイル)]タブをクリックし、hprimフォルダーを開きます。
2. HP EAs-D APIデータベースを開きます。
3. メインビューの[DAS Names Configuration]下にある文書を開きます。
4. 各タブを以下のように設定します。
 - ・ 「Directory Information (ディレクトリ情報)」(81ページ)
 - ・ 「Directory Fields (ディレクトリフィールド)」(83ページ)
 - ・ 「Directory Entry Settings (ディレクトリエントリーの設定)」(83ページ)
 - ・ 「Group Cache settings (グループキャッシュの設定)」(85ページ)
 - ・ 「Logging (ログ機能)」(86ページ)
5. [File (ファイル)] > [Save (保存)]の順に選択し、DAS Names Configuration文書を保存します。

Directory Information (ディレクトリ情報)

このタブの設定によって、DAS Namesデータベースにコピーされる統合ディレクトリのエントリーの種類を定義します。

DAS Names Configuration

Directory Information	Directory Fields	Directory Entry Settings	Group Cache Settings	Logging
[Directory Information]				
Consolidated Directory file name:	ConsolidatedNames.nsf			
Directory entries types to copy:	<input type="radio"/> Person	<input checked="" type="radio"/> Person & Mail-In Dbs		
	<input type="radio"/> Mail-In Database	<input type="radio"/> Other		
Require valid Internet address:	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No			
Require Internet password:	<input type="radio"/> Yes <input checked="" type="radio"/> No			

フィールド	説明
[Consolidated Directory file name (統合ディレクトリのファイル名)]	Domino Directoryは1つの統合ディレクトリ (ConsolidatedNames.nsf) にまとめられます (このディレクトリは「 統合ディレクトリの作成 」(74ページ) で作成されたものです)。
[Directory entries types to copy (コピーするディレクトリエントリーの種類)]	<p>DAS Namesデータベースにコピーされる統合ディレクトリのエントリーの種類を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Person (ユーザー)]: IAP内の個人のユーザーアカウントの作成/更新のみを行うかどうかを選択します。 • [Mail-In Database (メール受信データベース)]: IAP内のグループアカウント (共有メールボックス用) の作成/更新のみを行うかどうかを選択します。 • [Person & Mail-In Dbs (ユーザーおよびメール受信データベース)]: IAP内のユーザーとグループの両方のアカウントを作成および更新するかどうかを選択します。 • [Other (その他)]: コピーするエントリーを定義するNotesの式を作成するかどうかを選択します。式はNotes@functionの形式で入力します。Type="ユーザー"、およびType="データベース"を、必要に応じて他の条件と一緒に指定します。
[Require valid Internet address (有効なインターネットアドレスが必要)]	デフォルトの[Yes (はい)]のままにしておきます (IAPにユーザーまたはグループのアカウントを作成するときにDASで必要になります)。
[Require Internet password (インターネットのパスワードが必要)]	[Yes (はい)]を選択すると、Domino Directoryでインターネットのパスワードが設定されているユーザーしかIAPにログインできなくなります。

Directory Fields (ディレクトリフィールド)

このタブでは、統合ディレクトリの拡張ディレクトリカタログからDAS Namesデータベースにコピーされるフィールドが一覧されます。これらのフィールドは、IAPのアカウントの作成や更新に使用されるため、変更できません。

Directory Information	Directory Fields	Directory Entry Settings	Group Cache Settings	Logging
[Directory Fields]				
Standard Directory fields to copy:		Form; Type; FullName; MailDomain; MailServer; MailFile; InternetAddress; iapRepositoryRetention		
Additional Directory fields to copy:				
Type	Fields			
Person	FirstName, MiddleInitial, LastName, MailAddress, Shortname, HttpPassword			
Database	Description			

フィールド	説明
[Directory entries types to copy (コピーする標準ディレクトリフィールド)]	常にDAS Namesにコピーされ、IAPアカウントにインポートされるディレクトリカタログ内のフィールド。
[Person (ユーザー)]	DAS NamesとIAPのユーザーアカウントにインポートされるPerson文書内の追加のフィールド。
[Database (データベース)]	DAS NamesとIAPのグループアカウントにインポートされるMail-In Database文書内の追加のフィールド。

注記:

HPのサポート担当者から特別な指示のない限り、これらのフィールドは変更しないでください。

Directory Entry Settings (ディレクトリエントリーの設定)

このタブでは、以下の3つの事項を設定します。

- ・ IAPグループレポジトリのアクセスリストを作成するためのルールを定義します。アクセスは[Member (メンバー)]フィールドで決定します。このフィールドはDAS NamesにインポートされるときにMail-In Database文書に追加されます。[Member (メンバー)]フィールドには、グループのレポジトリへのアクセス権を持つユーザーの電子メールのリストが含まれます。
- ・ IAPグループレポジトリへのアクセス制御を定義します。
- ・ 古い形式の電子メールアドレスをスキャンするPerson文書フィールドを定義します。古い形式のアドレスは、dominoProxyAddresses属性に追加され、これはDASに送られます。そのため、新旧両方の電子メールアドレスがユーザーのIAPレポジトリにリストされます。

グループのレポジトリや古い形式の電子メールアカウントのサポートが不要の場合は、このタブを設定しないでください。

[Directory Entry Settings]

Org Unit and Org appended to Mail-In Database names: **/OU=Org2/O=Acme Corp** (Example: /OU=Mailbox/O=Acme Corp)

Manage repository access control for: **@If(Type="Database"; "Yes"; "No")**

Enter a Notes @Function. The formula is applied to each Directory entry and must evaluate to "Yes" or "No" to determine whether access control is computed for that entry.

Match entries to access names/groups using: Fullname with prefix/suffix Notes @Formula None

Access Group prefix: **Group Mailbox**
Access Group suffix: **Commercial Division**

Override access settings using field: Yes No

Scan FullName field for valid SMTP Aliases: Yes No [Copy RFC-compliant addresses from FullName to dominoProxyAddresses](#)

Additional field to scan for aliases: [Copy RFC-compliant addresses from this field to dominoProxyAddresses](#)

フィールド	説明
[Org Unit and Org appended to Mail-In Database names (Mail-In Database名に付加される組織単位または組織)]	Mail-In Database名に組織や組織単位を付加しない場合は、このフィールドは空白のままにします。
[Manage repository access control for (レポジトリのアクセス制御を管理)]	Mail-In Database文書に対して、YesまたはNoが解答になる有効なNotesの@functionの式を入力します。この式は、そのエントリーに対してアクセス制御が計算されるかどうかを判断するために各データベースエントリーに適用されます。

グループのレポジトリのメンバーを決定します。

フィールド	説明
<p>[Match entries to access names/groups using (アクセスする名前/グループを照合する方法)]</p>	<p>グループのレポジトリにアクセスできるユーザーを判別する方法を指定します。これらのユーザーは[Member (メンバー)]フィールドに追加されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Fullname with prefix/suffix (フルネームと接頭辞/接尾辞)] このオプションでは、選択された各文書のフルネームを使用し、これに接頭辞または接尾辞 (あるいはその両方) を組み合わせ、一致するグループ名や対応する電子メールアドレスを判別します。 グループ名は次のような標準の形式に従う必要があります。 Group Mailbox <一意のID><部門または事業部など> 例: Group Mailbox 123 Commercial Division この例では、「Group Mailbox」が接頭辞、「123」が一意のID、そして「Commercial Division」が接尾辞になります。 • [Notes @Formula] このオプションを使用する場合は、共有メールボックスに対応づけるユーザーの電子メールアドレスやグループ名のリストを計算するNotesの式を入力します。この式はMail-In Database文書のコンテキストで実行され、すべての文書のフィールド情報にアクセスできます。結果のリストの作成には、loop-upsなど、すべてのNotesの式機能を使用できます。 • [None (なし)] このオプションは、Mail-In Database文書の特定のフィールドをメンバーの値の決定に使用する場合に選択します。その後、以下の[Override access settings using field (フィールドを使用してアクセス設定をオーバーライド)]を設定します。
<p>[Override access settings using field (フィールドを使用してアクセス設定をオーバーライド)]</p>	<p>アクセスリストの名前とグループを特定のフィールドに保存している場合は、[Yes (はい)]を選択して、そのフィールド名を入力します (上記の[Match entries to access names/groups using (アクセスする名前/グループを照合する方法)]のオプションが、[None (なし)]になっているようにします)。 このフィールドには、複数の値を持つグループのリスト、または電子メールアドレスのリストが必要です。グループは、そのメンバーのインターネット電子メールアドレスがわかるように展開されます。</p>
<p>古い形式の電子メールアドレスのサポートが必要な場合は、以下のいずれかを設定してください。</p>	
<p>[Scan FullName field for valid SMTP Aliases (有効なSMTPエイリアスを調べるためにFullNameフィールドをスキャン)]</p>	<p>[Yes (はい)]に設定すると、Person文書の[User Name (ユーザー名)]フィールドにあるすべてのインターネット形式のアドレスが、IAPのユーザーアカウントと同期されます。アドレスは有効なRFC-821のアドレス構文に従っている必要があります。</p>
<p>[Additional field to scan for aliases (エイリアスをスキャンする追加のフィールド)]</p>	<p>古い形式の電子メールアドレスが、Person文書の別の専用のフィールドにもある場合は、そのフィールドの名前を入力します。 アドレスは有効なRFC-821のアドレス構文に従っている必要があります。 注記: このオプションを使用する場合は、[Additional fields to include (追加で取り込むフィールド名)]で、このフィールドを統合ディレクトリの拡張ディレクトリカタログに追加します。(統合ディレクトリの作成の手順8を参照してください。)</p>

Group Cache settings (グループキャッシュの設定)

[Member (メンバー)]フィールドの電子メールアドレスを計算する際にパフォーマンスをよくするには、デフォルトの[Yes (はい)]のままにしておきます。

Logging (ログ機能)

EAs Dominoのログファイルには、DAS NamesデータベースのPopulate DAS Namesエージェントの動作が記録されます。

フィールド	説明
[Agent log database (エージェントログデータベース)]	EAs DominoログファイルのDominoデータディレクトリ内での場所: hprim/hp_risslog.nsf
[Log stream name (ログストリーム名)]	Populate DAS Names
[Log level (ログのレベル)]	トラブルシューティングのために、[General (全般)]または[Verbose (詳細)]に設定する必要がある場合以外は、デフォルトの[None (なし)]のままにしておきます。この設定は、HPのサポート担当者から指示があった場合にのみ変更してください。

HP EAs-D DAS Namesデータベースの設定

以下の手順に従って、DAS Namesデータベースを設定します。

DAS Namesに対するACLの設定

データベースにアクセス権を設定します。

- Domino Administratorクライアントで、[Files (ファイル)]タブをクリックし、Dominoデータディレクトリにあるhprimフォルダーを選択します。
- HP EAs-D DAS Namesを右クリックし、[Access Control (アクセス制御)] > [Manage (管理)]の順に選択します。
- [Add (追加)]をクリックして、以下のユーザーを追加し、以下のようにアクセス権を設定します。
 - LocalDomainAdmins (または代わりにグループ): Manager (管理者)
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - EAs Dominoデータベースのインストール時に、データベースとエージェントへの署名を行ったNotes ID。
- [Default (デフォルト)]をReader (読者)に設定します。
- 組織がデータベースへのアクセス権の設定に使用しているその他の設定を行います。
- [OK]をクリックし、ウィンドウを閉じます。

Populate DAS Namesエージェントの有効化

HP EAs-D DAS NamesデータベースのPopulate DAS Namesエージェントでは、データベースへの入力にDAS Names Configuration文書の設定を使用します。

以下の説明に従って、エージェントのスケジュールを設定し、有効にします。

- Domino Designerクライアントで、HP EAs-D DAS Names (hprim\hp_dasnames.nsf) を開きます。
- [Code (コード)]を展開し、[Agents (エージェント)]を展開します。

3. [Populate DAS Names]エージェントを開きます。
4. 必要に応じてエージェントのスケジュールを変更します。
デフォルトでは、エージェントが2時間おきに実行されます。
その他のデフォルト設定には変更を加えないでください。
5. [Enable (有効)]をクリックします。表示されたダイアログボックスで、エージェントを実行するサーバーとしてマスターHPゲートウェイサーバーを選択し、[OK]をクリックします。

 **注記:**

DAS NamesでDirectory Catalog Status Reportエージェントは有効にしないでください。

エージェントの手動での実行

Populate DAS Namesエージェントは、HPゲートウェイサーバーのコンソールから手動で実行できます (HPゲートウェイサーバーの初期設定が完了し、サーバーが再起動するまでは実行しないでください。また、このエージェントを始めて実行する前に、統合ディレクトリのビューを再構築する必要があります)。

① **重要:**

このエージェントの実行がAgent Managerでスケジュールされている場合は、手動では実行しないでください。DAS Namesに重複したエントリーが作成されます。

1. マスターゲートウェイでエージェントのスケジュールを一時停止します。

```
tell amgr pause
```
2. 実行中のタスクをチェックして、Agent Managerが一時停止していることを確認します。

```
show tasks
```
3. Populate DAS Namesエージェントを実行します。

```
tell amgr run "hprim\hp_dasnames.nsf" 'Populate DAS Names'
```

サーバーの再起動

HPゲートウェイサーバーにDASの設定を行った後、サーバーを再起動します。

ゲートウェイサーバーの初期セットアップが完了し、mail.boxファイルが存在している場合は、サーバーの再起動時にそのファイルを削除してください。

DAS関連のデータベースのビューの再構築

Dircatの最初の実行が完了した後、Populate DAS Namesエージェントを始めて実行する前に、[CTRL]+[SHIFT]+[F9]キーを押して、統合ディレクトリのビュー (ConsolidatedNames.nsf) を再構築します。

また、IAPでDASジョブを初めて実行する前に、[CTRL]+[SHIFT]+[F9]キーを押して、DAS Namesデータベースのビュー (hp_dasnames.nsf) を再構築してください。この処理によって、IAPのユーザーアカウントが正しく作成または更新されます。

DASバックアップサーバーの設定

HPゲートウェイサーバーが複数台導入されている場合は、1台以上のゲートウェイをDASプロセスのバックアップとして設定する必要があります。

以下の手順に従って、各DASバックアップサーバーを設定します。

1. ファイアウォールのポート389と636がLDAPサービス用にオープンされており、バックアップサーバーでLDAPタスクが実行されていることを確認します。
2. HP EAs-D DAS Namesデータベースをサーバーにインストールします。
このデータベースは、EAs Dominoソフトウェアのインストール時に、バックアップサーバーに導入されます（「追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開」(91ページ)を参照）。DAS Namesは、ソフトウェアのインストール時には導入されません。マスターからバックアップサーバーに手動で複製する必要があります。
3. 統合ディレクトリとDirectory Assistanceデータベースを、マスターゲートウェイサーバーからバックアップサーバーに複製します。
4. バックアップサーバーでDirectory Assistanceデータベースに対するポインターが設定されていることを確認します。
「[ポインターの設定](#)」(80ページ)を参照してください。
5. バックアップゲートウェイサーバーのLDAP設定を確認します。
「[LDAP設定の確認](#)」(81ページ)を参照してください。

以下の説明に従って、マスターHPゲートウェイサーバーからバックアップサーバーにDASプロセスを切り替えます。

1. マスターHPゲートウェイで、Dircatの処理を停止して、Populate DAS Namesエージェントを無効にします。
2. Domino Administratorクライアントで以下の操作を実行します。
 - a. マスターHPゲートウェイサーバーのサーバー文書を開きます。
 - b. [Server Tasks (サーバータスク)]タブと[Directory Cataloger (ディレクトリカタログ)]タブをクリックし、スケジュールを無効にします。
 - c. バックアップサーバーのサーバー文書を開きます。
 - d. [Server Tasks (サーバータスク)]タブと[Directory Cataloger (ディレクトリカタログ)]タブをクリックし、スケジュールを有効にします。
 - e. 統合ディレクトリを開きます。[Restrict aggregation to server (集約を制限するサーバー)]フィールドで、DASバックアップサーバーに対する名前を変更します。
3. Domino Designerクライアントで以下の操作を実行します。
 - a. EAs-D DAS Namesデータベースを開きます。
 - b. Populate DAS Namesエージェントを開き、エージェントを実行するサーバーとしてDASバックアップサーバーを選択します。
 - c. エージェントを有効にします。

4. IAPのPGC Web Administrationで以下の操作を実行します。
 - a. [Account Synchronization (アカウントの同期)]ページに移動します。
 - b. LDAP接続をクリックして、編集のために開きます。
 - c. [Host Name (ホスト名)]の値をバックアップゲートウェイサーバーのIPアドレスに変更して、変更を保存します。

2.7 追加のHPゲートウェイサーバーの設定

複数台のHPゲートウェイサーバーを導入している場合は、この章の説明に従って、各サーバーをEAs Domino用に設定してください。

- ・ [設定手順](#) (91ページ)
- ・ [追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開](#) (91ページ)

設定手順

追加の各HPゲートウェイサーバーに対して、次の手順に従って設定します。

1. マスターゲートウェイサーバーに、追加の各サーバーに対するサーバー接続文書が作成されていることを確認します。
「[サーバー接続文書の作成](#)」(53ページ)を参照してください。
2. 追加の各ゲートウェイサーバーで、Dominoサーバーの設定を行います。
 - ・ 「[HPゲートウェイサーバーのセキュリティの設定](#)」(56ページ)
 - ・ 「[Agent Managerのパラメーター値の編集](#)」(57ページ)
 - ・ 「[ユーザーのメールサーバーに対する接続文書の作成](#)」(57ページ)
 - ・ 「[外部のSMTPドメイン文書の作成と設定](#)」(58ページ)
 - ・ 「[SMTP接続文書の作成と設定](#)」(58ページ)
 - ・ 「[HPゲートウェイサーバーの設定文書の作成](#)」(59ページ)
3. サーバーでDominoログファイルのサイズを制限します。
「[ログファイルサイズの制限](#)」(60ページ)を参照してください。
4. notes.iniで、JavaMaxHeapSizeを設定します。
「[JavaMaxHeapSizeの変更](#)」(60ページ)を参照してください。
5. マスターゲートウェイサーバーから統合ディレクトリが複製されていることを確認します。
6. EAs Dominoソフトウェアをインストールします。
「[追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開](#)」(91ページ)を参照してください。
7. 追加のHPゲートウェイサーバーがサーバー定義文書の対象に入っていることを確認します。
「[Server Definition文書の設定](#)」(115ページ)を参照してください。

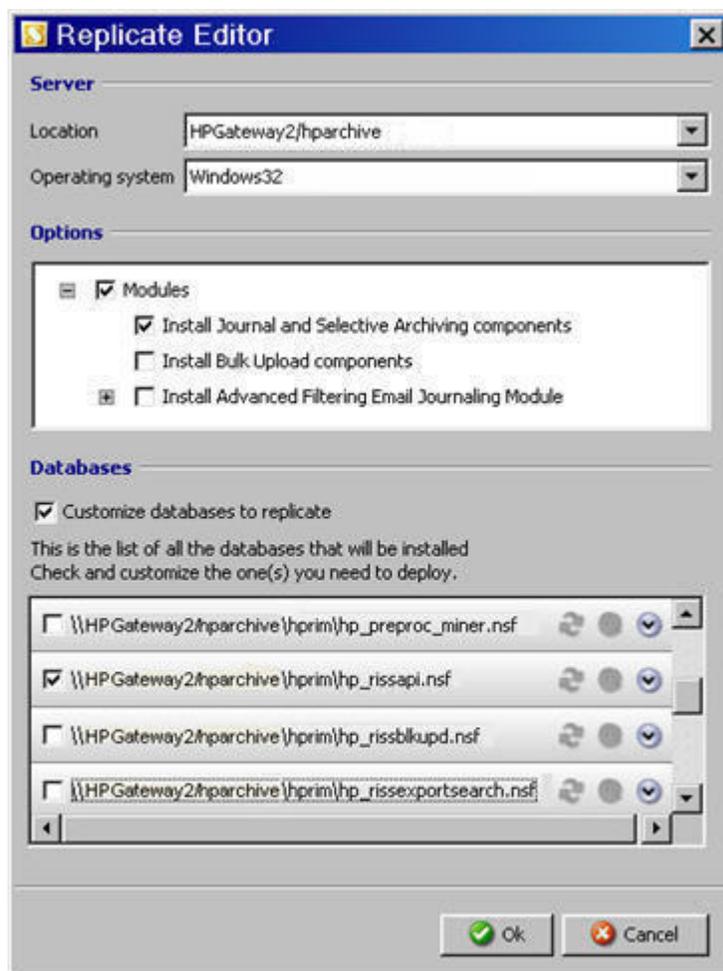
追加のHPゲートウェイサーバーへのアーカイブインストールの展開

複数台のHPゲートウェイサーバーがある場合には、以下の手順に従って、マスターHPゲートウェイサーバーから他のゲートウェイサーバーにアーカイブインストールを導入します。

ソフトウェアをインストールする前に、以下の項目を確認してください。

- ・ HPゲートウェイサーバーで、Agent Manager、Router、およびReplicatorの各タスクが実行されていること。
- ・ Lotus Notes以外のアプリケーションがすべて閉じられていること。
- 1. Domino Administratorクライアントで、マスターHPゲートウェイサーバーでのEAs Dominoファイルのインストールに使用したIDに切り替えます。
- 2. Windowsエクスプローラを開き、EAs Dominoのインストールファイルが解凍されているフォルダーに移動します。serverディレクトリに移動して、Setup.exeをダブルクリックします。
- 3. [1. Welcome (1. はじめに)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
- 4. [2. Load installation (2. インストールのロード)]ウィンドウで、[Load an existing installation (既存のインストールをロード)]を選択して、インストールデータベースの場所を指定します。
[3. Master (3. マスター)]ウィンドウが表示されます。
- 5. [3. Master (3. マスター)]ウィンドウで、以下の操作を実行します。
 - a. ウィンドウの最上部にあるドロップダウンリストから、マスターHPゲートウェイサーバーを選択します。
 - b. [Installation mode (インストールモード)]の下から、[Just use the existing installation on the server for deployment (サーバー上の既存のインストールを導入に使用)]を選択します。
 - c. [Next (次へ)]をクリックして、[4. Deployment (4. 導入)]ウィンドウを開きます。
- 6. [4. Deployment (4. 導入)]で、[Deploy HP EAs for Domino on other servers (他のサーバーにHP EAs for Dominoを導入)]チェックボックスを選択します。

7. [Add (追加)]をクリックします。
Replicate Editorが表示されます。



8. Replicate Editorで、次の操作を実行します。
 - a. インストールを導入する1台目のHPゲートウェイサーバーの場所を選択します。
 - b. ゲートウェイサーバーのオペレーティングシステムを確認します。
 - c. [Modules (モジュール)]チェックボックスを選択して、[Install Journal and Selective Archiving components (ジャーナルおよびSelective Archivingのコンポーネントのインストール)]を選択します。
 HPゲートウェイサーバーから一括アップロードデータベースをアーカイブする場合は、[Install Bulk Upload Components (一括アップロードのコンポーネントのインストール)]を選択します。
 - d. [Customize databases to replicate (複製するデータベースをカスタマイズ)]チェックボックスを選択して、以下のデータベースを複製の対象として選択します。
 - ・ HP EAs-D API (hp_rissapi.nsf)
 - ・ HP EAs-D Users (hp_rissuser.nsf)
 EAs Dominoデータベースのこのサブセットは、追加のHPゲートウェイすべてに複製する必要があります。
 さらに、HP EAs-D DAS Names (hp_dasnames.nsf) をDASプロセスのバックアップとして指定されたゲートウェイサーバーに複製してください。
 - e. [OK]をクリックしてから[Next (次へ)]をクリックします。
9. 他のHPゲートウェイサーバーを追加するには、[Add (追加)]をクリックして、手順9を繰り返します。
10. 導入の設定を行った後、導入場所と、複製するデータベースの数を確認します。
 調整が必要な場合は、上下の矢印を使用して対象のサーバーを選択し、[Edit (編集)]または[Remove (削除)]をクリックします。



11. サーバーの追加が終了したら、[Next (次へ)]をクリックします。
12. [5. Remove Base (5. ベースの削除)]ウィンドウで、サーバーの一時的なインストールベース (hp_riss_install.nsf) を削除するかどうかを選択し、[Next (次へ)]をクリックします。
 - ・ インストールベースを保存する場合は、[No (いいえ)]をクリックします。
 - ・ インストールベースを保存しない場合は、[Yes (はい)]をクリックします。
13. [6. Save Installation (6. インストールの保存)]ウィンドウで、インストールを保存する場合は[Save this installation (このインストールを保存)]チェックボックスを選択します。インストールを保存する場所を指定します。

14. [7. Readme]ウィンドウで、以下の操作を実行します。
 - ・ ウィンドウの最上部にある[View readme (readmeを表示)]チェックボックスが選択されていることを確認します。
 - ・ インストール情報が正しいことを確認します。
[Install on master server (マスターサーバーにインストール)]が[No (いいえ)]に設定されていることを確認します。
15. [Install (インストール)]をクリックします。
ソフトウェアがインストールされると、Readmeファイルが画面に表示されます。
16. [Finish (完了)]をクリックします。
17. EAs DominoデータベースにACLを設定します。
「[アクセス制御リスト \(ACL\) の設定](#)」(71ページ)を参照してください。
18. HPゲートウェイサーバーを再起動します。
19. サーバーが再起動した後、mail.boxがあればAdministratorクライアントを使用して削除します。

2.8 ユーザー環境でのHP EAs Dominoコンポーネントのインストール

前章の手順では、HPゲートウェイサーバーにEAs Dominoソフトウェアをインストールする方法について説明しました。

EAs Dominoファイルは、以下の各状況で、ユーザーのDominoサーバーにインストールされます。

- Compliance Archivingの場合、一部のEAs Dominoファイルが組織のメールサーバーにインストールされます。インストール手順については、「[Compliance \(ジャーナル\) Archivingの設定](#)」(175ページ)を参照してください。ジャーナルのアーカイブは、HPゲートウェイサーバーから実行します。
- 一括アップロードは、ユーザー環境のアプリケーションサーバーで実行できます。一括アップロードで検出されたメールファイルのアーカイブは、HPゲートウェイサーバーから実行されます。このアプリケーションをインストールするには、「[一括アップロードの使用](#)」(195ページ)の手順に従ってください。
- DWA ExtensionまたはExport Searchを実装すると、DWAでメッセージを取得するソフトウェアまたはアーカイブされたメッセージをエクスポートするソフトウェアが、メール環境のDominoサーバーにインストールされます。インストール手順は、以下の各章で説明します。
 - [DWA Extensionの設定](#) (205ページ)
 - [Export Searchの使用](#) (219ページ)

メール環境のHP EAsD APIデータベース

EAs Dominoの設定データベース (HP EAs-D API) は、EAs Dominoアプリケーション (高度なフィルタリング、DWA Extension、Export Search、または一括アップロード) を実行しているユーザーのメール環境にあるすべてのサーバーにインストールおよび複製する必要があります。

メールドメインで使用するHP EAs-D APIデータベースは、HP GatewayドメインのHP EAs-D APIデータベースとは別のものです。これによって、HPゲートウェイ/リモートマイニングの設定要件を、ユーザーのメール環境から切り離すことができます。

2.9 旧バージョンのEAs Dominoソフトウェアからのアップグレード

この手順については、別のアップグレードマニュアルで説明しています。

2.10 HP EAs Dominoソフトウェアのアンインストール

この章では、HP EAs Dominoソフトウェアと関係するファイルのアンインストールに必要な手順について説明します。

EAs Dominoソフトウェアの旧バージョンからアップグレードする場合は、EAs Dominoアップグレードガイドを参照してください。

注記:

アンインストールを実行する前に、すべてのEAs Dominoデータベースファイルのバックアップコピーを作成することをお勧めします。

-
- ・ [HP EAs Dominoソフトウェアのアンインストール](#) (101ページ)
 - ・ [Dominoの設定ファイルの削除](#) (104ページ)
 - ・ [エンドユーザーのクライアントシステム](#) (104ページ)
 - ・ [IAP](#) (104ページ)

HP EAs Dominoソフトウェアのアンインストール

Windowsサーバー

以下の手順に従って、EAs DominoソフトウェアをインストールされているWindowsサーバーから削除します。

1. Compliance Archivingの設定を削除するには、以下の手順に従ってください。
 - a. Administratorクライアントで、サーバーを開き、そのサーバーのコンソールを開きます。
 - b. Journalingエージェントを停止して、新たなメッセージをジャーナル化できないようにします。
高度なフィルタリングがインストールされている場合は、対象はジャーナリングのListeningエージェント (nadvsv) とジャーナリングルールのフィルター (nmwadvt) になります。
 - c. ジャーナルデータベース、PreProcessデータベース、ジャーナルReferenceデータベースが空になるまで、マイニングプログラム (rissminer) とArchiveエージェント、Preprocessingエージェント、Tombstoneエージェントを実行します。
[「アーカイブジョブの手動実行」](#) (163ページ) を参照してください。

2. Selective Archivingの設定を削除するには、以下の手順に従ってください。
 - a. Administratorクライアントで、サーバーを開きます。
 - b. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[Programs (プログラム)]を選択します。
 - c. アーカイブプロファイルのためのrissminerのプログラム文書を選択して、[Edit Program (プログラムの編集)]をクリックします。
 - d. スケジュールを無効にして、[OK]をクリックします。
 - e. サーバーのコンソールを開き、Selective ArchiveのPreProcessデータベースとReferenceデータベースが空になるまで、Archiveエージェント、Preprocessingエージェント、Tombstoneエージェントを実行します。
「[アーカイブジョブの手動実行](#)」(163ページ)を参照してください。
3. サーバーを停止します。
4. DominoプログラムディレクトリにあるHPRIMUninstallerフォルダーに移動します。
5. Uninstaller.exeをダブルクリックして、EAs Dominoファイルをアンインストールします。

 **注記:**

アンインストーラーを実行する前に、サーバーにJava Runtime Environment (JRE) バージョン1.6以降がインストールされている必要があります。

6. サーバーから以下の項目を手作業で削除します。
 - ・ インストール後に作成されたすべてのデータベース
 - ・ 他のサーバーから複製されたすべてのデータベース
 - ・ 前処理作業ディレクトリなど、作成されたすべてのディレクトリ
7. サーバーを再起動します。

Linux、Solaris、およびAIX

以下の手順に従って、EAs Dominoソフトウェアをインストールされている各サーバーから削除します。

1. ジャーナリングの設定を削除するには、以下の手順に従ってください。
 - a. Administratorクライアントで、サーバーを開き、そのサーバーのコンソールを開きます。
 - b. Journalingエージェントを停止して、新たなメッセージがジャーナル化されないようにします。
高度なフィルタリングがインストールされている場合は、対象はジャーナリングのListeningエージェント (libadvsv) とジャーナリングルールのフィルター (mwadv) になります。
 - c. ジャーナルデータベース、PreProcessデータベース、ジャーナルReferenceデータベースが空になるまで、マイニングプログラム (rissminer) とArchiveエージェント、Preprocessingエージェント、Tombstoneエージェントを実行します。
「[アーカイブジョブの手動実行](#)」(163ページ)を参照してください。

2. Selective Archivingの設定を削除するには、以下の手順に従ってください。
 - a. Administratorクライアントで、サーバーを開きます。
 - b. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、[Programs (プログラム)]を選択します。
 - c. アーカイブプロファイルのためのrissminerのプログラム文書を選択して、[Edit Program (プログラムの編集)]をクリックします。
 - d. スケジュールを無効にして、[OK]をクリックします。
 - e. サーバーのコンソールを開き、Selective ArchiveのPreProcessデータベースとReferenceデータベースが空になるまで、Archiveエージェント、Preprocessingエージェント、Tombstoneエージェントを実行します。
 「[アーカイブジョブの手動実行](#)」(163ページ)を参照してください。

3. Dominoサーバーを停止します。

4. サーバーコンソールで、lotus/notes/dataディレクトリに移動して、次のコマンドを入力します。

```
rm -r hprim
rm mwadvrt
rm libadvsvr.aまたはrm libadvsvr.so
rm rissminer
rm blkupd
```

5. notes.iniを開き、以下を削除します。

- ・ \$MailWatcherServerName
- ・ rissminerまたはArchiveエージェントを実行しているすべてのサーバーの場合
これらのエントリが一覧されている場合、HPRISSMINER_MAX_REF_SESSIONおよびHP_EAS-D_CONTROL_IAP_HASHES_COLLISION
- ・ HPRIM_*に一致するすべての変数
- ・ 高度なフィルタリングがインストールされている場合
MWADVSRVOTHERSERVICES=[anti-virus-real-time-task-name]およびMWADVSRVOTHERSERVICESAO=[anti-virus-real-time-task-name]
次のエントリからHP EAsに付加された値
extmgr_addins=...,advsvr
servertasks=...,mwadvrt

6. サーバーから以下の項目を手作業で削除します。

- ・ インストール後に作成されたすべてのデータベース
- ・ 他のサーバーから複製されたすべてのデータベース
- ・ 前処理作業ディレクトリなど、作成されたすべてのディレクトリ

7. Dominoサーバーを再起動します。

Dominoの設定ファイルの削除

(ローカルマイニングの設定)

IAPの外部のドメイン文書と、DominoメールドメインにあるサーバーからHPゲートウェイサーバーへの接続文書を削除します。

AdministrationサーバーのDomino Directoryから以下の操作を実行します。

1. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Messaging (メッセージング)]を展開します。
2. [Connections (接続)]を選択します。
3. 各HPゲートウェイサーバーに対する接続文書を削除します。
4. [Domains (ドメイン)]を選択します。
5. IAPの外部ドメインを選択し、このドメインを削除します。

エンドユーザーのクライアントシステム

クライアントシステムに以下のものがインストールされている場合は削除します。

- (Windowsのみ) Notes Clientプラグイン
このプラグインの削除には、コントロールパネルの[プログラムの追加と削除]を使用できます。
- (Windowsのみ) LocalCache.exeおよびExportSearch.exe
これらのファイルは、クライアントの\lotus\notes\Localcacheディレクトリにあり、手作業で削除する必要があります。
デフォルトのLocal Cacheデータベース(DefaultLCDestination.nsf)または作成した他のすべてのLocal Cacheデータベースは削除しないでください。Tombstone化されたメッセージは、キャッシュの中に保持されている完全なメッセージのコピーへのポインターでマークされています。
- EAs Dominoエージェントまたはメールテンプレートに対するその他の変更
- notes.ini内のEAs Dominoエントリ

IAP

IAPのシングルサインオンを使用している場合は、秘密鍵を削除します。「[IAPシングルサインオンの設定](#)」(237ページ)を参照してください。

Part 3. HP EAs Domino環境の設定

- ・ [HP EAs-D APIのメインビュー \(107ページ\)](#)
- ・ [Global Configuration文書の編集 \(109ページ\)](#)
- ・ [Server Definition文書の設定 \(115ページ\)](#)

3.1 HP EAs-D APIのメインビュー

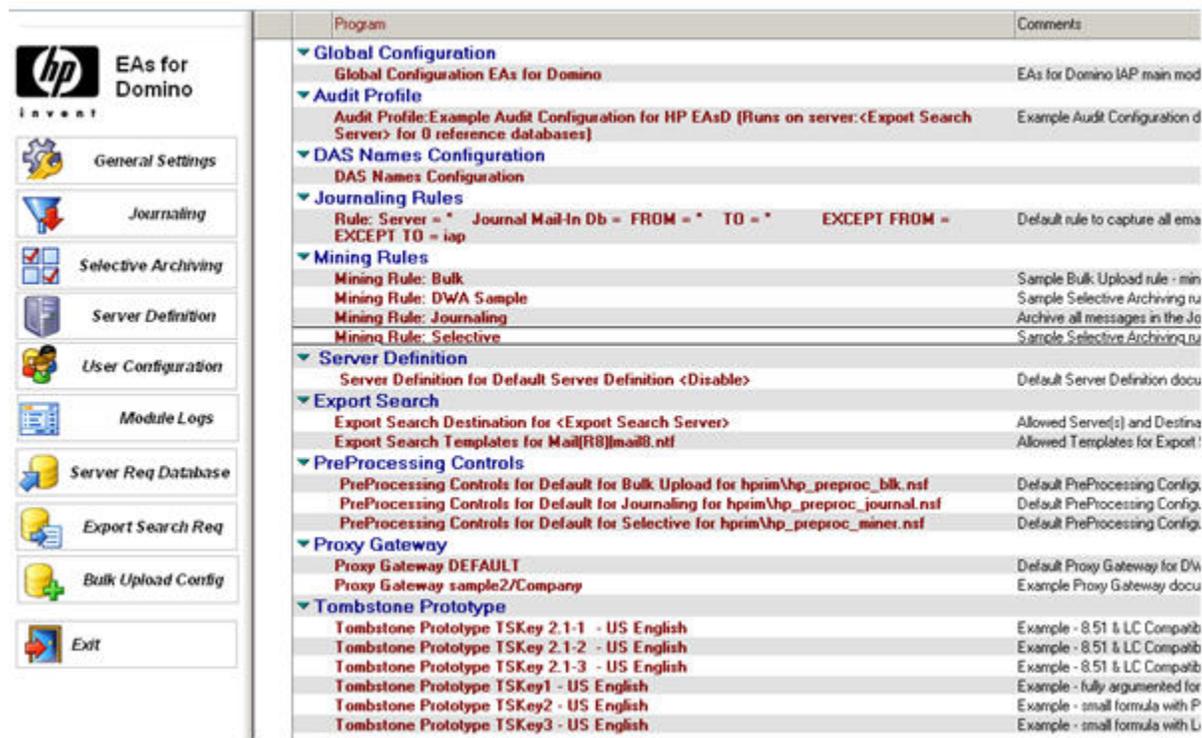
HP EAs Dominoデータベースは、Dominoディレクトリのhprimフォルダーにインストールされます。

EAs Dominoのモジュールは、メイン設定データベースであるHP EAs-D API(hp_rissapi.nsf)に登録されます。このデータベースはEAs Dominoの設定および管理用のメインエントリーポイントとなります。

HP EAs-D APIデータベースを開くには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、Dominoサーバーを開きます。
 - ・ HPゲートウェイメインで、任意のHPゲートウェイサーバーを開きます。
 - ・ ユーザーのメールドメインで、EAs Dominoソフトウェアがインストールされている任意のDominoサーバーを開きます (HP EAs-D APIデータベースのメールドメインインスタンスを、該当するサーバーに複製する必要があります)。
2. [ファイル]タブをクリックし、hprimフォルダーを開きます。
3. HP EAs-D APIデータベースファイルをダブルクリックします。

メインビューが表示されます。ビューには、Global Configuration文書が、Server Definition文書、マイニングルール、高度なフィルタリングジャーナリングルール、その他のEAs Dominoアプリケーションの設定に必要な文書とともに表示されます。



Program	Comments
Global Configuration	
Global Configuration EAs for Domino	EAs for Domino IAP main mod
Audit Profile	
Audit Profile: Example Audit Configuration for HP EAsD (Runs on server: <Export Search Server> for 0 reference databases)	Example Audit Configuration d
DAS Names Configuration	
DAS Names Configuration	
Journaling Rules	
Rule: Server = * Journal Mail-In Db = FROM = * TO = * EXCEPT FROM = EXCEPT TO = iap	Default rule to capture all ema
Mining Rules	
Mining Rule: Bulk	Sample Bulk Upload rule - min
Mining Rule: DWA Sample	Sample Selective Archiving ru
Mining Rule: Journaling	Archive all messages in the Jo
Mining Rule: Selective	Sample Selective Archiving ru
Server Definition	
Server Definition for Default Server Definition <Disable>	Default Server Definition docu
Export Search	
Export Search Destination for <Export Search Server>	Allowed Serve(s) and Destina
Export Search Templates for Mail[R8]mail8.ntf	Allowed Templates for Export!
PreProcessing Controls	
PreProcessing Controls for Default for Bulk Upload for hprim\hp_preproc_blk.nsf	Default PreProcessing Config
PreProcessing Controls for Default for Journaling for hprim\hp_preproc_journal.nsf	Default PreProcessing Config
PreProcessing Controls for Default for Selective for hprim\hp_preproc_miner.nsf	Default PreProcessing Config
Proxy Gateway	
Proxy Gateway DEFAULT	Default Proxy Gateway for DV
Proxy Gateway sample2/Company	Example Proxy Gateway docu
Tombstone Prototype	
Tombstone Prototype TSKey 2.1-1 - US English	Example - 8.51 & LC Compatib
Tombstone Prototype TSKey 2.1-2 - US English	Example - 8.51 & LC Compatib
Tombstone Prototype TSKey 2.1-3 - US English	Example - 8.51 & LC Compatib
Tombstone Prototype TSKey1 - US English	Example - fully argumented for
Tombstone Prototype TSKey2 - US English	Example - small formula with P
Tombstone Prototype TSKey3 - US English	Example - small formula with U

3.2 Global Configuration文書の編集

- ・ [概要](#) (109ページ)
- ・ [設定の構成](#) (110ページ)

概要

Global Configuration文書では、EAs DominoソフトウェアのインストールされているサーバーにHP EAs-D APIデータベースを登録し、EAs Dominoのバイナリを設定します。各HP EAs-D APIデータベースに対応するGlobal Configuration文書は1つだけです。

Global Configuration文書を表示するには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. EAs-D APIのメインビューで、[Global Configuration EAs for Domino]をダブルクリックします。

Global Configuration文書が表示されます。



[General Settings]	
Domino Directory for Journaling and Mining Rules	ConsolidatedNames.nsf
Journaling & Mining Rules database	hprim/hp_rissapi.nsf
Users Mail Details database	hprim/hp_rissuser.nsf
Log database	hprim/hp_risslog.nsf
Archiving Servers	LocalDomainServers

3. Global Configurationの各タブで設定を表示および編集します。
 - ・ 「[\[General Settings \(全般設定\)\]](#)」(110ページ)
 - ・ 「[\[Additional Modules \(追加モジュール\)\]](#)」(111ページ)
 - ・ 「[\[Address Conversion Settings \(アドレス変換設定\)\] \(グローバル\)](#)」(111ページ)
 - ・ 「[\[Agent Settings \(エージェント設定\)\]](#)」(112ページ)
 - ・ 「[\[DWA Index Settings \(DWAインデックス設定\)\]](#)」(112ページ) (ユーザー環境のみ)
 - ・ 「[\[Error Messages \(エラーメッセージ\)\]](#)」(113ページ)
 - ・ 「[\[Administration Alert \(管理アラート\)\]](#)」(113ページ)

- Global Configuration文書に対する変更結果を保存するには、[ファイル(F)]、[保存(S)]の順に選択します。

設定の構成

HPゲートウェイサーバー上のHP EAs-D API: Global Configuration文書で、[DWA Index Settings (DWAインデックス設定)]以外のすべてのタブを編集します。

メール環境内のHP EAs-D API: DWA Extensionを実装している場合は、[DWA Index Settings (DWAインデックス設定)]を編集します。

[General Settings (全般設定)]

このタブには、Selective ArchivingとCompliance Archivingで使用するHPゲートウェイサーバーおよびEAs Dominoデータベースが表示されます。

ファイルパスは、Dominoデータディレクトリからのパスです。

フィールド	説明
[Domino Directory for Journaling and Mining Rules (ジャーナリングおよびマイニング ルール用のDominoディレクトリ)]	アーカイブプロセスで使用する名前およびアドレスのデータベース。「 統合ディレクトリの作成 」(74ページ)で設定した統合ディレクトリ (ConsolidatedNames.nsf) を入力します。
[Journaling & Mining Rules database (ジャーナリングとマイニング ルールのデータベース)]	マイニングルール、高度なフィルタリングジャーナリングルール、およびEAs Domino設定文書が保存される設定用データベース。(hprim/hp_riss-api.nsf)
[User's Mail Details database (ユーザーのメール詳細データベース)]	マイニングされたメールおよびジャーナルデータベースのレコードを保持しているデータベース (hprim/hp_rissuser.nsf)。
[Log database (ログ データベース)]	The EAs Dominoログファイル (hprim/hp_risslog.nsf)。
[Archiving Servers (アーカイブ サーバー)]	アーカイブ機能が実装されたサーバー。次のデフォルトのままにします。 LocalDomainServers

[Additional Modules (追加モジュール)]

このタブに表示されるデータベースによりオプションのEAs Domino機能が実装されます。以下のフィールドに対して変更を行う必要はありません。

[Bulk Upload database (一括アップロード データベース)]	非アクティブメールファイルをIAPにアーカイブするときに使用されるデータベース (hprim/hp_rissblkupd.nsf)。
[Server request database (サーバ要求データベース)]	Domino Web Accessでtombstone化された古いメッセージを取得するときに使用されるデータベース (hprim/hp_rissreq.nsf)。
[Export Search request database (Export Search要求データベース)]	IAPからメッセージをエクスポートするときに使用されるデータベース (hprim/hp_rissexportsearch.nsf)。
[Audit database (監査データベース)]	HP EAs Domino 2.1では使用されません。
[Locale (I18N) Configuration database (ロケール (I18N) 設定データベース)]	ユーザーの母国語でメッセージを返すために使用されるローカライゼーションデータベース (hprim/hp_localecfg.nsf)。

[Address Conversion Settings (アドレス変換設定)] (グローバル)

[Address Conversion Settings (アドレス変換設定)]は、アーカイブプロセスで使用され、SMTPエイリアスを解決します。

[SMTP Alias (SMTPエイリアス)]

[Address Conversion Settings]

SMTP Alias | Multiple Domino Domain | Multiple Domino Domain (Group)

[Alias Support]

Resolve SMTP aliases of Notes names

Alias lookup view in Domino Directory:

DNS domains/hostnames accepted for SMTP messages:
(Comma or newline separated list)

フィールド	説明
[Resolve SMTP aliases of Notes names (Notesの名前のSMTPエイリアスを解決)]	チェックボックスをオンの状態で維持し、SMTPエイリアスを解決します。
[Alias lookup view in Domino Directory (Domino Directoryのエイリアスのルックアップ表示)]	[\$Users] (デフォルト) のままにします。

フィールド	説明
[DNS domains/hostnames accepted for SMTP messages (SMTPメッセージに受け入れるDNSドメイン/ホスト名)]	SMTPメッセージが受け入れられるDNSドメインとホスト名を、カンマ (,) または改行で区切られたリストで入力します。 たとえば、mycompany.comとmycompany.netのMXレコードが存在し、どちらのレコードもホスト名がmailであるサーバーをポイントしている場合、リストにはmail.mycompany.com、mail.mycompany.net、mycompany.com、mycompany.netの4つのエントリーが含まれます。

[Multiple Domino Domain (複数Dominoドメイン)]および[Multiple Domino Domain (Group) (複数Dominoドメイン (グループ))]

これらの設定には何も入力しないでください。EAs Domino 2.1では使用されません。

[Agent Settings (エージェント設定)]

このタブ内のフィールドはアーカイブプロセスで使用されます。

フィールド	説明
[Profileエージェント]タブ [Use 'Address Conversion Settings (アドレス変換設定を使用)]	デフォルトの状態 (チェックボックスがオン) のままにします。この設定により、ユーザーはDirectory Assistanceを使用して識別されます。
[Archive Agent (Archiveエージェント)タブ [Remapped fields (再マップされたフィールド)]	このタブはHPのサポートにより使用されます。編集を行わないでください。

[DWA Index Settings (DWAインデックス設定)]

このタブ内の設定は、DWA Extensionが実装されている場合に、HP EAs-D APIデータベースのメールドメインインスタンスで使用されます。

EAs DominoのDWA Extension機能によって、アーカイブされたメッセージにDomino Web Accessでアクセスできるようになります。DWA Extensionを使用する予定のある場合は、このタブの[Retention (保管)]フィールドを編集して、DWA Extensionを設定します ([「DWA Extensionの設定」](#) (205ページ) を参照)。

フィールド	説明
[DWA Index database (DWAインデックス データベース)]	次のデフォルトのままにします。hprim/hp_dwaindex.nsf. このデータベースには、要求を受け入れて処理し、アーカイブされたメッセージをIAPから取得して要求したユーザーのブラウザーに返すためのソフトウェアが格納されています。
[Retention (days) (保管 (日数))]	取得したメッセージをユーザーのキャッシュに保持しておく日数を入力します。この期間を過ぎると、メッセージのコピーは自動的に削除されます。

[Error Messages (エラーメッセージ)]

このタブ内の設定で、メールファイルの処理中にエラーが発生した場合のメッセージの送信先を決定します。

このタブ内の設定を完了する必要はありません。EAs Domino 2.1では使用されません。

フィールド	説明
[Sender address (差出人アドレス)]	例: HP EAs Domino
[From (差出人)]	例: HP IAPシステム
[To (宛先)]	例: LotusNotesAdministrator
[Subject (件名)]	メッセージの件名を追加します。

[Administration Alert (管理アラート)]

マイニングの起動に失敗した場合に警告を送信できます。このタブでは、送信される警告とその送信先を設定できます。警告は各マイニングルールでも設定できます。

注記:

警告はマイニングルールでのみ有効化できます。詳細については、「[Administration Alert (管理アラート)]」(144ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[From (差出人)]	「IAP system」のような値を入力します。
[SendTo (宛先)]	次の方法を使用すると、デフォルト値 (LocalDomainAdmins) を変更できます。 <ul style="list-style-type: none">矢印をクリックします。デフォルト値を削除します。アドレスリストから名前を追加します。[OK]をクリックします。
[Subject (件名)]	警告の件名を入力します。たとえば、「Mining did not start」と入力します。
[Alert Relay Server (アラートリレーサーバー)]	リレーサーバーをここに設定できます。リレーサーバーはServer Definition文書またはマイニングルールで設定することもできます (マイニングルール、Server Definition文書、このフィールドの順序で確認が行われます)。この設定を設定する場合、矢印をクリックし、警告の送信に使用するリレーサーバーを選択します。多くの場合、ユーザーのメールドメイン内のサーバーがリレーサーバーとなります。 [Local (ローカル)] を選択した場合、警告はローカルのHPゲートウェイサーバーに送信されます。多くの場合、[Local (ローカル)] を選択することはありません。 このフィールドを空白にしておく場合は、Server Definition文書またはマイニングルールでリレーサーバーを定義してください。

3.3 Server Definition文書の設定

- ・ [概要](#) (115ページ)
- ・ [設定の構成](#) (116ページ)

概要

Server Definition文書では、IAPへのパスやその他のアーカイブおよびメッセージ取得パラメーターを定義します。

- ・ HPゲートウェイドメインバージョンの EAs-D APIデータベースでは次の操作を行います。
該当ドメイン内のHPゲートウェイサーバーのServer Definition文書を作成します (必要に応じて、特定のサーバーに対して追加のサーバー定義を作成するオプションも用意されています)。
Compliance Archivingを扱うサーバーとSelective Archivingを扱うサーバーで、同じServer Definition文書を使用できます。
- ・ メールドメインバージョンのEAs-D APIデータベースでは次の操作を行います。
HP EAs-D APIデータベースがインストールされているDominoサーバーのServer Definition文書を作成します。この文書には、DWA Extension、Export Search、高度なフィルタリング、および一括アップロードの各アプリケーションを使用するサーバーが含まれています。DWA Extensionにプロキシサーバーを使用している場合、ユーザーの要求をプロキシにリダイレクトする各メールサーバーを含めません。
特定のサーバーの情報が含まれる追加のServer Definition文書を作成するオプションも用意されています。たとえば、通常より長いクエリタイムアウトの設定など、特別なオプションを必要とするサーバーに対して、個別のサーバー定義を作成することもできます。

注記:

サーバーごとに登録できるServer Definition文書は1つのみです。

Server Definition文書を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、[Files (ファイル)]タブをクリックし、hprimフォルダーを開きます。
2. HP EAs-D APIデータベースを開きます。
3. [Server Definition (サーバ定義)]でデフォルトのサーバー定義をダブルクリックして、文書を開きます。
4. [Is default (デフォルト)]については、このサーバー定義がゲートウェイまたはメールドメインのデフォルトサーバー定義である場合に[Yes (はい)]をクリックします。それ以外の場合は、[No (いいえ)]を選択します。

デフォルトのサーバー定義は、Server Definition文書に明示的に登録されていないサーバーにより使用されます。

5. HPゲートウェイサーバーのサーバー定義を設定する場合、以下のタブに入力してください。
 - ・ 「[Server Settings (サーバー設定)]」(116ページ)
 - ・ 「[Archiving Options (アーカイブ オプション)]」(117ページ)
 - ・ 「[Address Conversion Settings (アドレス変換設定)]」(119ページ)
 - ・ 「[Profile Agent Settings (Profileエージェント設定)]」(119ページ)
 - ・ 「[Execution Settings (実行設定)]」(119ページ)
 - ・ 「[Gateway server (ゲートウェイサーバー)]」(122ページ)
 - ・ 「[Logging (ログ機能)]」(123ページ)
 - ・ 「[Administration Alert (管理アラート)]」(124ページ)
6. メール環境内のDominoサーバーのサーバー定義を設定する場合、以下のタブに情報を入力してください。
 - ・ 「[Server Settings (サーバー設定)]」(116ページ)
 - ・ 「[DWA Settings (DWA設定)]」(121ページ) (DWA Extension使用時)
7. [Status (ステータス)]で[Enable (有効)]をクリックして、サーバー定義を有効にします。
8. [ファイル(F)], [保存(S)]の順に選択し、サーバー定義を保存します。
9. 追加のServer Definition文書を作成するには、EAs-D APIのメインビューで[Create (作成)], [Archiving (アーカイブ)], [1. Server Definition (1.サーバー定義)]の順に選択して、手順4~8を実行します。

設定の構成

[Server Settings (サーバー設定)]

Server Definition :

Comments : 『 Server Definition document for HP Gateway domain 』

Is default : No Yes

Status : 『 Enable 』

Server Settings | Archiving Options | Address Conversion Settings | Profile Agent Settings | Execution Settings | DWA Settings | Gateway Server | Logging | Administration Alert

[Server Settings]

Domino Server(s)	『 HPGateway1/hparchive HPGateway2/hparchive 』
IAP domain	『 iap_domain 』
IAP email address	『 iap_admin@iap_domain 』
IAP host name	『 10.1.0.132:81 』

フィールド	説明
[Domino Server(s) (Dominoサーバ)]	矢印をクリックし、サーバー定義に含めるサーバーを選択します。グループを使用することはできません。サーバー名を明示的に指定する必要があります。
[IAP domain (IAPドメイン)]	IAPストアのドメイン名を入力します。このドメイン名はDomain.jcmlに含まれています (IAP PCC Web Administrationインターフェイスでも表示されます)。
[IAP email address (IAP電子メールアドレス)]	[一意の管理者名]@[外部ドメインを含む完全なアドレス]を入力します。たとえば、iap_admin@iap_domainのようになります。名前が一意で、adminまたはadministratorでないことを確認します。
[IAP host name (IAPホスト名)]	Domain.jcmlに定義されているIAP VIPを入力します。VIPは、ipToDomainInfoフィールドと、Lotus Dominoに割り当てられたストアグループの名前フィールドで定義されています。VIPの末尾に:81を追加します(例: 15.23.143.221:81)。

[Archiving Options (アーカイブ オプション)]

[Archiving Options]	
Ensure Owner Receipt	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No <i>(For Selective Archiving Only)</i>
Allow using IAP 2.0 or Above	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
IAP Login	<input]<="" td="" type="text" value="iap_login_"/>
IAP Password	<input]<="" td="" type="text" value="iap_password_"/>
Preserve Attachment Icons	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
Preserve Original Address Headers	<input checked="" type="radio"/> Always copy To, CC, BCC, etc. <input type="radio"/> Only copy each header if larger than 15KB Unicode characters <input type="radio"/> Disable
Truncate Long Headers	<input type="radio"/> Disable <input checked="" type="radio"/> Truncate (Adds "Header truncated by HP EAs for Domino" to end of message)
Allow Address Header Splitting at 32k	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
Suppress Domain Mismatch Warning	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
Add Notes "Friendly Address" to all known addresses	<input checked="" type="radio"/> <input type="checkbox"/> Yes <input type="radio"/> No

フィールド	説明
[Ensure Owner Receipt (オーナー受信者の確認)]	<p>メッセージが配布リストを経由してユーザーのメールボックスに送信される場合、特にそのユーザーが受信者リストに含まれるわけではありません。[Yes (はい)]をクリックすると、電子メールをユーザーのレポジトリ内にアーカイブできるようになります。</p> <p>このオプションは、Selective Archivingに対してのみ使用されます。Compliance Archivingには適用されず、有効な場合でも無視されます。</p>
[Allow using IAP 2.0 or above (IAP 2.0以降の使用を許可)]	[Yes (はい)]を選択します。
[IAP Login (IAPログイン名)] [IAP Password (IAPパスワード)]	<p>EAs DominoがIAPとの認証に使用する認証情報を入力します。</p> <p>このIAPユーザーアカウントはIAP上でローカルで作成できます。またはDASを介してインポートできますが、その場合IAP Adminとして定義する必要があります。IAPアカウントとして定義するには、PCC Web Administrationを開いてAccount Managerに移動し、ユーザーアカウントフォームを開いてフォームの下部にある[IAP Admin]チェックボックスをオンにします。</p> <p>注記:これらの認証情報が正しいかどうか検証して、EAs DominoがIAPにアクセスできるか確認することをお勧めします。[Actions (アクション)]、[Tools (ツール)]、[5. Check IAP credentials (IAP認証情報の確認)]の順に選択して、IAP確認ウィザードを実行します。</p>
[Preserve Attachment Icons (添付アイコンの保持)]	[Yes (はい)]を選択すると、アーカイブされたメッセージ内に添付ファイルのアイコンが保存されます。
[Preserve Original Address Headers (元のアドレスヘッダーを保持)]	<p>Lotus Notesメッセージのヘッダーには、最大で32KBのデータしか保存できません。電子メールメッセージを作成するプロセスで、Lotus NotesとDominoは受信者リストに制約を加え、この制限を強制的に適用します。</p> <p>アーカイブプロセスでは、受信者リストは、完全なインターネットアドレスに拡張されます。この拡張により、大きい配布リストを使用しているメッセージで、32KBの制限を上回る可能性があります。</p> <p>このフィールドやこのタブ上の他のフィールドを使用して、アーカイブ時のメッセージのヘッダー拡張を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [To, CC, BCCなどを常にコピーします]:常にメッセージヘッダーを拡張する場合に選択します。 • [Unicode文字で15KBより大きい場合のみ、各ヘッダーをコピーします]:Unicode文字で15KBより大きい場合に限りヘッダーを拡張する場合に選択します。 • [無効]:ヘッダーを拡張しない場合に選択します。
[Truncate Long Headers (長いヘッダーの切り捨て)]	アーカイブ中に大きい配布リストのメッセージヘッダーを切り捨てる場合は、[Truncate (切り捨て)]を選択します。それ以外の場合は、[Disable (無効)]を選択します。
[Allow Address Header Splitting at 32 K (アドレスヘッダーを32Kで分割)]	メッセージヘッダーのサイズが32KBを超えた場合にヘッダーを複数フィールドに分割できるようにするには、[Yes (はい)]を選択します。それ以外の場合は、[No (いいえ)]を選択します。
[Suppress Domain Mismatch Warning (ドメイン不一致の非表示)]	<p>デフォルトの[Yes (はい)]のままにしておきます。</p> <p>[No (いいえ)]に設定すると、受信者のドメインがDomino Directory内に見つからない場合、サーバーのログファイルに警告が記録されます(使用されるログファイルは、[Server Definition (サーバー定義)]の[Logging (ログ機能)]タブで定義されます)。</p>

フィールド	説明
[Add Notes "Friendly Address" to all known addresses (既知のアドレスに「Notesフレンドリーなアドレス」を追加)]	メッセージをアーカイブするときにメッセージヘッダーを「Notesフレンドリーな」アドレスに拡張するかどうかを選択します。有効にした場合、SMTP電子メールアドレスにRFC 822表示名が追加されます。たとえば、544444r "John Doe/HP" <jd@hp.com>のようになります。

[Address Conversion Settings (アドレス変換設定)]

このタブの[Use Global Config (Global Configの使用)]のデフォルト設定は変更しないでください。Global Configuration文書内のアドレス変換設定は、すべてのHPゲートウェイサーバーに適用されます。

[Profile Agent Settings (Profileエージェント設定)]

デフォルト設定 (チェックボックスがオン) のままにします。この設定により、選択的にアーカイブされたユーザーがDirectory Assistanceを使用して識別されます。

[Execution Settings (実行設定)]

[Session Settings (セッション設定)]

Session Settings	Program Control
Error Notifications	LocalDomainAdmins
Maximum Session Size for Archive	500M (*Size*)
Maximum Documents to Archive	10000
Maximum Execution Time for Archive	120 Minutes
Maximum Documents to Tombstone	10000
Maximum Execution Time for Tombstone	120 Minutes
Maximum Failed Query Attempts	100
Maximum Query Timeout	4.00 seconds

フィールド	説明
[Error Notifications (エラー通知)]	ArchiveまたはTombstoneエージェントの実行中にエラーが発生した場合に通知されるユーザーまたはグループをリストから選択します。例: LocalDomainAdmins。
[Maximum Session Size for Archive (Archiveの最大セッションサイズ)]	デフォルト (500M) のままにします。このフィールドには、1つのセッション内でArchiveエージェントによって処理可能な最大データ量が表示されます。
[Maximum Documents to Archive (Archiveの最大ドキュメント数)]	デフォルト (10,000) のままにします。このフィールドには、1つのセッション内でArchiveエージェントが処理可能な最大データ量が表示されます。
[Maximum Execution Time for Archive (Archiveの最大実行時間)]	デフォルト (120分) のままにします。このフィールドには、1つのセッション内でArchiveエージェントが実行できる最大時間が表示されます。
[Maximum Documents to Tombstone (Tombstoneの最大サイズ)]	デフォルト (10,000) のままにします。このフィールドには、1つのセッション内でTombstoneエージェントが処理可能なメッセージの最大数が表示されます。
[Maximum Execution Time for Tombstone (Tombstoneの最大実行時間)]	デフォルト (120分) のままにします。このフィールドには、1つのセッション内でTombstoneエージェントが実行できる最大時間が表示されます。
[Maximum number of Failed Query Attempts (失敗したクエリ試行の最大数)]	デフォルト (100) のままにします。このフィールドには、EAs DominoのArchiveエージェントまたはTombstoneエージェントが処理を停止するまでのIAPへのクエリの最大失敗数が表示されます。
[Maximum Query Timeout (クエリの最大タイムアウト)]	タイムアウトの長さが足りないと思われる場合以外は、デフォルト (4.00秒) のままにします。

[Program Control settings (プログラム制御設定)]

以下の設定により、HPゲートウェイサーバー上のArchiveエージェントの無効化や、アーカイブジョブの一時停止を簡単に行う方法が提供されます(「[Archiveエージェントの設定](#)」(153ページ)で、Archiveエージェントで実行される機能を説明しています)。

Session Settings | Program Control

Check for a Stop signal every 5 seconds

Disable Archive agents
 Stop ALL Running 'Archive' agents at 07/30/2010 02:26:05 PM for 10 minutes
 clear stop time

Disable Tombstone agents
 Stop ALL Running 'Tombstone' agents at for 10 minutes
 set stop time to now

Disable Encapsulations
 Stop ALL Running 'Encapsulate' agents at for 10 minutes
 set stop time to now

フィールド	説明
[Check for a stop signal (停止信号の検出)]	以下の設定により、HPゲートウェイサーバー上で無効化または一時停止するArchiveエージェント、Tombstoneエージェント、またはEncapsulateエージェントを検出する間隔 (秒) を入力します。
[Disable Archive agents (Archiveエージェントの無効化)] [Stop ALL running 'Archive' agents (実行しているすべてのArchiveエージェントの無効化)]	次のいずれかの処理を実行するには、これらのフィールドを設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> HPゲートウェイサーバー上のArchive、Tombstone、またはEncapsulateエージェントのスケジュール済みの実行を無効化するには、関連するチェックボックスをオンにします。 <p>チェックボックスをオフにすると、エージェントのスケジュールは再び有効化されます。</p> <p>注記: 現在実行しているすべてのジョブは、[Session Settings (セッション設定)]タブ内の上限設定に到達するまで続行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在実行しているすべてのArchive、Tombstone、およびEncapsulateエージェントを停止するには、エージェントを停止する日時を入力して、エージェントを停止する期間を設定します。 <p>日時の形式は、ドキュメントの編集に使用しているNotesクライアントのロケール設定によって異なります。たとえば米国の場合、日時は07/27/2010 06:30:11 PMと表示されます。</p> <p>停止時刻を現在時刻に設定するには、[set stop time to now (停止時刻を現在に設定)]をクリックします。([clear stop time (停止時刻のクリア)]をクリックすると、停止時刻をクリアできます)。</p>
[Disable Tombstone agents (Tombstoneエージェントの無効化)] [Stop ALL running 'Tombstone' agents (実行しているすべてのTombstoneエージェントの無効化)]	
[Disable Encapsulations (カプセル化の無効化)] [Stop ALL running 'Encapsulate' agents (実行しているすべてのEncapsulateエージェントの無効化)]	

[DWA Settings (DWA設定)]

アーカイブ処理中に、署名付きメッセージと暗号化メッセージはカプセル化され (独自のデータベースに入れられる)、メッセージデータの完全性が保たれます。カプセル化されたメッセージを含むデータベースは、元のメッセージに添付され、IAPに送信されます (Meeting Request、phone messageなどのMemo、Reply以外のアイテムも、それらのアーカイブ時にカプセル化されます)。

DWAでメッセージを取得したときは、ユーザーが表示できるようにカプセル化を解除する必要があります。DWA Extensionを実装している場合は、DWAユーザーがIAPから署名付きメッセージまたは暗号化メッセージを取得したときに、カプセル化解除したファイルを一時的に保存するためのディレクトリを作成する必要があります。このディレクトリは、[DWA Settings (DWA設定)]タブに表示されます。

DWA Extensionの設定手順については、「[DWA Extensionの設定](#)」(205ページ)を参照してください。

[DWA Settings]

DWA Temporary Work Area

「C:\RIM_TEMP\DWA\」

Note: use OS format for filepath separators - "\" for Windows and "/" for Unix

THIS DIRECTORY MUST EXIST ON THE SERVER.

フィールド	説明
<p>[DWA Temporary Work Area (DWAの一時作業領域)]</p>	<p>このフィールドには、カプセル化解除したファイルを一時的に保存するディレクトリが表示されます。このディレクトリはDWAサーバーか、プロキシを使用する場合はProxy Gatewayに配置できます。または、アプリケーションサーバーにファイル共有を作成し、その共有にドライブをマッピングします。共有には読み取り/書き込みアクセス権が必要です。</p> <p>ディレクトリのサイズは環境（署名付きメッセージまたは暗号化メッセージの送受信の頻度）によって異なります。</p> <p>重要! 作業領域用には必ず新しいディレクトリを作成し、次の条件を満たしていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> オペレーティングシステムの一部ディレクトリ内にサブディレクトリを作成したり、オペレーティングシステムの一部ディレクトリを作業領域に使用することはできません。 作業領域は、ユーザーのメールファイルを保持しているドライブ以外のドライブを参照するようにします。 セキュリティ上の理由から、Dominoデータディレクトリや、Notesクライアントまたはブラウザーユーザーに表示されるサブディレクトリやディレクトリのリンク領域内に、作業領域を格納しないようにします。たとえば、D:\Lotus\Domino\Data\RIM_TEMP（これがDominoデータルートへのパスである場合）とは入力しないでください。このディレクトリをネットワーク共有しないでください。 <p>このフィールドで特定されるディレクトリを作成するには、Windows Remote Desktop、Telnet、またはその他の端末ウィンドウを使用してサーバーに接続し、適切なコマンドを実行します。</p> <p>たとえば、WindowsベースのDominoサーバーで、次のように入力します。</p> <pre>C: CD \ MKDIR RIM_TEMP CD RIM_TEMP MKDIR DWA</pre> <p>サーバーのセキュリティ設定で、作成したディレクトリへのアクセスが許可されていることを確認します。UNIXベースのサーバーでは、このディレクトリの所有者、グループ、アクセス権を、サーバーのデータルートディレクトリの所有者、グループ、アクセス権と同じにします。これは通常、次のコマンドによって実行できます。</p> <pre>chown domino:domino RIM_TEMP chmod 755 RIM_TEMP</pre>

[Gateway server (ゲートウェイサーバー)]

このタブの設定により、Get Held Messagesデータベースへのパスが確立されます。Get Held Messagesは、HoldまたはDeadの状態になっているmail.boxメッセージを回復するので、それらを使用してIAPとEAs Dominoの診断を行うことができます。

フィールド	説明
[Gateway server (ゲートウェイサーバー)]	サーバー定義に表示されているすべてのHPゲートウェイサーバーに独自のGet Held Messagesデータベースのコピーが存在する場合、このフィールドを空白のままにします。 それ以外の場合は、矢印をクリックしてGet Held Messagesを持つHPゲートウェイサーバーの名前を選択します。ゲートウェイのServer文書の[Security (セキュリティ)]タブの[Trusted Servers (信頼できるサーバー)]フィールドに他のゲートウェイサーバーが表示されていることを確認してください。
[Get Held Messages database filepath (Get Held Messagesのファイルパス)]	DominoデータディレクトリからGet Held Messagesデータベースへのファイルパスを入力します(例: hprim\hp_GetHeld Msgs.nsf)。 [Gateway server (ゲートウェイサーバー)]が空白のままの場合、このサーバー定義で制御されるすべてのHPゲートウェイからGet Held Messagesへのファイルパスが同一であることを確認してください。

[Logging (ログ機能)]

ログ機能オプションは、メッセージのアーカイブ中に発生した問題の診断に役立てるため、HPのサポート担当者によって使用されます。

HPのサポートから指示を受けた場合を除き、デフォルトの設定を変更しないでください。

[Debug Options]

Logging Level Basic Information ▼

Write logs to HP Log Database ▼

Print Full Build Number in Log Yes No

Archive | Tombstone | Field Remapper | Body Parser | Statistics

[Archive Agent Settings]

Enable verbose debug logging Yes No

Enable logging per Nmessages archived Yes No

フィールド	説明
[デバッグ オプション]	
[Logging level (ログレベル)]	HPのサポートによる変更指示を受けた場合を除き、デフォルトの[Basic Information (基本情報)]を変更しないでください。
[Write logs to (ログの記録先)]	デフォルトの[HP Log Database (HPログ データベース)]を保持して、EAs Dominoログ (hprim\risslog.nsf) にエントリーを記録します。

フィールド	説明
[Print Full Build Number in Log (ログに完全ビルド番号を記録)]	デフォルトの[Yes (はい)]のままにしておきます。
ログ機能のタブ HPのサポート担当者からオプションを有効にする指示を受けない限り、各タブのすべてのオプションを[No (いいえ)]に設定しておいてください。	
[Archive (アーカイブ)]	[Archive (アーカイブ)]タブでは、Archiveエージェントのデバッグを有効にできます。一定のメッセージ数ごとにログ記録が有効になるように指定できます。
[Tombstone]	[Tombstone]タブでは、Referenceデータベース内のTombstoneエージェントのデバッグを有効にできます。一定のメッセージ数ごとにログ記録が有効になるように指定できます。
[Field Remapper (フィールドリマップパー)]	[Field Remapper (フィールドリマップパー)]タブでは、メッセージヘッダーのデバッグを有効にできます。
[Body Parser (ボディパーサー)]	[Body Parser (ボディパーサー)]タブでは、一意のメッセージID (ハッシュ)のデバッグを有効にできます。
[Statistics (統計)]	<p>統計の収集が有効である場合、Archiveエージェントのメトリックがコンソールおよびhprimフォルダー内のHP EAs-D Statsデータベース (hprim\hp_easd_stats.nsf) に出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Write Metrics Archive Count (Archive数のメトリックの書き込み)]および [Write Metrics Tombstone Count (Tombstone数のメトリックの書き込み)] フィールド:一定数の参照情報がArchiveまたはTombstoneエージェントで処理された後に、統計情報がHP EAs-D Statsデータベースに書き込まれます。 • [Output Metrics Archive Count (Archive数のメトリックの出力)]および [Output Metrics Tombstone Count (Tombstone数のメトリックの出力)] フィールド:一定数の参照情報がArchiveまたはTombstoneエージェントで処理された後に、統計情報がコンソールに出力されます。

[Administration Alert (管理アラート)]

マイニングの起動に失敗した場合に警告を送信できます。

注記:

警告はマイニングルールでのみ有効化できます。詳細については、「[\[Administration Alert \(管理アラート\)\]](#)」(144ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[Alert Relay Server (アラートリレーサーバー)]	<p>リレーサーバーをこのフィールドで設定できます。リレーサーバーはGlobal Configuration文書またはマイニングルールで設定することもできます(マイニングルール、Server Definition文書、Global Configuration文書の順序で確認が行われます)。</p> <p>この設定を設定する場合、矢印をクリックし、警告の送信に使用するリレーサーバーを選択します。多くの場合、ユーザーのメールアドレス内のサーバーがリレーサーバーとなります。</p> <p>[Local (ローカル)] を選択した場合、警告はローカルのHPゲートウェイサーバーに送信されます。多くの場合、[Local (ローカル)]を選択することはありません。</p> <p>このフィールドを空白にしておく場合は、Global Configuration文書またはマイニングルールでリレーサーバーを定義してください。</p>
[Comments (コメント)]	警告に関する任意のコメントを入力します。

Part 4. IAPへの電子メールのアーカイブ

- ・ [Selective Archivingの設定](#) (129ページ)
- ・ [メッセージの前処理](#) (145ページ)
- ・ [Archiveエージェントの設定](#) (153ページ)
- ・ [アーカイブジョブの実行](#) (161ページ)
- ・ [ログファイルの操作](#) (169ページ)
- ・ [Compliance \(ジャーナル\) Archivingの設定](#) (175ページ)
- ・ [一括アップロードの使用](#) (195ページ)

4.1 Selective Archivingの設定

- ・ [Selective Archivingプロセス](#) (129ページ)
- ・ [マイニングルールの設定](#) (130ページ)

Selective Archivingプロセス

Selective Archivingは、電子メールマイニングとも呼ばれ、DominoメールサーバーのメッセージをIAPへアーカイブします。tombstone (IAPシステムに保存されている元の電子メールへのリンク) をユーザーのメールファイル内に作成することもできます。

Selective Archivingは主に、ユーザーメールファイルのサイズを小さくするために使用します。1つのマイニングプロファイルを組織のユーザー全員に適用できます。また、複数のマイニングプロファイルを作成することもできます。たとえば、すべてのマネージャー、すべての関係者、派遣社員などのプロファイルです。

Selective Archivingを設定して有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. [マイニングルールを含むセレクトティブマイニングプロファイル](#)を編集します。
「[マイニングルールの設定](#)」(130ページ) を参照してください。
2. 署名付きメッセージと暗号化メッセージを取り扱うためにPreprocessing Control文書を設定します。
「[Preprocessing Control文書の設定](#)」(146ページ) を参照してください。
3. PreProcessデータベースでEncapsulateエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[PreProcessエージェントのスケジュール設定と有効化](#)」(151ページ) を参照してください。
4. Profileエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[Profileエージェントの操作](#)」(153ページ) を参照してください。
5. ArchiveエージェントとTombstoneエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化](#)」(158ページ) を参照してください。
6. アーカイブジョブのスケジュールを設定し、実行します。
「[アーカイブジョブの実行](#)」(161ページ) を参照してください。

注記:

アーカイブの対象となるメッセージの最大サポートサイズは、100MBです。このサイズは、メッセージの添付ファイルを含みます。

マイニングルールの設定

メールファイルのメッセージをアーカイブするためには、マイニングルールを含むアーカイブプロファイルを設定する必要があります。

プロファイルを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D APIデータベースファイルをダブルクリックします。
2. HP EAs-D APIのメインビューの[Mining Rules(マイニング ルール)]で、[Mining Rule: Selective(マイニング ルール: セレクティブ)]をダブルクリックします。

マイニングルール文書が表示されます。

3. 文書の上部にある以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Profile(プロファイル)]	マイニングルールのプロファイル名。 プロファイル名の変更または新しいマイニングルールの作成では、プロファイル名にスペースやダッシュを含めることはできません。
[Policy Status(ポリシーステータス)]	プロファイルを有効にしてアーカイブを開始する準備ができたときに[Enable(有効)]を選択します。

4. マイニングルールの設定を続けます。
 - ・ 「[Time Conditions(期間条件)]」(131ページ)
 - ・ 「[Folders Settings(フォルダー設定)]」(132ページ)
 - ・ 「[Exceptions Settings(例外設定)]」(133ページ)
 - ・ 「[User Membership(ユーザーメンバシップ)]」(135ページ)
 - ・ 「[Reference Database(Referenceデータベース)]」(137ページ)
 - ・ 「[Tombstone Settings(Tombstone設定)]」(138ページ)
 - ・ 「[Session Settings(セッション設定)]」(142ページ)
 - ・ 「[User Notification(ユーザー通知)]」(144ページ)
 - ・
5. プロファイルの設定が完了したら、[Save & Close(保存して閉じる)]をクリックします。

追加のマイニングルールの作成

複数のHPゲートウェイサーバー全体のスループットを上げるために、追加のマイニングルールを作成し、エージェント処理の負荷を分散できます。

複数のセレクティブマイニングルールを使用する場合は、現在のルールをコピーして貼り付けてください(この作業は、複製する設定値の多少によって、ルールの編集前でも編集後でも実行できます)。

1. HP EAs-D APIのメインビューでルールを選択します。
2. [Edit(編集)]、[Copy(コピー)]の順に選択し、次に[Edit(編集)]、[Paste(貼り付け)]の順に選択します。

3. [Profile]フィールドで新しいルールの名前を変更します。

このルールの対象ユーザーを[User Membership(ユーザーメンバシップ)]タブで設定します。

[Time Conditions (期間条件)]

[Time Conditions (期間条件)]では、どれだけ古い電子メールをアーカイブするかを設定します。[Time Conditions (期間条件)]を設定するには、次の表を参照して[Memo, Reply]設定を入力します。

[Time Conditions]

Specify how to calculate document age, the time condition is based on TIME/DATE field

Memo, Reply

Memo, Reply, type of document	Last Modified Date	
Specify Form(s) to <u>not</u> archive	Notice Task Appointment	List of Forms to not archive (excludes 'Task' and 'Calendar' Forms)
Archiving Date for not Foldered Document	90 03/02/2010	[- Nb of Day(s)] Condition also used for all other documents when Form is not 'Calendar' or 'Task' Example: mail in Inbox only
Archiving Date for Foldered Document	120 01/31/2010	[- Nb of Day(s)] Mail stored in one or more folders older than xx day(s) will be archived.
Maximum Date for Document Retention	<input type="text" value="16"/>	Documents to be archived will have to be OLDER than the specified date

フィールド	説明
[Memo, Reply type of document (メッセージのタイプ)]	矢印をクリックし、アーカイブ用の電子メールの日付を定義する方法を次から選択します。[Creation Date (作成日)]、[Last Modified Date (最終更新日)]、[Posted Date (投稿日)]。
[Specify Form(s) to not archive (アーカイブしないフォームを指定する)]	アーカイブしないフォームを指定します。 EAs Dominoは、Appointment (予定)、Notice (会議招集)、およびTask (タスク)をアーカイブしません。このフィールドで除外されない限り、その他すべてのフォームがアーカイブされます。 フォーム名を区切るには、カンマ (,)、セミコロン (;)、改行のいずれかを使用します。
[Archiving Date for not Foldered Document (フォルダーに無いドキュメントのアーカイブ期間)] *	フォルダーに保存されていない電子メールは、指定した日数より前のものがある必要があります。 日数を入力し、[Check Dates (日付を確認する)]をクリックして対応するカレンダーの日付を表示します。
[Archiving Date for Foldered Document (フォルダー内のドキュメントのアーカイブ期間)] *	フォルダーに保存されている電子メールは、指定した日数より前のものがある必要があります。 日数を入力し、[Check Dates (日付を確認する)]をクリックして対応するカレンダーの日付を表示します。
[Maximum Date for Document Retention (文書を保持する最大の日付)] *	カレンダーアイコンをクリックし、電子メールを保持する最大の日付を選択します。アーカイブの対象にするには、すべての電子メールは、指定した日付より古いことが必要です。 注記: フォルダーに格納された文書、フォルダーに格納されていない文書に対してアーカイブの日付を選択した場合は、このフィールドを空白にしてください。

フィールド	説明
[Comments (コメント)]	設定に関する任意のコメントを入力します。

*この日付は、[Session Settings (セッション設定)]タブ/[Archive Strategy (アーカイブ戦略)]タブで入力した日付と組み合わせられ、アーカイブの対象となる日付範囲を定義します。たとえば、このフィールドの値が1年で、[Session Settings (セッション設定)]の値が7年であれば、1~7年前のメッセージがアーカイブされます。

[Folders Settings (フォルダー設定)]

これらの設定は、ユーザーメールフォルダーに対する特別なアーカイブ方法を定義します。

[Folders Settings]		
Archive documents stored in specified folders.		
No Time Condition - "on demand"	HPArchivePending	All document stored are candidates for being archived
Remove Doc from folder once archived	\$Inbox	If document passes the archive selection then it is removed from the specified folder
Folders /Views to exclude		All documents found in these folders or views will not be archived.
Include selected Folders /Views only		Process the documents stored in these folders or views only .

フィールド	説明
[No Time Condition - "on demand" ("Time Condition"に依存しないフォルダー)]	<p>このフィールドで指定したフォルダーに保存されているすべてのメッセージは、[Time Conditions (期間条件)]タブの中で設定されている値にかかわらずアーカイブされます ([Session Settings (セッション設定)]タブで設定した上限は、引き続き適用されます)。このフォルダーの中に他のフォルダーをネストすることもできます。</p> <p>複数のフォルダーを指定できます。フォルダー名を区切るには、カンマ (,)、セミコロン (;)、改行のいずれかを使用します。</p> <p>注記: HPArchivePendingは例に過ぎないので、このフィールドから削除しても構いません。</p>
[Remove Doc from folder once archived (アーカイブ後にドキュメントをフォルダーから削除)]	<p>このフィールドで指定したフォルダーにあるメッセージは、アーカイブが成功した後に削除されます。</p> <p>このフォルダーの中に他のフォルダーをネストすることもできます。また、複数のフォルダーを表示することもできます。フォルダー名を区切るには、カンマ (,)、セミコロン (;)、改行のいずれかを使用します。</p> <p>HPArchivePendingは例に過ぎないので、このフィールドから削除しても構いません。</p> <p>ヒント: メールボックスを管理するには、受信ボックスフォルダーを指定します。</p>

フィールド	説明
[Folders/Views to exclude (除外するフォルダ/ビュー)]	<p>アーカイブの対象にしないメッセージを格納しているビューまたはフォルダを入力します。</p> <p>Selective Archivingの実行中に、\$Draftsが自動的に除外されます。</p> <p>名前を区切るには、カンマ(,)、セミコロン(;)、改行のいずれかを使用します。指定するフォルダに、他のフォルダをネストすることもできます。</p>
[Include selected Folders/Views only (選択したフォルダ/ビューのみを含める)]	<p>このフィールドを使用して、マイニングの対象とするフォルダまたはビューを指定します。これらのフォルダまたはビューの中に格納されているメッセージのみがアーカイブされます。</p> <p>このフィールドに入力する場合は、[Folders/Views to exclude (除外するフォルダ/ビュー)]フィールドおよび[Session Settings (セッション設定)]タブの[All Document view name (すべての文書ビュー名)]フィールドに入力をしないでください。</p> <p>名前を区切るには、カンマ(,)、セミコロン(;)、改行のいずれかを使用します。指定するフォルダに、他のフォルダをネストすることもできます。</p>

[Exceptions Settings (例外設定)]

[Exceptions Settings (例外設定)]を使用して、全体的なマイニングルールに対する例外を定義します。

[Special Fields (特殊フィールド)]

[Exceptions Settings]

Documents matching exceptions will not be archived.

Special Fields |
 Attachments & Doc size |
 Other Macro Formula

Exclude if one or more of the listed fields are found on the document

Document fields: MAILSTATIONERYNAME Excludes the document if any Field exists.
 PROTECTFROMARCHIVE
 RepeatInterval
 \$AttBytesTruncated
 \$DocBytesTruncated
 HpTombstoned

フィールド	説明
[Document fields (ドキュメントフィールド)]	<p>ここで指定したフィールドのいずれかがメッセージの中で見つかった場合は、そのメッセージはアーカイブされません。特殊フィールドのデフォルトリストが表示されます。これらのうち、適用しないものを削除してください。</p> <p>他のフィールドを追加することもできます。フィールド名を区切るには、カンマ(,)、セミコロン(;)、改行のいずれかを使用します。</p> <p>重要! [HPTombstoned]フィールドは削除しないでください。削除すると、tombstoned化されたメッセージのマイニングが頻繁に繰り返されます。</p> <p>注記: フォームを除外する場合、[Time Conditions (期間条件)]タブの[Specify Form(s) to not archive (アーカイブしないフォームを指定する)]フィールドに入力してください。Appointment (予定)、Notice (会議招集)、およびTask (タスク)は自動的にアーカイブから除外されます。</p>

フィールド	説明
[Comments (コメント)]	設定に関する任意のコメントを入力します。

[Attachments & Doc size (添付ファイルとドキュメントのサイズ)]

[Attachments & Doc size (添付ファイルとドキュメントのサイズ)]設定を入力するには、次の表の説明に従ってください。

[Exceptions Settings]

Documents matching exceptions will not be archived.

Special Fields | **Attachments & Doc size** | Other Macro Formula

Exclude if document has unauthorized attachment and/or wrong size (size control is disabled if ZERO)

Unauthorized attachment extensions: Attachment control: Enable Disable

Maximum document size: MBytes Skip the archive if the total document size is OVER the allowed limit - the size includes the body and attachments.

Minimum document size to be archived: KBytes Skip the archive if the total document size is NOT OVER the allowed limit - the size includes the body and attachments.

フィールド	説明
[Attachment control(添付制御)]	[Enable(有効)]をクリックし、これらの設定を有効にします。
[Unauthorized attachment extensions (未許可の添付ファイル拡張子)]	特定のタイプの拡張子を持つメッセージ添付ファイルを除外するには、拡張子を指定します。 拡張子を区切るには、カンマ(,)、セミコロン(;)、改行のいずれかを使用します。 注記: 会議招集などの通知を含む添付ファイルのマイニングを行わないようにするには、.icsを入力します。Windows Notesプラグインをクライアントシステムにインストールしている場合は、この設定をお勧めします。
[Maximum document size (ドキュメントの最大サイズ)]	特定のサイズを上回る文書をアーカイブの対象にしない場合は、上限サイズを入力します。制限しない場合は、0と入力します。このサイズは、メッセージ本文とすべての添付ファイルを含みます。 重要: アーカイブの対象となるメッセージの最大サポートサイズは、100MBです。このサイズは、メッセージの添付ファイルを含みます。
[Minimum document size to be archived (アーカイブされるドキュメントの最小サイズ)]	特定のサイズを下回る文書をアーカイブの対象にしない場合は、そのサイズを入力します。制限しない場合は、0と入力します。
[Comments (コメント)]	設定に関する任意のコメントを入力します。

[Other Macro Formula (その他のマクロ式)]

Notesの式言語で記述したマクロを使用して、他の例外条件を実装することもできます。

True/Falseの値を返すほとんどの有効な式を使用できます。ただし、マイニングのパフォーマンスが影響を受けないように、次の式を避けてください。

- @Abstract、または@DbLookup、@For、@Whileおよびそれらに関連する関数
- 過度に複雑な式

これらの設定を有効または無効にするには、[Enable]または[Disable]をクリックします。

フィールド	説明
[Filter rules to be evaluated (評価するフィルタールール)]	アーカイブの対象にしない文書を定義する式を入力します。式がTrueを返す場合、文書はアーカイブの対象になりません。[Check Syntax]をクリックすると、式をテストできます。
[Comments (コメント)]	設定に関する任意のコメントを入力します。

[User Membership (ユーザーメンバシップ)]

このタブで入力して、ユーザーとマイニングルールの関連付けを行います。標準的なDomino DirectoryメールファイルやMail-inデータベースからユーザーを追加することもできます。

このタブでユーザーを追加してProfileエージェントを実行すると、ユーザーごとのMail DetailレコードがHP EAs-D Usersデータベース (hp_rissuser.nsf) 内に作成され、ユーザーの電子メールをアーカイブできます。

詳細については、「[Profileエージェントの操作](#)」(153ページ)を参照してください。

[User Membership]
Documents matching definition will be selected.

Is Default Profile: Yes No Active for Profile Agent: Yes No

Include Users on selected Mail server(s): Local server Active for database(s): User MailFile
 All servers Mail in Db
 Only Selected server(s)

Use Alternate Server: Yes No

String pattern matching (Meta)	Groups	Person entry
*/*Sales/Acme	*	*

Parameters	Values
Default Agent Status	<input checked="" type="radio"/> Enable <input type="radio"/> Disable
Inherited Fields	*

フィールド	説明
[Is Default Profile (デフォルトプロファイル)]	<p>プロファイルを、メールアドレス内のユーザーに対して関連付けられるデフォルトのSelective Archivingルールにするには、[Yes(はい)]をクリックします。</p> <p>注記: 1つのプロファイルをデフォルトとして指定する必要があります。</p>
[Active for Profile Agent (Profileエージェントで利用)]	<p>Profileエージェントが[User Membership(ユーザーメンバシップ)]タブの情報により、ユーザーを検出してマイニングルールに割り当てるかどうかを決定します。</p> <p>Selective Archivingの場合、デフォルトの[Yes(はい)]のままにして、ルールに対するProfileエージェントを有効にします。</p> <p>Compliance Archiving (「マイニングルールの設定」(191ページ) を参照) および一括アップロード (「一括アップロードマイニングルールの編集」(197ページ) を参照) ではProfileエージェントを無効にします。</p>
[Include Users on selected Mail server(s) (選択されたメールサーバーのユーザーを含む)]	<p>ルールによってマイニングされるメールサーバーを選択します。</p> <p>[All servers]または[Only selected servers]のいずれかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [All servers] (ドメイン内にあるすべてのメールサーバー) ユーザーのホーム(メール)サーバーに関係なく、[Membership Conditions(メンバー条件)]フィールドで設定した値セットに一致するユーザーをマイニングルールに追加できます。 • [Only selected servers (選択したサーバーのみ)] ユーザーのホーム(メール)サーバーがこのフィールドに表示されている場合、[Membership Conditions]フィールドで設定した値セットに一致するユーザーがマイニングルールに追加されます。 矢印をクリックして、表示されるリストから該当するサーバーを追加します。 注記: この設定を使用して、特定のサーバーまたはサーバーセットに対してマイニングルールをフィルタリングします。
[Active for databases (有効にするデータベース)]	<p>[User MailFile]、[Mail in Db]の一方または両方を選択します。</p> <p>標準的なDominoメールファイル (User MailFile) とMail-inデータベース (Mail in Db) からユーザーを選択することもできます。</p>
[Use Alternate Server (代替サーバーを使用)]	<p>Selective Archivingではデフォルト値の[No(いいえ)]のままにしておきます。</p> <p>このフィールドは、複製されたジャーナリングを使用するCompliance Archiving設定の場合にのみ有効にします。</p>
[Membership conditions (メンバー条件)]	<p>このルールでマイニングされるユーザーメールファイルを定義します。次のいずれかまたはすべてを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [String pattern matching (Meta) (文字列パターンマッチング)]: ワイルドカードを使用して、組織または組織単位のメンバーを定義します。使用する構文の詳細については、「ワイルドカードパターンの定義」(137ページ)を参照してください。 • [Groups (グループ)]: 組織内のグループ。 重要! EAs Dominoは以下の項目をサポートしません。 <ul style="list-style-type: none"> • アクセス制御リストに設定されたグループタイプ。 • グループメンバーに対する共有名の使用。マイニングされるユーザーのメールファイルには階層の名前を使用する必要があります。 • [Person entry (ユーザーエントリー)]: 個々のメールファイル。

フィールド	説明
[Default Agent Status (デフォルトエージェントのステータス)]	<p>プロファイルに割り当てられたユーザーに対してデフォルトでマイニングを有効にするか、無効にするかを定義します。</p> <p>指定したユーザーのマイニングを有効にするには、[Enable(有効)]をクリックします。</p> <p>無効に設定されている場合、Usersデータベースを開き、Mail Detailレコードで指定したユーザーのマイニングを明示的に有効にする必要があります(これは、テスト目的でProfileエージェントがルールに割り当てるユーザーを指定する場合に便利です)。</p>
[Inherited Fields (継承するフィールド)]	<p>EAs Domino Mail Detailレコードには、DominoのPerson文書またはMail-In文書から取得したいいくつかの値が格納されています(「Mail Detail文書の表示」(153ページ)を参照)。</p> <p>Mail Detailレコードが、ユーザーのPerson文書またはMail-In Database文書から他の特定のフィールドを継承するように設定するには、それらのフィールドをここで入力します。フィールド名を区切るには、カンマ(,)、セミコロン(;)、改行のいずれかを使用します。</p> <p>注記: HP EAs-D Usersデータベースでは、Mail Detailレコードの表示、並べ替え、分類を行うカスタムビューを作成し、追加のフィールドを表示できます。</p>
[Comments (コメント)]	文書に関する任意のコメントを入力します。

ワイルドカードパターンの定義

ワイルドカードを使用して、マイニングルールに関連付けるユーザーを定義することができます。

EAs Dominoは、標準的な正規表現構文の一部をサポートし、Lotus NotesとDominoの管理機能で使用されているワイルドカードの規則との互換性のために変更を加えています。

ワイルドカードを使用して、組織のメンバーを次の2通りの方法で定義できます。

- ・ */組織単位名/組織名
- ・ */組織名

[Reference Database (Referenceデータベース)]

Referenceデータベースは、リファレンス文書(アーカイブ対象のメッセージへのポインター)を格納しておく一時的なレポジトリです。このタブでは、マイニングルールに利用するReferenceデータベースの名前と場所を指定します。

[Reference Database]

Reference database is the temporary repository for document before getting formatted and sent to the IAP

Reference Database name <input style="width: 90%;" type="text" value="hprim/hp_riss_minerreferenc.nsf"/>	Reference document type: <input checked="" type="radio"/> Extended <input type="radio"/> Regular
Reference Database Server name <input style="width: 90%;" type="text" value=""/> (leave blank for local)	Preserve References for auditing: <input type="radio"/> Yes <input checked="" type="radio"/> No
Original field(s) to be added to the Reference record <input style="width: 90%;" type="text" value=""/>	

フィールド	説明
[Reference Database name (Referenceデータベースの名前)]	セレクトティブマイニングでは、新しいマイニングルールとReferenceデータベースを作成していない場合、hprim/hp_riss_minerreferenc.nsfを入力します。
[Reference document type (リファレンスドキュメントタイプ)]	<p>[Extended (拡張)]を選択します。</p> <p>拡張リファレンス文書は、リモートマイニングに使用され、メッセージに次のフィールドが追加されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [HP_SessionInfo]: メッセージをリモートでマイニングするサーバーを特定します。セッションサーバー名、APIデータベースレプリカID、マイニング文書UNIDの値を追加します。 [HP_ReferenceInfo]: メッセージへのポインターを格納するReferenceデータベースを特定します。リファレンスサーバー名、ReferenceデータベースレプリカID、リファレンス文書UNIDの値を追加します。 <p>これらのフィールドは、一時処理やトラブルシューティングに必要です。指定された1つのデータベースをマイニングできるのは、1つのHPゲートウェイサーバーのみです。</p>
[Reference Database Server name (leave blank for local) (Referenceデータベースのサーバー名 (空白のまま))]	このフィールドは空白のままにします。
[Preserve References for auditing (監査用参照を保持)]	デフォルトの[No (いいえ)]のままにしておきます。EAs Domino 2.1では監査はサポートされません。
[Original fields to be added to the Reference record (リファレンスレコードに追加する元のフィールド)]	監査に使用しますが、EAs Domino 2.1ではサポートされません。
[Comments (コメント)]	Referenceデータベースに関する任意のコメントを入力します。

[Tombstone Settings (Tombstone設定)]

このタブを使用して、メッセージをアーカイブするときのTombstoneエージェントのアクションを指定します。メールファイルにメッセージ全体を保持する、メールファイルからメッセージを削除する、メッセージをIAP上にアーカイブされたメッセージへのリンク (tombstone) に置き換えるなど、いくつかのアクションを指定できます。

[Tombstone Settings]

Control the creation of tombstones for archived messages, determine size and functionality.

Actions	Style
<ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> None<input type="radio"/> Shrink Body and remove attachments<input type="radio"/> Remove attachments only<input checked="" type="radio"/> Clear body and remove attachments<input type="radio"/> Delete message	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> Text<input type="radio"/> Rich Text <p>[Text : This message has been archived.]</p>
Operate only if document is greater than	0 Bytes
Reference Document Retry interval	10 Days

フィールド	説明
[Actions(アクション)]	<p>メッセージがマイニングされるときアクションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Tombstone化アクション: <ul style="list-style-type: none"> • [Shrink Body and remove attachments (本文を切り取って添付ファイルを削除)]: メッセージからすべての添付ファイルが削除され、メッセージ本文が[Shrink to]フィールドで指定したおよその長さで切り取られて短くなります。 DWA Extensionを実装している場合はこのオプションをお勧めします。 このアクションを選択した場合は、[Shrink to(切り取り後)]フィールドに切り取った後の長さをバイト単位で入力します。 このオプションはストレージの削減に効果的です(一般には、下記の[Clear body and remove attachments(本文と添付ファイルを削除)]オプションによる削減の80~90%)。Dominoサーバーのフルテキストインデックス作成機能が、標準メッセージの先頭から数個のセンテンス用またはパラグラフ用(入力した切り取り後サイズに応じて)に用意されています。DWAまたはNotesクライアント(NotesプラグインがなくLocal Cacheがインストールされている場合)でアーカイブされたメッセージをプレビューすると、切り取り後サイズに応じて、メッセージの一部を表示できます。Notesプラグインをインストールしている場合は、メッセージ全体のプレビューが可能です。 • [Remove attachments only(添付ファイルのみ削除)]: メッセージの添付ファイルが削除されますが、メッセージ本文はそのまま残ります。 このオプションはストレージの削減に効果的です(一般には、下記の[Clear body and remove attachments(本文と添付ファイルを削除)]オプションによる削減の80%)。いずれの場合にもフルテキストインデックス作成機能およびプレビューが用意されています。 • [Clear body and remove attachments(本文と添付ファイルを削除)]: メッセージから本文と添付ファイルの両方が削除されます。 このオプションは最も優れたストレージ削減方法です。ただし、アーカイブされたメッセージの場合、Dominoサーバーでのフルテキストインデックス機能がすべて失われます。また、NotesプラグインがなくLocal Cacheがインストールされている場合、メッセージの内容はDWAまたはNotesクライアントでプレビューできません(Notesプラグインがインストールされている場合は、メッセージの内容をプレビューできます)。 <p>注記: Domino Attached Object Services (DAOS) を使用されるお客様には、添付ファイルのシングルインスタンス化によりストレージを大幅に節約できるメリットがすでに提供されています。複数のメッセージに共通の添付ファイルが含まれている場合、添付ファイルのコピーは1つだけDominoサーバーに保持されます。</p> <p>EAs Dominoのtombstone化オプションにより、DAOS上でストレージがさらに15%削減されることが予測されます。ただし、Domino環境によって結果は大幅に変わる可能性があります。</p> <p>現在、EAs DominoにはDAOSとの互換性に関する既知の問題はありません。DAOSは標準のNotes APIの下層に位置するため、EAs DominoはDAOSが利用されているかどうかを認識しません。</p>

フィールド	説明
[Actions (アクション)]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非Tombstone化アクション: <ul style="list-style-type: none"> ・ [None (なし)]: メッセージ全体がメールファイルに残り、メッセージはtombstone化されません。 ・ [Delete message (メッセージを削除)]: メッセージがメールファイルから削除されます。 (一括アップロードプロセスで検出およびアーカイブされたメッセージはTombstone化中に削除されます。このオプションが選択されていない場合でも、Compliance Archivingではジャーナリングされたメッセージが自動的に削除されます。)
[Style (スタイル)]	<p>tombstone化アクションのいずれかを選択した場合、tombstoneによってメッセージが置き換えられます。[Style (スタイル)]フィールドを使用してtombstoneを書式設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [Text (テキスト)]: ユーザーがtombstone化されたメッセージにLotus Notesのみからアクセスする場合は、このオプションを選択します。この設定を選択すると、標準のtombstoneメッセージをカスタマイズするためのフィールドが表示されます。デフォルトの「This message has been archived.」を使用しない場合は、内容を変更します。 クライアントコンピューターにNotesプラグインがインストールされている場合、オフラインであるかIAPが停止していると、ユーザーにはこのメッセージのみが表示されます。それ以外の場合、Notesクライアントでメッセージを開くと、アーカイブされたメッセージのコピーが自動的に表示されます。プラグインの詳細については、「Windows Notes Clientプラグインの使用」(258ページ)を参照してください。 [Text]を選択した場合、tombstone化されたメッセージは800バイトまで小さくなります。 ・ [Rich Text (リッチ テキスト)]: ユーザーがアーカイブされたメッセージにDWA、またはDWAとLotus Notesを使用してアクセスする場合は、このオプションを選択します。 この設定を選択する前に、Tombstone Prototype文書を設定しておく必要があります。指定されたtombstoneアクションに基づいて、プロトタイプ内に作成された内容でメッセージ本文が置き換えられるか、この内容がメッセージ本文に追加されます。[Prototype]の値は、使用されるTombstone Prototype文書のキーになります「Tombstone Prototype文書の設定」(211ページ)を参照してください。 [Rich Text]を選択した場合、tombstone化されたメッセージは、Tombstone Prototypeキーに応じて、最小でも2~5KBになります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クライアントコンピューターにNotesプラグインがインストールされている場合、オフラインであるかIAPが停止していると、Lotus Notesユーザーには「This message has been archived」というメッセージのみが表示されます。それ以外の場合、Notesでメッセージを開くと、アーカイブされたメッセージのコピーが自動的に表示されます。 ・ tombstone化されたメッセージをDWAで開くユーザーは、IAPからメッセージ全体を取得するためのリンクをクリックします。メッセージが別のウィンドウまたはタブに表示されます。

フィールド	説明
[Operate only if document is greater than x Bytes (Xバイトを超えるドキュメントのみ操作)]	<p>メッセージおよび添付ファイルが特定のサイズを超えた場合のみ、[Actions]フィールドで指定したアクションを実行するようにする場合、そのサイズをバイト単位で入力します。</p> <p>常にアクションを実行する場合は、デフォルトの0のままにしておきます。</p> <p>注記: DWAでアーカイブされたメッセージを表示する場合は、Tombstone Prototypeキーに応じて2000~5000バイトのサイズを指定することをお勧めします。Tombstone項目は、TSKeys 1、2、または3では最小で2~3KB、TSKeys 2.1-xでは3.5~5KBです。</p>
[Reference Document Retry interval (リファレンス文書の再試行間隔)]	<p>Referenceデータベース内の文書やPreProcessデータベース内のリンクされた文書は、一時的なもので、サーバーのクラッシュなどで失われた場合は常に再作成されます。</p> <p>このフィールドを使用して、文書を再作成するまでの時間間隔を設定します。デフォルトは10日です。</p> <p>注記: リファレンスが処理されるまで、対応するメッセージはメールサーバー上に残っています。</p>

[Session Settings (セッション設定)]

[Session Settings (セッション設定)]では、[Archive Strategy (アーカイブ戦略)]を定義し、マイニングセッションがサーバーリソースに及ぼす影響を制御します。

[Reference Limits (リファレンスリミット)]

フィールド	説明
[Do not start the program if 'Reference' database (プログラムを開始しないReferenceデータベースの条件)]	<p>このオプションを有効にした場合、Referenceデータベースが次のいずれかに該当する場合、マイニングが開始されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ n MBより大きい ・ メッセージの数がnより多い <p>このオプションを有効にするには、[Yes]をクリックし、パラメーターの一方または両方に値を入力します。</p> <p>ビューは、[References]に設定したままにします。</p> <p>マイニングが開始されない場合、警告を送信できます。「[Administration Alert (管理アラート)]」(144ページ)を参照してください。</p>

[Session Limits (セッション制限)]

フィールド	説明
[Allow Remote Mining of databases (データベースのリモートマイニングを許可)]	<p>HPゲートウェイサーバーからメールファイルをマイニングできるように、[Yes (はい)]を選択してください。</p>

セッションあたりのアーカイブトラフィックの最大サイズは、トラフィックサイズに関する3つのフィールドで設定します。これらのフィールドのいずれかまたはすべてで、値を設定できます。フィールドで制限を設けない場合は、0と入力します。

フィールド	説明
[Maximum archive traffic size [nb of sent (ユーザー毎のアーカイブの最大トラフィックサイズ[送信済みメッセージ数])] /user]	ユーザーあたりのメッセージ数を使用して値を設定するには、メッセージの数を入力します。
[Maximum archive traffic size/user (ユーザー毎のアーカイブの最大トラフィックサイズ)]	メールボックスのサイズを使用して値を設定するには、ユーザーメールボックスのサイズをMB単位で入力します。
[Maximum archive traffic size/total (アーカイブの最大トラフィック細部(合計))]	合計の値を設定するには、セッションあたりのアーカイブトラフィックの最大サイズをMB単位で入力します。

[Archive Strategy (アーカイブ戦略)]

フィールド	説明
[Archive Strategy (アーカイブ戦略)]	<ul style="list-style-type: none"> デフォルトの[None]のままにしておきます。 <ul style="list-style-type: none"> Compliance Archivingおよび一括アップロードの場合。 Selective Archivingの場合(フォルダーオプションまたはクォータに基づくアーカイブがルールに指定されていないこと)。フォルダーオプションは、[Folders Settings (フォルダー設定)]タブの[Folders/Views to exclude (除外するフォルダ/ビュー)]と[Include selected Folders/Views only (選択したフォルダ/ビューのみを含める)]です。 クォータに対するアーカイブまたはフォルダーオプションを指定した場合は、アーカイブ前にアーカイブの基準を満たすメッセージの並べ替え順序 ([Oldest first]または[Biggest first]) を選択します。
[Do not archive document older than (指定日以前のドキュメントをアーカイブしない)]	カレンダーアイコンをクリックし、日付を入力します。この日付は、[Time Conditions (期間条件)]タブで入力した日付と組み合わせられ、アーカイブの対象となる日付範囲を定義します。たとえば、このフィールドに入力する日付を7年、[Time Conditions (期間条件)]タブで入力する日付を1年にします。その場合、1年前～7年前のメッセージがアーカイブされます。
[All Document view name (すべての文書ビュー名)]	<p>rissminer!によるメッセージ検索のプライマリビューとして特定のビューを指定する場合、ビュー名を入力します。</p> <p>このオプション設定により、Notesのビュー選択式を使用して、アーカイブされるメッセージのタイプを決定できます。</p> <p>この設定を使用する場合、[Folders Settings (フォルダー設定)]タブの[Include selected Folders/Views only (選択したフォルダ/ビューのみを含める)]オプションには入力しないでください。</p>
[Archives based on quota (クォータに基づくアーカイブ)]	<p>ユーザーメールボックスサイズのクォータを設定すると、メールボックスのサイズがクォータを一定の割合(パーセント)で下回るようにメールボックスをマイニングできます。</p> <p>この設定に対して[Yes(はい)]を選択した場合は、[Percentage of the Quota (クォータのパーセント)]フィールドを入力してください。クォータのパーセント(しきい値)を超過すると、EAs Dominoによって検知され、メールボックスのサイズがしきい値を下回るまでメッセージがアーカイブされます。最初にアーカイブされるメッセージは、アーカイブ戦略(古い順または大きい順)によって決められます。</p>

[User Notification (ユーザー通知)]

このタブを使用して、ユーザーメールボックスに送信するメモを作成します。このメッセージは、たとえば「Messages have been archived.」といった、Selective Archivingプロセスのフィードバックを提供します。メッセージ本文に、ユーザーのメールファイルにアーカイブされたメッセージの数と合計サイズが追加されます。

フィールド	説明
[Send notification with Selective Archiving information (Selective Archiving情報とともに通知を送信)]	ユーザー通知を有効または無効にするには、[Enable]または[Disable]をクリックします。
[Subject (件名)]	通知の件名を入力します。
[Message body (本文)]	通知メッセージを入力します。
[Comments (コメント)]	通知に関する任意のコメントを入力します。

[Administration Alert (管理アラート)]

マイニングが開始されない場合、警告を管理者に送信できます。Referenceデータベースが開かず、ルールのセッション設定に対するチェックができない場合、または[Reference Limits (参照制限)]に設定した、いずれかの条件が存在する場合には、この現象が発生することがあります。

警告は、このタブではなく、Global Configuration文書で設定できますが、このタブで有効にされている場合にのみ送信を実行できます。

フィールド	説明
[From (差出人)]	マイニングルールの名前などの値を入力します。
[To (宛先)]	矢印をクリックし、Address Bookから1つまたは複数の名前を選択します (通常、この警告はDominoの管理者に送信します)。
[Subject (件名)]	警告の件名を入力します。たとえば、「Mining did not start.」と入力します。
[Allow Alert to be sent (警告の送信を許可)]	警告を送信できるように、[Yes(はい)]をクリックします。
[Alert Relay Server (アラートリレーサーバー)]	この設定を設定する場合、矢印をクリックし、警告の送信に使用するリレーサーバーを選択します。多くの場合、ユーザーのメールドメイン内のサーバーがリレーサーバーとなります。 [Local (ローカル)] を選択した場合、警告はローカルのHPゲートウェイサーバーに送信されます。多くの場合、[Local (ローカル)]を選択することはありません。 Global Configuration文書またはServer Definition文書にリレーサーバーを定義済みの場合は、このフィールドを空白のままにします。
[Comments (コメント)]	警告に関する任意のコメントを入力します。

4.2 メッセージの前処理

この章では、アーカイブの前に前処理が必要なメッセージについて説明し、前処理の設定に必要な手順を示します。

- ・ [前処理の概要](#) (145ページ)
- ・ [Preprocessing Control文書の設定](#) (146ページ)
- ・ [PreProcessエージェントのスケジュール設定と有効化](#) (151ページ)

前処理の概要

Lotus Notesの一部では、すべてのメッセージデータがそのまま保持される形式でアーカイブできるように、前処理を行う必要があります。

- ・ Lotus Notes PKIおよびS/MIMEの署名付きメッセージと暗号化メッセージ
 - ・ 通知（会議招集）や伝言メモなどのMemo、Reply以外の項目
 - ・ HTMLリンクが破壊されている古いメッセージ
 - ・ ワークフローアプリケーションのカスタムフォームなどのカスタムフォームを含む一部のメッセージ
 - ・ ATT添付ファイルを含むメッセージ
- これらのメッセージの詳細については、「[ATTxxxxxという名前のメッセージ添付ファイル](#)」(277ページ)を参照してください。

前処理は、PreProcessデータベースのEncapsulateエージェントによって実行されます。Selective Archiving用、Compliance Archiving用、一括アップロード用に1つずつ、3つのPreProcessデータベースが各HPゲートウェイサーバーにインストールされます。PreProcessデータベースはそれぞれ対応するReferenceデータベースとペアになり、アーカイブ対象のメッセージを処理します。

前処理の間に、メッセージのコピーがカプセル化されます。つまり、エンキャプシュレーションデータベースに入れられて、元のメッセージに添付されます。さらに、メッセージと添付ファイルはIAPにルーティングされます。

カプセル化されたメッセージをLotus NotesまたはDWAで取得するか、またはWebインターフェイスを使用してIAPからエクスポートする場合は、他のメッセージと同じように開くことができます。ただし、ユーザーがカプセル化されたメッセージのコピーをWebインターフェイスから自分のメールファイルに送信する場合（Mail-To-Meメッセージ）、メッセージはまだエンキャプシュレーションデータベース内に存在しています。これらのメッセージを開く方法については、「[Lotus Notesでカプセル化されたメッセージを開く](#)」(264ページ)を参照してください。

メッセージをカプセル化するときに追加の処理が必要とされるので、IAPのストレージに大きな負荷が発生します。メッセージがIAPに保存される時点では、カプセル化された各メッセージのサイズは8KBです。

Preprocessing Control文書の設定

Preprocessing Control文書は、アーカイブ時に使用されるPreProcessデータベースごとに設定する必要があります。この文書では、メッセージの前処理のためにEncapsulateエージェントが使用する設定を定義します。HP EAs-D APIデータベースには、Selective Archiving用、ジャーナリング (Compliance Archiving) 用、一括アップロード用に3つのデフォルト文書が作成されています。

Preprocessing Control文書を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、[Files (ファイル)]タブをクリックし、HP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. メインビューの[PreProcessing Controls (前処理制御)]で、Compliance Archiving (ジャーナリング)、Selective Archiving、または一括アップロード用のデフォルト文書をダブルクリックして開きます。
3. アーカイブのタイプに対応するデフォルトの前処理設定かどうかを指定します。
 - ・ [\[Databases Location \(データベースロケーション\)\]](#)のリストにある特定のサーバーのみに文書が適用される場合、[No (いいえ)]をクリックします。
 - ・ [\[Databases Location \(データベースロケーション\)\]](#)タブにファイルパスが表示されるHPゲートウェイサーバーに文書が適用される場合は、[Yes (はい)]をクリックします。
4. 各タブを次のように設定します。
 - ・ 「[\[Databases Location \(データベースロケーション\)\]](#)」(147ページ)
 - ・ 「[\[Encapsulation Settings \(カプセル化設定\)\]](#)」(148ページ)
 - ・ 「[\[Agent Log Settings \(エージェント ログ設定\)\]](#)」(149ページ)
 - ・ 「[\[Execution Settings \(実行設定\)\]](#)」(150ページ)
 - ・ 「[\[Logging \(ログ機能\)\]](#)」(151ページ)
5. Preprocessing Control文書を有効にする準備ができたなら、[Status (ステータス)]で[Enable (有効)]をクリックします。
6. [File (ファイル)]、[Save (保存)]の順に選択し、文書を保存します。

① 重要:

新しいPreprocessing Control文書を作成するには、メインビューで[Edit (編集)]、[Copy (コピー)]と、[Edit (編集)]、[Paste (貼り付け)]を使用して、既存の文書のいずれかをコピーします。これによって、エンキャプシュレーションデータベースが確実に新しい文書にコピーされます。[Create (作成)]メニューは使用しないでください。

[Databases Location(データベースロケーション)]

Is default: No Yes Status: Enable

Databases Location | Encapsulation Settings | Agent Log Settings | Execution Settings | Logging

[Databases Location]

Domino Server(s) HPGateway1\hparchive
HPGateway2\hparchive

PreProcess Database hprim\hp_preproc_miner.nsf

Reference Database hprim\hp_riss_minerreferenc.nsf

フィールド	説明
[Domino Server(s)(Dominoサーバ)]	<ul style="list-style-type: none"> アーカイブタイプに対応するデフォルトのPreprocessing Control文書の場合 ([Is default (デフォルト)]で[Yes(はい)]を選択した場合)、このフィールドを編集しないでください。 特定のHPゲートウェイサーバーのみに文書が適用される場合、矢印をクリックして、PreProcessデータベースとReferenceデータベースがインストールされたゲートウェイサーバーの名前を選択します。
[PreProcess Database (PreProcessデータベース)]	<p>デフォルトのPreProcessデータベースのパスとファイル名は次のようにプリセットされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> hprim\hp_preproc_miner.nsf (Selective Archivingの場合) hprim\hp_preproc_journal.nsf (Compliance Archivingの場合) hprim\hp_preproc_blk.nsf (一括アップロードの場合)
[Reference Database (Referenceデータベース)]	<p>PreProcessデータベースはそれぞれ対応するReferenceデータベースを保有します。デフォルトのReferenceデータベースのパスとファイル名は次のようにプリセットされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> hprim\hp_riss_minerreferenc.nsf (Selective Archivingの場合) hprim\hp_riss_journalreferenc.nsf (Compliance Archivingの場合) hprim\hp_riss_blkupreferenc.nsf (一括アップロードの場合)

[Encapsulation Settings(カプセル化設定)]

Databases Location | Encapsulation Settings | Agent Log Settings | Execution Settings | Logging |

[Encapsulation Settings]

Encapsulation Database  encap001.nsf

Temporary Work Area  C:\RIM_TEMP\MNR\

Note: use OS format for filepath seperators - "\" for Windows and "/" for Unix
THIS DIRECTORY MUST EXIST ON THE SERVER.

CleanUp Purge Interval  2 hours

フィールド	説明
[Encapsulation Database(エンキャプシュレーションデータベース)]	<p>このフィールドの編集はお勧めしません。</p> <p>前処理でメッセージのコピーが空のエンキャプシュレーションデータベースに入れられます。次にこのデータベースの名前が変更され(たとえば、encap001.nsf、encap002.nsf)、添付ファイルとしてメッセージに追加されます。</p> <p>このフィールドの空のエンキャプシュレーションデータベースを置き換えることはできますが、ファイル名は同じままにする必要があり、データを含む置き換えはできません。フォームやビューの追加など、データベースを変更すると、IAP内のストレージサイズが大幅に増加します。エンキャプシュレーションデータベースの変更によって提供される機能はサポートされません。</p>

フィールド	説明
[Temporary Work Area(一次作業領域)]	<p>このフィールドには、メッセージがカプセル化されている間にエンキャプレーションデータベースを一時的に保存するHPゲートウェイサーバーのディレクトリが表示されます。</p> <p>重要! 作業領域用には必ず新しいディレクトリを作成し、次の条件を満たしていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイル名の衝突を避けるために、Compliance Archiving用、Selective Archiving用、一括アップロード用のPreProcessデータベースにそれぞれ別個のディレクトリまたはサブディレクトリがあることを確認します。 オペレーティングシステムの一時的ディレクトリを作業領域に使用したり、オペレーティングシステムの一時的ディレクトリ内にサブディレクトリを作成することはできません。 作業領域は、ユーザーのメールファイルを保持しているドライブ以外のドライブを参照するようにします。 セキュリティ上の理由から、Dominoデータディレクトリや、Notesクライアントまたはブラウザユーザーに表示されるサブディレクトリやディレクトリのリンク領域内に、作業領域を格納しないようにします。たとえば、D:\Lotus\Domino\Data\RIM_TEMP (これがDominoデータルートへのパスである場合) とは入力しないでください。このディレクトリをネットワーク共有しないでください。 <p>このタブで特定されるディレクトリを作成するには、Windows Remote Desktop、Telnet、またはその他の端末ウィンドウを使用してサーバーに接続し、適切なコマンドを実行します。</p> <p>たとえば、WindowsベースのDominoサーバーで、次のように入力します。</p> <pre>C: CD\ MKDIR RIM_TEMP CD RIM_TEMP MKDIR MNR</pre> <p>サーバーのセキュリティ設定で、作成したディレクトリへのアクセスが許可されていることを確認します。UNIXベースのサーバーでは、このディレクトリの所有者、グループ、アクセス権を、サーバーのデータルートディレクトリの所有者、グループ、アクセス権と同じにします。これは通常、次のコマンドによって実行できます。</p> <pre>chown domino:domino RIM_TEMP chmod 755 RIM_TEMP</pre>
[CleanUp Purge Interval(データの削除間隔)]	<p>作業領域の一時的ファイルは、正常に処理が完了した後、自動的に削除されます。このフィールドでは削除までの時間間隔を設定します。</p> <p>デフォルトの2時間のままにしておきます。</p>

[Agent Log Settings(エージェント ログ設定)]

フィールド	説明
[Log Path and Filename(ログパスとファイル名)]	EAs Dominoログを次のデフォルトのままにします。hprim\hp_riss-log.nsf
[Encapsulate Log ID(ログIDのカプセル化)]	次のデフォルトのままにします。Encapsulate

フィールド	説明
[CleanUp Log ID(ログIDの削除)]	次のデフォルトのままにします。Cleanup

[Execution Settings(実行設定)]

Databases Location Encapsulation Settings Agent Log Settings Execution Settings Logging	
[Execution Settings]	
Maximum Session Size	『500M』 (*Size*)
Maximum Documents to Encapsulate	『3000』 (*Number*)
Perform Validation	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
Maximum number of retries if validation fail:	『3』 (*Number*)
Always Preserve File Attachments	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No (Only used if message Body must be converted from Rich Text to Text.)

フィールド	説明
[Maximum Session Size(最大セッションサイズ)]	Encapsulateエージェントが1つのセッションで処理できる最大データ量。デフォルトは500Mで、ほとんどの環境に適合します。
[Maximum Documents to Encapsulate(カプセル化する最大ドキュメント)]	1つのセッション内でEncapsulateエージェントによって処理可能なメッセージの最大数。デフォルトは3000(文書数)で、ほとんどの環境に適合します。
[Perform validation(検証の実行)]	有効なエンキャプシュレーションデータベースがメッセージに添付されるようにするには、デフォルトの[Yes(はい)]のままにしておきます。
[Maximum number of retries if validation fails(検証失敗時の最大再試行回数)]	検証再試行回数を入力します。デフォルトは3回です。
[Always Preserve File Attachments(添付ファイルを常に保持)]	デフォルトの[Yes(はい)]のままにしておきます。 メッセージの[Body]フィールド内のRich Textによる問題が存在する場合、カプセル化が必要になることがあります。問題の解決には、本文がRTFからテキストに変換されることで、[Body]フィールドが書き換えられます。 変換中、添付ファイルは一時的に切り離され、エンキャプシュレーションデータベースで使用される一時作業領域と同じ場所に格納されます。 添付ファイルを保持し、メッセージに再添付できるようにするために、[Yes(はい)]を選択します。

[Logging(ログ機能)]

デバッグオプションは、メッセージの前処理中に発生した問題の診断に役立てるため、HPのサポート担当者によって使用されます。

通常の操作では、このオプションは無効にしておきます。HPのサポート担当者からデバッグを有効にする指示を受けない限り、[Debug Level]を[None]に設定しておいてください。

PreProcessエージェントのスケジュール設定と有効化

PreProcessデータベースのEncapsulateエージェントは、Preprocessing Control文書の設定値を使用してメッセージのカプセル化を実行します。Remove Obsolete PreProcess Documentエージェントは、データベース内の古い文書を削除します。

これらのエージェントは、アーカイブに使用するそれぞれのPreProcessデータベース内でスケジュールを設定し、有効にする必要があります。

1. Designerクライアントで、PreProcessデータベースを開きます。
 - a. [File (ファイル)]メニューで、[Application (アプリケーション)]、[Open (開く)]の順に選択します。
 - b. PreProcessデータベースがインストールされているサーバーを選択します。
 - c. hprimフォルダーを参照し、該当データベースまで下方向へスクロールします。
 - ・ Selective Archivingの場合: HP EAs-D PreProcess (Miner) (hp_preproc_miner.nsf)
 - ・ ジャーナリングの場合: HP EAs-D PreProcess (Journal) (hp_preproc_journal.nsf)
 - ・ 一括アップロードの場合: HP EAs-D PreProcess (Blkupd) (hp_preproc_blk.nsf)
 - d. [開く(O)]をクリックします。
2. Applications (アプリケーション)ビューで、[Code (コード)]、[Agents (エージェント)]の順に選択します。
3. Encapsulateエージェントをダブルクリックして開きます。警告メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

エージェントの[プロパティ]が表示されます。
4. [Trigger (トリガー)]が[On schedule (スケジュール)]に、[Target (対象)]が[All documents in database (データベースのすべての文書)]に設定されていることを確認します。
5. 次のようにスケジュールを設定します。
 - a. [Schedule (スケジュール)]ボタンの横にあるボックスの中の矢印をクリックし、パラメーターを選択します。

ジャーナルPreProcessデータベースのEncapsulateエージェントの場合、スケジュールを1日1回以上に設定する必要があります。
 - b. [Schedule (スケジュール)]をクリックし、要件に合わせて実行時刻を設定します。

ジャーナルPreProcessデータベースのEncapsulateエージェントは、1日中、頻繁に実行する必要があります。時刻は20分以上空けてください。
 - c. [Run on (実行場所)]ボックスに、正しいサーバーが表示されていることを確認します。
 - d. [OK]をクリックします。
6. [Yes (はい)]をクリックして、エージェントのプロパティを保存します。
7. エージェントの[Properties (プロパティ)]とエージェントを閉じ、[Enable (有効)]をクリックします。

8. Remove Obsolete PreProcess Documentエージェントについてもこの手順を繰り返します。
1日1回の実行のみで構いません。
9. 他のサーバー上でエージェントを有効にするために、手順1～8を繰り返します。
PreProcessデータベースは複製されないので、アーカイブに使用する各メールサーバー上でエージェントをスケジュール設定し、有効化する必要があります。

4.3 Archiveエージェントの設定

ここでは、アーカイブプロセスにおけるHP EAs Dominoエージェントの役割について説明します。

- ・ [Profileエージェントの操作](#) (153ページ)
- ・ [他のHP EAs-D Userエージェントの有効化](#) (155ページ)
- ・ [PreProcessエージェントの有効化](#) (157ページ)
- ・ [Get Held Messagesの設定](#) (158ページ)
- ・ [Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化](#) (158ページ)

注記:

HPゲートウェイサーバーで実行するために適切な署名がエージェントに使用されていることを必ず確認してください。エージェントの最終変更ユーザーIDが、サーバーアクセスでエージェントに付けられるIDになります。

Profileエージェントの操作

HP EAs-D Usersデータベース (`hprim\hp_rissuser.nsf`) には、マイニング対象であるメールファイルのEAs Dominoユーザーに関するレコードが格納されています。ユーザーをマイニングルールに関連付け、Usersデータベース内のHP EAs-D Profileエージェントを実行すると、そのユーザーがデータベースに追加されます。

注記:

複数のHPゲートウェイサーバーがある場合は、Profileエージェントを1台のサーバーだけで実行します。

Mail Detail文書の表示

マイニングルールに対してProfileエージェントが実行されると、ルールのユーザーメンバーシップ設定をキャンセルし、ユーザーごとにMail Detail文書を管理します。Mail Detail文書には、Domino DirectoryにあるPerson文書またはMail-Inデータベース文書の複数のフィールドから値がインポートされます。

Domino Directoryとの同期中に、Profileエージェントは変更結果を使用して、Mail Detailレコードを更新します。Profileエージェントは、最終更新日と、ユーザーのメールファイルのサイズなど、他の情報も更新します。

- ・ [Database Details (データベースの詳細)]タブには、ユーザー名、メールデータベース名、データベースの配置されているメールサーバー、ユーザーまたはMail-Inデータベースが関連付けられているマイニングルールが記録されます。

 注記:

Mail Detailレコードが作成された時点で、[Mining Rule(s) Assigned (割り当てられたマイニングルール)]フィールドには、ユーザーが関連付けられている1つ以上のマイニングルールの名前が格納されています。ルールの[User Membership(ユーザーメンバシップ)]設定が変更されると、ユーザーとルールとの関連付けは解除され、[Status(ステータス)]フィールドは[No Profile Assigned (割り当てプロファイルなし)]という表示に変更されます。

Mail Details

CN=Barney Rubble/O= Org1

Database Details	Database Activity	Activity Log	Notes Archive Settings
------------------	-------------------	--------------	------------------------

[Database Details]

First Name	Barney
Middle Initial	
Last Name	Rubble
Full Name	Barney Rubble/Org1
Home Server	Server1/Org1
Database Filepath	mail\barney
Database used for Journaling	<input checked="" type="radio"/> No <input type="radio"/> Yes
Mining Rule(s) Assigned	Selective Archiving
Status	<input checked="" type="radio"/> Enable <input type="radio"/> Disable <input type="radio"/> No Profile Assigned

- [Database Activity (データベースアクティビティ)]タブでは、メールデータベースのタイトル、ベースとなっているメールテンプレート、メールデータベースの作成日、レプリカID、Mail DetailレコードがPerson文書またはMail-In文書と同期した最終同期日、メールデータベースの最大サイズ設定、メールデータベースの現在のサイズが表示されます。

Database Details	Database Activity	Activity Log	Notes Archive Settings
------------------	-------------------	--------------	------------------------

[Database Activity]

Database Title	BarneyR		
Database Template	Mail (R8.5)		
Creation Date	01/03/2010		
Replica ID	6525774A002F9		
Last Read	0 doc	Last Read Date	
Last Write	0 doc	Last Write Date	
Max Size	194304 MB	Logical size	0 MB
Current Size	53.75 MB	Percentage used	0 MB

- [Activity Log(アクティビティログ)]タブでは、ユーザーデータベースのアーカイブ動作に関する概要が提供され、アーカイブの日時、アーカイブされたメッセージの数、合計サイズが表示されます。
- [Notes Archive Settings (Notesアーカイブ設定)]タブでは、IAPに対して送信されたネイティブNotesアーカイブデータベースが表示されます。情報には、アーカイブファイルの名前、アーカイブファイルが存在するサーバー、ベースとなるメールテンプレート、ファイルの作成日、MB単位での現在のサイズが含まれます。

Profileエージェントのスケジュール設定

Profileエージェントは、HP EAs-D Usersデータベースにデータを格納できるように、スケジュール設定して有効にする必要があります。UsersデータベースはすべてのHPゲートウェイサーバーに複製されます。

ProfileエージェントはSelective Archivingの場合にのみ実行されます。Compliance Archiving (ジャーナルのMail Detailレコードは手動で作成します) や一括アップロード (Mail Detailレコードは一括アップロード実行可能ファイルで作成されます) には使用されません。

Profileエージェントのスケジュールを設定し、有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. Designerクライアントで、任意のHPゲートウェイサーバーのhprimフォルダーの中にあるHP EAs-D Usersデータベースを開きます。
2. Applications (アプリケーション) ビューで、[Code (コード)]、[Agents (エージェント)]の順に選択します。
3. [profileAgent]をダブルクリックします。警告が表示されるので、[OK]をクリックします。
エージェントの[プロパティ]が表示されます。
4. [Trigger (トリガー)]が[On Schedule (スケジュール)]に、[Target (対象)]が[All documents in database (データベースのすべての文書)]に設定されていることを確認します。
5. 次のようにスケジュールを設定します。
 - a. [Schedule (スケジュール)]ボタンの横にあるボックスの中の矢印をクリックし、パラメーターを選択します。
 - b. [Schedule (スケジュール)]をクリックし、実行時刻を設定します。
 - c. [Run on (実行場所)]ボックスで、HPゲートウェイサーバーを選択します。エージェントを実行するのは1つのゲートウェイだけです。
 - d. [OK]をクリックします。
6. エージェントの[Properties (プロパティ)]を閉じ、[Enable (有効)]をクリックしてエージェントを有効にします。

注記:

EAs Dominoソフトウェアの設定を行った後、サーバーコンソールを開いて次のように入力することにより、ProfileエージェントがEAs-D Usersデータベースにデータを追加します。

```
tel amgr run "hprim\hp_rissuser.nsf" 'profileAgent'
```

他のHP EAs-D Userエージェントの有効化

Profileエージェントを有効にするほかに、次の各エージェントのスケジュールを設定し、有効にしてください。これらのエージェントに対していくつかの値を変更することもできます。

Statistics User Activity Alertエージェント

特定の日数以上にわたってユーザーのメールファイルがマイニングされていない場合は、ユーザーのMail Detailレコードにフラグが付けられ、[Mail File By User Activity - Alert]ビューに表示されます。

エージェントの値の編集

デフォルトでは、メールファイルには15日を過ぎるとフラグが付けられます。日数は以下の手順で変更できます。

1. Domino Administratorクライアントで、HP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. EAs-D APIメインビューの左メニューで[User Configuration (ユーザー設定)]をクリックします。
3. [User Configuration (ユーザー設定)]ビューの左メニューで[Global Settings (全般設定)]をクリックします。
4. [AgentParameters]ビューで、[Statistics User Activity Alert (ユーザー アクティビティ アラートの統計)]エントリーをダブルクリックします。

エージェントのParameter文書が表示されます。

5. [Arg1: How many days (日数) -> "inactive" mailfile ("非アクティブな"メールファイル)]の[Value (値)]フィールドをダブルクリックし、日数を変更します。

この日数の間メールファイルのマイニングが実行されていない場合は、ユーザーのMail Detailsレコードにフラグが付けられます。

[Arg2]の値は変更しないでください。

6. [File (ファイル)], [Save (保存)]の順に選択し、文書を閉じます。

エージェントのスケジュール設定

Designerクライアントを使用してエージェントのスケジュール設定と有効化を行うには、以下の手順に従ってください。

1. hprimフォルダーにHP EAs-D Usersデータベースがある任意のHPゲートウェイサーバーで、そのデータベースを開きます。
2. Applications (アプリケーション)ビューで、[Code (コード)], [Agents (エージェント)]の順に選択します。
3. [StatsUser Activity Alert]をダブルクリックし、警告が表示されるので[OK]をクリックします。
4. エージェントの[Properties (プロパティ)]で、[Trigger (トリガー)]が[On schedule (スケジュール)]に、[Target (対象)]が[All documents in database (データベースのすべての文書)]に設定されていることを確認します。
5. スケジュールを設定し、[Run on (実行場所)]ボックスで、[-Any Server - (すべてのサーバー)]を選択します。
6. [OK]をクリックします。
7. エージェントの[Properties (プロパティ)]を閉じ、[Yes (はい)]をクリックして変更を保存し、[Enable (有効)]をクリックしてエージェントを有効にします。

Purge Not Synchronized person document エージェント

このエージェントは、Domino Directoryから削除されたPerson文書に対応するユーザーのMail Detail文書を削除します。

デフォルトでは、Domino Directoryとの最後の同期から20日間Mail Detail文書は維持されます。日数は以下の手順で変更できます。

1. Domino Administratorクライアントで、HP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. EAs-D APIメインビューの左メニューで[User Configuration (ユーザー設定)]をクリックします。

3. [User Configuration (ユーザー設定)]ビューの左メニューで[Global Settings (全般設定)]をクリックします。
4. [AgentParameters]ビューで、[Purge Not Synchronized 'person' document]エントリーをダブルクリックします。
エージェントのParameter文書が表示されます。
5. [Arg1: How many days to be kept (保持する日数)]の中で、[Value (値)]フィールドをダブルクリックし、日数を変更します。
この日数の間にメールファイルが同期されていない場合は、ユーザーのMail Detailレコードが削除されます。
6. [File (ファイル)], [Save (保存)]の順に選択し、文書を閉じます。
7. エージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[エージェントのスケジュール設定](#)」(156ページ) の手順に従います。

Purge Selective Archive Logエージェント

HP EAs Dominoは、動作ログを各ユーザーのMail Detailレコードに保存します。ログの中に保存できるテキストの最大量は、Purge Selective Archive Logエージェントで設定します。デフォルト値は、20行のテキストです。

この値を編集して小さくすることはできますが、大きくしないでください。Lotus Notesのレコードが64KBより多くのテキストを保存した場合はエラーが発生し、次のメッセージが表示されます。

```
Notes error:Field is too large or View's column selection formulas are too large.
```

Notesのエラー条件が成立することを防止するために、このエージェントのスケジュールを設定し、有効にする必要があります。

動作ログの中に保存されるテキストの量を減らすには、以下の手順に従ってください。

1. EAs-D APIメインビューの左メニューで[User Configuration (ユーザー設定)]をクリックします。
2. [User Configuration (ユーザー設定)]ビューの左メニューで[Global Settings (全般設定)]をクリックします。
3. [AgentParameters]ビューで、[Purge Stats Selective Archive Log]エントリーをダブルクリックします。
エージェントのParameter文書が表示されます。
4. [Arg1: Number of lines max (最大ライン数)]の[Value (値)]フィールドを編集し、行数を減らします。
有効な値は0~20です。値を0に設定した場合は、このエージェントを実行した時点で、すべてのログエントリーが削除されます。
5. 上のメニューから[File (ファイル)], [Save (保存)]の順に選択し、文書を閉じます。
6. エージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[エージェントのスケジュール設定](#)」(156ページ) の手順に従います。

PreProcessエージェントの有効化

手順の実行については、[PreProcessエージェントのスケジュール設定と有効化](#) (151ページ) を参照してください。

Get Held Messagesの設定

Get Held Messagesは、HoldまたはDeadの状態になっているmail.boxメッセージを回復するので、それらを使用してIAPとEAs Dominoの診断を行うことができます。

このアプリケーションは、mail.boxからHeldメッセージを回復した後、メッセージをルーターに数回再送信し、できる限り配信しようとしています。それでもメッセージを配信できない場合は、自動で再処理が行われます。再処理後にGet Held Messagesに残ったメッセージは、HPサポートに送信されて診断を受けます。このデータベースを使用する手順については、「[Heldメッセージの処理](#)」(267ページ)を参照してください。

各HPゲートウェイサーバーに作成および設定するGet Held Messagesデータベースは固有のバージョンにする必要があります。

1. 「[新しいEAs Dominoデータベースの作成](#)」(311ページ)の手順を使用して、データベースを作成します。

HP EAs-D GHMテンプレート (`hp_getheldmsgs.ntf`)を使用し、HP EAs-D Get Held Msgデータベースに名前を付けます (`hp_GetHeldMsgs.nsf`)。データベースは`hprim`フォルダーに置いてください。

2. Domino Designerクライアントで、次の手順を実行します。

- a. Get Held Messagesデータベースを開きます。
- b. [Code (コード)], [Agents (エージェント)]を選択し、[Get Held Messages]エージェントを開きます。
- c. エージェントの[Properties (プロパティ)]で[schedule (スケジュール)]をクリックします。
デフォルトでは、エージェントは4時間おきに実行されます。たとえば、テストなどで頻繁に実行するようにスケジュールを変更できます。
- d. [Run on (実行場所)]ボックスでHPゲートウェイサーバーを選択します。
- e. 変更を保存してエージェントを閉じます。
- f. Get Held Messagesエージェントを[Enable (有効)]にします。

3. Domino Administratorクライアントで、Dominoデータディレクトリの`hprim`フォルダーに移動し、HP EAs-D Get Held Msgを開きます。

4. データベースの[Setup Controls (セットアップ制御)]ビューを開きます。

5. 各セットアップ制御をダブルクリックし、必要に応じてインストールに対応するように調整した後、データベースを保存します。

それぞれの制御には使用方法の説明が表示されます。

6. データベースを保存します。

7. 以下のことを確認してください。

- ・ データベースのACLが設定されているか。
- ・ データベースは署名されているか。

Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化

電子メールメッセージは、関連付けられたマイニングプロファイルにより、`rissminer`プログラムのアーカイブの対象になります。`rissminer`が実行されると、適切なReferenceデータベース (Selective Archiving用、Compliance Archiving用、または一括アップロード用) に対象のメッセージへの参照が作成されます。たとえば、`rissminer`プログラムおよびSelective Archivingプロファイルによってメッセージが特定されると、メッセージへの参照がHP EAs-D Reference (Miner) データベースに作成されます。

ReferenceデータベースのArchiveエージェントは参照されたメッセージをIAPに送信します。メッセージの取り込みが完了すると、Tombstoneエージェントがマイニングルールの[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブに設定されているアクションを実行します。

変換または取り込みの失敗によりアーカイブされないメッセージは、Dominoルーターから取得されてHP EAs-D Get Held Messagesデータベースに格納され、ReferenceデータベースのReference Cleanupエージェントにより再処理が実行されます。(メッセージの再処理については、「[Heldメッセージの処理](#)」(267ページ)を参照してください)。

Archive、Tombstone、およびReference Cleanupエージェントは、各HPゲートウェイサーバーで、使用するReferenceデータベースごとにスケジュールを設定し、有効化する必要があります。

1. Designerクライアントで、Referenceデータベースを開きます。
 - a. [File (ファイル)]メニューで、[Application (アプリケーション)]、[Open (開く)]の順に選択します。
 - b. EAs Dominoデータベースのインストールされているサーバーを選択します。
 - c. hprimフォルダーを参照し、該当するReferenceデータベースまで下方向へスクロールします。
 - ・ Selective Archivingの場合: HP EAs-D Reference (Miner) (hp_riss_minerreferenc.nsf)
 - ・ ジャーナリングの場合: HP EAs-D Reference (Journal) (hp_riss_journalreferenc.nsf)
 - ・ 一括アップロードの場合: HP EAs-D Reference (Blkupd) (hp_riss_blkupdreferenc.nsf)
 - d. [開く(O)]をクリックします。
2. Applications (アプリケーション)ビューで、[Code (コード)]、[Agent (エージェント)]の順に選択します。
3. エージェント名をダブルクリックし、警告が表示されるので[OK]をクリックします。
エージェントの[Properties (プロパティ)]が表示されます。
4. [Trigger (トリガー)]が[On schedule (スケジュール)]に、[Target (対象)]が[All new & modified documents (データベースのすべての文書)]に設定されていることを確認します。
5. 次のようにスケジュールを設定します。
 - a. [Schedule (スケジュール)]をクリックし、実行時刻を設定します。
 - ・ デフォルトでは、ArchiveエージェントとTombstoneエージェントは1時間おきに実行するように設定されています。
Selective Archivingの場合は、間隔を空けてエージェントを実行することもできます。
Compliance Archivingの場合は、頻繁にエージェントを実行することもできます。その場合、時刻は20分以上空けてください。
スケジュールがrissminerプログラム文書に設定されたスケジュールと組み合わせて動作していることを確認してください。「[アーカイブジョブのスケジュール設定](#)」(161ページ)を参照してください。
 - ・ Reference Cleanupエージェントは、1日1回の実行のみで構いません。デフォルトの設定は毎日1:00 a.mです。
 - b. [Run on (実行場所)]ボックスに、サーバー名が表示されていることを確認します。
 - c. [OK]をクリックします。
6. 変更を加えた後、[Properties (プロパティ)]ダイアログボックスを閉じます。[Esc]キーを押してエージェントを保存して閉じ、変更結果を保存するかどうか表示されたら[はい(Y)]をクリックします。
7. [Enable (有効)]をクリックし、各エージェントを有効にします。
8. アーカイブに使用するReferenceデータベースおよびサーバーごとに手順1~7を繰り返します。

4.4 アーカイブジョブの実行

- ・ [アーカイブジョブのスケジュール設定](#) (161ページ)
- ・ [アーカイブジョブの手動実行](#) (163ページ)
- ・ [リファレンス文書の表示](#) (166ページ)

アーカイブジョブのスケジュール設定

各マイニングルールには、スケジュール設定と有効化が必要なプログラム文書が関連付けられています。このプログラム文書はrissminerプログラムの起動に使用します。マイニングルールに設定されたプロファイル名を使用し、コマンド-k<profile name>で実行します。rissminerプログラムは、マイニングルールの[User Membership(ユーザーメンバシップ)]タブで選択したユーザーのメールファイルに対して動作し、各ユーザーメールファイルでルールのアーカイブ基準を満たすメッセージがあるかどうかを調べます。

一般に、Selective Archivingルールは毎日1回または毎週1回実行しますが、Compliance Archivingルールは1日中実行します。

次のいずれかが発生した後、マイニングジョブが自動的に実行されます。

- ・ マイニングルールを作成し、有効にする
- ・ Profileエージェントのスケジュールを設定し、有効にする
- ・ Preprocessing Control文書を設定する
- ・ PreProcessエージェントとArchiveエージェントのスケジュールを設定し、有効にする
- ・ rissminerプログラム文書の中でジョブのスケジュールを設定する

rissminerプログラムを手動で実行する(たとえば、テスト用など)方法については、「[アーカイブジョブの手動実行](#)」(163ページ)を参照してください。

マイニングジョブのスケジュールを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D APIメインビューで、編集対象のマイニングルールを選択して開きます。
2. マイニングルール文書の左上隅にある[Schedule Job]をクリックします。



rissminerプログラム文書が表示されます。

3. [Basics (基本)]タブのフィールドへ入力します。

Basics		Schedule	
Program name:	rissminer	Enabled/disabled:	Enabled
Command line:	-kSelective	Run at times:	04:00 AM each day
Server to run on:	Team Server 2/HP EAs	Repeat interval of:	0 minutes
Comments:	HP RIM for Domino / Selective Archiving - default profile: Selective	Days of week:	Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat

フィールド	説明
[基本情報]	
[Program name (プログラム名)]	次のデフォルト値のままにします。rissminer
[Command line (コマンドライン)]	コマンドラインスイッチ-kと、マイニングプロファイルの名前がコマンドによって自動で取得されます。 注記: 1つのHPゲートウェイサーバーで複数のrissminerインスタンスのスケジュールを設定する場合、処理エラーを防止するためにコマンドに-nスイッチを追加することをお勧めします。 たとえば、-kSelective -nとなります。
[Server to run on (実行するサーバー)]	デフォルトは、現在のHPゲートウェイサーバーです。ゲートウェイサーバーを変更する必要がある場合は、矢印をクリックし、他のサーバーを選択します。
[Comments (コメント)]	デフォルト値のままにします。
[スケジュール]	
[Enabled/Disabled (有効/無効)]	矢印をクリックし、[有効]を選択してプログラム文書を有効にします。
[Run at times (実行時間)]	プログラムを実行する時間帯を入力します。 時間帯と反復間隔は、実行するアーカイブジョブのタイプによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> Selective Archivingの場合は、特定の時刻を設定し、1日に1回プログラムを実行するとよいでしょう。特定の時刻を指定する場合は、反復間隔を0に設定する必要があります。 Compliance Archivingの場合は、プログラムを1日中実行します。時間帯として「12:00 AM-11:59 PM」と入力し、短い反復間隔（10分以上）を指定します。
[Repeat interval of (繰り返し間隔)]	マイニングセッションの反復間隔を分単位で入力します。マイニングプロセスの所要時間を調べるためにテストをする必要があります。所要時間は、メールファイルの数やメッセージのサイズによって異なります。 繰り返し間隔は10分より短くしないでください。 [Run at times (実行時間)]フィールドで特定の時刻を入力した場合は、このフィールドを0に設定してください。
[Days of week (曜日)]	矢印をクリックし、ジョブを実行する各曜日の左側にあるチェックボックスを選択します。 Compliance Archivingの場合は、必ずすべての曜日を選択します。 完了したら[OK]をクリックします。

4. (オプション) [Administration (管理)]タブをクリックし、設定を完了させます。

フィールド	説明
[Owners (所有者)]	矢印をクリックし、マイニングタスクの追加の所有者を選択します。
[Administrators (管理者)]	矢印をクリックし、マイニングタスクの追加の管理者を選択します。
[Last updated (最終更新)]	変更しないでください。参照のみです。

5. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックして、プログラム文書を保存します。

追加のプログラム文書

rissminerプログラム文書は、マイニングルールごとに作成する必要があります。マイニングルールを有効にする各サーバーでプログラム文書を設定してください。

1. Domino Administratorクライアントでサーバーを開きます。
2. [Configuration (設定)]タブをクリックして、[Server (サーバー)]を展開し、サーバー文書を開きます。
3. [Create (作成)]、[Server (サーバー)]、[Program (プログラム)]の順に選択します。
4. 前述のアーカイブジョブのスケジュール設定の手順3~5に従って、プログラム文書のフィールドに入力します。

アーカイブジョブの手動実行

サーバーコンソールで次のコマンドを入力し、マイニングプログラムとMiningエージェントを即座に実行することもできます。

1. rissminerマイニングプログラムを実行します。

```
load rissminer -k<profile>
```

ここで、<profile>は、マイニングルールの名前です。

例: `load rissminer -kSelective` (Selective Archivingルールの場合)

スイッチ (-k) とプロファイル名 (Selectiveなど) の間にはスペースを入れないでください。

rissminerはマイニングルールと割り当てられたMail Detailレコードを調べ、アーカイブするメッセージを検索し、ルールの基準を満たすメッセージごとにリファレンス文書を作成します。

注記:

1つのHPゲートウェイサーバーで複数のrissminerインスタンスを実行する場合、処理エラーを防止するためにコマンドに-nスイッチを追加することをお勧めします。たとえば、`load rissminer -kSelective -n`となります。

2. Referenceデータベースを開いて確認します。

例: hp_riss_minerreferenc.nsf (Selective Archivingの場合)

rissminerで作成されたリファレンス文書を検査します。

- ・ 各参照に対して、Pending、Sent、Preprocess、Errorのステータスが割り当てられます。
- ・ 署名付きでないメッセージと暗号化されていないメッセージはPending状態になります。
- ・ 署名付きメッセージと暗号化メッセージはPreprocess状態になります。

リファレンス文書については「[リファレンス文書の表示](#)」(166ページ)を、前処理については「[メッセージの前処理](#)」(145ページ)を参照してください。

3. Archiveエージェントを実行します。

```
tell amgr run "hprim\hp_riss_<refname>referenc.nsf" 'archive'
```

使用しているReferenceデータベースに合わせて、ファイル名を変更する必要があります。例: tell amgr run "hprim\hp_riss_minerreferenc.nsf" 'archive' (Selective Archivingの場合)

このエージェントおよびすべてのEAs Dominoエージェントの実行時には、ファイル名を二重引用符(“”)で、エージェント名を一重引用符('')で必ず囲むようにしてください。

Archiveエージェントはリファレンス文書を使用して、ソースのメールファイルおよびメッセージを検索し、メッセージをアーカイブ用に準備してIAPIに送信します。

4. Referenceデータベースを開いて確認します。

署名付きでないメッセージと暗号化されていないメッセージはすべて、リファレンス文書ステータスがSentになります。

5. Tombstoneエージェントを実行します。

使用しているReferenceデータベースに合わせて、ファイル名を変更します。例: tell amgr run "hprim\hp_riss_minerreferenc.nsf" 'tombstone' (Selective Archivingの場合)

エージェントを実行すると、ユーザーメールファイル内のマイニングされたメッセージがtombstone化されます。ジャーナルデータベース内のメッセージは削除されます。

6. Referenceデータベースを開いて確認します。

Sent状態だったリファレンス文書は削除されます。

7. 署名付きメッセージと暗号化メッセージの場合:

- a. PreProcessデータベースのEncapsulateエージェントを実行します。

```
tell amgr run "hprim\hp_preproc_<archive-type>.nsf" 'encapsulate'
```

使用しているPreProcessデータベースに合わせて、ファイル名を変更する必要があります。例:
tell amgr run "hprim\hp_preproc_miner.nsf" 'encapsulate' (Selective Archivingの場合)

PreProcessデータベース内での処理中に、カプセル化されたメッセージを表示できます。

- 署名付きメッセージ、ATT添付ファイル、通知などのMemo、Reply以外の項目の場合、ヘッダー、本文、すべての添付ファイルを含むメッセージを、元のフォーマット (RTFまたはHTML/MIME) で表示できます。

- 暗号化メッセージの場合、ヘッダーは表示できますがメッセージ本文は表示できません。

カプセル化が終了したら、Referenceデータベースの文書のステータスがPendingに変わります。

- b. Archiveエージェントを実行します。

エージェントの実行後、Referenceデータベースの文書のステータスはSentになります。

IAPIにルーティング中、カプセル化されたメッセージのサイズは84KBです。このサイズは、メッセージをIAPIに保存するときには8KBに削減されます。

- c. Tombstoneエージェントを実行します。

ユーザーメールファイル内のアーカイブされたメッセージがtombstone化されます。ジャーナルまたは一括アップロードデータベースのメッセージは削除されます。

- d. Referenceデータベースを開いて確認します。

Sent状態だったリファレンス文書は削除されています。

❗ 重要:

risminerプロセスが動作している間は、Dominoサーバーをシャットダウンしないでください。サーバー上で動作しているプロセスのリストを確認し、Dominoに対してquitコマンドを発行する前にrisminerプロセスを停止してください。

risminerプロセスが動作している間にサーバーが停止した場合やクラッシュした場合は、risminerの<mining_rule_name_date_time_stamp>.lockファイルが残ります。サーバーが再起動したときにこのlockファイルが存在していると、risminerがただちにシャットダウンされます。サーバが再起動した時点でこのlockファイルを自動的に削除するタスクを作成することもできます。「[マイニングプログラムのシャットダウン](#)」(270ページ)を参照してください。

リファレンス文書の表示

マイニングジョブを実行した後、Referenceデータベースを開いて、処理しているリファレンス文書を表示できます。リファレンス文書は、アーカイブ対象のメッセージへのポインターです。EAs Domino Archiveエージェントは必要に応じてこれらの文書の作成と削除を行います。

1. Domino Administratorクライアントで、hprimフォルダーにある、該当するReferenceデータベースを開きます。
 - ・ Selective Archivingの場合: HP EAs-D Reference (Miner):hp_riss_minerreferenc.nsf
 - ・ ジャーナリングの場合: HP EAs-D Reference (Journal):hp_riss_journalreferenc.nsf
 - ・ 一括アップロードの場合: HP EAs-D Reference (Blkupd):hp_riss_blkupdreferenc.nsf
2. 左メニューのいずれかのボタンをクリックして、サーバー別またはステータス別のリファレンスを表示します。

以下のリファレンスはサーバー別の表示です。

▼ Pyroraptor/Org1			16
▼ mail t1user			14
2E5AAE447FB853C185257615005A7672	PENDING	RISSMINER 21	
3135C6F0EE8E4814852576150071933A	PENDING	RISSMINER 21	
3F49B252583EB6EC852576750048DCFB	PENDING	RISSMINER 21	
4F0AB377754B80A1852576170073688A	PENDING	RISSMINER 21	
562341E6304309DB8525758D0065FC2C	SENT	RISSMINER 21	
5E53D986B17236A685257624006248A8	SENT	RISSMINER 21	
6EF521B3D8A83DE18525758D0065EA59	SENT	RISSMINER 21	
7F7D5DDDD5E1C42885257657007779B7	SENT	RISSMINER 21	
959AA5826D66FB138525767500490A0B	SENT	RISSMINER 21	
A63818045C7FE98585257617007321FD	PREPROCESS	RISSMINER 21	
B78781A43D59696A852576580049E78E	SENT	RISSMINER 21	
E3CEDB89CB26988C85257615005D468A	PREPROCESS	RISSMINER 21	
EEAD9CF20A592A6E85257615005A69EE	PREPROCESS	RISSMINER 21	
F98BD9ED1DBAA8A78525761500707B18	PREPROCESS	RISSMINER 21	
▼ mail t2user			2
3F49B252583EB6EC852576750048DCFB	SENT	RISSMINER 21	
959AA5826D66FB138525767500490A0B	SENT	RISSMINER 21	
			16

以下のリファレンスは状態別の表示です。

▼ PENDING	4
▼ Pyroraptor/Org1 !! mail !! user	4
2E5AAE447F8B53C185257615005A7672	
3135C6F0EE8E4814852576150071933A	
3F498252583EB6EC852576750048DCFB	
4F0A837775AB80A1852576170073688A	
▼ PREPROCESS	4
▼ Pyroraptor/Org1 !! mail !! user	4
A63819045C7FE96585257617007321FD	
E3CECD89CB26988C85257615005D468A	
EEAD9CF20A592A6E85257615005A69EE	
F98BD9ED1DBAA8A78525761500707B18	
▼ sent	8
▼ Pyroraptor/Org1 !! mail !! user	6
7F7D5DDDD5E1C42B85257657007779B7	
B78781A43D59696A852576580049E78E	

メッセージは、次の状態のいずれかをとることができます。

- ・ [Sent]: メッセージはHPゲートウェイサーバーからIAPへ送信されました。
メッセージがSentステータスの場合、IAPがメッセージを保存したことはまだソフトウェアに確定されていません。保存の確定は、Tombstoneエージェントが起動し、メッセージが正常に保存されたことを確認した後になります。その後、関連付けられたリファレンス文書がReferenceデータベースから削除されます。メッセージ自身は、マイニングルールのtombstone設定で指定されたアクションに応じて、tombstone化されるか、ジャーナルまたはメールファイルから削除されます。
(場合によっては、Reference Cleanupエージェントの実行後に参照をデータベースから削除することもできます。詳細については、「[メッセージの再処理](#)」(268ページ)を参照してください。)
 - ・ [Pending]: メッセージはまだIAPへ送信されていません。依然としてジャーナルまたはメールファイルに存在しています。
 - ・ [Preprocess]: カプセル化されたメッセージが処理されています。
 - ・ [Error]: エラーが発生しました。メッセージは処理されませんでした。
3. 詳しい情報を表示するには、リファレンス文書をダブルクリックしてください。

Mail Reference	
Status: Sent	Session Server: Pyroraptor/Org1
Server: pyroraptor/org1	File Path: mail!!user
Replica ID: 85257674007E761F	UNID: 85257674007E761F85257624006248A8
Original Server: pyroraptor/org1	
Original Replica ID: 8525758D00642F7D	Original UNID: 5E53D986B17236A685257624006248A8
Message Source:	Message Flags:
Preproc Reason: <input type="checkbox"/> Signed Message <input type="checkbox"/> Encrypted Message <input type="checkbox"/> System Generated Forms <input type="checkbox"/> Forced (rissminer -e) <input type="checkbox"/> Stored Form <input checked="" type="checkbox"/> Unsupported Form <input type="checkbox"/> Bad or ATT Attachment <input type="checkbox"/> Layout Region in Body	
Preproc Actions:	Preproc Done: encapsulate

4.5 ログファイルの操作

マイニング動作に関するログを表示し、ログエントリが維持される日数を変更することができます。

- ・ [HP EAs-D Logデータベース](#) (169ページ)
- ・ [ログファイルの表示](#) (169ページ)
- ・ [ログエントリの削除](#) (173ページ)

HP EAs-D Logデータベース

HP EAs-D Logデータベース (hprim\hp_risslog) には以下の内容が記録されます。

- ・ HPゲートウェイサーバーでのマイニングプログラム (rissminer) およびEAs DominoArchiveエージェントの動作
- ・ HPサポートから実行するように求められたデバッグ
- ・ HP EAs-D APIデータベースの[Actions (アクション)], [Tools (ツール)], [2. Export configuration to log (設定をログにエクスポート)]の順に選択して生成された出力 (APIデータベース設定を調べるためにHPサポートが使用)

EAs Domino 2.1のEAs-D Logデータベースには、Export SearchおよびDWA Extensionを実行するエージェントの動作は記録されません。この動作はDominoサーバーログファイル (log.nsf) に記録されます。

ログファイルの表示

ログファイルを表示するには、hprimフォルダーのHP EAs-D Logを開くか、HP EAs-D APIを開いて、HP EAs-D APIメインビューの左メニューで[Module Logs]をクリックします。

Server	Start Date	Type	StartTime	End Time	Elapse Time	Log
▼ EAS Admin						
▼ 11/21/2009						
		ENCAPSULATE (Action)	11/21/2009 05:39:02 AM			Starting Encapsulate version 2
▼ Pyroraptor						
▼ 12/07/2009						
		Agents printing\Archive\Outputs	12/07/2009 02:06:22 PM	12/07/2009 02:06:22 PM	0 seconds	12/7/09 5:06:22 PM : Archive \prim\hp_riss_journalreferenc.
		RISSMINER 2.1	12/07/2009 02:04:37 PM	12/07/2009 02:04:39 PM	1 seconds	RISSMINER 2.1 [ARCH STATUS]MEMO : >> E Exception Fields : X_PT_M
▼ 11/21/2009						
		Agents printing\Tombstone\Outputs	11/21/2009 05:44:09 AM	11/21/2009 05:44:09 AM	0 seconds	
		Agents printing\Tombstone\Outputs	11/21/2009 05:44:08 AM	11/21/2009 05:44:09 AM	1 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:44:08 AM : Processed 2 doc
		Agents printing\Archive\Outputs	11/21/2009 05:43:59 AM	11/21/2009 05:43:59 AM	0 seconds	
		Agents printing\Archive\Outputs	11/21/2009 05:43:58 AM	11/21/2009 05:43:59 AM	1 seconds	Archive Agent version : 2.1 AM : Processed 2 documents[
		Agents printing\Tombstone\Outputs	11/21/2009 05:42:38 AM	11/21/2009 05:42:39 AM	1 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:42:38 AM : Processed 0 doc
		Agents printing\Tombstone\Outputs	11/21/2009 05:41:12 AM	11/21/2009 05:41:13 AM	1 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:41:12 AM : deletelt is set to l
		Agents printing\Tombstone\Outputs	11/21/2009 05:40:36 AM	11/21/2009 05:40:39 AM	3 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:40:36 AM : deletelt is set to l Processed 12 docs., 11/21/09
		Agents printing\Archive\Outputs	11/21/2009 05:39:20 AM	11/21/2009 05:39:21 AM	1 seconds	Archive Agent version : 2.1 AM : Processed 3 documents[
		Agents printing\Archive\Outputs	11/21/2009 05:38:16 AM	11/21/2009 05:38:17 AM	1 seconds	Archive Agent version : 2.1 AM : Processed 1 document[3
		Agents printing\Archive\Outputs	11/21/2009 05:36:42 AM	11/21/2009 05:36:43 AM	1 seconds	Archive Agent version : 2.1 AM : Ensuring owner receipt 'T ERROR: Processing E3CECDI org.jdom.input.JDOMParseException element content of the docum
		Agents	11/21/2009 05:35:58 AM	11/21/2009 05:35:59 AM	1 seconds	Archive Agent version : 2.1

左メニューで選択したビューに応じて、以下のデータがログに表示されます。

- ・ 動作が実行されたサーバー
- ・ 動作が実行された日付
- ・ 動作の種類
- ・ セッションの開始時刻と終了時刻
- ・ 各ジャーナルデータベースまたは各メールデータベースの処理に要した分単位の時間
- ・ 処理されたデータベースおよび文書の合計
- ・ 処理されたデータベースの合計サイズ (MB)
- ・ セッション中に発生したエラー

Server	Start Date	Start Time	End Time	Elapse Time	Log
▼ Tombstone					
▼ Outputs					
▼ Pyroraptor					
▼ 11/21/2009					
	11/21/2009	05:44:09 AM	11/21/2009 05:44:09 AM	0 seconds	
	11/21/2009	05:44:08 AM	11/21/2009 05:44:09 AM	1 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:44:08 AM : Processed 2 docs., 11/21/09 8:44:09
	11/21/2009	05:42:38 AM	11/21/2009 05:42:39 AM	1 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:42:38 AM : Processed 0 docs., 11/21/09 8:42:39
	11/21/2009	05:41:12 AM	11/21/2009 05:41:13 AM	1 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:41:12 AM : deletelt is set to false, 11/21/09 8:41:
	11/21/2009	05:40:36 AM	11/21/2009 05:40:39 AM	3 seconds	Tombstone Agent version : 2.1 8:40:36 AM : deletelt is set to false, 11/21/09 8:40: Processed 12 docs., 11/21/09 8:40:39 AM :
▼ ENCAPSULATE (Action)					
▼ EAS Admin					
▼ 11/21/2009					
	11/21/2009	05:39:02 AM			Starting Encapsulate version 2.1
▼ RISSMINER 2.1					
▼ Pyroraptor					
▼ 12/07/2009					
	12/07/2009	02:04:37 PM	12/07/2009 02:04:39 PM	1 seconds	RISSMINER 2.1 [ARCH PROFILE]: JOURN STATUS]MEMO : >> ENABLE <<.[DOC M
▼ 11/21/2009					
	11/21/2009	05:28:18 AM	11/21/2009 05:28:20 AM	2 seconds	RISSMINER 2.1 [ARCH PROFILE]: SELEC STATUS]MEMO : >> ENABLE <<.[DOC M
	11/21/2009	05:27:13 AM	11/21/2009 05:27:15 AM	2 seconds	RISSMINER 2.1 [ARCH PROFILE]: SELEC STATUS]MEMO : >> ENABLE <<.[FOLDEF MEMO : 90.

特定のエントリーに関する詳細を表示するには、ログエントリーをダブルクリックします。

riSSMINERプログラムのエントリーには以下の情報が表示されます。

Log - RISSMINER 2.1

Start	End	Elapsed Time	Server
11/20/2009 03:14:52 PM	11/20/2009 03:14:56 PM	3 seconds	CN=Pyroraptor/O=Org1
Results:			
<pre> RISSMINER 2.1 [ARCH PROFILE] : SELECTIVE ----- [ARCHIVE SORT] Oldest first [ARCH STATUS] MEMO : >> ENABLE << [FOLDER MAX DAY] MEMO : 120 [DOC MAX DAY] MEMO : 90 ----- [Exception Fields] MAILSTATIONERYNAME PROTECTFROMARCHIVE REPEATINTERVAL \$ATTBYTESTRUNCATED \$DOCBYTESTRUNCATED HPTOMBSTONED ----- CN=Test1 User/O=Org1 mail\t1user Archived 0 Size : 0.00 MB ----- CN=Test2 User/O=Org1 mail\t2user Archived 0 Size : 0.00 MB ----- -----[Normal end]----- </pre>			

- ・ データベース内のメールボックスの数
- ・ データベースのマイニングに使用されたマイニングルールの名前およびバージョン
- ・ マイニングルールの[Time Conditions (期間条件)] - [Memo, Reply]で設定された削除日
- ・ マイニングされたメールファイルの名前、メールファイル内で処理されたメッセージの数、処理されたメッセージのサイズ

実行が正常に終了すると、エージェントログエントリーには以下の内容が表示されます。

Log - Agents printing\Archive\Outputs

```

Start : 11/21/2009 05:38:16 AM                               Server: CN=Pyroraptor/O= Org1
End   : 11/21/2009 05:38:17 AM
Elapsed Time : 1 seconds

Results:
Archive Agent version : 2.1 running in 'hprim\hp_riss_minerreferenc.nsf'
11/21/09 8:38:16 AM : Processed 1 document (3.909KB).
11/21/09 8:38:17 AM :

```

- ・ セッションの開始時刻と終了時刻
- ・ エージェントのバージョンおよびEAs Dominoビルドバージョン
- ・ 処理された文書の合計
- ・ 処理された文書の合計サイズ (MB)

処理中にエラーが発生した場合、エラーに関する情報がログエントリーに表示されます。

Log - Agents printing\Archive\Outputs

```

Start : 11/21/2009 05:36:42 AM                               Server: CN=Pyroraptor/O= Org1
End   : 11/21/2009 05:36:43 AM
Elapsed Time : 1 seconds

Results:
Archive Agent version : 2.1 running in 'hprim\hp_riss_minerreferenc.nsf'
11/21/09 8:36:42 AM : Ensuring owner receipt 'Test1User@org1.acme.net' for IAP 2.0 and above
11/21/09 8:36:43 AM : ERROR: Processing E3CECDB9CB26988C85257615005D468A XML parse exception: org.jdom.input.
Error on line 14: An invalid XML character (Unicode: 0x0) was found in the element content of the document.
11/21/09 8:36:43 AM : Processed 1 document (3.909KB).
11/21/09 8:36:43 AM :

```

HP EAs-D APIデータベースで[Actions (アクション)]、[Tools (ツール)]、[2. Export configuration to log (設定をログにエクスポート)]の順に選択すると、データベース設定値に関する情報がログエントリーに表示されます。

Log - Diag\Agent\MinerConfigExporter 2.1

Start : 02/04/2010 10:32:43 PM Server: CN=Server 2/0= Org1
End : 02/04/2010 10:32:54 PM
Elapsed Time : 11 seconds

Results:

Key	Value	Data source	Comment
API file name	hprim\hp_rissapi.nsf	Ini entry 'hprim_api'	
Address book file name	names.nsf	'Main view' view	
Log file name	hprim\hp_risslog.nsf	'(\$APIVIEW)' view	
All debug	false	Hard coded	
Sleep interval	0		
Tomestone settings debug	false	Ini entry 'HPRIM_DebugTomestone'	
Mining rules	4 rule(s) and 5 action(s)	'ModuleProfileDefView' view	
Profile name	DWA Sample	Mining rules	
> Minimum message size :	0 byte(s)		
> Enabled	true		
Action behavior			
> Removes message	false		
> Removes body	true		
> Removes attachments	true		
Style	Rich text		
Profile name	Bulk	Mining rules	
> Minimum message size :	0 byte(s)		
> Enabled	true		
Action behavior			
> Removes message	true		
> Removes body	true		
> Removes attachments	true		
Style	Simple text		

ログエントリの削除

HP EAs-D Logは、Purge_Documentエージェントを使用して、特定の日数より古いログレコードを削除します。デフォルトでは、30日より古いレコードが削除されます。

注記:

HPゲートウェイサーバーではこの設定を7~14日の期間に変更することをお勧めします。

Agent Parameters文書を編集することにより、ログレコードが維持される日数を変更することができます。

EAs Dominoログは複製されないため、変更はサーバーのインスタンスのみに適用されます。

1. Domino Administratorクライアントを使用して、サーバーでHP EAs-D Logデータベース (hprim\hp_risslog) を開きます。
2. [View (表示)]メニューで、[Go To (移動)]、[Agent]の順に選択します。
3. [Agent]を展開し、[Parameters]を選択し、[OK]をクリックします。
[Agent¥Parameters]ビューが表示されます。
4. PURGE_DOCUMENTの中に表示されている文書をダブルクリックします。
5. [Arg1: Purge record older than (n) Days]の値をダブルクリックし、日数を変更します。
Arg2の[Form Name]の値は変更しないでください。
6. [File (ファイル)]、[Save (保存)]の順に選択し、文書を閉じます。

7. Domino Designerクライアントで、Purge_Documentエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
 - a. サーバーのhprimフォルダーにあるHP EAs-D Logデータベースを開きます。
 - b. Applications (アプリケーション) ビューで、[Code (コード)]、[Agents (エージェント)]の順に選択します。
 - c. [Purge_Document]をダブルクリックします。
 - d. エージェントの[Properties (プロパティ)]で、[Trigger (トリガー)]が[On schedule (スケジュール)]に、[Target (対象)]が[All documents in database (データベースのすべての文書)]に設定されていることを確認します。
 - e. [Schedule (スケジュール)]をクリックし、エージェントのスケジュールを設定します。

エージェントは必要に応じてスケジュールを設定できますが、通常は1日に1回実行します(デフォルトでは、1日1回、1:00 a.m.に設定されます)。
 - f. [Run on (実行場所)]ボックスでサーバーを選択します。
 - g. 変更を保存し、エージェントの[Properties (プロパティ)]を閉じます。
 - h. [Enable (有効)]をクリックし、エージェントを有効にします。
8. ログをインストールしたサーバーごとにログのスケジュールを設定し、有効にします。

4.6 Compliance (ジャーナル) Archivingの設定

- ・ [Compliance Archiving用のメールサーバーの設定](#) (175ページ)
- ・ [高度なフィルタリングのインストール](#) (176ページ)
- ・ [Lotus Dominoネイティブジャーナリング](#) (185ページ)
- ・ [同一のサーバー上での高度なフィルタリングとDominoネイティブジャーナリングの設定](#) (189ページ)
- ・ [ジャーナリングされたメッセージのアーカイブ](#) (190ページ)

Compliance Archiving用のメールサーバーの設定

HP EAs Dominoは次の方法を使用して、ジャーナリングされたメッセージをアーカイブします。

- ・ 高度なフィルタリング (EAs Dominoジャーナリング)
- ・ Dominoネイティブジャーナリング

いずれのタイプのジャーナリングでも、メッセージが収集され、メールサーバーまたはジャーナルサーバーのメール受信者およびMail-inジャーナルデータベースに送信されます。Mail-inデータベースは、HPゲートウェイサーバーによってリモートにマイニングされます。マイニングされたメッセージへのポインターは、ゲートウェイサーバーのHP EAs-DジャーナルReferenceデータベースに配置され、そのポインターに従って、ジャーナルReferenceデータベースとジャーナルPreProcessデータベース (HP EAs-D PreProcess) 内のエージェントが動作します。

Mail-inデータベースを作成するには、HP EAs-D Mail JournalテンプレートまたはDominoに付属している標準的なジャーナルテンプレートを使用します。他のカスタマイズされたジャーナルテンプレートを使用しないでください。カスタマイズされたテンプレートは、マイニングプログラムが正しくないメッセージプロセス数を報告するなどの問題を引き起こすことがあります。

HP EAs-D Mail Journalテンプレート (`hp_mailjrn.ntf`) は、EAs Dominoインストールメディアの `Templates` フォルダにあります。このテンプレートでは、標準的なDominoジャーナルテンプレートにある受信ボックスフォルダーと他のいくつかのフォルダーが削除されています。受信ボックスフォルダーの中に過度に多くのメッセージが蓄積されている場合、ジャーナリングで問題が起きることが知られています。

HP EAs Dominoは、Mail-in方式のジャーナリングのみをサポートします。

注記:

アーカイブの対象となるメッセージの最大サポートサイズは、100MBです。このサイズは、メッセージの添付ファイルを含みます。

高度なフィルタリングのインストール

EAs Domino高度なフィルタリングをメッセージのジャーナリングに使用する場合は、以下の手順を実行します。

1. ジャーナリングするメールサーバーに高度なフィルタリングをインストールします。
「[高度なフィルタリングモジュールのインストール](#)」(176ページ) を参照してください。
2. ジャーナリングする各メールサーバーにジャーナルデータベースを作成します。
「[Mail-inジャーナルデータベースの作成](#)」(178ページ) を参照してください。
3. メールサーバーにインストールしたHP EAs-D APIデータベースのACLを設定します。
「[EAs-D APIデータベースのアクセス権の設定](#)」(178ページ) を参照してください。
4. Mail-In Database文書を作成します。
「[Mail-In Database文書の作成](#)」(179ページ) を参照してください。
5. 高度なフィルタリングのジャーナリングルールを設定します。
「[ジャーナリングルールの作成 \(高度なフィルタリング\)](#)」(179ページ) を参照してください。
6. サーバーを再起動します。

高度なフィルタリングモジュールのインストール

高度なフィルタリング方法を使用してメッセージをジャーナリングする場合、EAs DominoインストーラーでLotus Dominoメールサーバーに複数のファイルをインストールする必要があります。複数のメールサーバーをジャーナリングする場合、インストーラーを使用して最初のインストールを導入してください。

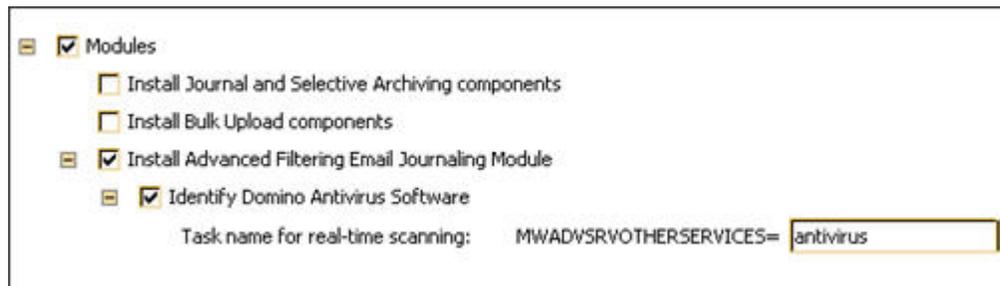
高度なフィルタリングモジュールをインストールする前に、Lotus Notes以外のすべてのアプリケーションが閉じていることを確認します。

1. HPゲートウェイサーバーで、データベースの作成とエージェントの実行に使用可能なNotes IDを使用して、Domino Administratorクライアントを開きます。
2. Windowsエクスプローラーを開き、EAs Dominoのインストールファイルが解凍されているフォルダーに移動します。serverディレクトリに移動して、Setup.exeをダブルクリックします。
3. [1. Welcome (ようこそ)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
4. [2. Load installation (インストールのロード)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
[3. Master (マスター)]ウィンドウが表示されます。

5. [3. Master (マスター)]ウィンドウで次の操作を行います。
 - a. [Server name (サーバー名)]ドロップダウンリストで、ジャーナリングするメールサーバーを選択します。
 - b. [Modules (モジュール)]チェックボックスを選択して、[Install Advanced Filtering Email Journaling Module (高度なフィルタリング電子メール ジャーナリング モジュールをインストール)]を選択します。
 - c. ジャーナリング収集の前にウイルス対策スキャンを実行できるようにするには、以下の手順を実行します。
 1. [Identify Domino Antivirus Software (Dominoウイルス対策ソフトウェアを確認する)]チェックボックスを選択します。
 2. ウィルス対策スキャンタスクの名前を入力します。たとえば、antivirusとなります。

 **注記:**

Nortonウイルス対策ソフトウェア (たとえば、シマンテックインターネットセキュリティスイートから提供されるrtvscan.exe)を使用する場合、インストールの後に新しいエントリー (MWADVSRVOTHERSERVICESAO=[anti-virus-real-time-task-name]) を notes.iniに手動で追加します。



- d. [Next (次へ)]をクリックします。
6. パスワードのダイアログボックスが表示された場合は、Notes IDのパスワードを入力します。
7. [4. Deployment (導入)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
8. [5. Remove Base (ベースを削除)]ウィンドウで、サーバーの一時インストールベース (hp_riss_install.nsf) を削除するかどうかを選択し、[Next (次へ)]をクリックします。
 - ・ インストールベースを保存する場合は、[No(いいえ)]をクリックします。
[No(いいえ)]を選択すると、インストールベースが残されるため、インストール中に記録されたステータスメッセージを確認できます。
 - ・ インストールベースを保存しない場合は、[Yes(はい)]をクリックします。
9. 将来の導入に備えてインストールを保存する場合は、[6. Save installation (インストールを保存する)]ウィンドウで、[Save this installation (このインストールを保存する)]チェックボックスを選択します。インストールの保存先を参照します。

インストール設定はXMLファイルとして保存されます。
10. [7. Readme]ウィンドウ:
 - ・ ウィンドウの最上部にある[View readme (readmeを表示)]チェックボックスが選択されていることを確認します。
 - ・ インストール情報が正しいことを確認します。
マスターサーバーでのインストールが[Yes(はい)]に設定されていることを確認してください。

11. [Install (インストール)]をクリックします。
インストール進捗状況バーが表示されます。
ソフトウェアが正しくインストールされると、Readmeファイルが画面に表示されます。
12. [Finish (終了)]をクリックしてインストールを完了します。

ジャーナリングルールのFilterとListeningエージェントは、メールサーバーのDominoデータディレクトリにインストールします。「[HP EAs Dominoのバイナリ](#)」(68ページ)を参照してください。

メールサーバーにあるnotes.iniを変更する場合は、「[HP EAs Domino notes.iniのエントリー](#)」(67ページ)を参照してください。

UNIXベースのシステム

UNIXベースのオペレーティングシステムにソフトウェアをインストールする場合、高度なフィルタリングルールフィルターおよびListeningエージェントには次の権限を設定します。

- ・ mwadvnt : +x
- ・ libadvsvr.aまたはlibadvsvr.so : +r

Mail-inジャーナルデータベースの作成

1. ジャーナリングする各メールサーバーのジャーナルデータベースを作成します。

EAs DominoインストールメディアのTemplatesディレクトリにあるHP EAs-D Mail Journalテンプレート (hp_mailjrn.ntf) を使用します。

「[新しいEAs Dominoデータベースの作成](#)」(311ページ) のインストールの手順に従ってください。ジャーナルの場所はDominoの管理者が決めます。EAs Dominoファイルがあるhprimフォルダーには格納しないでください。

2. ジャーナルのACLには、次の権限を付与します。
 - ・ LocalDomainAdmins: [Editor (編集者)]
削除の権利とすべてのロールを持っている必要があります。
 - ・ 高度なフィルタリングのインストール時にデータベースおよびエージェントに署名したNotes ID
 - ・ このNotes IDがLocalDomainAdminsに含まれる場合は、個別のユーザーとして追加しないでください。
 - ・ このNotes IDがLocalDomainAdminsに含まれておらず、このグループの中にもめたくない場合は、IDを追加し、[Editor (編集者)]アクセス権を割り当てます。このユーザーは、削除の権利とすべてのロールを持っている必要があります。
 - ・ デフォルト: アクセス不可

EAs-D APIデータベースのアクセス権の設定

メールサーバーにインストールしたHP EAs-D APIデータベース (hprim\hp_rissapi.nsf) のACLを設定します。

- ・ LocalDomainAdminsには[Manager (管理者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールを持つ。
- ・ LocalDomainServersには[Designer (設計者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールを持つ。
- ・ (LocalDomainAdmins内に存在していない) データベースの署名に使用されたIDファイルには[Designer (設計者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールを持つ。
データベースおよびエージェントにサーバーIDを使用した署名がある場合、そのサーバーがLocalDomainServers内に存在することを確認します。

- ・ [Default (デフォルト)]には、データベースのアクセス権を[No access (なし)]に設定します。

DWAまたはサーバーベースのExport Searchでアーカイブされたメッセージをユーザーが取得する場合、そのユーザーを[Reader (読者)]のアクセス権でデータベースに追加する必要があります。「[DWA ExtensionのACLの設定](#)」(208ページ)および「[Export SearchのACLの設定](#)」(223ページ)を参照してください。

注記:

メールアドレスのHP EAs-D APIデータベースのインスタンスは、HPゲートウェイドメインのインスタンスと区別されます。メールアドレスインスタンスは、EAs Dominoソフトウェアをインストールした他のDominoサーバーに複製する必要があります。

Mail-In Database文書の作成

Dominoの管理者は、ジャーナルごとにMail-In Database文書を作成する必要があります。

1. データベースと文書の作成に使用可能なNotes IDを使用して、Domino Administratorクライアントを開きます。
2. メールサーバーを開きます。
3. [People & Groups (ユーザーとグループ)]タブで、[Mail-In Databases and Resources (メール受信データベースとリソース)]を選択します。
4. [Add Mail-In Database (メール受信データベースの追加)]をクリックします。
5. [Basics (基本)]タブで、[Encrypt incoming mail(受信メールの暗号化)]が[No(いいえ)]に設定されていることを確認します。

重要:

ジャーナリングに使用するMail-In Database文書では、暗号化オプションを指定しないでください。ジャーナリングされる標準的なメッセージをIAPへ送信するときに暗号化を防止する必要があります。また、すでに暗号化されたメッセージをさらに暗号化することも防止できます。IAPは、暗号化メッセージについてインデックスを作成することはできません。

6. [Administration (管理)]タブで、[Allow foreign directory synchronization (他のディレクトリとの同期を許可)]が[Yes(はい)]に設定されていることを確認してください。
7. Mail-In Database文書のその他のフィールドに入力します。
8. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

ジャーナリングルールの作成 (高度なフィルタリング)

ジャーナリングルールによってジャーナルMail-inデータベースにコピーされるメッセージが決まります。ここでは、EAs Dominoジャーナリングルールを作成する方法を説明します。

重要:

既存のジャーナリングルールを新しいジャーナリングルールで置き換えるために既存のルールを削除または無効にする場合や、ジャーナリングルールを編集する場合は、事前に高度なフィルタリングタスク(mwadv)を停止してください。「[ジャーナリングルールの編集 \(高度なフィルタリング\)](#)」(184ページ)の手順を参照してください。

デフォルトのジャーナリングルールは、HP EAs-D APIデータベースの中に作成済みです。ルールを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、メールサーバーのHP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. メインビューで、[Journaling Rules(ジャーナリング ルール)]の下にあるデフォルト文書をダブルクリックします。

Journaling Rules文書が表示されます。

3. 各タブで設定を入力してルールを定義します。
 - ・ 「[Traffic Definition (トラフィック定義)]タブ」(180ページ)
 - ・ 「[Sender/Receiver Exceptions (送信者/受信者の例外)]タブ」(181ページ)
 - ・ 「[Content Exceptions (コンテンツの例外)]」(182ページ)
 - ・ 「[Journal Database (ジャーナルデータベース)]」(183ページ)
 - ・ 「[Rules Status (ルールステータス)]」(183ページ)
4. [File (ファイル)]、[Save (保存)]の順に選択し、ルールを保存します。
5. その他のジャーナリングルールが必要な場合は、[Create (作成)]、[Archiving(アーカイブ)]、[2. Journaling Rule (2. ジャーナリング ルール)]の順に選択して作成します。

たとえば、最初のルールが受信メッセージに関連している場合、送信メッセージに関連する2番目のルールを作成することができます。

6. (オプション) ジャーナリングルールが2つ以上ある場合は、ルールの実行に優先度を設定できます。
 - a. EAs-D APIのメインビューで、優先度の最も高いルールを選択します。
 - b. [Actions (アクション)]、[Filter rules (フィルタールール)]、[1. Set 'Priority' ('優先度'の設定)]の順に選択します。
 - c. 表示されたダイアログボックスで1を入力し、[OK]をクリックします。



- d. [OK]をクリックして優先度を確認します。
- e. 手順a～dを繰り返して、各ジャーナリングルールの優先度を設定します。

[Traffic Definition (トラフィック定義)]タブ

トラフィック定義の設定を入力します。これらは、メッセージの送信者または受信者を定義します。

グループに対してメッセージが送受信される場合は、ルールを作成した時点ではなくメッセージをジャーナリングする時点でグループが定義されることに注意してください。

Journaling Rules:

Comments:

Top Managers - incoming traffic

Traffic Definition	Sender/Receiver Exceptions	Content Exceptions	Journal Database	Rules Status		
[Traffic Definition]						
From	<input type="text" value=""/>	<input type="radio"/> User	<input type="radio"/> Group	<input checked="" type="radio"/> Meta	<input type="radio"/> Meta Grp	(?)
To	<input type="text" value="Acme Mgmt Team Users"/>	<input type="radio"/> User	<input checked="" type="radio"/> Group	<input type="radio"/> Meta	<input type="radio"/> Meta Grp	

フィールド	説明
[From (差出人)]	<p>[From (差出人)]フィールドは、ジャーナリング対象となるメッセージの送信者を定義します。</p> <p>たとえば、ルールが送信メッセージを制御している場合、このフィールドではメールを送信するユーザーまたはグループを定義します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 矢印をクリックし、リストからユーザーまたはグループを選択するか、ワイルドカードを入力してグループを定義するかすべての送信メッセージを対象にします。2. ラジオボタンをクリックし、送信者を定義します。 <p>[Meta]、[Meta group]の各カテゴリではワイルドカードを使用します。詳細については、「ワイルドカードパターンの定義」(137ページ)を参照してください。</p>
[To (宛先)]	<p>[To (宛先)]フィールドは、ジャーナリング対象となるメッセージの宛先を定義します。</p> <p>たとえば、ルールが受信メッセージを制御している場合、このフィールドではメールを受信するユーザーまたはグループを定義します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 矢印をクリックし、リストからユーザーまたはグループを選択するか、ワイルドカードを入力してグループを定義するかすべての受信メッセージを対象にします。2. ラジオボタンをクリックし、受信者を定義します。 <p>[Meta]、[Meta group]の各カテゴリではワイルドカードを使用します。詳細については、「ワイルドカードパターンの定義」(137ページ)を参照してください。</p>
[Comments (コメント)]	トラフィック定義に関する任意のコメントを入力します。

[Sender/Receiver Exceptions (送信者/受信者の例外)]タブ

トラフィック定義に関する例外を定義します。IAPへ送信されるメッセージが再びジャーナリングされないように、[Except To]フィールドを定義してください。

Traffic Definition | Sender/Receiver Exceptions | Content Exceptions | Journal Database | Rules Status

[Sender/Receiver Exceptions]

Except From : User Group Meta Meta Grp

Except To : User Group Meta Meta Grp

フィールド	説明
[Except From (次の差出人を除く)]	<p>このユーザーまたはグループから送信されるメッセージはジャーナリングされません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 矢印をクリックし、リストからユーザーまたはグループを選択するか、ワイルドカードを入力してグループを定義します。 ラジオボタンをクリックし、送信者を定義します。 <p>[Meta]、[Meta group]の各カテゴリではワイルドカードを使用します。詳細については、「ワイルドカードパターンの定義」(137ページ)を参照してください。</p>
[Except To (次の宛先を除く)]	<p>IAPへ送信されるメッセージが再びジャーナリングされないように、このフィールドを定義します。</p> <p>このフィールド内の名前は、ソフトウェアをインストールしたときにServer Definition文書の中に入力されたIAP電子メールアドレスと組み合わせられて動作します。たとえば、IAP電子メールアドレスが「AcmeIAP01Admin@iap01.acme.com」である場合は、このフィールドの値は「AcmeIAP01Admin」(@より前にあるすべての文字)になります。</p> <p>Server Definition文書の[Session Settings (セッション設定)]にIAP電子メールアドレスが表示されます。</p> <p>注記: このフィールドでエントリーを追加する必要がある場合は、Domino Directoryで、(IAPも含む)すべてのアドレスをメンバーとして持つグループを作成します。</p>
[Comments (コメント)]	トラフィック例外に関する任意のコメントを入力します。

[Content Exceptions (コンテンツの例外)]

このタブで次の例外を入力します。

- Mail-to-Meメッセージの例外 (ユーザーがIAP Webインターフェイスからユーザー自身に送信するメッセージ)。このメッセージはすでにアーカイブされているので、ジャーナリングから除外する必要があります。
次のNotes式を入力し、Mail-To-Meメッセージを除外します。
`@IsUnAvailable(x_pt_maiiltome)`
- ユーザーまたはグループに対して送受信されるメッセージに関する他のすべての例外 (たとえば、BlackルールおよびRedルールに関する例外)。
メッセージのサイズ、添付ファイルの最大サイズ、添付ファイル名、添付ファイルの数、受信者の数、件名、受信者名に対して例外を作成することができます。

この設定用に定義するNotes式は、値Trueを返す必要があります。例外を定義する最も簡単な方法は、式ウィザードを使用することです。[Wizard]をクリックし、式を作成し、完成したら[OK]をクリックします。

Traffic Definition | Sender/Receiver Exceptions | Content Exceptions | Journal Database | Rules Status

[Content Exceptions]

▶ Formula must returns TRUE or FALSE - no formula = TRUE

Wizard . Check Formula

@IsUnavailable(x_pt_mai1tome)

[Journal Database (ジャーナルデータベース)]

このタブで入力し、ジャーナリングに使用するMail-inデータベースを選択します。

Traffic Definition | Sender/Receiver Exceptions | Content Exceptions | Journal Database | Rules Status

[Journal Database]

▶ Email will be routed to 'Mail-in'. BCC and From fields will be mapped to JRN_XXX

Journal this email in mail-in : hprim1hp_riss_journal.nsf

フィールド	説明
[Journal this email in Mail-in (ジャーナルするMail-inデータベース)]	矢印をクリックして、作成したジャーナルMail-inデータベースの名前を選択します。 注記: Mail-In Database文書が「Mail-In Database文書の作成」(179ページ)の設定を指定していることを確認してください。
[Comments (コメント)]	設定に関する任意のコメントを入力します。

[Rules Status (ルールステータス)]

Traffic Definition | Sender/Receiver Exceptions | Content Exceptions | Journal Database | Rules Status

[Rules Status]

Expiration Date : Start Date : 01/01/2010

>>> This rule terminates => do not check other rules : <<<

Server(s) : dnmomail/zkodom Active on servers (* for all)

フィールド	説明
[Reference (参照)]	ルールの名前を入力します。たとえば、ルールが上級管理者の受信メッセージを制御する場合、Top Managers - Incomingという名前を入力します。
[Expiration Date (有効期限)]	ジャーナリングルールの有効期限を入力します。
[Start Date (開始日)]	ジャーナリングルールを適用する開始日付を入力します。

フィールド	説明
[Status (ステータス)]	矢印をクリックし、[Enable]または[Disable]を選択してジャーナリングルールを有効または無効にします。
[This rule terminates ... (ルールの終了)]	このチェックボックスが選択されていない場合は、電子メールに適合するすべてのルールが順番に適用されます。チェックボックスを選択すると、他のジャーナリングルールはいずれも電子メールに適用されません。
[Sever(s) (サーバー)]	ジャーナリングルールを有効にするメールサーバーを入力します。
[Comments (コメント)]	ルールに関する任意のコメントを入力します。

ジャーナリングルールの編集 (高度なフィルタリング)

ジャーナリングルールを編集する前に

① 重要:

ジャーナリングルールを編集する前に、Dominoサーバー上のmwadvtaskを停止してください。

高度なフィルタリングサーバータスク (mwadvtask) がロードされている間は、EAs Dominoジャーナリングルール文書を編集しないでください。ジャーナリングルール情報はメモリキャッシュに格納されます。mwadvtaskがロードされている間にルールを変更した場合は、ジャーナルデータベースでメッセージが正しく収集されない可能性があります。

ジャーナルルールの変更

ジャーナリングルールを変更する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。

- Dominoサーバーのコンソールコマンド `tell mwadvtask quit` を使用してmwadvtaskを停止します。
複数のDominoサーバーがHP EAs-D APIデータベースを共有している場合は、該当するすべてのサーバー上でmwadvtaskを停止してください。
このタスクが停止した後、すべての受信メッセージと送信メッセージは、タスクが再ロードされるまでの間、サーバーのmail.box内に保持されます。
- ルールに対して必要な変更を加えます。
 - HP EAs-D APIデータベースを開き、メインビューでJournaling Rules文書をダブルクリックします。
 - 該当する設定をダブルクリックし、変更を加えます。
 - [File (ファイル)]、[Save (保存)]の順に選択し、変更結果を保存します。
 - 文書およびEAs-D APIデータベースを閉じます。
- サーバーコンソールから、コマンド `load updall hprim\hp_rissapi.nsf` を発行します。
- 複数サーバーの環境では、HP EAs-D APIが該当するすべてのDominoサーバーに複製されるまで待ちます。
- 該当するすべてのサーバーでコマンド `load mwadvtask` を使用し、mwadvtaskを再起動します。
mwadvtaskの初期化と再起動が完了した後、保持されていたすべてのメッセージは、更新後のルールを使用してジャーナリングされ、リリースされて、Dominoルーターによってルーティングされます。

Lotus Dominoネイティブジャーナリング

Dominoネイティブジャーナリングをメッセージのジャーナリングに使用する場合は、以下の手順を実行します。HP EAs Dominoアーカイブ機能では、Dominoネイティブジャーナリングのうち、Mail-in形式のみがサポートされています。

注記:

Dominoの管理者はMail-inジャーナルデータベースとMail-In Database文書を作成し、ジャーナリングルールを設定し、Configuration Settings文書でジャーナリングを有効にする必要があります。

1. Mail-inジャーナルデータベースを作成します。
「[Mail-inジャーナルデータベースの作成](#)」(185ページ) を参照してください。
2. Mail-In Database文書を作成します。
「[Mail-In Database文書の作成](#)」(179ページ) を参照してください。
3. HP EAs-D Toolsデータベースを作成および設定し、Mail-To-Meメッセージをジャーナルから削除します。
「[ジャーナルからのMail-to-Meメッセージの削除](#)」(186ページ) を参照してください。
4. SMTP Listenerを有効にしているDominoサーバーごとに、インバウンドメールオプションを設定します。
「[\[Advanced Inbound Message Options \(インバウンドメール詳細オプション\)\]の設定](#)」(186ページ) を参照してください。
5. ジャーナリングルールを設定し、ジャーナリングを有効にします。
「[ジャーナリングの有効化](#)」(187ページ) を参照してください。
6. サーバーを再起動します。

Mail-inジャーナルデータベースの作成

1. Dominoに付属している標準的なジャーナルテンプレートまたはEAs DominoインストールメディアのTemplatesディレクトリにあるHP EAs-D Mail Journalテンプレート (hp_mailjrn.ntf) を使用してジャーナルデータベースを作成します。

EAs Dominoジャーナルテンプレートを使用する場合は、「[新しいEAs Dominoデータベースの作成](#)」(311ページ) の手順に従います。ジャーナルはhprimフォルダーに置かないでください。
2. ジャーナルのACLには、次の権限を付与します。
 - ・ LocalDomainAdmins: [Editor (編集者)]
削除の権利とすべてのロールを持っている必要があります。
 - ・ データベースに署名するNotes IDがLocalDomainAdminsに含まれておらず、このグループの中に含めたくない場合は、そのIDを追加して、[Editor (編集者)]のアクセス権を割り当てます。このユーザーは、削除の権利とすべてのロールを持っている必要があります。
 - ・ デフォルト: アクセス不可
3. Mail-inジャーナルデータベースを作成した後、Mail-In Database文書を作成します。
「[Mail-In Database文書の作成](#)」(179ページ) を参照してください。

ジャーナルからのMail-to-Meメッセージの削除

Dominoネイティブジャーナリングでは、ユーザーがIAP Webインターフェイスからユーザー自身に送信するメッセージを削除することができません。これらのメッセージはすでにアーカイブされているため、EAs Domino Miningエージェントがこれらをスキップし、ジャーナル内に残ったままになるからです。HP EAs-D Toolsは、Mail-to-Meメッセージをジャーナルから削除する自動化プロセスを提供します（EAs Domino 高度なフィルタリングでは、Mail-To-Meメッセージはジャーナリングルールコンテンツの例外で処理されません）。

EAs-D Toolsを作成および設定するには、以下の手順を実行します。

1. 「[新しいEAs Dominoデータベースの作成](#)」(311ページ) の手順を使用して、HP EAs-D Toolsデータベースを作成します。

HP EAs-D Toolsデータベースは、ジャーナルデータベースと同じサーバーに配置する必要があります。

テンプレートにはhp_tools.ntf、ファイル名にはhp_tools.nsfを使用します。ファイルは、Dominoデータディレクトリのhprimフォルダーに置きます。

2. Designerクライアントを使用して、HP EAs-D ToolsでEmail Miner MTM Cleanupエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。

エージェントを実行するデフォルトのスケジュールは、1日1回午前1時です。

3. Domino Administratorクライアントで、HP EAs-D Toolsを開きます。

[Mail-to-Me Admin (Mail-to-Me管理)]ビューが表示されます。

4. [Mail-to-Me Admin (Mail-to-Me管理)]アクションボタンをクリックして、[New Admin Doc(新規作成)]を選択して新しい管理文書を作成します。

5. 監視するメールサーバーを入力または選択します。

6. ジョブのスケジュール設定された処理を有効にするか無効にするかを指定します。

7. サーバー上のMail-inジャーナルデータベースの名前を入力します。

8. エージェントで実行する適切なデータ削除アクションを次の中から選択します。

- ・ Mail-To-Meメッセージを削除する
- ・ メッセージを別のデータベースに移動する

移動オプションを選択した場合は、Mail-To-Meメッセージの移動先のデータベースも指定する必要があります。このデータベースは、EAs-D Toolsと同じサーバー上にすでに存在している必要があります。メールテンプレートまたは組織用にカスタマイズされたテンプレートを使用できます。

9. 以下のことを確認してください。

- ・ データベースのACLが設定されているか。
- ・ データベースは署名されているか。

[Advanced Inbound Message Options (インバウンドメール詳細オプション)]の設定

SMTP Listenerを有効にしているDominoサーバーごとに、サーバーのConfiguration Settings文書で[Advanced Inbound Message Options (インバウンドメール詳細オプション)]を設定する必要があります。

1. Domino Administratorクライアントで、データベースおよび文書の作成に使用可能なNotes IDに切り替えます。
2. [Configuration (設定)]タブをクリックし、[Messaging (メッセージング)]を展開し、[Configurations (設定)]をクリックします。

3. サーバーのConfiguration Settings文書を選択し、[Edit Configuration (サーバー設定の編集)]をクリックします。
4. [MIME]タブをクリックし、[Advanced (詳細)]、[Advanced Inbound Message Options (インバウンドメール詳細オプション)]の順にクリックします。
5. [If each recipient's address does not appear in any address header, then add their address to the BCC list. (それぞれの受信者のアドレスがどのアドレスヘッダーにも現れない場合、それらのアドレスをBCCリストに加える)]フィールドで、[Yes (はい)]を選択します。

これによりSMTP RCPT TOに表示されるすべてのアドレスが確実にチェックされます。RFC822アドレスヘッダーのいずれにも入らないアドレスがBCCに追加されます。

サーバー設定 : jpdominoms3/ou_mail3

基本 | セキュリティ | クライアントのアップグレード | ルーター/SMTP | MIME | NOTES.INI 設定

注意: すべての MIME 言語設定は、基本タブにある「この文書の MIME 言語設定」を有効にした時

基本 | 変換オプション | 文字セット | 詳細

インバウンドメール詳細オプション | アウトバウンドメール詳細オプション

インバウンドメール詳細オプション

元のヘッダーより Resent ヘッダーを『無効』優先する

ヘッダーからグループ名を削除 『もしも』

それぞれの受信者のアドレスがどのアドレスヘッダーにも現れない場合、それらのアドレスを BCC リストに加える はい

MIME でメールや MIME で文字セットが不明な場合、次の 8 ビット文字セットを仮定

文字セット名の別名 『マップ先』

6. 次のどちらかの操作を実行します。
 - ・ ジャーナリングするメールファイルがサーバーに含まれている場合、Configuration Settings文書を開いたままで次のセクションに進みます。
 - ・ サーバーがジャーナリングされない場合、[Save & Close (保存して閉じる)]をクリックし、サーバーを再起動します。
7. これらの手順をSMTP Listenerを有効にしているDominoサーバーごとに繰り返します。

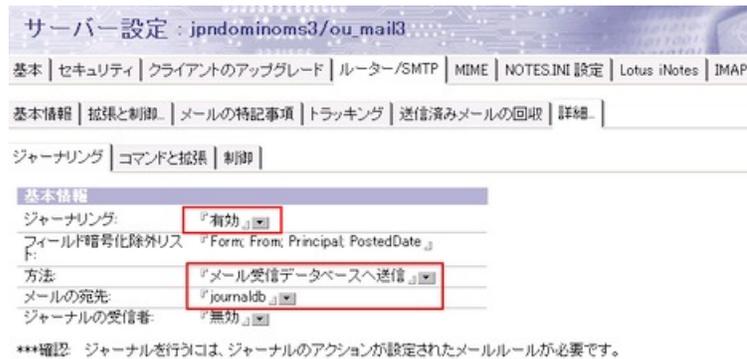
ジャーナリングの有効化

Dominoサーバーでネイティブジャーナリングを有効にするには、以下の手順を実行します。

1. サーバーのConfiguration Settings文書で、[Router/SMTP (ルーター/SMTP)]、[Advanced (詳細)]、[Journaling (ジャーナリング)]の順に選択します。

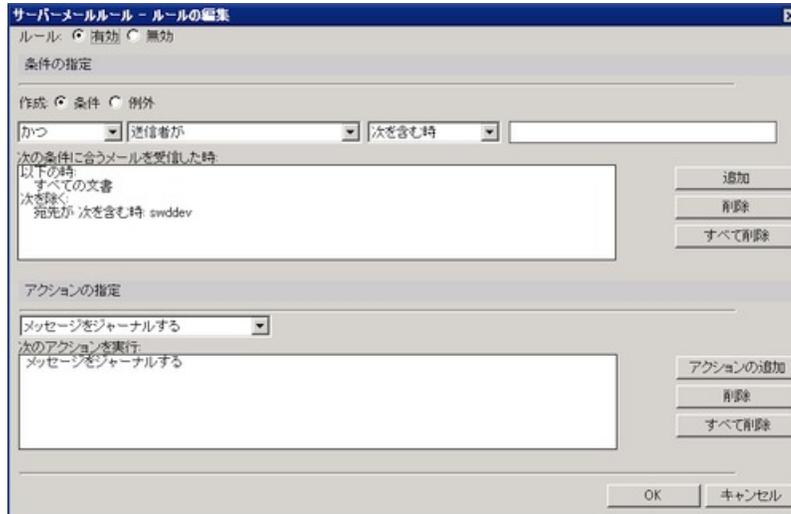
2. 以下の設定を行います。

- ・ [Journaling (ジャーナリング)]: [有効]
- ・ [Method (方法)]: [Send to Mail-in Database (メール受信データベースへ送信)]
EAs Dominoは、暗号化が必要になるため、[Copy to local database (ローカルデータベースへコピー)]オプションをサポートしていません。ジャーナリングされた標準的なメッセージをIAPに送信する場合、暗号化はできません。すでに暗号化されたメッセージをIAPに送信する場合、メッセージをさらに暗号化することはできません。
- ・ [Mail Destination (メールの宛先)]: 矢印をクリックし、Domino DirectoryのMail-inデータベースを選択します。



3. [Router/SMTP (ルーター/SMTP)], [Restrictions and Controls (拡張と制御)], [Rules (ルール)]の順に選択します。

4. [New Rule (新規ルール)]をクリックし、IAPへ送信されるメッセージが再びジャーナリングされることなく、ジャーナリングルールを作成します。



- a. ルールの条件を指定します。
 - ・ [Create: (作成:)] [Condition (条件)]
 - ・ [AND (かつ)] [Sender (送信者が)] [contains (次を含む時)]
 - ・ [When: All Documents (以下の時: すべての文書)]
 - ・ [Except when: To contains <iapaddress> (次を除く: 宛先が次を含む時: <iapaddress>)]

Server Definition文書の[Server Settings(サーバ設定)]タブのIAP電子メールアドレスフィールドに表示されているアドレスを使用します。IAP電子メールアドレスフィールドで「@」より前にあるすべての値を入力します。たとえば、IAP電子メールアドレスが「AcmeIAP01Admin@iap01.acme.com」である場合は、このフィールドの値は「AcmeIAP01Admin」(@より前にあるすべての文字)になります。
 - b. [Add (追加)]をクリックします。
 - c. アクションを指定します。[Journal this message (メッセージをジャーナルする)]
 - d. ルールが[On (有効)]であることを確認し、[OK]をクリックします。
5. 必要な場合は、他のジャーナリングルールを作成して、収集または除外するメッセージを定義します。Dominoマニュアルの説明に従って、ジャーナリングルールを作成します。
6. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
7. サーバーを再起動します。

同一のサーバー上での高度なフィルタリングとDominoネイティブジャーナリングの設定

同一のDominoサーバー上でEAs DominoのジャーナリングとDominoネイティブジャーナリングの両方を実行することは、一般的ではありません。ただし、この手法を使用する可能性のある状況も存在します。たとえば、ある組織では既存の業務プロセスに関連するすべてのメッセージをジャーナリングする必要があり、一方で、ユーザーのメッセージの一部のみをIAPにアーカイブする必要がある場合があります。

同一のサーバー上でEAs DominoジャーナリングとDominoネイティブジャーナリングの両方を実行するには、各ジャーナリング設定でもう一方の設定を考慮に入れることが重要です。

- 高度なフィルタリングルール: ネイティブジャーナリングデータベースにルーティングされるメッセージが EAs Domino 高度なフィルタリングによってジャーナリングされることを防止する例外を追加します。[\[Sender/Receiver Exceptions \(送信者/受信者の例外\)\]](#) タブで [Except To] フィールドにエントリーを追加します。

 **注記:**

[Except To] フィールドには、IAP に送信されるメッセージを除外するエントリーを含めることも必要です。このフィールドで複数のエントリーをサポートするために、Domino Directory で、IAP、ネイティブジャーナル、およびその他の例外をメンバーとして持つグループを作成します。[Except To] フィールドで矢印をクリックし、新しいグループを選択します。

- Domino ネイティブジャーナリングルール: EAs Domino の Mail-in ジャーナルデータベースをあて先とするメッセージがジャーナリングされることを防止する例外を追加します。

ジャーナリングされたメッセージのアーカイブ

HP ゲートウェイサーバーで、以下の手順を実行すると、Mail-in ジャーナルのメッセージを IAP にアーカイブできます。

これらの手順は、メッセージのジャーナリングで高度なフィルタリングを使用するか、Domino ネイティブジャーナリングを使用するかに関係なく、実行する必要があります。

- ジャーナルマイニングルールを設定します。
「[マイニングルールの設定](#)」(191 ページ) を参照してください。
- Profile エージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[Profile エージェントの操作](#)」(153 ページ) の手順を使用してください。
- ジャーナル Mail-in データベースを、ユーザーとして HP EAs-D Users データベースに追加します。
「[ジャーナルユーザーの追加](#)」(193 ページ) を参照してください。
- Preprocessing Control 文書を設定します。
「[Preprocessing Control 文書の編集](#)」(194 ページ) を参照してください。
- PreProcess エージェントと Archive エージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[PreProcess エージェントと Archive エージェントの有効化](#)」(194 ページ) を参照してください。
- rissminer プログラム文書の中で Compliance Archiving ジョブのスケジュールを設定します。
「[Compliance Archiving ジョブのスケジュール設定](#)」(194 ページ) を参照してください。

マイニングルールの設定

1. HPゲートウェイサーバーでHP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. メインビューの[Mining Rules(マイニング ルール)]で、[Mining Rule: Journaling (マイニング ルール: ジャーナリング)]をダブルクリックします。
3. マイニングルールの上にある以下のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Policy Status (ポリシーステータス)]	ルールを有効にしてMail-inジャーナルデータベースのマイニングを開始する準備ができた段階で、[Enable(有効)]を選択します。
[Profile (プロファイル)]	マイニングルールのデフォルトの名前を入力します。プロファイル名の変更では、プロファイル名にスペースやダッシュを含めることはできません。

4. 以下のオプションをマイニングルールに設定します。

タブ	説明
[Time Conditions (期間条件)]	以下のことを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [Memo, Reply type of document]を[Creation Date]に設定する。 • [Archiving Date for not Foldered Document]を0に設定する。 • [Archiving Date for Foldered Document]を0に設定する。
[Folders Settings (フォルダー設定)]	編集しないでください。
[Exceptions Settings (例外設定)]	編集しないでください。
[User Membership (ユーザーメンバシップ)]	<p>次のようにタブのフィールドを編集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Active for Profile Agent (Profileエージェントで利用)]: 必ず[No(いいえ)]が選択されていることを確認します。 • [Include Users on selected Mail server(s) (選択されたメールサーバーのユーザーを含む)]: [All servers]または[Only Selected servers (選択したサーバーのみ)]に設定します。 • [Active for database(s) (有効にするデータベース)]: [Mail in Db]のみが選択されていることを確認します。 • [Use Alternate Server (代替サーバーを使用)]: マイニング設定で複製されたジャーナリングを使用する場合は、[Yes(はい)]を選択します。表示された[Alternate Server (代替サーバー)]フィールドで、複製されたジャーナルを持つサーバーを選択します。 • [Person entry (Personエントリ)]で、マイニング対象のMail-inジャーナルデータベースを選択します。 <p>注記: [String pattern matching (一致する文字列パターン)]フィールドにrim_journaling_*と表示されている場合、この値は削除できます。これは単なる例です。</p> <p>設定の詳細については、「[User Membership (ユーザーメンバシップ)]」(135ページ)を参照してください。</p>

タブ	説明
[Reference Database (Reference データベース)]	<p>次の設定値を編集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Extended (拡張)]を選択します。 • デフォルトのReference Databaseのパスと名前はhprim/hp_riss_journalreferenc.nsfです。 • [Reference Database Server name (Referenceデータベースサーバー名)]フィールドは空白のままにします。 • [Preserve References for auditing (監査用参照を保持)]フィールドで、[No (いいえ)]が選択されていることを確認します。EAs Domino 2.1では監査は有効になっていません。 • [Original field(s) to be added to the Reference record (Referenceレコードに追加する元のフィールド)]ではエントリーを追加しないでください。このフィールドは監査に使用しますが、ここでは有効になっていません。
[Tombstone Settings (Tombstone 設定)]	[Delete message (メッセージを削除)]が[Actions]で選択されていることを確認します。
[Session Settings (セッション設定)]	<p>次の設定値を編集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Allow Remote Mining of databases (データベースのリモートマイニングを許可)]: [Yes (はい)]が選択されていることを確認します。 • [Archive Strategy (アーカイブ戦略)]: [None]が選択されていることを確認します (アーカイブの前にメッセージを並べ替える必要はありません)。 • [Do not archive document older than (指定日以前のドキュメントをアーカイブしない)]: このフィールドは空白のままにします。
[User Notification (ユーザー通知)]	編集しないでください。
[Administration Alert (管理アラート)]	マイニングが起動しないときに、Dominoの管理者に警告を送信する場合に設定します。詳細については、「[Administration Alert (管理アラート)]」(144ページ)を参照してください。

5. マイニングルールを保存します。

ジャーナルユーザーの追加

HP EAs-D UsersデータベースのMail Detailレコードを手動で作成することにより、Mail-inジャーナルデータベースをEAs Dominoユーザーとして追加します。

ジャーナルが複製される場合、複製ごとにMail Detailレコードを手動で作成します。

1. Domino Administratorクライアントで、hprimフォルダーの中にあるHP EAs-D Usersデータベースを開きます。
2. [Create (作成)]メニューから、[Mail Details]、[Database Details (データベースの詳細)]の順に選択します。

新しいMail Detailレコードが表示されます。

3. [Database Details (データベースの詳細)]タブで、以下の値を設定します。

Database Details | Database Activity | Activity Log | Notes Archive Settings

[Database Details]

First Name	HP
Middle Initial	
Last Name	
Full Name	HP EAsD Journal
Home Server	Mailserv 2/acme
Database Filepath	hp_mailrn.nsf
Database used for Journaling	<input type="radio"/> No <input checked="" type="radio"/> Yes
Mining Rule(s) Assigned	Journaling
Status	<input checked="" type="radio"/> Enable <input type="radio"/> Disable <input type="radio"/> No Profile Assigned

フィールド	説明
[FullName (フルネーム)]	Mail-inジャーナルデータベースの名前を入力します。たとえば、「HP EAsD Journal」と入力します。
[Home Server (ホームサーバー)]	矢印をクリックし、データベースの配置場所であるサーバーを選択します。
[Database Filepath (データベースファイルパス)]	Mail-inジャーナルデータベースのファイルパス (Dominoデータディレクトリからのパス) およびファイル名を入力します。
[Mail File used for Journaling (ジャーナリング用のメールファイル)]	必ず[Yes]をクリックします。 注記: この設定はジャーナルマイニングの実行に必須です。
[Mining Rule(s) Assigned (割り当てられたマイニングルール)]	ジャーナリング用のマイニングルールの名前を入力します。
[Status (ステータス)]	[Enable]をクリックします。

4. レコードを保存します。

Preprocessing Control文書の編集

HP EAs-D APIメインビューで、ジャーナリング用のPreprocessing Control文書を開き、「Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化」(158ページ)に示した手順に従って設定を編集します。

PreProcessエージェントとArchiveエージェントの有効化

PreProcessエージェントとArchiveエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。実行する手順については、「PreProcessエージェントのスケジュール設定と有効化」(151ページ) および「Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化」(158ページ)を参照してください。

Compliance Archivingの場合、Encapsulateエージェント、Archiveエージェント、およびTombstoneエージェントは1日中、頻繁に実行する必要があります。時刻は20分以上空けてください。

Compliance Archivingジョブのスケジュール設定

「アーカイブジョブのスケジュール設定」(161ページ)の手順を使用して、アーカイブジョブのスケジュールを設定します。

Compliance Archivingの場合は、プログラムを1日中実行します。

- [Run at times (実行時間)]フィールドで、時間帯として「12:00 AM-11:59 PM」と入力します。
- [Repeat interval of (繰り返し間隔)]フィールドで、短い反復間隔(10分以上)を入力します。

Program: rissminer	
Administration	
Basics	Schedule
Program name: <input type="text" value="rissminer"/>	Enabled/disabled: <input type="text" value="Enabled"/>
Command line: <input type="text" value="-kJournaling"/>	Run at times: <input type="text" value="12:00 AM - 11:59 PM"/> each day
Server to run on: <input type="text" value="HPGateway1/fhparchive"/>	Repeat interval of: <input type="text" value="20"/> minutes
Comments: <input type="text" value="HP RIM for Domino / Selective Archiving - default profile: Journaling"/>	Days of week: <input type="text" value="Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat"/>

マイニングルールを有効にして、エージェントのスケジュールを設定すると、ジャーナリングされたメッセージが自動的にアーカイブされます。

rissminerプログラムを手動で実行する(たとえば、テスト用など)方法については、「アーカイブジョブの手動実行」(163ページ)を参照してください。

4.7 一括アップロードの使用

一括アップロードは、メールファイルの所有権を特定するユーティリティです。一般に、所有者がすでに退職していると、そのPerson文書はDomino Directoryから削除されています。

一括アップロードはアクティブでないメールファイルをスキャンし、メールファイルの所有者を検出し、各メールファイルのMail DetailレコードをHP EAs-D Bulk Uploadデータベースに作成します。このメールファイルはHPゲートウェイサーバーによってマイニングされます。

- ・ [一括アップロードソフトウェアのインストール](#) (195ページ)
- ・ [一括アップロードプロセス](#) (197ページ)
- ・ [一括アップロードマイニングルールの編集](#) (197ページ)
- ・ [Preprocessing Control文書の編集](#) (198ページ)
- ・ [エージェントの有効化](#) (198ページ)
- ・ [データベースのスキャン](#) (198ページ)
- ・ [Mail Detailレコードの確認](#) (200ページ)
- ・ [メールファイルのアーカイブ](#) (200ページ)

一括アップロードソフトウェアのインストール

一括アップロードの実行ファイルは、メールドメイン内のLotus Dominoアプリケーションサーバーにインストールされます (実稼働アプリケーションサーバーやメールサーバーを使用しないでください)。アクティブでないメールファイルをアーカイブするためのファイルは、HPゲートウェイサーバーにインストールします。

ローカルの一括アップロードファイルのインストール

一括アップロードソフトウェアをインストールする前に、以下のことを確認してください。

- ・ アクティブでないメールデータベースがローカルメールサーバーからサーバーにコピーされている。
- ・ ルータータスクがサーバーで動作している。
- ・ Lotus Notes以外のアプリケーションがすべて閉じられている。

ソフトウェアをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. HPゲートウェイサーバーで、データベースおよびエージェントを作成可能なNotes IDを使用して、Domino Administratorクライアントを開きます。
2. Windowsエクスプローラーを開き、EAs Dominoのインストールファイルが解凍されているフォルダーに移動します。serverディレクトリに移動して、Setup.exeをダブルクリックします。
3. [1. Welcome (ようこそ)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
4. [2. Load installation (インストールのロード)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
[3. Master (マスター)]ウィンドウが表示されます。

5. [3. Master (マスター)]ウィンドウで次の操作を行います。
 - a. [Server name (サーバー名)]ドロップダウンリストで、メールアドレス内のアプリケーションサーバーを選択します。
 - b. [Modules (モジュール)]チェックボックスを選択して、[Install Bulk Upload Components (一括アップロードコンポーネントをインストール)]を選択します。
 - c. [Choose an installation mode (インストール モードの選択)]の下から、[Install HP EAs Domino on the master server (HP EAs Dominoをマスターサーバーにインストール)]を選択します。
アプリケーションサーバーに適したオペレーティングシステムが表示されていることを確認します。
 - d. [Next (次へ)]をクリックします。
6. パスワードを求めるダイアログボックスが表示されたら、そのIDに対するパスワードを入力します。
7. [4. Deployment (導入)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
8. [5. Remove Base (ベースを削除)]ウィンドウで、サーバーの一時インストールベース (hp_riss_install.nsf) を削除するかどうかを選択し、[Next (次へ)]をクリックします。
 - ・ インストールベースを保存する場合は、[No(いいえ)]をクリックします。
[No(いいえ)]を選択すると、インストールベースが残されるため、インストール中に記録されたステータスメッセージを確認できません。
 - ・ インストールベースを保存しない場合は、[Yes(はい)]をクリックします。
9. [6. Save Installation (6. インストールの保存)]ウィンドウで、インストールを保存する場合は[Save this installation (このインストールを保存)]チェックボックスを選択します。インストールの保存先を参照します。
10. [7. Readme]ウィンドウ:
 - ・ ウィンドウ上部の[View readme (Readmeを表示)]チェックボックスが選択されていることを確認します。
 - ・ インストール情報が正しいことを確認します。
マスターサーバーでのインストールが[Yes(はい)]に設定されていることを確認してください。
11. [Install (インストール)]をクリックします。
インストール進捗状況バーが表示されます。
ソフトウェアのインストールが正常に終了すると、Readmeが画面に表示されます。
12. [Finish (終了)]をクリックしてインストールを完了します。
13. Dominoメールアドレスで、HP EAs-D APIデータベース (hprim\hp_rissapi.nsf) のインスタンスが1つだけ動作していることを確認します。
14. DominoデータディレクトリのhprimフォルダーにあるデータベースのACLを設定します。
使用する設定については、「[アクセス制御リスト \(ACL\) の設定](#)」(71ページ) を参照してください。
15. Dominoサーバーを再起動します。

HPゲートウェイサーバーでの一括アップロードファイルのインストール

アクティブでないユーザーのメールファイルをアーカイブするためのファイルは、HPゲートウェイサーバーにインストールします。他のアーカイブファイルをゲートウェイサーバーにインストールすると同時に、一括アップロードモジュールをインストールできます。

ソフトウェアをインストールするには、「[HP EAs Dominoソフトウェアのインストール](#)」(69ページ) の手順に従ってください。手順5の[Modules (モジュール)]チェックボックスで、[Install Journal and Selective Archiving

components (ジャーナルおよびSelective Archivingコンポーネントをインストール)]および[Install Bulk Upload Components (一括アップロードコンポーネントをインストール)]を選択します。

一括アップロードプロセス

一括アップロードの実行には、次の5つの手順が含まれます。

1. 「一括アップロードマイニングルールの編集」(197ページ).
2. 「Preprocessing Control文書の編集」(198ページ)
3. 「エージェントの有効化」(198ページ).
4. 「データベースのスキャン」(198ページ).
5. 「メールファイルのアーカイブ」(200ページ).

一括アップロードマイニングルールの編集

一括アップロード用のマイニングルールは、アクティブユーザー用に作成されたマイニングルールに似ています。

デフォルトの一括アップロードマイニングルールは、HP EAs-D APIデータベースの中に作成済みです。

デフォルトルールを使用するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、HPゲートウェイサーバーのHP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. EAs-D APIのメインビューの[Mining Rules (マイニング ルール)]領域で、[Mining Rule: Bulk (マイニング ルール: 一括)]をダブルクリックします。
3. [User Membership (ユーザーメンバシップ)]タブで、次の設定値を指定します。
 - ・ [Active for Profile Agent (Profileエージェントで利用)]: [No (いいえ)]が選択されていることを確認します。
(Profileエージェントを使用するのは、Domino Directoryに示されているアクティブユーザーのレコードを作成または更新する場合だけです。)
 - ・ [Include Users on selected Mail server(s) (選択されたメールサーバーのユーザーを含む)]: [Only Selected server(s) (選択したサーバーのみ)]をクリックし、マイニング対象のメールファイルを持つアプリケーションサーバーを選択します。
4. [Reference Database (Referenceデータベース)]タブを設定します。
 - ・ [Reference document (リファレンス文書)]: [Extended (拡張)]をクリックします。
 - ・ [Reference Database Server name (Referenceデータベースサーバー名)]: フィールドは空白のままにします。
5. [Session Settings (セッション設定)]タブ:
 - ・ [Allow Remote Mining of databases (データベースのリモートマイニングを許可)]で[Yes (はい)]を選択し、データベースのリモートマイニングを許可します。
 - ・ [Archive Strategy (アーカイブ戦略)]が[None]に設定されていることを確認します。一括アップロードでは、アーカイブの前にメッセージを並べ替える必要はありません。
6. 上記以外のタブの設定は編集しないでください。
7. マイニングルールを有効にして保存します。

Preprocessing Control文書の編集

デフォルトのBulk Upload Preprocessing Control文書は、HPゲートウェイサーバーのHP EAs-D APIデータベースの中に作成済みです。

文書を編集するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、HP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. EAs-D APIのメインビューの[PreProcessing Controls (前処理制御)]領域で、[PreProcessing Controls Default for Bulk Upload (一括アップロード用の前処理制御のデフォルト)]をダブルクリックします。
3. [Encapsulation Settings (カプセル化設定)]タブで、必要に応じて一時作業用ディレクトリのパスを編集します。
一時作業領域の詳細については、「[\[Encapsulation Settings \(カプセル化設定\)\]](#)」(148ページ)を参照してください。
4. 文書を有効にして保存します。

エージェントの有効化

一括アップロードマイニングルールを編集してPreprocessing Control文書を設定した後、HPゲートウェイサーバーでPreProcessエージェントとMiningエージェントを有効にします。

- 前処理を行うには、HP EAs-D Bulk Upload Preprocessingデータベース (hprim\hp_preproc_blk.nsf) のEncapsulateエージェントおよびRemove Obsolete PreProcess Documentsエージェントを有効にします。
- マイニングを行うには、HP EAs-D Bulk Upload Referenceデータベース (hprim\hp_riss_blkup-referenc.nsf) のArchiveエージェント、Tombstoneエージェント、およびReference Cleanupエージェントを有効にします。
Tombstoneエージェントは、アクティブでないメールファイルのアーカイブが正常に終了した後、そのメッセージを削除します。

メールファイルのスキャン

アクティブでないメールファイルのスキャンし、メールファイルの所有権を判定するために、一括アップロード実行可能ファイルを実行します。一括アップロードは、アプリケーションサーバーのサーバーコンソールから実行します。Mail Detailレコードが作成され、サーバーのHP EAs-D Bulk Uploadデータベースに格納されます。この文書は、HP EAs-D Usersデータベースでアクティブユーザー用に作成されたMail Detailレコードと同様のものです。

一括アップロードは、[メールファイル所有者の検出](#)に示すプロセスを使用して、メールファイルの所有者を決定します。

1. Domino Administratorクライアントで、[Server (サーバー)]、[Status (ステータス)]、[Server Console (サーバーコンソール)]の順に選択し、サーバーコンソールを開きます。

2. 次のコマンドを実行します。

```
load hpblkupd -d<db/dir> -kbulk
```

たとえば、Dominoデータディレクトリ内のTerminatedディレクトリの中にあるメールファイルの所有者を検索し、Mail Detailレコードをデフォルトの一括アップロードデータベースに作成して、一括アップロードマイニングプロファイルに関連付けるには、次のコマンドを入力します。

```
load hpblkupd -dterminated -kbulk
```

DominoデータディレクトリのMailディレクトリの中にあるsmithjメールファイルの所有者を検索し、Mail Detailレコードを一括アップロードデータベースに作成して、一括アップロードマイニングプロファイルに関連付けるには、次のコマンドを入力します。

```
load hpblkupd -dmail/smithj.nsf -kbulk
```

注記:

メールファイルをスキャンする場合、スイッチとファイル名やプロファイル名の間にはスペースを入れしないでください。ファイル名は引用符で囲みません。

例:

```
-dmail/smithj.nsf  
-kbulk
```

以下のパラメーターをメールファイルのスキャンに使用できます。

パラメーター	説明
-d<db/dir>	Dominoデータディレクトリで検索するためのデータベースまたはディレクトリ。単一のデータベースまたは単一のディレクトリに対してプロセスを実行できます。 -dで値を指定しない場合は、サーバーのDominoデータディレクトリの中にあるすべてのデータベースが検索されます。
-r<db>	作成されたMail Detailレコードを保存するためのデータベース。デフォルトの検出データベース (-rスイッチを使用しない場合) は、hprim/hp_rissblkupd.nsfです。
-k<profile>	マイニングルールプロファイルの名前。デフォルトの一括アップロードルールを使用する場合、この値はbulkになります。
-v	Verboseモード。スキャンされたメールファイルも表示されます。

メールファイル所有者の検出

すべてのメールデータベースには所有者が設定されます。所有者をIAPのユーザーに設定することができます。

一括アップロードは、以下の手順を使用して所有者を検出しようとします。所有者が見つかり、所有者の値が保存された時点で、このプロセスは終了します。

1. DelegationProfileから所有者を取得します (たとえば、Joe Smithが企業のマネージャーであり、自分の電子メールをアシスタントに委任している場合)。
2. CalendarProfileから所有者を取得します。
3. [SENT]ビューから所有者を取得します。このプロセスでは、最も頻度の高い[FROM]フィールドを検索します。

4. メールファイルのアクセス制御リストから所有者を取得します。このプロセスでは、[読者]以上のアクセス権を持つユーザーを検索します。

パラメーター-o<x@xx.xx>を使用して、メールファイルの所有者を手動で設定できます。ここで、<x@xx.xx>は、所有者のインターネットアドレスです。

たとえば、Joe Smithをメールファイルの所有者に設定するには、次のように入力します。

```
load hpblkupd -d<db> -ojoesmith@company.com
```

Mail Detailレコードの確認

一括アップロードプロセスで作成されるMail Detailレコードを確認するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、アプリケーションサーバーのHP EAs-D Bulk Uploadデータベースを開きます。
2. 文書ビューで、メールファイルのリストを確認します。
 - a. Mail Detailレコードを開くには、エントリーをダブルクリックします。

[Database Details (データベースの詳細)]タブには、所有者の名前、メールファイル名、メールファイルの配置されているサーバー、メールファイルが関連付けられているマイニングルールが記録されます。
 - b. アーカイブの対象にしないファイルを削除するには、文書ビューでファイルを右クリックし、[削除]を選択します。

一括アップロードデータベースを閉じるときに、削除を確認します。

メールファイルのアーカイブ

アクティブでないメールファイルのメッセージをアーカイブするには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Administratorクライアントで、HPゲートウェイサーバーを開きます。
2. [Server (サーバー)], [Status (ステータス)], [Server Console (サーバーコンソール)]の順に選択します。
3. 次のコマンドのいずれかを実行し、マイニングプログラムを動作させます。
 - `load rissminer -r -v -kbulk`

このコマンドにより、rissminerは、デフォルトの一括アップロードデータベースにあるメールファイルでアーカイブ対象のメッセージを検索します。デフォルトのデータベースは、一括アップロード用のアーカイブプロファイルに示されたサーバーのHP EAs-D APIデータベースで、Global Configuration文書の[Additional Modules]タブに表示されます。
 - `load rissminer -r<db> -v -kbulk`

このコマンドにより、rissminerは、代替一括アップロードデータベースに示されたメールファイルでアーカイブ対象のメッセージを検索します。<db>に該当するパスとデータベース名を入力します。
4. 一括アップロードReferenceデータベース(hprim\hp_riss_blkupdreferenc.nsf)を開き、作成された参照を表示します。

5. ArchiveエージェントとTombstoneエージェントを実行します。

```
tel amgr run "hprim\hp_riss_blkupdreferenc.nsf" 'archive'
```

```
tel amgr run "hprim\hp_riss_blkupdreferenc.nsf" 'tombstone'
```

一括アップロードのTombstone化プロセスでは、アーカイブされたメッセージがメールファイルから削除されます。

6. いずれかのリファレンス文書がPreProcess (前処理) の状態にある場合、次のコマンドを実行します。

```
tel amgr run "hprim\preproc_blk.nsf" 'encapsulate'
```

7. ArchiveエージェントとTombstoneエージェントを実行し、カプセル化されたメッセージをアーカイブします。

Part 5. IAPからの電子メールの取得

- ・ [DWA Extensionの設定 \(205ページ\)](#)
- ・ [Export Searchの使用 \(219ページ\)](#)
- ・ [IAPシングルサインオンの設定 \(237ページ\)](#)
- ・ [HP EAs Dominoクライアントアプリケーションの操作 \(249ページ\)](#)

5.1 DWA Extensionの設定

この章では、組織がこのHP EAs Dominoオプションを使用している場合に、アーカイブされた電子メールをDomino Web Access (iNotes) で取得するために必要な手順について説明します。

- ・ [概要 \(205ページ\)](#)
- ・ [DWA Extension:のインストール \(206ページ\)](#)
- ・ [DWA Extensionの設定手順 \(209ページ\)](#)
- ・ [Proxy Gateway文書の設定 \(210ページ\)](#)
- ・ [Tombstone Prototype文書の設定 \(211ページ\)](#)
- ・ [\[Tombstone Settings \(Tombstone設定\)\]タブの編集 \(216ページ\)](#)

(アーカイブされたメッセージをLotus Notesで取得する場合は、「[HP EAs Dominoクライアントアプリケーションの操作](#)」(249ページ)を参照してください。)

概要

DWA Extensionを使用すると、アーカイブされたメッセージはIAPから取得され、DWAで開くことができます。DWAでtombstone化されたメッセージを開くと、「Click here to retrieve the full document (メッセージ全体を取得するにはここをクリックしてください)」などのテキストがブラウザに表示されます。このテキストは、取得要求をIAPに送信する有効なURLにリンクしています。この要求は、EASWEBエージェントによって、HP EAs-D DWAインデックスデータベース内で実行されます。

IAPから取得したメッセージは、ユーザーのメールファイルにキャッシュされます。キャッシュされたメッセージの保持期間はGlobal Configuration文書で指定されます。この文書はメールドメインバージョンのHP EAs-D APIデータベースに存在します。

DWAメッセージの取得に使用するLotus Dominoサーバーは、Dominoメールサーバー (通常はDWA専用) またはプロキシとして使用しているアプリケーションサーバーとなります (EAs Dominoでは、プロキシサーバーはProxy Gatewayと呼ばれています)。パフォーマンスとサーバーの安定性が非常に重要であるDWAユーザーコミュニティを組織がサポートする場合は、プロキシの使用をお勧めします。

以前のバージョンのEAs Dominoを使用して作成された古いtombstone化されたメッセージは、DWAで開いたときに自動的に変換されます。この変換は、HP EAs-D Requestsデータベースを介して行われます。このデータベースはDWAサーバーまたはProxy Gateway上にインストールされて設定されます。

DWA Extension:のインストール

DWA Extensionを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. Domino AdministratorクライアントでHPゲートウェイサーバーを開いて、データベースの作成および制限付きと制限なしのエージェントの実行に使用できるNotes IDに切り替えます。
2. Windowsのエクスプローラーを使用して、EAs Dominoインストールファイルが展開されているフォルダーに移動します。serverディレクトリに移動して、Setup.exeをダブルクリックします。
3. HP EAs Dominoインストーラーを使用して、以下のデータベースをDWAまたはプロキシサーバー上にインストールします。
 - ・ HP EAs-D DWAインデックスデータベース (hprim\hp_dwaindex.nsf)
このデータベースには、要求を受け入れて処理し、アーカイブされたメッセージをIAPから取得して要求したユーザーのブラウザに返すためのソフトウェアが格納されています。このデータベースは複製しないでください。
 - ・ HP EAs-D APIデータベース (hprim\hp_rissapi.nsf)
このデータベースは、ユーザーがDWA内のtombstone URLをクリックしたときに実行される検索処理に対応するために使用されます。
EAs-D APIのメールドメインインスタンスが別のサーバー上にインストールされている場合、そのドメインインスタンスをこのサーバーに複製します。
 - ・ HP EAs-D Server Requestsデータベース (hprim\hp_rissreq.nsf)
このデータベースは、バージョン2.0以前のEAs Dominoを使用してアーカイブされたメッセージを取得する場合のみに必要となります。
このデータベース内のエージェントが、EAs Domino 2.0以前のtombstone化されたメッセージをDWA Extensionで必要なリッチテキスト形式に変換します。複数のサーバーを使用してメッセージを取得する場合は、データベースを複製できます。
 - ・ HP EAs-D Logデータベース (hprim\hp_risslog.nsf)
(このデータベースはEAs Domino 2.1内のDWA Extensionに対してアクティブではありませんが、このソフトウェアの将来のバージョンでアクティブになります。このデータベースは複製しないでください。)

注記:

EAs Dominoのインストーラーにより、以下のJavaアーカイブファイルがこのサーバーの\`\Domino\jvm\lib\ext`フォルダーに自動的にインストールされます。これらのファイルは、IAPとの動作に使用します。

- dsn.jar
- activation [n.n.n].jar
- easdNet.jar
- retriever[n.n.n].jar (このフォルダー内の既存のretriever.jarファイルを上書きします)

-
4. Proxy Gatewayサーバーを使用している場合、EAs Dominoインストーラーの[Deploy (デプロイ)]および[Replicate (複製)]オプションを使用して、ユーザーの要求をプロキシにリダイレクトするメールサーバーにHP EAs-D APIをインストールします。

tombstone URLを動的に生成するために、メールサーバーにはEAs-D APIデータベースのコピーが必要です。

5. インストールした各EAs Dominoデータベースに対してアクセス許可を設定します。
「[DWA ExtensionのACLの設定](#)」(208ページ)を参照してください。
6. DWAインデックスデータベース内のEASWEBエージェントのセキュリティ設定を設定します。
 - a. Domino DesignerクライアントでHP DWAインデックスデータベースを開いて、[Code (コード)]、[Agents (エージェント)]の順に選択します。
 - b. [EASWEB]をダブルクリックし、警告が表示されるので[OK]をクリックします。
 - c. エージェントのプロパティで、[Security (セキュリティ)]タブをクリックします。
 - d. [Run on behalf of (代理で実行)]フィールドで、Server文書の[Security (セキュリティ)] > [Programmability Restrictions (可能なプログラムの制限)] > [制限付きLotusScript/Javaエージェントの実行]フィールドに表示されているNotes IDを選択します。

HPの技術部門では、エージェントを実行するサーバーを選択することをお勧めしています。
 - e. [Allow restricted operations (制限された操作を許可する)]が選択されていることを確認します。
 - f. 設定を保存して、プロパティおよびエージェントを閉じます。
7. EAs Domino 2.0以前でアーカイブされたメッセージを取得する場合、HP EAs-D Server Requestsデータベース (hp_rissreq.nsf) 内のPurge_Documentエージェントのスケジュール設定と有効化を行います。

Purgeエージェントは、データベース内のこの変換要求を削除します。このエージェントは1日に1回実行するようにスケジュールを設定する必要があります。
8. Proxy Gatewayサーバーを使用している場合、以下を確認します。
 - ・ プロキシのサービス対象のメールサーバーとの信頼関係が確立されている。
 - ・ 暗号化メッセージの要求をサービスするためのSSLが設定されている。
 - ・ ユーザーに認証プロンプトが表示されないように、メールサーバーによるDominoシングルサインオンが設定されている。
9. サーバーを再起動します。
10. ユーザーがアーカイブされたメッセージを迅速に検索できるように、IAPへのリンクを作成します。

組織のイントラネットポータルに、Search the IAPへのリンクを作成できます。または、電子メールでリンクをユーザーに送信して、使用しているブラウザにブックマークを追加してもらうことも可能です。このリンクはDWAでは作成されません。
 - ・ IAPのシングルサインオン (SSO) が使用されていない場合、URLは、
<http://IAP-VIP-address-or-hostname>となります。
 - ・ SSOが使用されている場合、URLは
<http://mailserver-address-or-hostname/hprim/rimssso.nsf/IAPWebSearch?OpenAgent>となります。
 SSOを設定するには、「[DWAにIAP SSOを設定する](#)」(208ページ)の手順に従ってください。

 **注記:**

ユーザーのメールファイルにキャッシュされている取得済みのDWAメッセージは、Lotus Notesメールテンプレートで提供されるすべての標準ビューで非表示となります。メールテンプレートにカスタムビューを追加してキャッシュされたメッセージを表示するには、次の選択式を使用します。

```
SELECT @IsAvailable (HP_DWA_CACHE_DATE) | @IsAvailable (HP_DWA_CACHE)
```

DWA ExtensionのACLの設定

DWA Extensionが使用するデータベースへのアクセス権を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. DWAインデックスデータベースがインストールされている各サーバー上で、以下の手順を完了します。
 - a. Domino Administratorクライアントで、[Files (ファイル)]タブをクリックし、hprimフォルダーを選択します。
 - b. このフォルダー内のhp_dwaindex.nsfを右クリックし、[Access Control (アクセス制御)]、[Manage (管理)]の順に選択します。
 - c. [Add (追加)]をクリックして、以下のユーザーを追加し、以下のようにアクセス権を設定します。
 - ・ LocalDomainAdmins (または代わりにのグループ):[Manager (管理者)]
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ [DWA Extension:のインストール](#)の手順6dで表示される各Notes ID:[Editor (編集者)]
 - ・ すべてのDWAユーザー:[Depositor (投稿者)]
1つ以上のグループエントリーを持つユーザーを追加します。
 - d. データベースのACLで、[Default (デフォルト)]を[No access (なし)]に設定します。
 - e. [OK]をクリックし、ウィンドウを閉じます。
2. DWAにアクセスするすべてのユーザーのメールファイル内のACLを編集します。

[DWA Extension:のインストール](#)の手順6dで表示される各Notes IDを追加して、[Manager (管理者)]アクセス権を付与します。
3. HP EAs-D APIデータベースのACLを変更します。
 - a. DWAユーザーに[Reader (読者)]アクセス権を付与します。
1つ以上のグループエントリーを持つユーザーを追加します。
 - b. [DWA Extension:のインストール](#)の手順6dで表示されるNotes IDを追加して、[Reader (読者)]アクセス権を付与します。

Notes IDがサーバーIDと同じ場合、IDに[Manager (管理者)]アクセス権を付与して、[Delete documents (文書の削除)]チェックボックスをオンにします。
4. HP EAs-D Server RequestsデータベースおよびHP EAs-D Logデータベースでアクセス制御設定を調節して、以下の点を確認します。
 - ・ LocalDomainAdminsには[Manager (管理者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールを持つ。
 - ・ LocalDomainServersには[Designer (設計者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールを持つ。
 - ・ (LocalDomainAdmins内に存在していない) データベースの署名に使用されたIDファイルには[Designer (設計者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールを持つ。
データベースおよびエージェントにサーバーIDを使用した署名がある場合、そのサーバーがLocalDomainServers内に存在することを確認します。
 - ・ [Default (デフォルト)]には、データベースのアクセス権を[No access (なし)]に設定します。

DWAにIAP SSOを設定する

ユーザーがDWAのみを使用して電子メールにアクセスする場合、以下の手順に従ってIAPシングルサインオンのサポートを追加してください。ユーザーがLotus NotesおよびDWAを使用して電子メールにアクセスする場合、「[IAPシングルサインオンの設定](#)」(237ページ)の手順に従ってください。

1. HP EAs-D SSOテンプレート (hp_sso.ntf) をインストールメディアのTemplatesディレクトリからコピーします。
2. 「HP EAs-D SSOデータベースの作成」(237ページ)および「HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定」(238ページ)の手順に従って、HP EAs-D SSOデータベースを作成します。
3. IAPでSSOを設定を設定します(245ページを参照)。
4. イン트라ネットポータルにSearch the IAPのリンクを作成するか、電子メールでリンクをユーザーに送信します。
URLは、
<http://mailserver-address-or-hostname/hprim/rimssso.nsf/IAPWebSearch?OpenAgent>となります。
DWA上にIAPリンクを直接作成することはお勧めしません。

DWA Extensionの設定手順

DWA Extensionを設定するには以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D APIデータベースを開いてDWAサーバーまたはProxy Gateway用のServer Definition文書を作成します。
プロキシを使用している場合、ユーザーの要求をプロキシにリダイレクトする各サーバーを含めます。
Server Definition文書の以下のタブの設定を行います。
 - ・ 「[Server Settings (サーバー設定)]」(116ページ)
 - ・ 「[DWA Settings (DWA設定)]」(121ページ)
2. Global Configuration文書で、取得したメッセージをユーザーのメールファイルキャッシュ内に保持しておく時間を設定します。
「[DWA Index Settings (DWAインデックス設定)]」(112ページ)を参照してください。
3. プロキシサーバーを使用している場合は、Proxy Gateway文書を設定します。
「Proxy Gateway文書の設定」(210ページ)を参照してください。
4. Tombstone Prototype文書を設定します。
「Tombstone Prototype文書の設定」(211ページ)を参照してください。
5. (オプション)DWA経由のみでメッセージにアクセスするユーザーグループが存在する場合、DWAマイニングルールを作成します。HP EAs-D APIマイニングルールの「Email Miner DWA Sample」をルールの基盤として使用します。
6. マイニングルール内の[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブを設定します。
このタブでは、DWAとNotesの両方のユーザーコミュニティによってアクセスされるメールファイル用にDWAマイニングルール、もしくはSelectiveマイニングルールのどちらを使用するかを設定する必要があります。
「[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブの編集」(216ページ)を参照してください。
7. 「マイニングルールの設定」(130ページ)に記載された手順に従って、その他のマイニングルールの設定を行います。

 **注記:**

Selective Archivingを実行する前に、以下の項目を確認してください。

これらの項目が適切に実装されていないと、tombstoneがアーカイブされたメッセージにリンクしません。

- メッセージがプロキシを使用せずにローカルメールサーバーまたはDWAサーバーで取得される場合、マイニングルールの[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブで、TSKey 2.1-3またはTSKey3からコピーされたプロトタイプキーが選択されていることを確認してください。
- Tombstone Prototype文書で、[Current Server (現在のサーバー)]フィールドに正しい値が表示されていることを確認してください。

Proxy Gateway文書の設定 (オプション)

Proxy Gatewayは、サポートされるメールサーバーと同じLotus Dominoドメイン内にある任意のDominoサーバーに配置することができます。パフォーマンスとサーバーの安定性が非常に重要であるDWAユーザーコミュニティをサポートする場合は、Proxy Gatewayの使用をお勧めします。

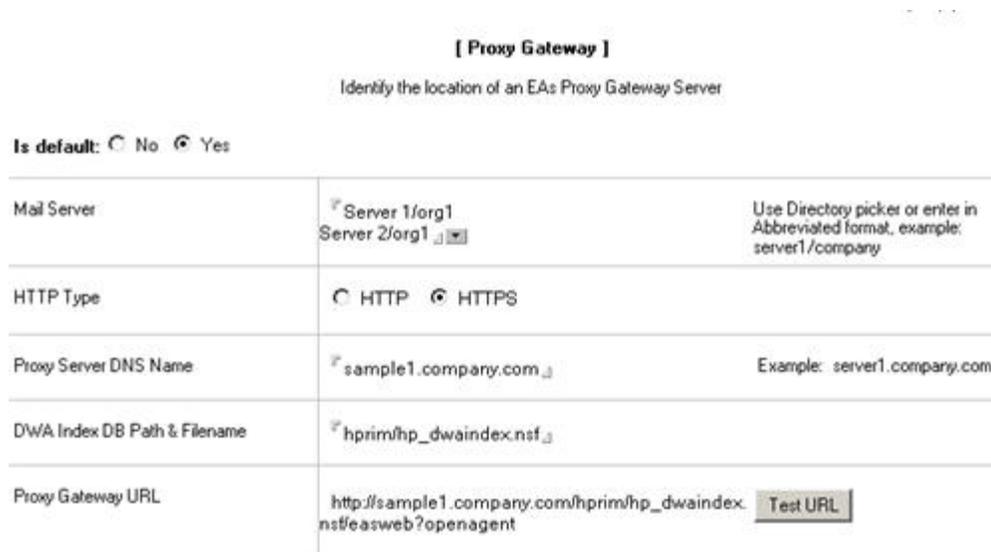
Proxy Gateway文書には、プロキシとして使用されるサーバーが指定されます。この文書そのものは、DWAメッセージの取得に影響を及ぼしません。「[Tombstone Prototype文書の設定](#)」(211ページ)で作成されるTombstone Prototype文書に、この文書を組み込む必要があります。

 **注記:**

DWAメッセージ要求をメールサーバーまたはDWAサーバーで処理する場合は、Proxy Gateway文書は必要ありません。

Proxy Gateway文書を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D APIデータベースファイルを開きます。
2. メインビューの[Mining Rules (マイニングルール)]で、[Proxy Gateway Default (Proxy Gatewayのデフォルト)]を開きます。



[Proxy Gateway]
Identify the location of an EAs Proxy Gateway Server

Is default: No Yes

Mail Server	<input type="text" value="Server 1/org1"/> <input type="text" value="Server 2/org1"/>	Use Directory picker or enter in Abbreviated format, example: server1/company
HTTP Type	<input type="radio"/> HTTP <input checked="" type="radio"/> HTTPS	
Proxy Server DNS Name	<input type="text" value="sample1.company.com"/>	Example: server1.company.com
DWA Index DB Path & Filename	<input type="text" value="hprim/hp_dwaindex"/>	
Proxy Gateway URL	<input type="text" value="http://sample1.company.com/hprim/hp_dwaindex.nsf:feasweb?openagent"/>	<input type="button" value="Test URL"/>

3. 次の設定値を入力します。

フィールド	説明
[Is default (デフォルト)]	Proxy Gatewayが1つの場合、またはこのProxy Gatewayが下の[Mail Server (メールサーバー)]フィールドに表示されているすべてのメールサーバーに対してデフォルトとして動作する場合、[Yes (はい)]を選択します。
[Mail Server (メールサーバー)]	矢印をクリックして、ユーザー要求をプロキシサーバーにリダイレクトするメールサーバーの名前を選択します。 注記:メールサーバーの選択には、必ずピッカーを使用してください。ピッカーを使用することにより、階層情報がサーバー名とともに適切に保存されます。
[HTTP Type (HTTPタイプ)]	HTTPタイプを選択します。HTTPまたはHTTPSです。 DWAユーザーが暗号化されている電子メールの読み取りを許可されている場合、HTTPSを選択します。暗号化されているメールメッセージを表示するには、この設定は必須です。
[Proxy Server DNS Name (Proxy ServerのDNS名)]	Proxy GatewayサーバーのDNS名を入力します。例: server1.com-company.com
[DWA Index DB Path & Filename (DWAインデックスのDBパスとファイル名)]	hprim/hp_dwaindex.nsfと入力します。
[Proxy Gateway URL (Proxy GatewayのURL)]	(編集しません) プロキシサーバーとDWAインデックスデータベースを指すURLです。このフィールドは、文書の保存時に自動的に更新されます。保存後にURLを検証するには、[Test URL (URLのテスト)]をクリックします。

4. 文書を保存します。

- APIメインビューから新しい文書を作成する必要がある場合は、[Create (作成)]、[Retrieval (取得)]、[1. Proxy Gateways (1. Proxy Gateway)]の順にクリックします。

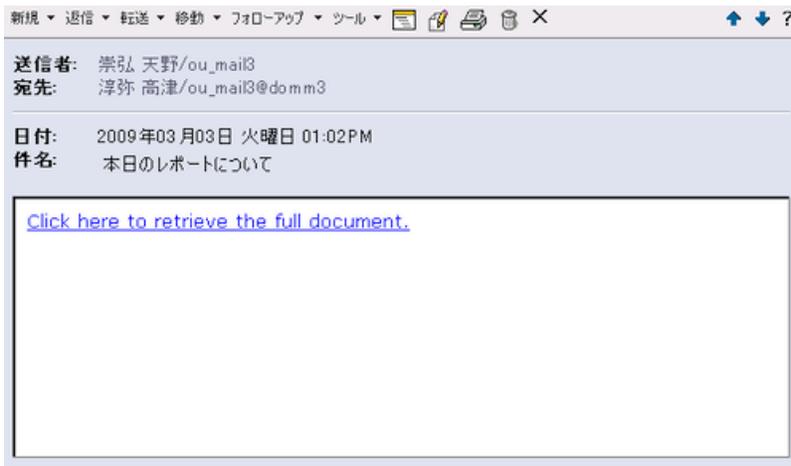
Tombstone Prototype文書の設定

tombstone化されたメッセージをDWAで取得するために、Tombstone Prototype文書を設定する必要があります。また、ユーザーがDWAとNotesクライアントの両方でメッセージにアクセスする場合にも、この文書を設定する必要があります。

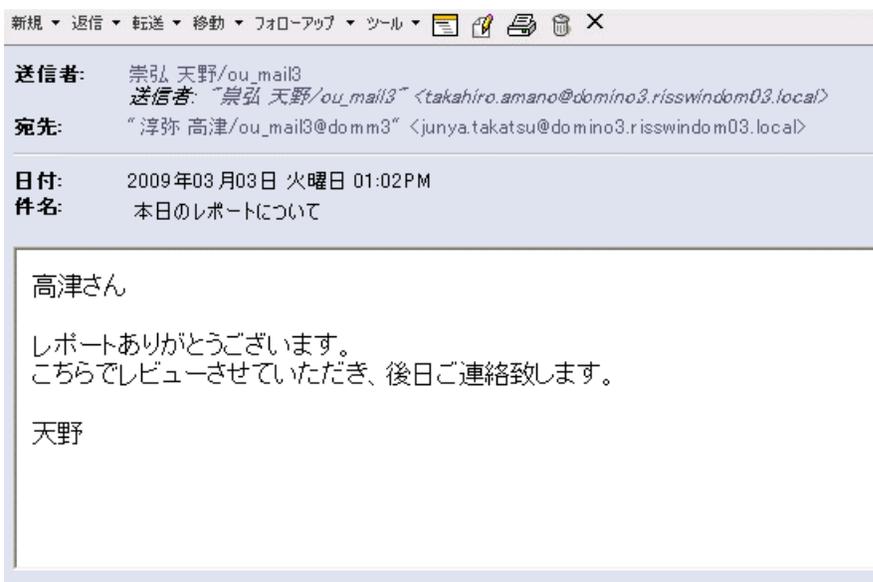
プロトタイプ文書には、計算結果テキスト要素や計算されたホットスポットリンク要素を持つリッチテキストフィールドが含まれます。この要素にはNotes式が含まれており、この式を使用して、DWAのtombstone取得時に使用されるリンクを生成します。

[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブで指定したtombstoneアクションに基づいて、文書内に作成されたクリック可能なリンクメッセージでメッセージ本文が置き換えられるか、このメッセージがメッセージ本文に追加されます(「[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブの編集」(216ページ)を参照)。リンクのURLはこの文書とProxy Gateway文書(使用する場合)によって制御され、Tombstoneエージェントによってメッセージ内に挿入されます。

下の図は、DWAユーザーに表示されるtombstone化されたメッセージを示しています。



リンクをクリックすると、取得したメッセージが表示されます。これは、別のウィンドウまたはタブ(ブラウザーによる)に表示されます。



以下の手順を実行して、文書を設定します。

1. HP EAs-D APIデータベースを開きます。

2. メインビューの[Tombstone Prototype (Tombstoneプロトタイプ)]で、サンプル文書のいずれかを選択します。

Domino version 8.5.1以降を実行しているサーバーからユーザーがtombstone化されたメッセージを取得する場合、または、tombstone化されたメッセージをDWAと同様にEAs DominoのLocal Cacheでも取得する場合、次のいずれかのプロトタイプキーを使用してください。

- ・ TSKey2.1-1 – Proxy Gatewayで使用。約4KBのtombstoneを生成します。
Proxy Gateway文書に示されているデフォルトのプロキシサーバーにユーザーの要求が送られる場合、この式を使用してください。
- ・ TSKey2.1-2 – Proxy Gatewayで使用。約5KBのtombstoneを生成します。
この式では、デフォルトのプロキシサーバーがリストされません。
- ・ TSKey2.1-3 – ローカルホストで使用。約3.5 KBのtombstoneを生成します。

 **注記:**

DWAとLocal Cacheの両方でメッセージが取得される場合、TSKey2.1-xサンプルを使用して開始することが重要です。これらのサンプルのコードにより、DWAのアクセスとNotesクライアント内のLocal Cacheのアクセスの両方で動作する統一されたtombstoneリンクが作成されます。以前のリリースのEAs Dominoで提供されたプロトタイプで作成されたリンクはDWAのみで動作し、Local Cacheを使用すると、これらのリンクが正常に動作しませんでした。

Local Cacheアプリケーションの詳細については、「[Local Cacheの使用](#)」(251ページ)を参照してください。

ユーザーがtombstone化されたメッセージをDWAで取得してLocal Cacheで取得しない場合、またはDWAサーバーでバージョン8.5.1以前のDominoを実行している場合(またはその両方)、次のいずれかのプロトタイプキーを使用できます。ただし、将来サーバーをDomino 8.5.xにアップグレードする計画がある場合は、これらのキーを使用しないでください。

- ・ TSKey1 – Proxy Gatewayで使用。約3KBのtombstoneを生成します。
Proxy Gateway文書に示されているデフォルトのプロキシサーバーにユーザーの要求が送られる場合、この式を使用してください。
 - ・ TSKey2 – Proxy Gatewayで使用。約2KBのtombstoneを生成します。
この式では、デフォルトのプロキシサーバーがリストされません。
 - ・ TSKey3 – ローカルホストで使用。約2KBのtombstoneを生成します。
3. コピーおよび貼り付け機能を使用して、サンプルの作業用コピーを作成します。
 4. 作業用コピーをダブルクリックして開き、編集を行います。
 5. [Prototype key (プロトタイプキー)]フィールドでは、キーの名前を新しい一意の名前に変更します。
このキー名はマイニングルールの[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブで使用します。
 6. [Local Cache compatibility (Local Cacheの互換性)]フィールドで以下の点を確認します。
 - ・ キーがTSKey2.1-xからコピーされた場合、[Yes (はい)]が選択されている。
 - ・ キーがTSKey1、2、または3からコピーされた場合、[No (いいえ)]が選択されている。
 7. [Comments (コメント)]フィールドには、キーまたは文書に関するコメントを入力します。

8. 次のどちらかの操作を実行します。

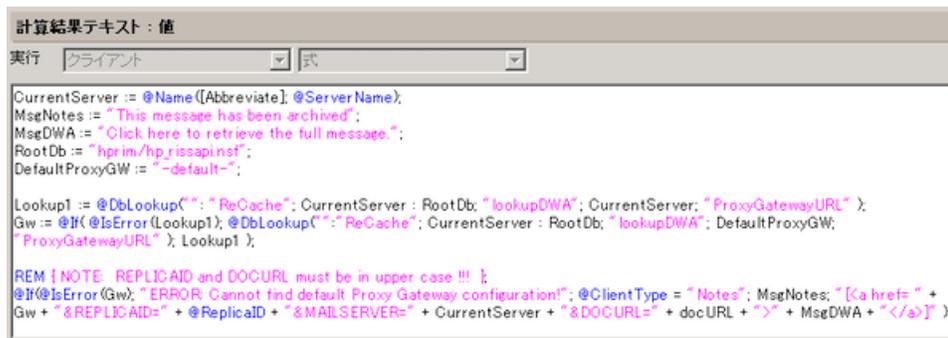
- ・ TSKey2.1-xからキーをコピーした場合:[Tombstone Body (Tombstone本文)]フィールド内のホットスポットリンク上にカーソルを置きます。[Hotspot (ホットスポット)]メニューで[Hotspot Properties (ホットスポットのプロパティ)]を選択して式のアイコンをクリックします。



- ・ TSKey1、2、または3からキーをコピーした場合:[Tombstone Body (Tombstone本文)]フィールド内にカーソルを置きます。[計算結果テキスト(O)]メニューから、[計算結果テキストの編集]を選択します。

プロトタイプ式が表示されます。Proxy Gateway文書が設定済みであれば、この式の値はその文書からインポートされます。

下の図は、TSKey1のコピーを編集のために開いたときの状態を示しています。この式では、Lookup1変数によって現在のサーバーのProxy Gateway文書を検索し、Proxy Gateway URLの値を取得しています。@DbLookup関数によってHP APIデータベースのlookupDWAビューを参照し、現在のメールサーバーのProxy Gateway文書を検索しています (lookupDWAビューは、ProxyGWという名前の非表示のビューのエイリアスです)。



9. 式の値を次のように編集します。

- ・ (Proxy Gatewayキーのみ) メールサーバーの名前にスペースが含まれる場合、CurrentServerの値を編集します。スペースを%20または+に変更して、URLが正しく起動できるようにします。そうしないと、最初のスペースで停止してしまいます。
- ・ 「Click here to retrieve the full document.」というサンプルを変更したい場合は、クリック可能なリンクテキストを編集します。これは、ユーザーがtombstone化されたメッセージを開いたときにDWAに表示されるメッセージです。

TSKey1、2または3では、MsgDWAの値を変更します。

TSKey2.1-xでは、[Tombstone Body (Tombstone本文)]フィールド内のホットスポットテキスト内にカーソルを置いて、テキストを直接変更します。TSKey2.1-xのプロトタイプを変更する際は注意が必要です。行を追加または削除しないでください。また、行全体を選択してテキストを上書きしないでください。

[Tombstone Prototype]

Define the content of a rich text tombstone

Prototype key	『TSKey 2.1-1 - US English』
Local Cache compatibility	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
Comments	『Example - 8.51 & LC Compatible TSKey』

Tombstone Body - enter Rich text

[Click here to retrieve the full document.](#)
This message has been archived.」

- ・ メッセージがLotus NotesとDWAの両方で取得される場合に「This message has been archived.」というサンプルを変更したい場合は、テキストを編集します。

コンピューターまたはIAPがオフラインで、tombstone化されたメッセージを取得できず開けない場合、この静的なメッセージのみがLotus Notesに表示されます。

TSKey1、2または3では、MsgNotesの値を変更します。

TSKey2.1-xでは、[Tombstone Body (Tombstone本文)]フィールド内のプレーンテキスト内にカーソルを置いて、テキストを直接変更します。行を追加または削除しないでください。また、行全体を選択してテキストを上書きしないでください。

Tombstone Body - enter Rich text

[Click here to retrieve the full document.](#)
This message has been archived.」

- ・ 式を変更したり、独自の式を作成する場合、REPLICAID、MAILSERVER、DOCURLというパラメーターは常に大文字で表記するようにしてください。これらのURLパラメーターでは、大文字と小文字が区別されます。

例:

```
https://<host_name>/hprim/hp_dwaindex.nsf/easweb?openagent&REPLICAID=  
<mailfile_replicaID>&MAILSERVER=<mailserver_name>&DOCURL=<docURL>
```

- ・ 式の作成についての詳細は、プロトタイプキーの説明に記載されています。

10. 編集後の式を保存します。

実際のURLは、次のようになります。

```
http://rims2.usa.hp.com/hprim/hp_dwaindex.nsf/easweb?openagent
&REPLICAID=852573DE:0078B7BC&MAILSERVER=Velociraptor/EASDomino&DOCURL=
DWN03JI51C21loMWpNmnAmaY1kIHikUWYWame32EQekoce13WWnPKfdRJQ9w9MCj
DHUqT21gcwn99SNb-I5vBgi5dUFpvpuoXQPlkAFWbKswEgMgw1RsEikjlcJXsHcX8
J2gt4MTTgN9OYS7-uc23RuUgaVR4aKiNLHucf1J0M3U5ZoiNZ1TXeGmui3nTcOby
1lXLmFjx4N6F6gDpc4ZAq
```

11. 編集後のTombstone Prototype文書を保存します。

注記:

トラブルシューティングのために、文書内で設定したURLに次のDEBUGパラメーターをオプションで追加します。例:

```
https://<host_name>/hprim/hp_dwaindex.nsf/easweb?openagent&REPLICAID=
<mailfile_replicaID>&MAILSERVER=<mailserver_name>&DOCURL=<docURL>&DEBUG=true
```

[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブの編集

Tombstone Prototype文書内に作成するキーは、[Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブで指定する必要があります。このタブの設定によって、Tombstoneエージェントが実行するアクションが決まり、メッセージのアーカイブ時にtombstone内に残される内容が指定されます。

tombstoneについては、次の3つの選択肢があります。

- [Shrink Body and remove attachments (本文を切り取って添付ファイルを削除)]では、メッセージの添付ファイルがすべて削除され、メッセージ本文が切り取られて短くなります。プロトタイプ文書で作成された内容がメッセージ本文に追加されます。このオプションを選択することをお勧めします。

[Tombstone Settings]

Control the creation of tombstones for archived messages, determine size and functionality.

Actions:	Style
<input type="radio"/> None <input checked="" type="radio"/> Shrink Body and remove attachments <input type="radio"/> Remove attachments only <input type="radio"/> Clear body and remove attachments <input type="radio"/> Delete message [Shrink to : 100 Bytes]	<input type="radio"/> Text <input checked="" type="radio"/> Rich Text [Prototype: TSKey 2.1-3 - US English]
Operate only if document is greater than	3500 Bytes
Reference Document Retry interval	10 Days

- ・ [Remove attachments only (添付ファイルのみ削除)]では、添付ファイルがすべて削除されますが、メッセージ本文はそのままの状態です。
プロトタイプ文書で作成された内容がメッセージ本文に追加されます。
- ・ [Clear body and remove attachments (本文と添付ファイルを削除)]では、メッセージの添付ファイルも本文も削除され、ヘッダーだけが残ります。
プロトタイプ文書で作成された内容がメッセージ本文に置き換わります。

tombstone設定を行うには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D APIデータベースファイルを開きます。
2. メインビューの[Mining Rules (マイニング ルール)]で、「Selective」または「Email Miner DWA Sample」を開きます。
3. この文書内でダブルクリックして、編集モードにします。
4. [Tombstone Settings (Tombstone設定)]タブをクリックし、「[\[Tombstone Settings \(Tombstone設定\)\]](#)」(138ページ)に示した手順に従って設定を行います。
 - ・ スタイルに[Rich Text (リッチテキスト)]が選択され、Tombstone Prototypeキーが選択されていることを確認してください。
 - ・ [Operate only if document is greater than (ドキュメントのサイズが次の値以上の場合のみ操作)]の値が2000~5000バイトに設定されていることを確認します。この値はTombstone Prototypeキーにより異なります。DWA Extensionが実装されている場合、tombstone化された項目の最小サイズは、TSKeys 1、2または3の場合は2~3KB、TSKeys 2.1-xの場合は3.5~5KBです。

5.2 Export Searchの使用

- ・ [概要 \(219ページ\)](#)
- ・ [Export Search Desktopツールを使用してメッセージをエクスポートする \(219ページ\)](#)
- ・ [サーバーを使用したメッセージのエクスポート \(221ページ\)](#)

概要

Export Searchは通常、コンプライアンス担当者が法令関連の確認を行うためのメッセージを取得するために使用するツールです。Export Searchを使用すると、アーカイブされたメッセージのリンクがIAP WebインターフェイスからDLDファイルにエクスポートされます。その後、リンク先のメッセージが、通常はこの目的で作成した標準的なNotesのデータベースファイルにダウンロードされます。元のメッセージは、IAP上に維持されます。

電子メールの検索自体は、IAP Webインターフェイスの中で実行されます。DLDメッセージリンクのNotesデータベースへの抽出は、クライアントシステムまたはLotus Dominoサーバーで実行できます。

メッセージをクライアントにエクスポートする場合、Export Search Desktopツールがマシン上にインストールされている必要があります。このツールはスタンドアロンのJavaベースのプログラムとしてユーザーのデスクトップ上で実行します。このツールにより、ユーザーはDLDファイルの場所、エクスポートされたメッセージの出力場所、およびその他のオプションを指定できます。

サーバーバージョンは、Export SearchデータベースのJavaエージェントとして実行します。Export Searchデータベースはメールドメイン内のDominoサーバーにインストールされています。多数のメッセージが抽出される場合は、サーバーオプションがより良い選択肢になります。メッセージをエクスポートするには、Dominoサーバー上の出力データベースを指定するExport Search要求フォームを完成させます。DLDファイルがフォームに添付され、Exportエージェントがトリガーされます。要求フォームはLotus NotesクライアントまたはExport Search Webインターフェイスを使用して完成できます。

Export Search Desktopツールを使用してメッセージをエクスポートする

クライアントサイドオプションを使用すると、コンプライアンス担当者はIAPから自分のコンピューター上のメールファイル、またはアクセス可能な別のメールファイルにメッセージをエクスポートできます。

クライアントマシン上にEAs Domino Local Cacheパッケージをインストールし、Local Cacheの設定でIAPのドメインとIPアドレスを指定する必要があります。Local Cacheのインストールには、メッセージのエクスポートに使用するExport Search Desktopツールのインストールも含まれます。詳細は、「[Local Cacheのインストール](#)」(252ページ)および「[Local Cacheの設定](#)」(253ページ)を参照してください。

Export Search Desktopツールを使用してIAPから電子メールのコピーをエクスポートするには、以下の手順に従ってください。

1. ローカルメールファイルに、エクスポートしたメッセージを格納するフォルダーを作成します。
他のメールファイルにメッセージをエクスポートする場合は、そのメールファイルにフォルダーを作成します。

2. IAP Webインターフェイスで以下の操作を行います。
 - a. 該当するメッセージを検索します。

複雑な検索を行う場合は、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』の詳細検索の手順を使用してください。

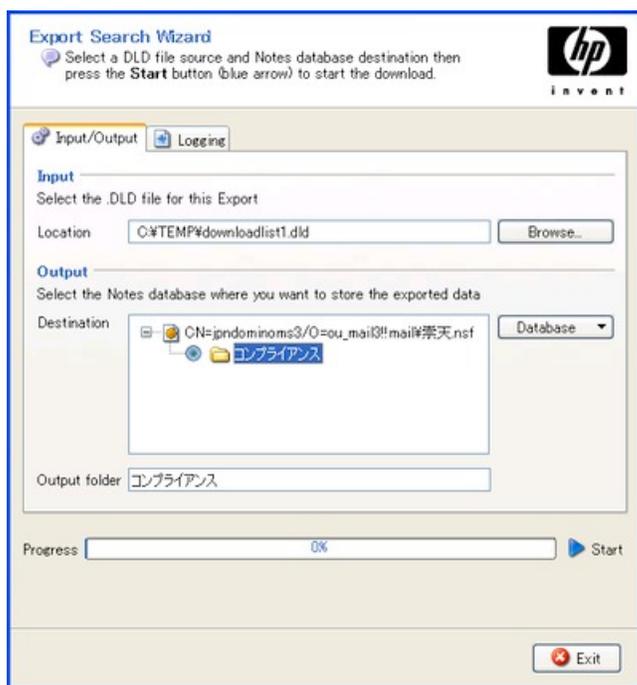
検索結果が、[検索結果]ページに表示されます。
 - b. 検索結果が500件以上の場合、「[検索結果の保存](#)」(221ページ)の手順に従ってください。
 - c. [検索結果]ページで、エクスポートする各メッセージの横にあるチェックボックスをオンにします。すべての項目をエクスポートする場合は、この手順は必要ありません。
 - d. [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。
 - e. すべての検索結果をエクスポートするには、[エクスポート すべての項目]をクリックします。選択した項目をエクスポートするには、[エクスポート チェック項目]をクリックします。

[ファイルのダウンロード]ダイアログボックスが表示されます。
 - f. [開く]をクリックして、DLDファイルを開きます。

エラーメッセージが表示される場合は、「[Export Search \(デスクトップツール\) のトラブルシューティング](#)」(279ページ)で問題の解決方法を確認してください。
3. 表示されたダイアログボックスでNotesパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

[Export Search]ウィザードが表示されます。
4. [Output]領域で、ダウンロードされたメッセージを格納するNotesデータベースを選択します。

デフォルトデータベースは、クライアントマシンのローカルメールデータベースです。
5. メールファイルを展開し、手順1で作成したフォルダーを選択します。



6. 進捗状況バーの横にある[Start (開始)]矢印をクリックして、ダウンロードを開始します。

ダウンロードの結果を示すログが表示されます。
7. ログを参照し、ダウンロードプロセスの実行中にエラーが発生したかどうかを確認します。

8. ログにダウンロードの正常な完了が示されたら、[Exit]をクリックして[Export Search]ウィザードを閉じます。
9. Lotus Notesを使用してダウンロード先のデータベースを開き、ダウンロード済みのメッセージを表示します。

検索結果の保存

検索結果が500件以上の場合、エクスポートする前に検索結果を保存してください。検索結果を保存すると、検索で見つかったすべてのメッセージをエクスポートできます。検索結果を保存しない場合は、500件のメッセージの現在のバッチのみがエクスポートされます。

検索結果はIAPに一週間保存されます（一週間の保存期間は、訴訟ホールドに配置された検索結果には適用されません。訴訟ホールドの詳細については、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』の「隔離レポジトリの使用」を参照してください）。

検索結果を保存するには、以下の手順に従ってください。

1. [検索結果ページ]で、[追加オプション]をクリックし、次いで[現在の結果の保存]をクリックします。
[結果の保存]ページが表示されます。
2. [検索結果を保存]フィールドに、保存する検索結果の名前を入力して、[今すぐ保存]をクリックします。
名前は60文字を超えることはできません。
特殊文字 (@ \$ % ^ & * # () [] / ¥ { + } ` ~ = |) は使用できません。
3. Webインターフェイスのツールバーで[クエリ マネージャ]をクリックします。
[クエリ マネージャ]ページはデフォルトで保存した結果をすべて表示します。

保存した結果		保存した条件	
検索名:	メールの編纂:	保存した結果の再ロード:	削除:
<ul style="list-style-type: none"> ● 完了済みの保存された検索結果 検索結果(議事録) (2010/07/06 終了 2010/10/06) ● 失敗した保存された検索結果 ● 保存が完了していない検索結果 	開始	再ロード	削除

4. エクスポートする検索結果を選択して、[再ロード]をクリックし、[検索結果]ページをロードします。

サーバーを使用したメッセージのエクスポート

エクスポートするメッセージの数が多い場合は、このセクションの手順に従ってください。

Export Searchの要求はLotus Notesクライアント（「[Lotus Notesクライアントを使用したメッセージのエクスポート](#)」(225ページ)を参照）またはExport Search Webインターフェイス（「[Export Search Webインターフェイスを使用してメッセージをエクスポートする](#)」(229ページ)を参照）を使用して作成できます。

サーバーサイドのExport Searchのインストール

サーバーサイドのExport Searchを実装している場合、エクスポート要求の処理に使用するファイルをいくつかDominoサーバーにインストールする必要があります。インストール方法を以下の手順で示します。

1. Dominoサーバーで\Domino\jvm\lib\security\java.policyファイルを変更し、“standard extensions”プロパティリストの先頭に次のエントリーを追加します。

```
permission java.security.AllPermission;
```

Export SearchがIAPとの動作に必要なEAs Domino JARファイルをロードするためのアクセス権を得られるように、Dominoサーバーのセキュリティ設定を変更する必要があります。

2. HPゲートウェイサーバーでDomino Administratorクライアントを開いて、データベースの作成および制限付きと制限なしのエージェントの実行に使用できるNotes IDに切り替えます。
3. Windowsのエクスプローラーで、EAs Dominoインストールファイルが展開されているフォルダーに移動します。serverディレクトリに移動して、Setup.exeをダブルクリックします。
4. HP EAs Dominoインストーラーを使用して、以下のデータベースをDominoサーバー上にインストールします。

HP EAs-D Logを除くすべてのデータベースは複製が可能です。

- ・ HP EAs-D APIデータベース (hprim\hp_rissapi.nsf)
EAs-D APIのメールドメインインスタンスが別のサーバー上にインストールされている場合、そのドメインインスタンスをこのサーバーに複製します。
- ・ HP EAs-D Export Searchデータベース (hprim\hp_rissexportsearch.nsf)
このデータベースには、エクスポート要求を処理するエージェントが含まれます。
- ・ HP EAs-D Locale Configurationデータベース (hprim\hp_localcfg.nsf)
このローカリゼーションデータベースには、Webベースのエクスポート要求に対するユーザーの母国語のメッセージが保存されています。
- ・ HP EAs-D Logデータベース (hprim\hp_risslog.nsf)
(このデータベースはEAs Domino 2.1内のExport Searchに対してアクティブではありませんが、このソフトウェアの将来のバージョンでアクティブになります。)

注記:

EAs Dominoのインストーラーにより、以下のJavaアーカイブファイルがこのサーバーの\Domino\jvm\lib\extフォルダーに自動的にインストールされます。これらのファイルは、IAPとの動作に使用します。

```
- dsn.jar  
- activation [n.n.n].jar  
- easdNet.jar  
- retriever[n.n.n].jar(このフォルダー内の既存のretriever.jarファイルを上書きします)
```

-
5. EAs Dominoデータベースに対してアクセス許可を設定します。
「[Export SearchのACLの設定](#)」(223ページ)を参照してください。
 6. ユーザーがWebベースのエクスポート要求を作成する場合、EAs-D APIデータベース内のExport Search Destination文書およびExport Search Template文書を設定してください。
「[Export Search文書の設定](#)」(230ページ)を参照してください。
 7. Export Searchエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
「[Export Searchエージェントの実行](#)」(235ページ)を参照してください。

8. 必要に応じて、JavaMaxHeapSize設定を変更します。

10,000以上のメッセージや大容量（20MB以上）のファイルが添付されたメッセージをエクスポートする場合、Domino Javaメモリプールに大容量のメモリを割り当てる必要があります。Export Searchでメッセージをエクスポートするのに必要なメモリを割り当てるために、次の方法で、サーバーのnotes.iniのJavaMaxHeapSize設定の値を512MBに変更します。

```
set config JavaMaxHeapSize=536870912
```

9. Dominoサーバーを再起動します。
10. ユーザーがWebベースのエクスポート要求を作成する場合、ユーザーに次のExport Search要求フォームへのリンクを送信します。
http://mailserver-address-or-hostname/hprim/hp_rissexportsearch.nsf/EXPSEARCH?OpenForm

 **注記:**

エクスポート先データベースのテンプレートが、エクスポートされたメッセージをユーザーが表示するDominoサーバー上にあることを確認してください。メール、DWA、ジャーナルまたはカスタムデータベースのテンプレートが該当します。

Export SearchのACLの設定

Export Searchが使用するデータベースへのアクセス権を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D Export Searchデータベースで、以下の操作を行います。
 - a. 以下のユーザーを追加し、以下のようにアクセス権を設定します。
 - ・ LocalDomainAdmins (または代替りのグループ):[Manager (管理者)]
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ Export Searchのユーザー:Create documents (文書の作成)権限を持つAuthor (作成者)
コンプライアンス担当者、法務担当者、Export Search Request Notificationメールの受信者、および組織が決定するその他のスタッフがこのユーザーとなります。ユーザーに1つ以上のグループを設定して追加できます。
 - b. デフォルトのアクセス権を[No access (なし)]に設定します。
2. HP EAs-D APIデータベースおよびHP EAs-D Locale Configurationデータベースで以下の操作を行います。
 - a. 以下のユーザーを追加し、以下のようにアクセス権を設定します。
 - ・ LocalDomainAdmins (または代替りのグループ):Manager (管理者)
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ Export Searchのユーザー:Reader (読者)
 - b. デフォルトのアクセス権を[No access (なし)]に設定します。

3. HP EAs-D Logデータベースで次の操作を行います。
 - a. 以下のユーザーを追加し、以下のようにアクセス権を設定します。
 - ・ LocalDomainAdmins (または代わりにのグループ):Manager (管理者)
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ LocalDomainServers:Designer (設計者)
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ (LocalDomainAdmins内に存在していない)データベースの署名に使用されたIDファイルには
削除権限とすべてのロールを持つ設計者のアクセス権が必要です。
データベースおよびエージェントにサーバーIDを使用した署名がある場合、そのサーバーが
LocalDomainServers内に存在することを確認します。
 - b. デフォルトのアクセス権を[No access (なし)]に設定します。

Lotus Notesクライアントを使用したメッセージのエクスポート

以下の手順に従って、Notesクライアントを使用してExport Searchの要求を作成してください。

メッセージのエクスポート

1. IAP Webインターフェイスで以下の操作を行います。
 - a. 該当するメッセージを検索します。

複雑な検索を行う場合は、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』の詳細検索の手順を使用してください。

検索結果が、[検索結果]ページに表示されます。
 - b. 検索結果が500件以上の場合、「[検索結果の保存](#)」(221ページ)の手順に従ってください。
 - c. [検索結果]ページで、エクスポートする各メッセージの横にあるチェックボックスをオンにします。すべての項目をエクスポートする場合は、この手順は必要ありません。
 - d. [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。
 - e. すべての検索結果をエクスポートするには、[エクスポート 全ての項目]をクリックします。選択した項目をエクスポートするには、[エクスポート チェック項目]をクリックします。

[ファイルのダウンロード]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ファイルのダウンロード]ダイアログボックスで[保存]をクリックし、DLDファイルを保存します。

DLDファイルは、Export Searchを実行しているサーバーが検索できるディレクトリに保存する必要があります。ダウンロード専用ネットワークディレクトリを作成することもできます。

メッセージの抽出

メッセージをメールデータベースに抽出するには、以下の手順に従ってください。

1. Notesクライアントを使用して、次のいずれかの方法で新しいExport Search要求フォームを開きます。
 - ・ Dominoサーバー上のhprimフォルダーでHP EAs-D Export Searchデータベースを開き、ビューの上部ある[New Export Search Request (新規Export Search要求)]をクリックします。
 - ・ HP EAs-D APIデータベースを開いて、左メニューで[Export Search Req (Export Search要求)]をクリックします。次に、ビューの上部にある[New Export Search Request (新規Export Search要求)]をクリックします。



[Export Search Request (Export Search要求)]フォームが表示されます。

2. [IAP & DLD File (IAPとDLDファイル)]タブの各フィールドに入力を行います。

IAP & DLD File	Destination	Notification	Request Log
IAP host name / IP Address <input type="text" value="15.000.000.000"/>			
DLD file(s)  compliance_1-15-10.dld (Attach DLD file here)			

フィールド	説明
[IAP host name/IP Address (IAPホスト名/IPアドレス)]	矢印をクリックし、IAPのホスト名またはIPアドレスを選択し、[OK]をクリックします。 表示されるアドレスは、HP EAs-D APIデータベース内のServer Definition文書で表示される仮想IPアドレスです。
[DLD file(s) (DLDファイル)]	DLDファイルを保存されている場所からこのフィールドにドラッグアンドドロップします。

3. [Destination (エクスポート先)]タブをクリックし、フィールドに次のように入力します。このタブ内の情報により、エクスポートされたメッセージの送信先が決定されます。設定する項目は、選択した [Destination Option (エクスポート先オプション)]により異なります。

Destination Options	<input type="radio"/> Append data to an existing db <input checked="" type="radio"/> Create a new db <input type="radio"/> Create only if db does not exist
Domino Server	<input type="text" value="Server 1/Org1"/>
Database filename	<input type="text" value="Compliance/compliance_2010.nsf"/>
Folder name	<input type="text" value="Bennett_John"/>
New Database Title	<input type="text" value="Compliance 2010"/>
Database Design to Template (NTF)	<input type="text" value="mail85.ntf"/>
Database will inherit from Template	<input checked="" type="radio"/> yes <input type="radio"/> No

フィールド	説明
[Destination Option (エクスポート先オプション)]	<p>メッセージを既存のメールデータベースに追加するか、新しいデータベースを作成するかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Append data to an existing db (既存のデータベースにデータを追加)] エクスポートしたメッセージを既存のメールデータベースに追加します。 • [Create a new db (新規データベースの作成)] エクスポートしたメッセージを格納する新しいメールデータベースを作成します。 • [Create only if db does not exist (データベースが存在しない場合に作成)] データベースが存在しない場合のみ、エクスポートしたメッセージを格納する新しいメールデータベースを作成します。
[Domino server (Dominoサーバー)]	<p>矢印をクリックして、メールデータベースが存在するサーバーの名前を選択します。</p> <p>注記:ユーザーはこのサーバーとデータベースへのアクセス権を所有していることを確認してください。アクセス権がないと、エクスポートしたメッセージを表示できません。</p>
[Database filename (データベースのファイル名)]	<p>新規またはすでに作成したデータベースの名前を入力します。データベースの場所のディレクトリを含めます。</p>
[Folder name (フォルダー名)]	<p>メッセージの抽出先となるメールファイルフォルダーの名前を入力します。</p>
[New Database Title (新規データベースのタイトル)]	<p>新しいデータベースを作成する場合、データベースのタイトルを入力します。</p>
[Database Design to Template (NTF) (データベース設計テンプレート (NTF))]	<p>新しいデータベースを作成する場合は、使用するデータベーステンプレートの名前を入力します。</p>
[Database will inherit from Template (テンプレートから継承する)]	<p>[Yes]をクリックします。</p>

4. [Notification (通知)]タブをクリックし、フィールドに入力します。すべてのフィールドに入力する必要があります。

エクスポートしたメッセージが表示可能になると、Notificationメールにより管理者（および選択されたその他の受信者）に通知されます。この電子メールには、メッセージを格納しているメールデータベースへのリンクが含まれます。

From/Sender Name	Administrator/Org1
Recipients	Org1 Compliance Users
Subject	EAsD to Domino Export Search notification
Hot Spot text for Database link	Double click to access to the EAsD Export Lotus Notes database
Additional Body text	Export Search is complete.

フィールド	説明
[From/Sender Name (差出人/送信者の名前)]	このフィールドには、要求を設定したNotes IDのユーザー名が自動的に入力されます。
[Recipients (受信者)]	矢印をクリックし、1つ以上の名前をリストから選択し、[OK]をクリックして、受信者を追加します。
[Subject (件名)]	電子メールの件名として表示されるテキストが表示されます。件名をデフォルトから変更することができます。
[Text for Destination DB Link (エクスポートDBへのリンクテキスト)]	エクスポートしたメッセージへの有効なリンクのテキストです。テキストをデフォルトから変更することができます。
[Additional Body text (追加の本文)]	メッセージの本文に関する任意のコメントを追加します。たとえば、データベース内の新しいフォルダーにメッセージがエクスポートされている場合は、リンクを使用すると受信ボックスに対応するデータベースが開くので受信者は他のフォルダーを開く必要があるという説明を加えることができます。

5. [Save & Close (保存して閉じる)]を選択し、要求を保存します。

要求は、Export Searchエージェントに設定されたスケジュールに従って実行されます。「[Export Search エージェントの実行](#)」(235ページ)を参照してください。

[Request Log]タブでは、エクスポートの開始時刻と終了時刻、URL (ダウンロードされたアーカイブされたメッセージへのDLDリンク) の数、エクスポートの合計サイズが表示されます。このタブを編集しないでください。

エクスポート要求の編集または再実行

Export Search要求が保留中の場合、要求の設定を編集することができます。

1. Notesクライアントを使用して、Export Searchデータベースを開きます。
2. 左メニューで[Running Request (実行中の要求)]をクリックします。
3. 実行中の要求を開きます。



4. 要求フォームの左上にある[break job (ジョブの中断)]をダブルクリックします。



5. 該当する設定を変更して、要求を再実行します。

次の手順を実行することで、失敗したSearch要求を再実行して処理を行えます。

1. Export Searchデータベースの左メニューで、[Request in Error (エラーのある要求)]または[Request Cannot Start (開始できない要求)]をクリックします。
2. 要求を開いて[Repost this Request (この要求を再実行)]をダブルクリックします。



Export Search Webインターフェイスを使用してメッセージをエクスポートする

EAs DominoファイルがDomino Webサーバーにインストールされている場合、Export Search要求は、Webブラウザを使用しても完了できます。Webベースのエクスポートでは、専用に指定されたネットワークディレクトリ内のデータベースに検索結果がダウンロードされます。この方法を使用する場合、2つの文書がHP EAs-D APIデータベース内で設定されている必要があります。

Export Search文書の設定

1. Domino Administratorクライアントで、HP EAs-D APIデータベースを開きます。
2. Export Search Destination文書を開きます。この文書は、APIメインビューのExport Search領域にあります。

この文書は、メッセージのエクスポート先として許可するサーバーおよびディレクトリの設定に使用します。

3. エクスポート先のサーバーおよびディレクトリを設定して、[Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

Export Search Allowed Directories

Destination Server: Server1/Org1

Destination Directories: Compliance_export1, Compliance_export2, Compliance_export3

- ・ [Destination Server (エクスポート先サーバー)]: 矢印をクリックし、Domino Directoryからサーバーを選択します。
 - ・ [Destination Directories (エクスポート先ディレクトリ)]: エクスポートしたメッセージを格納するメールデータベースをユーザーが作成できるディレクトリ (複数可) の名前を入力します。
4. 追加のターゲットサーバーを使用する場合、EAs-D APIメインビューで[Create (作成)]、[Export Search]、[Destination Directories (エクスポート先ディレクトリ)]の順に選択して、新しいDestination文書をサーバー用に作成します。
 5. EAs-D APIのメインビューで、Export Search Templates文書を開きます。
この文書では、Export Searchのエクスポート先データベースの作成に使用可能なテンプレートが表示されます。
 6. [Export Server Templates (エクスポートサーバーテンプレート)]フィールドで、メッセージのエクスポート先となるデータベースの作成に使用可能なテンプレートを入力します。
形式は、*Template Title|Template Filename.ntf*を使用します。たとえば、Mail(R8)|mail8.ntfとなります。

Export Search要求の作成

Search要求を作成するには、Webブラウザで以下の手順を実行します。

1. IAP Webインターフェイスで以下の操作を行います。
 - a. 該当するメッセージを検索します。
 複雑な検索を行う場合は、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』の詳細検索の手順を使用してください。
 検索結果が、[検索結果]ページに表示されます。
 - b. 検索結果が500件以上の場合、「[検索結果の保存](#)」(221ページ)の手順に従ってください。
 - c. [検索結果]ページで、エクスポートする各メッセージの横にあるチェックボックスをオンにします。すべての項目をエクスポートする場合は、この手順は必要ありません。
 - d. [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。
 - e. すべての検索結果をエクスポートするには、[エクスポート すべての項目]をクリックします。選択した項目をエクスポートするには、[エクスポート チェック項目]をクリックします。
 - f. [ファイルのダウンロード]ダイアログボックスで[保存]をクリックし、このエクスポート用に指定されたディレクトリにDLDファイルを保存します。
 - g. IAP Webインターフェイスからログアウトします。
2. Export Searchサーバーにログインします。
3. メニューで、[Create Export Request (エクスポート要求の作成)]をクリックします。
 [Export Request (エクスポート要求)]フォームが表示されます。
4. フォームの[IAP & DLD (IAPとDLD)]領域の設定を完了します。

フィールド	説明
[IAP host name/IP Address (IAPホスト名/IPアドレス)]	このフィールドはすでに入力されています。入力されていない場合は、矢印をクリックしてIAPを選択します。
[DLD File (DLDファイル)]	手順1fで保存したDLDファイルを参照して、[開く]をクリックします。

5. フォームの[Destination Database (エクスポート先データベース)]領域の設定を完了します。
- この情報により、エクスポートされたメッセージの送信先が決定されます。設定する項目は、選択した [Destination Option (エクスポート先オプション)]により異なります。
- メッセージは専用に指定されたネットワークディレクトリ内のメールデータベースのみにエクスポートできます。

Destination Database	
Destination Options	<input type="radio"/> Append data to an existing db <input checked="" type="radio"/> Create a new db <input type="radio"/> Create only if db does not exist
Server <input type="button" value="Select"/>	Server1/Compliance_export1
Database filename	Compliance_2010.nsf
Folder name(optional)	Bennett_John
New Database Title	Compliance 2010
DB Design to Template	mail85.ntf
DB will inherit from Template	<input type="radio"/> yes <input checked="" type="radio"/> no

フィールド	説明
[Destination Option (エクスポート先オプション)]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Append data to an existing db (既存のデータベースにデータを追加)] エクスポートしたメッセージを既存のメールデータベースに追加します。 • [Create a new db (新規データベースの作成)] エクスポートしたメッセージを格納する新しいメールデータベースを作成します。 • [Create only if db does not exist (データベースが存在しない場合に作成)] データベースが存在しない場合のみ、エクスポートしたメッセージを格納する新しいメールデータベースを作成します。 既存のメールデータベースの名前がわからない場合、このオプションを選択できます。
[Server (サーバー)]	<p>[Select (選択)]をクリックして、アーカイブされたメッセージのエクスポート先となるサーバーとディレクトリを選択して[OK]をクリックします。 「Export Search文書の設定」(230ページ)で設定された使用可能なディレクトリが、このフィールドの選択肢となります。</p>
[Database filename (データベースファイル名)]	<p>エクスポートしたメッセージを格納するメールデータベースの名前を入力します。作成済みのデータベース名、または新しいデータベースの名前を使用できます。</p>
[Folder name (フォルダー名)] (オプション)	<p>必要に応じて、メッセージの抽出先となるメールフォルダーの名前を入力します。 フォルダー名を入力しない場合、メッセージは[All Documents(すべての文書)]で表示されます。</p>
[New Database Title (新規データベースのタイトル)]	<p>新しいデータベースを作成する場合、データベースのタイトルを入力します。</p>
[DB Design to Template (NTF) (データベース設計テンプレート(NTF))]	<p>新しいデータベースを作成する場合、矢印をクリックしてデータベースを作成するテンプレートを選択します。 Export Search Templates文書により、このフィールドの選択肢が決定します。「Export Search文書の設定」(230ページ)を参照してください。</p>
[Database will inherit from Template (テンプレートから継承する)]	<p>新しいデータベースを作成する場合、[Yes (はい)]をクリックします。</p>

6. フォームの[Notification (通知)]領域の設定を完了します。

エクスポートしたメッセージが表示可能になると、Notificationメールにより管理者（および選択されたその他の受信者）に通知されます。この電子メールには、メッセージを格納しているメールデータベースへのリンクが含まれます。

フィールド	説明
[From/Sender Name (差出人/送信者の名前)]	このボックスには管理者のユーザー名が表示されます。
[Recipients (受信者)]	このボックスには、管理者のユーザー名が自動的に表示されます。受信者を追加するには、[Select (選択)]をクリックし、1つ以上の名前をリストから選択し、[OK]をクリックします。
[Subject (件名)]	電子メールの件名として表示されるテキストが表示されます。件名をデフォルトから変更することができます。
[Text for Destination DB Link (エクスポートDBへのリンクテキスト)]	エクスポートしたメッセージへの有効なリンクのテキストです。テキストをデフォルトから変更することができます。
[Additional Body text (追加の本文)]	メッセージの本文に関する任意のコメントを追加します。たとえば、データベース内の新しいフォルダーにメッセージがエクスポートされている場合は、リンクを使用すると受信ボックスに対応するデータベースが開くので受信者は他のフォルダーを開く必要があるという説明を加えることができます。

メッセージがエクスポートされるまでの時間、電子メールの受信者が通知を受けるまでの時間は、Export SearchおよびPopulateFolderFilesに設定されたスケジュールによって異なります。

7. フォームの入力が完了したら、[Submit (送信)]をクリックします。
8. エクスポート要求は、保留中の状態に限り編集が可能です。
 - a. メニューで、[Running Request (実行中の要求)]をクリックします。
 - b. 要求をクリックして開き、編集を行います。
 - c. [Edit Document (文書の編集)]をクリックします。
 - d. 必要な変更を行い、[Submit (送信)]をクリックします。

メニューの[Success Requests (成功した要求)]をクリックして表示されたフォームの[Results (結果)]領域で、完了したエクスポートジョブを確認できます。

問題が発生したエクスポートジョブは、メニューの[Request in Error (エラーのある要求)]に表示されます。

Export Searchエージェントが処理を開始するために必要な情報が欠落しているエクスポート要求は、[Request cannot start (開始できない要求)]に表示されます。

Export Searchエージェントの実行

HP EAs-D Export Searchデータベース内で、次の3つのエージェントのスケジュール設定および有効化が必要です。

- Export Searchエージェント
- PopulateFolderFilesエージェント (Webブラウザオプションでのみ使用)
- Purge_Documentsエージェント

Export Searchエージェント

Export Searchエージェントは、Export Search要求を実行します。Export Searchエージェントは、DLDファイルで参照されているアーカイブ済みのメッセージを取得して、このメッセージを検索要求で設定されているメールデータベースにエクスポートします。このエージェントは、Designerクライアントを使用して有効化する必要があります。

デフォルトでは、Export Searchは1時間ごとに実行するように設定されています。スケジュールは、「[Export Searchエージェントのスケジュール設定](#)」(235ページ)の手順を使用して変更できます。

次のコマンドを使用することで、エージェントをサーバーコンソールから手動で実行することができます。

```
tell amgr run "hprim\hp_rissexportsearch.nsf" `export search`
```

PopulateFolderFilesエージェント

PopulateFolderFilesエージェントは、Webベースのエクスポートツールと組み合わせて動作します。このエージェントは、Export Search Destination文書で設定された使用可能なサーバーおよびディレクトリを検出します。また、Export Search要求で入力されたデータベースファイルおよびフォルダーの情報を取得します。これにより、メッセージをエクスポートできるフォルダーおよびファイルのリストが作成されます。このリストは、エクスポート要求の[Appending data to existing db (既存のデータベースにデータを追加)]オプションで使用します。PopulateFolderFilesエージェントは、Designerクライアントを使用してスケジュール設定と有効化を行う必要があります。

デフォルトでは、このエージェントは6時間ごとに実行するように設定されています。「[Export Searchエージェントのスケジュール設定](#)」(235ページ)の手順を使用して、エージェントの実行頻度をより高く変更できます。

次のコマンドを使用することで、エージェントをサーバーコンソールから手動で実行することができます。

```
tell amgr run "hprim\hp_rissexportsearch.nsf" `PopulateFolderFiles`
```

Export Searchエージェントのスケジュール設定

以下の手順に従って、Export Searchデータベース内のエージェントのスケジュール設定および有効化を行います。

1. Domino Designerクライアントで、要求に使用するサーバー上のhprimフォルダーにあるHP EAs-D Export Searchデータベースを開きます。
2. Applications (アプリケーション)ビューで、[Code (コード)]、[Agents (エージェント)]の順に選択します。

3. エージェントをダブルクリックします。
4. エージェントの[Properties (プロパティ)]で、[Trigger (トリガー)]が[On schedule (スケジュール)]になっていることを確認します。
5. 必要に応じて、次のエージェントのデフォルトのスケジュールを変更します。
 - ・ Export Searchエージェント:
デフォルトでは1時間ごとに実行します。
 - ・ PopulateFolderFilesエージェント (Webブラウザオプションでのみ使用):
デフォルトでは6時間ごとに実行します。
 - ・ Purge_Documentsエージェント:
デフォルトでは、1日1回、1:00 a.m.に実行します。
6. [Run on (実行場所)]ボックスで、サーバーを選択します。
7. [OK]をクリックして設定を保存して、エージェントのプロパティを閉じます。
8. [Enable (有効)]をクリックし、エージェントを有効にします。

5.3 IAPシングルサインオンの設定

IAPシングルサインオン (SSO) を使用すると、ユーザーはLotus Notesのアカウントにログインした段階で、IAP Webインターフェイスへのアクセスを自動的に認証されます。IAPの認証は、Lotus Dominoの認証情報を使用して実行されます。

IAP SSOを使用するには、この章の手順に従ってください。

SSOを使用するには、メールサーバーでの設定、メールテンプレートの変更、IAPでの設定が必要です。

- ・ [HP EAs-D SSOデータベースの作成](#) (237ページ)
- ・ [HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定](#) (238ページ)
- ・ [Search the IAP Archiveエージェントの設定](#) (242ページ)
- ・ [IAPでのSSOの設定](#) (245ページ)
- ・ [クライアントコンピューターの設定](#) (247ページ)

HP EAs-D SSOデータベースの作成

テンプレートのコピー

はじめる前に以下の操作を行ってください。

1. HP EAs-D SSOテンプレート (`hp_sso.ntf`) をインストールメディアのTemplatesディレクトリからNotesクライアントのデータディレクトリにコピーします (例: `C:\Program Files\lotus\notes\data`)。

このテンプレートは、DominoメールサーバーでのHP EAs-D SSOデータベースの設定、認証用の秘密鍵の生成、Generate SSO Tokensエージェントの設定に使用します。

2. (オプション) 次のテンプレートを、インストールメディアからNotesクライアントのデータディレクトリにコピーします。

HP EAs-D Mail (R6) with SSO (`hp_ssomail_sample.ntf`)

このテンプレートには、カスタマイズされた設計要素が含まれています。この設計要素はメールテンプレートに追加可能で、ユーザーのメールファイルからIAPへのリンクを作成します (これらのカスタマイズされた要素は、DWAテンプレートでは使用できません)。

データベースの作成

HP EAs-D SSOデータベースを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. HP EAs-D SSO (`hp_sso.ntf`) がインストールメディアのTemplatesディレクトリからNotesクライアントのルートデータディレクトリにコピーされていることを確認します。
2. Notesクライアントを開いて、メールドメイン内のDominoサーバー上でデータベースを作成して制限なしのエージェントを実行する権限のあるIDファイルに切り替えます。
3. [File (ファイル)], [Application (アプリケーション)], [New (作成)]の順に選択します。
[New Application (新規アプリケーション)]ウィンドウが表示されます。

4. HP EAs-D SSOデータベースを作成します。
 - a. [Server (サーバー)]ボックスで、EAs-D SSOアプリケーションのプライマリサーバーの名前を指定します。

プライマリサーバーは、メールサーバーでなくても構いません。ただし、SSOの設定に関するすべてのメールドメインのプライマリDomino Directoryの複製が必要になります。
 - b. [Title (データベース名)]ボックスに、HP EAs-D SSOと入力します。
 - c. [File name (ファイル名)]ボックスに、hprim\rimssso.nsfと入力します。

 **注記:**

rimssso.nsfというファイル名は、IAP SSOで使用されるSearch the IAP Archiveエージェント内にハードコードされています。このファイル名を変更する場合は、このエージェント内のファイル名も必ず変更するようにしてください。「[Search the IAP Archiveエージェントの設定](#)」(242ページ)を参照してください。

Search the IAP Archiveエージェントは、メールテンプレートでのみ使用されます。ユーザーがDWA経由でのみメールにアクセスする場合、任意の名前を付与できます(例: hp_sso.nsf)。

5. HP EAs-D SSOデータベースのテンプレートを指定します。
 - a. [Server (サーバー)]ボックスは、[Local (ローカル)]のサーバーのままにしておきます。
 - b. [Template (テンプレート)]ボックスで[HP EAs-D SSO]を選択して、[OK]をクリックします。
6. [File (ファイル)]メニューで、[Application (アプリケーション)]、[Access Control (アクセス制御)]の順にクリックします。
7. 以下の手順を実行して、アクセス制御リスト (ACL) を設定します。
 - a. 以下の設定を行います。
 - ・ アクセス権は、[Manager (管理者)]を選択します。
 - ・ [Replicate or copy documents (文書を複製またはコピー)]チェックボックスを選択します。
 - ・ [Role (ロール)]で、[RIM SSO Admin]チェックボックスを選択します。

LocalDomainAdminsグループのすべてのメンバーがSSO情報に対して信頼できる場合、そのグループをACL内に入力し、管理者のアクセス権とRIM SSO Adminのロールを付与します。

別の方法として、SSO情報に対して信頼できるもっと少人数のメンバーリストによるグループを特定し、そのグループを代わりに入力することもできます。
 - b. [Add (追加)]をクリックしてAnonymousをACLに追加し、アクセス権を[No access (なし)]に設定します。
 - c. デフォルトのアクセスレベルを[Reader (読者)]に設定します。
 - d. ACLに対するすべての変更が完了したら、[OK]をクリックします。
8. データベースを閉じます。

HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定

1. Domino Administratorクライアントを起動して、SSOデータベースを作成したサーバーを開きます。

2. 次の手順を実行してHP EAs-D SSOデータベースに署名します。
 - a. [Files (ファイル)]タブをクリックします。
 - b. [Show me (表示内容)]ボックスで、[Database only (データベースのみ)]を選択します。
 - c. HP EAs-D SSOファイルを選択します。
 - d. 選択したファイルを右クリックして、コンテキストメニューから[Sign (署名)]を選択します。
 - e. ダイアログボックスで、[Active User's ID (現在のユーザーID)]または[Active Server's ID (現在のサーバーID)]、および[All design documents (すべての設定文書)]を選択して、[OK]をクリックします。
3. Notesクライアントで、HP EAs-D SSOを開きます。

次のウィンドウが表示されます。



4. SSO共有秘密を設定します。

- a. [Configure SSO Shared Secret (SSO共有秘密の設定)]をクリックします。

秘密のサンプルが表示されます。

秘密のサンプルを、32～56字の長さの任意の文字列に変更します。使用可能な文字は、A～Z、a～z、0～9、. (ピリオド)、+のいずれか (またはすべて) です。



秘密はすべてのDominoサーバーとIAPによって共有されます。これが暗号化認証の基礎となり、これによってIAPがサインオンのためにDominoの認証情報を受け入れ可能になります。この秘密は少人数の限られた管理者のみが知っているようにする必要があります。

EAs-D SSOデータベースACLのRIM SSO Adminのロールを持つユーザーは、秘密を表示および変更できます。Dominoで秘密を変更した場合は、IAPでも変更する必要があります。詳細については、「[IAPでのSSOの設定](#)」(245ページ)を参照してください。

- b. [OK]をクリックして、秘密を保存します。

5. SSO共有秘密をエクスポートします。

- a. [HP EAs-D SSO database (HP EAs-D SSOデータベース)]ウィンドウで、[Export the Shared Secret (共有秘密のエクスポート)]をクリックします。

- b. XMLファイルで秘密を保存するための場所を選択して、[Save (保存)]をクリックします。

SSOに対するIAPの設定を実行しているときは、XMLファイルを参照として使用します ([「IAPでのSSOの設定](#)」(245ページ)の手順2を参照)。

❗ **重要:**

XMLファイルは暗号化できません。このファイルを公開したままにしないようにします。不正なユーザーが見つけて読む可能性があるからです。

6. [HP EAs-D SSO database (HP EAs-D SSOデータベース)]ウィンドウで、[Configure SSO Token Agent (SSO Tokenエージェントの設定)]をクリックします。

[SSO Agent Configuration (SSOエージェントの設定)]ボックスが表示されます。



- a. [Address Books (アドレス帳)]ボックスで、IAP Domino SSOに関係するユーザーのPerson文書を格納するサーバー上の、すべてのDomino Directoryのファイル名を入力します。
ファイル名は、カンマで区切る必要があります。
- b. [IAP Login (IAPログイン名)]で、IAP Webインターフェイスへのアクセスに使用するログイン名のタイプを選択します。

- ・ [Shortname (短縮名)]:Domino短縮名を使用してログインします。
- ・ [Shortname@Domain ([短縮名]@[ドメイン])]:Domino短縮名とメールアドレスを使用してログインします。
- ・ [Internet Address (インターネットアドレス)]:完全な電子メールアドレスを使用してログインします。

ログインのタイプは、DASジョブの設定フォームの[LDAP Attribute to Map to Username (ユーザー名にマップするLDAP属性)]フィールドと連動している必要があります。詳細は、「[ユーザー名マッピングの変更](#)」(246ページ)を参照してください。

さらに、ログイン名タイプにインターネットアドレスを選択した場合、「[Search The IAP Archiveエージェントの変更](#)」(244ページ)の手順を完了してください。

- c. [IAP Host/IP Addresses (IAPホスト名/IPアドレス)]に、認証を行うために使用するIAPのホスト名または仮想IPアドレスを入力します。
- d. [OK]をクリックします。

注記:以前のバージョンのEAs Dominoで使用されていたnotes.iniの変数、HPRIM_SSO_APPEND_NOTESDOMAINは、使用されなくなりました。この機能は、IAPログイン名の2番目の選択肢である[短縮名]@[ドメイン]に対応しています。

7. Designerクライアントで、HP EAs-D SSOを開きます。
 - a. [Code (コード)]ペインで、[Agents (エージェント)]をクリックして、Generate User Tokensエージェントを開きます。
 - b. [Runtime (実行時)]領域で、[On schedule (スケジュール)]および[Daily (日次)]が選択されていることを確認します。
 - c. [Schedule (スケジュール)]ボタンをクリックし、エージェントが実行するサーバーを選択します(複数可)。
 - d. 実行時間が12:00AM前後(例: 12:05AM)に設定されていることを確認します。
 - e. [OK]をクリックします。
 - f. エージェントを有効にします。
8. Dominoドメイン内のすべての追加のメールサーバー上にSSOデータベースのコピーを作成し、すべてのユーザーをIAP SSO経由で認証できるようにします。ドメイン全体でスケジュール設定して複製を実行できるようにするには、1つ以上のハブサーバーにデータベースを展開し、接続文書を変更する必要があるかもしれません。

Generate User Tokensエージェントの初期実行を設定するには、Dominoサーバーコンソールに移動して次のコマンドを発行します。

```
tell amgr run "hprim\rimssso.nsf" 'Generate User Tokens'
```

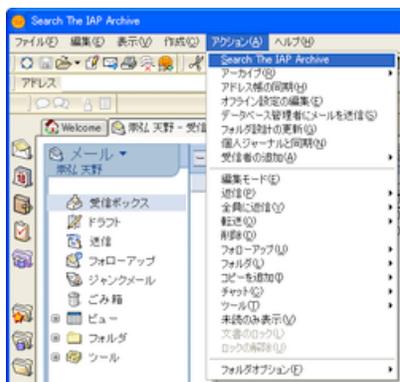
(ここでrimssso.nsfはSSOデータベースの名前)

Search The IAP Archiveエージェントの設定

(メールデータベーステンプレートでのみ使用してください)

HP EAs-D Mail (R6) with SSOテンプレートファイル (hp_ssomail_sample.ntf) は、Lotus Domino 6のメールデータベーステンプレートの変更バージョンです。このテンプレートのEAs-D SSOコードは、Domino 7および8のサーバーで動作します。

このテンプレートには、Search the IAP Archiveと呼ばれるDominoエージェントが格納されており、このエージェントにはユーザーのNotesクライアントの[Actions (アクション)]メニューからアクセスできます。このエージェントの起動するブラウザーウィンドウにはURLが表示され、このURLはIAPに接続し、ユーザーを認証します。



このテンプレートには、受信ボックスフォルダー内のアクションバーの変更サンプルも含まれており、この変更では[Search the IAP (IAPの検索)]ボタンが追加されています。このサンプルは、ユーザーがIAPに簡単にログインできるようにする方法を示しています。



テンプレートの設計要素を使用して実稼動用テンプレートを変更する手順を以下に示します。

① **重要:**

HHP EAs-D SSO Mail Sampleテンプレートそのものは、テストおよび実演目的でメールファイルを作成するために使用することが可能です。ただし、このテンプレートは、Dominoシステム上のいずれかのメールテンプレートと直接置き換えることを意図したものではありません。

IBMから提供され、インストール済みのNotesおよびDominoのバージョン用にサポートされた実稼動用テンプレートを、引き続き使用するよう to してください。

実装プロセス

ユーザーメールファイルへの変更を実装するには、以下のプロセスを実行します。

1. テスト目的で、HP EAs-D SSO Mail Sampleから個別の設計要素を個別のユーザーメールファイルにコピーします。
2. (オプション) NotesクライアントからSearch The IAP Archiveエージェントを起動するために、[Search The IAP (IAPの検索)]ボタンと同じ技法を使用する代替のカスタマイズ (変更されたフレームセット、アウトライン、またはスマートアイコン) を変換および開発します。
3. Notesクライアントメニューで[File (ファイル)]、[Application (アプリケーション)]、[New Copy (コピー)]の順に選択して、変更されたメールファイルの設計のみのコピーを作成することで、1つ以上のテンプレートを開発します。Dominoサーバーでこれらのテンプレートを開発し、Domino Designerを使用して、カスタマイズされた設計要素をユーザーメールファイルに挿入します。

次の**設計要素のテンプレートからのコピー**には、このプロセスの最初の手順のみが記載されています。手順2と3では、標準的なLotus Notesの開発方法および管理方法を使用する必要があります。

設計要素のテンプレートからのコピー

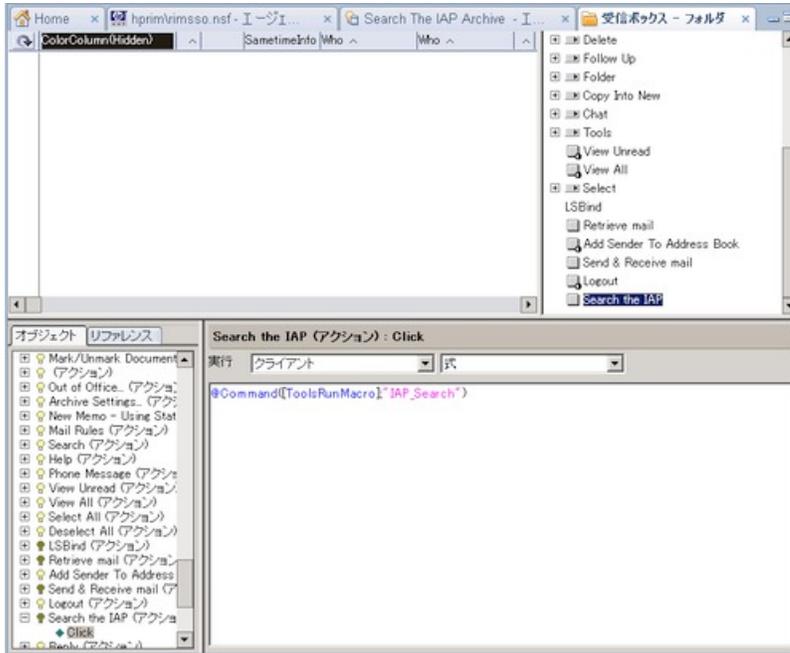
1. Designerクライアントで、以下のファイルを開きます。
 - ・ HP EAs-D SSO Mail Sample (hp_ssomail_sample.ntf)
 - ・ ユーザーのメールファイル
2. hp_ssomail_sample.ntfの[Code (コード)]セクションで、[Agent (エージェント)]リストを開き、Search The IAP Archiveエージェントをクリップボードにコピーします。
3. ユーザーメールファイルの[Code (コード)]セクションで、[Agent (エージェント)]リストを開き、Search The IAP Archiveエージェントをリストに貼り付けます。

 **注記:**

「**HP EAs-D SSOデータベースの作成**」(237ページ)でrimssso.nsfファイルの名前を変更した場合は、エージェント内のファイル名も必ず変更するよう to してください。Search the IAP Archiveエージェントを開き、[Main (メイン)]を選択して、[open rimssso.nsf database on server (サーバーでrimssso.nsfデータベースを開く)]内のファイル名を変更します。

4. hp_ssomail_sample.ntfの[Folders (フォルダ)]セクションを開き、次に[(\$Inbox) (受信ボックス)]を開きます。

5. [Action (アクション)]ペインを開いて、[Search The IAP (IAPの検索)]アクションを選択して、このアクションをクリップボードにコピーします。



6. ユーザーのメールファイルの[Folders (フォルダ)]セクションを開き、次に[(\$Inbox) (受信ボックス)]を開きます。
7. [Action (アクション)]ペインを開いて、カーソルをペインの内側に配置して、[Search The IAP (IAPの検索)]アクションを貼り付けます。
8. 必要に応じて、アクションをドラッグおよびドロップして、シーケンス内の順序を変更します。
このアクションに対するコードは単純なNotes @Functionで、このコードは受信ボックスのアクションバー以外でも使用可能です。

 **注記:**

テンプレート内にあるもの以外の設計要素をカスタマイズする場合は、変更対象の各要素に関する注意事項を必ず読んでください。

Search The IAP Archiveエージェントの変更

HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定の手順6でインターネットアドレスを選択した場合、ユーザーのメールファイルで以下の手順を実行してください。

1. ユーザーのメールファイルの[Code (コード)]セクションで、[Agent (エージェント)]リストを開き、Search The IAP Archiveエージェントを選択します。

2. エージェントを開き、[Initialize (初期化)]セクションで以下の操作を行います。
 - a. 'gConfigLoginItem = ITEM_INET_ADDRから「」を削除します。
 - b. gConfigLoginItem = ITEM_SHORT_NAMEに「」を追加します。
以下に示すように項目が'gConfigLoginItem = ITEM_SHORT_NAMEに変更されます。

```

Initialize
Sub Initialize

.....
' Choose one of the following two statements to determine whether
' the code will prepopulate the InternetAddress or ShortName field
' onto the RISS Web UI login form.

gConfigLoginItem = ITEM_INET_ADDR
'gConfigLoginItem = ITEM_SHORT_NAME

..... END CHOICE .....

```

- c. 変更を保存してエージェントを閉じます。

IAPでのSSOの設定

秘密鍵のインストール

IAPがDomino SSO認証を受け入れるようにするには、IAPキックスタートサーバーで実行されているL3レジストリ内に、SSOの秘密鍵をインストールする必要があります。

SSO秘密鍵、SSHをIAPキックスタートマシンにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. /install/tools/registry/loaderディレクトリに移動して、次のコマンドを発行します。

```
vi SSO_DOMINO.archive
```

2. SSO_DOMINO.archiveファイルの4行目で、key:の後にSSO秘密鍵を入力します。

例: key: [SSO秘密鍵]

以前にエクスポートしたXMLファイル内にこの秘密鍵が表示されるので、これを使用します (HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定の手順5を参照してください)。XMLファイルの<RIMSSO version="1.6">タグと</RIMSSO>タグの間にある秘密鍵と日付スタンプのみが必ず含まれるようにします。XMLタグのテキストは含めないでください。

SSO鍵に使用するXMLファイル内のテキストの例を下に示します。

```

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<RIMSSO version="1.6">
fPQ03Fahc63kwFxqo2VEssAuLkncKwt6.v6FPYacdr98txRP20100826
</RIMSSO>

```

次の例は、鍵をSSO_DOMINO.archiveに正しく挿入している状態を示しています。

```
KEY: fPQ03Fahc63kwFxqo2VEssAuLkncKwt6.v6FPYacdr98txRP20100826
```

3. /install/tools/registry/binディレクトリに移動して、次のコマンドを使用してRegistryLoaderを実行します。

```
regloader.pl -l
```

RegistryLoaderが実行されたら、IAPでIAP SSOが有効になります。

① 重要:

IAPが起動されるたびにSSO秘密鍵が失われるため、これらの手順を繰り返す必要があります。

ユーザー名マッピングの変更

SSO Tokenエージェントの設定 (HP EAs-D SSOデータベースとGenerate SSO Tokensエージェントの設定の手順6) で設定されたIAPログイン名がIAPのユーザー名マッピングと一致するように、以下の手順を実行します。

1. 現在のDASジョブを停止します。
 - a. IAP PCC Web Administrationにログインし、[User Management (ユーザー管理)]、[Account Synchronization (アカウントの同期)]の順に選択します。
 - b. [Account Synchronization (アカウントの同期)]ページの[DAS Available Jobs (有効なDASジョブ)]領域でジョブを選択し、[Stop (停止)]をクリックします。
2. DASジョブを選択して、[Edit (編集)]をクリックします。
3. [Mapping Information (マッピング情報)]フォームで、[Advanced Options (詳細オプション)]を展開します。
4. フォームの下部で[LDAP Attribute to Map to Username (ユーザー名にマップするLDAP属性)]フィールドを見つけます。
5. このフィールドの値が、IAPログイン名のタイプに対して正しく設定されていることを確認します。
 - ・ uid:ログイン名タイプが短縮名または[短縮名]@[ドメイン]の場合、この値を使用します。
 - ・ mail:ログイン名タイプがインターネットアドレスの場合、この値を使用します。
6. [Update (更新)]をクリックします。
7. DASジョブを選択して[Start (開始)]をクリックし、DASジョブを開始します。

クライアントコンピューターの設定

SSOを機能させるために、適切に機能するブラウザをクライアントコンピューターにインストールし、Notesクライアントのロケーション文書でブラウザを正しく設定する必要があります。

ロケーション文書が正しくセットアップされているかどうかを確認するには、以下の手順に従ってください。

1. Notesクライアントウィンドウの右下隅にある[Location (ロケーション)]ポップアップをクリックします。
2. Notes7.x: [Edit Current (ロケーションの編集)]を選択します。
Notes8.0.x/8.5.x: [Edit Locations (ロケーションの編集)]を選択します。
ロケーション文書が表示されます。
3. Notes7.x: [Internet Browser (インターネットブラウザ)]タブをクリックし、[Internet Browser (インターネットブラウザ)]フィールドに適切な値が入力されていることを確認します。推奨される設定は、Microsoft Internet Explorerを使用し、ブラウザを専用ウィンドウで起動すること、またはNotes with Internet Explorerを使用し、Notesクライアントのタブ内でブラウザを起動することです。
Notes8.0.x/8.5.x: [Web Browser (Web ブラウザー)]ペインをクリックし、[When clicking on a hyperlink in the client (クライアントのハイパーリンクをクリックする場合)]フィールドで使用するブラウザを選択します。
4. Notes7.x: [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
Notes8.0.x/8.5.x: [OK]をクリックします。

5.4 HP EAs Dominoクライアントアプリケーションの操作

アーカイブされたメッセージのコピーは、インストールされているEAs Dominoアプリケーションに応じて、IAPからいくつかの方法で表示および取得できます。

- IAP Webインターフェイス:IAP Webインターフェイスはすべてのオンラインクライアントから利用できます。ユーザーはWebブラウザを使用してアーカイブされたメッセージを表示および開くことができ、メッセージのコピーを自分のメールアカウントに送信することができます。これらの機能を使用するために、クライアントシステムにソフトウェアをインストールする必要はありません。Webインターフェイスへのリンクを、ユーザーのメールファイルに追加することができます。
- Export Search:メッセージは、IAP Webインターフェイスから標準的なNotesのデータベースにエクスポートすることもできます。この機能は、主に法務およびコンプライアンス業務の目的で使用されます。
- Local Cache:Windowsクライアント(通常はラップトップまたはノート型コンピューター)にメッセージキャッシュをインストールすると、ユーザーは外出先でもアーカイブされたメッセージにオフラインでアクセスできるようになります。
- Windows Notes Clientプラグイン:Windowsクライアントにプラグインをインストールすると、Lotus Notesからアーカイブされたメッセージに即座にアクセスできます。プラグインは、Local Cacheとともに使用できます。
- DWA Extension:DWAサーバーにソフトウェアをインストールすると、アーカイブされたメッセージにDWAでアクセスできます。

以下の各項では、これらの利用法について説明します。

- [IAP Webインターフェイスの使用](#) (249ページ)
- [Notesナビゲーションペインでのリンクの作成](#) (250ページ)
- [Local Cacheの使用](#) (251ページ)
- [Windows Notes Clientプラグインの使用](#) (258ページ)
- [Windows Notes ClientプラグインとLocal Cacheの使用](#) (261ページ)
- [tombstoneアイコンの追加](#) (262ページ)

Export Searchユーティリティの使用の詳細については、「[Export Searchの使用](#)」(219ページ)を参照してください。

DWA Extensionの設定の詳細については、「[DWA Extensionの設定](#)」(205ページ)を参照してください。

EAs Dominoがサポートするクライアントオペレーティングシステムの詳細については、「[サポートされるLotus Notesクライアント](#)」(38ページ)を参照してください。

署名付きまたは暗号化されたメッセージの操作の詳細については、「[カプセル化されたメッセージの取得と表示](#)」(263ページ)を参照してください。

IAP Webインターフェイスの使用

IAP Webインターフェイスを使用すると、従業員はWebブラウザを使用して、自分のユーザーレポジトリ内およびアクセス権のあるレポジトリ内にアーカイブされたメッセージを検索できます。検索クエリの定義

と結果を保存および再使用し、アーカイブされた電子メールのコピーを自分のメールアカウントに送信することもできます。

Web Interfaceポータルは、IAPシステムのインストール時に自動的にセットアップされ、デフォルトでHTTPSをサポートしています。ユーザーは、組織のネットワークに（ローカルまたはVPN経由で）ログインし、サポートされている次のWebブラウザを使用する必要があります。Microsoft Internet Explorerバージョン7.xまたは8.x、またはMozilla Firefoxバージョン3.x。

次のリストで、Webインターフェイスを使用するために必要な、基本的な情報を示します。詳細な情報は、『HP EAs Dominoユーザーガイド』と『IAPユーザーガイド』に掲載されています。

- IAP WebインターフェイスのURL:IAPドメインの仮想IPアドレス (IAPのDomain.jcmlで設定)
- ログインに使用するユーザー名:ユーザーの電子メールアドレスまたはNotes短縮名
- パスワード:電子メールにアクセスするためのパスワードで、通常はユーザーのLotus Notesインターネットパスワード
- 検索するContent Type:電子メール
- [送信すべての項目]または[送信チェック項目]は、電子メールのコピーをユーザーの受信ボックスに送信します。
[エクスポートすべての項目]または[エクスポートチェック項目]は、主にコンプライアンス担当者が使用する機能です。大量のメッセージをNotesのデータベースにエクスポートします。電子メールのエクスポートの詳細については、「[Export Searchの使用](#)」(219ページ)を参照してください。

Notesナビゲーションペインでのリンクの作成

クリックしたときに直接IAP Webインターフェイスに移動するリンクを、Lotus Notesの中に作成することができます。

リンクを作成するには、次の2つの方式があります。

- 最初の方式は、単純にNotesのナビゲーションペインでWebインターフェイスへのリンクを作成します。アーカイブされたメッセージを表示するためには、リンクのアイコンをクリックした後、IAP Webインターフェイスにログインする必要があります。この方式では、メールテンプレートを少し変更する必要があります。
- 2番目の方式は、NotesとIAP Webインターフェイスに対してシングルサインオンを設定します。ユーザーはNotesのアカウントにログインした段階で、Webインターフェイスへのアクセスも自動的に認証されます。IAPの認証は、Dominoの認証情報を使用して実行されます。この方式では、メールテンプレートに対するより多くの変更、秘密鍵の生成、IAPの設定が必要です。

Webインターフェイスへのリンクの作成

次の手順を使用して、Lotus NotesからIAP Webインターフェイスへのリンクを作成します。このリンクは、Windowsクライアントを使用して作成する必要があります。

このリンクをクリックすると、Webインターフェイスのログイン画面が表示され、ユーザー名とNotesのインターネットパスワードを入力する必要があります。

リンクをセットアップするには、以下の手順に従ってください。

1. Domino Designerクライアントを使用し、Dominoサーバー上のメールテンプレートデータベースを開きます。
2. Applications (アプリケーション)ビューで、[Resources (リソース)]を展開します。
3. [Images (イメージ)]を右クリックして[New Image Resource (新規イメージリソース)]を選択し、リンクアイコンとして使用するグラフィック (link.gif) を選択します。
4. Applications (アプリケーション)ビューで、[Shared Elements (共有要素)]を展開して[Outlines (アウトライン)]を展開し、[NotesMailOutline]を開きます。

5. [New Entry (新規エントリ)] をクリックします。
6. [Outline Entry (アウトライン エントリ)]ダイアログボックスの以下のフィールドに入力します。
 - a. [Label (ラベル)]フィールドに、リンクの名前を入力します。
 - b. [Type (種類)]リストで、[URL]を選択します。
 - c. [Value (値)]フィールドで、IAP Webインターフェース (IAPドメイン) のURLまたは仮想IPアドレスを入力します。
 - d. [Image (イメージ)]領域にあるフォルダーアイコンをクリックします。
[Insert Image Resource (イメージリソースの挿入)]ダイアログボックスが表示されます。
 - e. 手順3で作成したImage Resource(link.gif)を選択し、[OK]をクリックします。



7. ダイアログボックスを閉じてアウトラインを保存します。[Yes (はい)]をクリックして、リンクを保存します。

シングルサインオンの設定

「[IAPシングルサインオンの設定](#)」(237ページ)を参照して、Lotus NotesおよびIAP Webインターフェース用のIAPシングルサインオンを設定します。

Local Cacheの使用

Local Cacheは、WindowsベースのNotesユーザーがアーカイブされたメッセージにオフラインアクセスするために使用するクライアントアプリケーションです。ラップトップコンピューターを持って外出する従業員にとって、このアプリケーションは非常に役立ちます。

クライアントマシンがオンライン時に、キャッシュに設定されたパラメーターに合致するメッセージをIAPからキャッシュに取得します。

クライアントマシンがオフラインになっても、ユーザーは、キャッシュに格納されたメッセージにアクセスできます。

クライアントがオンラインとオフラインのどちらであっても、1回のクリックでキャッシュ内のメッセージにアクセスできます。ユーザーがtombstone化されたメッセージを開き、メッセージを取得するためにポインターをクリックした場合、キャッシュ済みのコピーが表示されます。

tombstone化されたメッセージがキャッシュの中に保存されておらず、クライアントがオフラインの場合は、メッセージはtombstoneを開いたときにアーカイブ済みであったことを示すテキストが表示されます。

注記:

Local CacheをNotesプラグインと組み合わせて、クリックなしでメッセージを取得することもできます。「[Windows Notes ClientプラグインとLocal Cacheの使用](#)」(261ページ)を参照してください。

Local Cacheによって、インストール時に、クライアントシステムのnotes\dataディレクトリ内にLocal Cache コピー先データベース (DefaultLCDestination.nsf) が作成されます。このデータベースにキャッシュされたメッセージが保管されます。キャッシュを設定し、メッセージ保管期間やキャッシュのサイズなどのパラメーターを指定することもできます。

Local Cacheのインストール

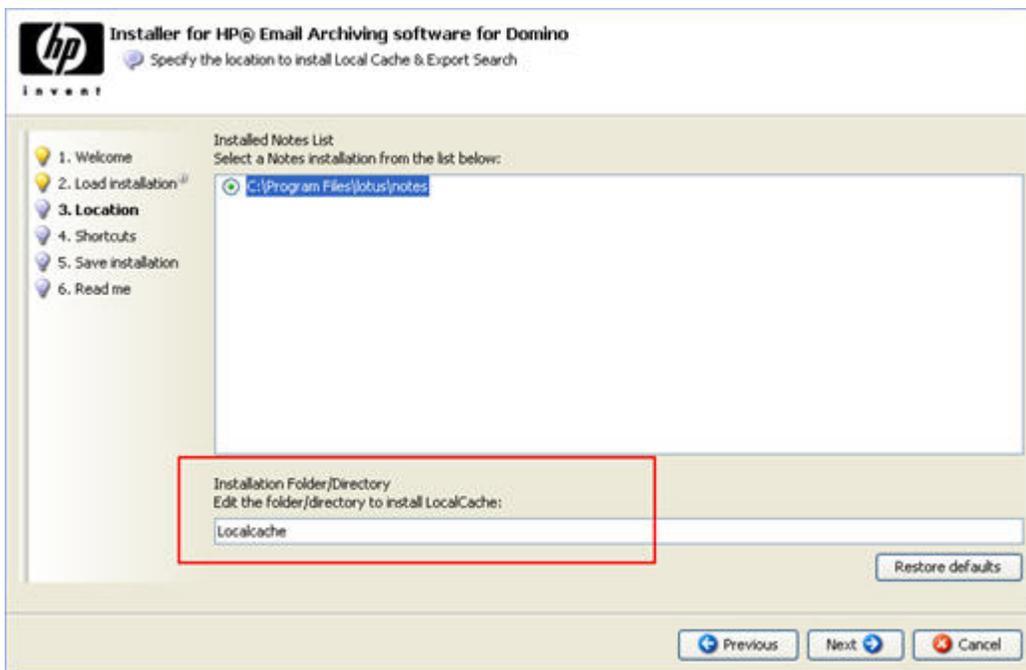
EAs Local Cacheインストーラーは、Local Cache (LocalCache.exe) とExport Search (ExportSearch.exe) アプリケーションの両方を、クライアントのNotesディレクトリに作成されるLocalcacheフォルダーにインストールします。

① 重要:

Local Cacheソフトウェアをインストールする前に、Java Runtime Environment (バージョン1.6以降) がクライアントにインストールされていることを確認してください。このプログラムを、システム変数パスに手動で追加しなければならない場合があります(「[Java Runtime Environmentのインストール](#)」(48ページ)を参照)。

Local Cacheをクライアントシステムにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. インストールメディアのclient\Local Cache & Exportディレクトリを参照し、Install.exeをクリックします。
2. [1. Welcome (ようこそ)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
3. [2. Load installation (インストールのロード)]ウィンドウで、[Next (次へ)]をクリックします。
[3. Location]ウィンドウが表示され、Notesクライアントの場所が示されます。
[Installation folder]ボックスに、Local Cacheフォルダーの名前「Localcache」が表示されます。



4. [Next (次へ)]をクリックします。

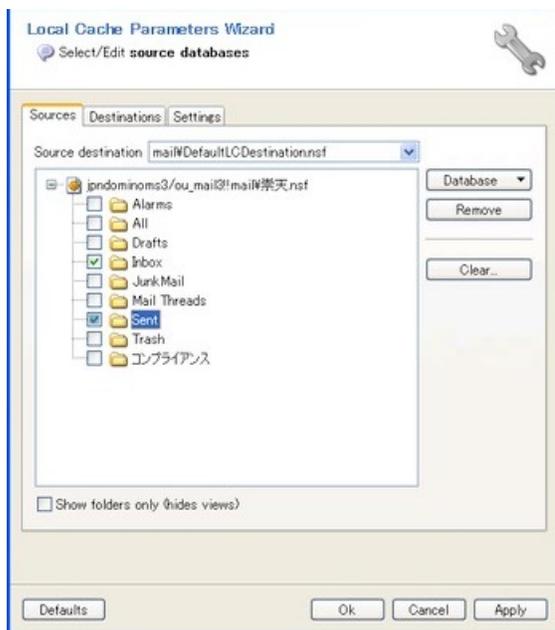
5. Local CacheとExport Searchの各アプリケーションへのショートカットを作成する場合は、[4. Shortcuts] ウィンドウで、場所 (デスクトップまたはスタートメニュー) を選択します。
6. [5. Save installation (インストールを保存する)]ウィンドウで、インストールをクライアント上に保存するかどうかを選択します。
 - ・ インストールを保存することを選択した場合、[Save installation (このインストールを保存する)] チェックボックスを選択し、インストールの保存場所を指定します。
 - ・ インストールベースを保存しない場合は、[Next (次へ)]をクリックします。
7. [6. Read me]ウィンドウで、インストールパラメーターを確認します。
調整の必要がある場合、[Previous]ボタン、または画面の左側にある番号メニューを使用します。
8. [Install (インストール)]をクリックします。
インストーラーの動作が画面に表示されます。
9. [Finish (終了)]をクリックして、インストールウィンドウを閉じます。

Local Cacheの設定

クライアントシステム上でLocal Cacheを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. クライアントのデスクトップまたはスタートメニューにあるHP EAs Local Cacheのショートカットをダブルクリックするか、Lotus\Notes\LocalcacheフォルダーにあるLocalCache.exeをダブルクリックします。
- 
2. [Options (オプション)]ドロップダウンリストを開いて、[Settings (設定)]を選択します。
[Local Cache]ウィザードが表示されます。
 3. [Sources (コピー元)]タブで、[Database (データベース)]をクリックし、[Open (開く)]を選択し、メールサーバー上のユーザーが現在使用しているメールファイルを選択します。
確認ダイアログボックスが表示されます。
 4. 確認ダイアログボックスで[はい]をクリックし、デフォルトキャッシュデータベース '(コピー先データベース) をユーザーのマシン上に作成します。
 5. [Sources (コピー元)]タブおよび[Destinations (コピー先)]タブの両方に、Local Cacheコピー先データベース (DefaultLCDestination.nsf) が表示されます。これは、tombstone化されたメッセージをIAPから取得してキャッシュするために使用されるデータベースです。
 6. [Sources (コピー元)]タブで[Show folders only (フォルダのみを表示)]をオンにして、ユーザーのメールファイルを展開します。

7. tombstone化されたメッセージが表示されるメールフォルダーを選択し、[Apply (適用)]をクリックします。



8. [Settings (設定)]タブをクリックし、キャッシュを設定します。

The screenshot shows the 'Local Cache Parameters Wizard' dialog box with the 'Settings' tab selected. The dialog is titled 'Local Cache Parameters Wizard' and has a subtitle 'Edit local cache settings'. It features three tabs: 'Sources', 'Destinations', and 'Settings'. The 'Settings' tab is active and contains three sections: 'Updates', 'Purge', and 'IAP'.
- The 'Updates' section has two radio buttons: 'Retrieve messages since last update' (unselected) and 'Only retrieve messages newer than' (selected). Below the second radio button is a spinner box set to '180' and a dropdown menu set to 'Day'. There is also a checked checkbox for 'Always retrieve up to last date time was updated' and another checked checkbox for 'Retrieve messages in background'.
- The 'Purge' section has a checked checkbox for 'Purge messages from local machine'. Below it are two rows of settings: 'If older than' with a spinner box set to '180' and a dropdown menu set to 'Day', and 'If cache size greater than' with a spinner box set to '500' and a dropdown menu set to 'M'.
- The 'IAP' section has a dropdown menu for 'IAP domain' set to 'iapdomain' and a text box for 'IAP address' containing '15.100.100.100'. There is also an unchecked checkbox for 'Use SSL'.
At the bottom of the dialog are four buttons: 'Defaults', 'Ok', 'Cancel', and 'Apply'.

- a. [Updates (更新)]領域で、どれだけ古いメッセージを取得するかを選択します。Local Cacheは、指定された日数よりも新しいtombstone化されたメッセージをすべて取得してキャッシュします。メッセージの流れが連続することを保証するには、[Always retrieve up to last date (常に最終日まで取得する)]チェックボックスを選択します。メッセージをバックグラウンドで取得するように選択することもできます。
- b. [Purge (削除)]領域で、キャッシュのスコープとサイズを制限できます。[Purge messages from local machine (ローカルマシンからメッセージを削除する)]チェックボックスを選択し、制限日数と最大キャッシュサイズを入力します。オプションはどちらも設定する必要があります。キャッシュサイズは、制限日数より優先されます。たとえば、制限日数の条件を満たすキャッシュが最大サイズを上回った場合は、キャッシュのサイズが指定の制限を下回るまで、古い順にメッセージが削除されます。
- c. IAPのドメイン名とIAPのIPアドレスを、[IAP]領域に入力します。
- d. [Use SSL (SSLを使用する)]チェックボックスがオフであることを確認します。

9. [OK]をクリックします。

コピー元とコピー先のデータベースが、[Download (ダウンロード)]タブに表示されます。



10. Local Cacheを使用するには、以下の手順に従います。

a. [Start (開始)]をクリックし、アーカイブされたメッセージをキャッシュにインポートします。

ダウンロード結果のログが[Logging (ロギング)]タブに表示されます。このログは、インストール時に作成されたLocalcacheディレクトリに保存されています。

タブの上部のアイコンを使用して、ログエントリーの消去やコピーができます。

-  ▼ 特定タイプのログエントリー (サマリー、警告、エラーなど) を消去します。
-  特定のエントリー (複数可) を消去します。
-  エントリー (複数可) をコピーします。
-  ログ内のすべてのエントリーを消去します。

b. ダウンロードが完了したら、[Edit (編集)]をクリックして[Local Cache]ウィンドウを閉じるか、または[Hide (非表示)]をクリックしてLocal Cacheをバックグラウンドで引き続き実行します。

Local Cacheを非表示にする場合、アイコンはシステムトレイにそのまま表示されます。Windowsからログアウトすると、Local Cacheは自動的に終了します。

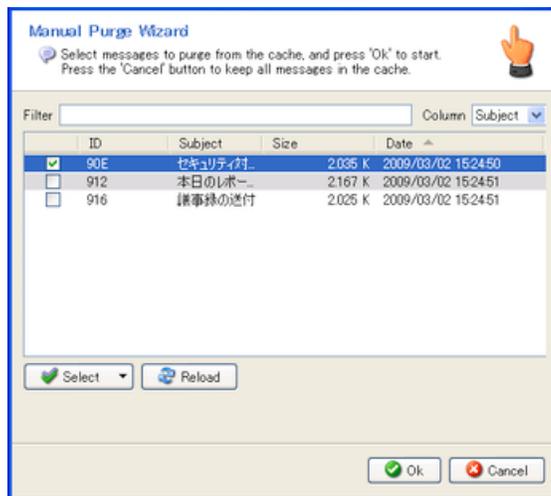
キャッシュからのメッセージの削除

キャッシュサイズや日数の制限を超過した場合、メッセージは古い順に自動的に削除されます。

次の手順を実行することで、メッセージをキャッシュから手動で削除することもできます。

1. デスクトップまたはスタートメニューにあるLocal Cacheアイコンをダブルクリックします。
2. [Local Cache]ウィンドウで、[Options (オプション)]をクリックし、[Manual Purge (手動削除)]を選択します。

[Manual Purge (手動削除)]ウィザードが表示され、キャッシュ内にあるメッセージのリストが示されます。



3. [Column (列)]ドロップダウンリストを使用して、メッセージを日付、サイズ、件名、またはIDで選別し、[Reload (再ロード)]をクリックして、メッセージリストを更新します。
4. 削除するメッセージを選択して、[OK]をクリックします。
キャッシュされたメッセージをすべて削除するには、[Select (選択)]ドロップダウンリストで、[All (すべて)]を選択し[OK]をクリックします。
5. [Edit (編集)]をクリックして、[Local Cache]ウィンドウを閉じます。

Local Cacheのアンインストール

LocalCache.exeファイルとExportSearch.exeファイルを、クライアントシステムから手動で削除することができます。ただし、Local Cacheを有効にした後は、tombstone化されたメッセージは、キャッシュの中に保持されている完全なメッセージのコピーへのポインターでマークされています。したがって、Local Cacheデータベース (mail\DefaultLCDestination.nsf) と作成した他のすべてのキャッシュデータベースは削除しないでください。

Windows Notes Clientプラグインの使用

Windowsクライアントにプラグインをインストールすると、tombstone化されたメッセージにLotus Notesで即座にアクセスできます。プラグインは単独でインストールすることができます。モバイルユーザーの場合はLocal Cacheとともにインストールすることもできます。

このプラグインにより、コンピューターがネットワークに接続している場合は、tombstone化されたメッセージに即座にアクセスできるようになります。メッセージを選択すると、その内容が自動的に表示されます。

このプラグインとLocal Cacheをインストールした場合、動作が多少異なります。詳細については、「[Windows Notes ClientプラグインとLocal Cacheの使用](#)」(261ページ)を参照してください。

プラグインインストーラーの設定

このプラグインは、標準的なAPIインターフェイスを使用してWindows Lotus Notesクライアントの機能を拡張するDLLファイルです。クライアントからDominoメールサーバーへのメッセージ取得の要求を処理し、そのメッセージがアーカイブされている場合は、要求をIAPヘリダイレクトします。

プラグインインストーラーは、DLLをWindowsクライアントシステムにインストールするMSIファイルです。EAs Domino環境に合わせて、インストーラーを設定する必要があります。

注記:

EAs Domino設定ツールを使用してMSIインストーラーを作成するには、Microsoft .NET 2.0 (またはそれ以降) フレームワークをシステムにインストールしておく必要があります。作成したMSIを使用したクライアントへのプラグインのインストールには、.NETフレームワークは必要ありません。

インストーラーを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. ローカルハードドライブにプラグインのインストールディレクトリを作成します。
2. MakeNhpClientMSIディレクトリを、インストールメディアからハードドライブ上の新しいディレクトリにコピーします。

このディレクトリには、以下のものが格納されています。

- ・ BinMakeMsi (フォルダー)
 - ・ NhpClientMsi (フォルダー)
 - ・ NhpClientSourceMsi (フォルダー)
 - ・ MakeNhpClientMsi.bat (バッチファイル)
3. 作成したインストールディレクトリの中にあるNhpClientSourceMsiフォルダーに移動します。
 4. テキストエディターで、DvariableInstallation.iniを開きます。

5. variableInstallation.iniファイルで、以下の変数を変更します。

インストーラーを実行するときに、これらの変更結果がクライアントのnotes.iniファイルに反映されます。

変数	値
RISS_HOST_ADDRESS	サンプルのIPアドレスを、IAP HTTPポータルIPアドレスに変更します。またはそのIPアドレスに名前解決されるDNS名に変更します。アドレスの後の=0は必ず残してください。その結果、この変数がnotes.iniに対して追加されます。
HPCLIENT_FROM_DOMAINTOREMOVE	この変数により、アーカイブ時にメッセージに追加された余分なFromDomainが削除されます。その結果、このメッセージの返信の作成時にFromDomainが表示されません。 サンプルのドメイン名を、1つまたは複数のDominoドメイン名に変更します。個別の複数の値はカンマで区切ります。 単一ドメインの例: HPCLIENT_FROM_DOMAINTOREMOVE= EASCPE@usa.hp.com 複数ドメインの例:HPCLIENT_FROM_DOMAINTOREMOVE= bigcorp.com,AJG,EASCPE@usa.hp.com これにより、この3つのいずれかにFromDomain値が存在する場合、その値が削除されます。 名前の後の=0は必ず残してください。
HPCLIENT_HTTP_MAX_PLUGIN_FAILURE?	ネットワーク接続が中断された場合、またはメッセージがIAP上に見つからない場合、メッセージの取得に失敗することがあります。 この値により、プラグインが無効になるまでの失敗回数が決定されます。デフォルトの10回の失敗数を編集できます。メッセージが正常に取得されると、カウンターはリセットされます。 失敗回数の後の=0は必ず残してください。
RISS_USE_HTTPS	この変数は、プラグインがIAPとの通信にHTTPS (SSL) とHTTPのどちらを使用するかを決定します。 このエントリーを編集しないでください。IAPとの通信に通常のHTTPを使用するため、この値を0にする必要があります。
RISS_DOMAIN_NAME	IAP上のストレージドメインの名前です。 サンプルのドメイン名を、IAPドメイン名に変更します。名前の後の=0は必ず残してください。
HPRIMCLIENTVERSION	このエントリーは変更しないでください。
HPRIM_KEEP_ENCAP_FILE_DAYS	カプセル化されたファイルは、署名付きまたは暗号化メッセージの処理に使用するデータベースです (これらのファイルの詳細については、「 前処理の概要 」(145ページ)を参照してください)。 encapsulatedファイルを一定の期間にわたって保持する場合は、保持する日数を入力します。デフォルト設定は、2日です。

変数	値
HPRIM_KEEP_ALL_ENCAP_FILES	<ul style="list-style-type: none"> 0を指定すると、カプセル化されたファイルは、HPRIM_KEEP_ENCAP_FILE_DAYS変数で指定した期間にわたって保持されます。 1を指定すると、すべてのカプセル化されたファイルが無期限に保持されます（非推奨）。 日数の後の=0は必ず残してください。
HPRIM_REMOVE_ALL_ENCAP_FILES	<ul style="list-style-type: none"> 0を指定すると、カプセル化されたファイルは、HPRIM_KEEP_ENCAP_FILE_DAYS変数で指定した日数が経過した後に削除されます。 1を指定すると、すべてのカプセル化されたファイルは、Notesのシャットダウン時または次の起動時に強制的に削除されます。 エントリーの後の=0は必ず残してください。
HPCLIENTEXCLUDE=localcache, taskldr, dyncfg=0	このエントリーは変更しないでください。プラグインに加えてLocal Cacheをインストールした場合、この変数が記述されます。
EXTMGR_ADDINS=hpclient=1	この変数は、プラグインをNotesエクステンションマネージャーに登録します。 このエントリーは変更しないでください。
NOTES_PATH	このエントリーは変更しないでください。この値によってインストール時にnotes.iniファイルの場所が特定されます。

完成したvariableInstallation.iniファイルは、次の例のようになります。

```

RISS_HOST_ADDRESS=15.1.1.1=0
HPCLIENT_FROM_DOMAINTOREMOVE=EASCPE@usa.hp.com=0
HPCLIENT_HTTP_MAX_PLUGIN_FAILURE=10=0
RISS_USE_HTTPS=0=0
RISS_DOMAIN_NAME=iapdomain=0
HPRIMCLIENTVERSION=1.6.2=0
HPRIM_KEEP_ENCAP_FILE_DAYS=2=0
HPRIM_KEEP_ALL_ENCAP_FILES=0=0
HPRIM_REMOVE_ALL_ENCAP_FILES=0=0
HPCLIENTEXCLUDE=localcache, taskldr, dyncfg=0
EXTMGR_ADDINS=hpclient=1
NOTES_PATH=C:\Program Files\lotus\notes

```

6. NhpClientSourceMsiフォルダーのlanguageInstallation.iniファイルを開きます。

このファイルのどのエントリーのテキストも、変更または書き換えることができます。ただし、エントリーを削除しないでください。

テキストは、インストーラーを実行したときにメッセージプロンプトの一部として表示されます。

7. MakeNhpClientMsi.batを実行してインストーラーを作成します。

インストーラー (NhpClient.msi) は、MakeNhpClientMsiディレクトリのNhpClientMsiフォルダーに作成されます。これで、このファイルを配布する準備ができました。

注記:

プラグインのトラブルシューティング用にさらに変数を追加できます。「[Notes Clientプラグインのトラブルシューティング](#)」(279ページ)を参照してください。

プラグインのインストール

各クライアントシステムへのNhpClient.msiの配布、またはインストールはDomino管理者が行わなければなりません。

プラグインをクライアントにインストールすると、次のようになります。

- ・ プラグインファイル (nhpclient.dll) が、クライアントのLotus Notes Program Fileディレクトリに配置されます。
- ・ EAs for Domino – Notes Client Plug-inプログラムが、コントロールパネルのプログラムリストに配置されます (ここからアンインストールすることもできます)。
- ・ variableInstallation.iniファイルで設定された値を使用して、notes.iniファイルが更新されます。
- ・ インストーラーが、クライアントのWindows\Installerディレクトリに配置されます。
- ・ プラグインのインストールが完了した後、コンピューターを再起動する必要があります。

プラグインは、クライアントのMicrosoft Internet ExplorerのLAN設定を使用して、IAPとの通信を行います。

ユーザーはデフォルトとして、他のWebブラウザーを使用することもできます。ただし、IAPに対するLAN接続に関してプロキシまたは他の特別な設定が必要な場合は、Internet Explorerで設定する必要があります。

Windows Notes ClientプラグインとLocal Cacheの使用

Windowsクライアントは、プラグインとLocal Cacheを組み合わせ使用し、クリックなしでアーカイブされたメッセージにアクセスすることができます。

プラグインは、3つの方法でキャッシュとの通信を行います。

- ・ メッセージがキャッシュに存在する場合:ユーザーがtombstone化されたメッセージを開くと、プラグインはキャッシュ内でメッセージへのポインターを検索します。ポインターが見つかった場合、プラグインはキャッシュからメッセージを取得し、そのメッセージを自動的に表示します。この結果、パフォーマンスが向上し、IAPの負荷が減少します。
- ・ メッセージがキャッシュに存在せず、ユーザーがオンラインの場合:ユーザーがLocal Cacheに存在しないtombstone化されたメッセージを開くと、プラグインはIAPからメッセージを取得し、そのメッセージを表示します。
- ・ メッセージがキャッシュに存在せず、ユーザーがオフラインの場合:ユーザーがキャッシュに存在しないtombstone化されたメッセージを開くと、メッセージがすでにアーカイブされたことを示すテキストが表示されます。ユーザーがオンラインになるまで、このメッセージを取得することはできません。

注記:

HPCLIENTEXCLUDE=localcache, taskldr, dyncfg=0変数がnotes.iniに記載されていることを確認してください。プラグインとLocal Cacheを同時に使用する場合、正しく機能するにはこの値が必要となります。この値はvariableInstallation.iniに追加されています。プラグインのインストーラーの実行時にこの値が使用されます。詳細については、「[プラグインインストーラーの設定](#)」(258ページ)を参照してください。

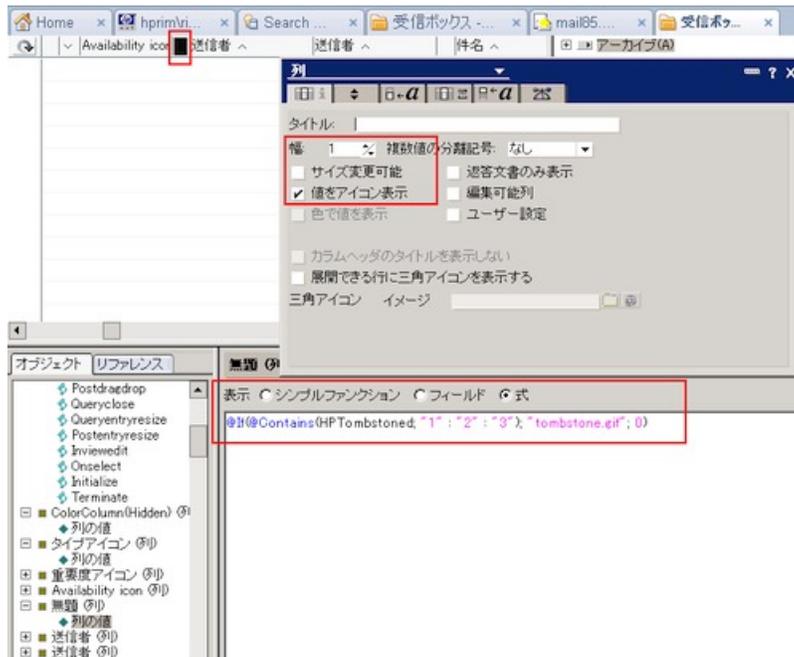
tombstoneアイコンの追加

tombstoneアイコンをメールテンプレートに追加するには、以下の手順に従ってください(オプション)。tombstoneアイコンは、メッセージがすでにアーカイブされたことを示します。

このアイコンは、Windowsクライアントを使用して追加する必要があります。

1. HP EAs-D共有オブジェクトhp_sharedobjects.ntfを、HP EAs DominoインストールメディアのTemplatesフォルダーからNotesクライアントのNotesデータディレクトリにコピーします。
2. Domino Designerクライアントでメールテンプレートを開き、hp_SharedObjects.ntfを開きます。
3. hp_sharedobjects.ntfの左にあるナビゲーションペインで、[Resources (リソース)]を展開し、[Images (イメージ)]を展開します。
4. Tombstone.GIFをコピーし、[Resources (リソース)]、[Images (イメージ)]の順に選択してメールテンプレートに貼り付けます。
5. メールテンプレートのナビゲーションペインで[Folders (フォルダ)]を選択します。次に、フォルダーリストで[(\$Inbox) (受信ボックス)]をダブルクリックします。
6. 最初の[Who (送信者)]列を選択します。
7. 上のメニューバーから、[Create (作成)]、[Insert New Column (列の挿入)]の順に選択します。
8. [Column Value (列の値)]見出しの下で、[Formula (式)]をクリックします。
 - a. [Column Value (列の値)]フィールドのすべての既存の値を削除します。
 - b. [Column Value (列の値)]フィールドに次の式を入力します。

```
@If(@Contains(HPTombstoned; "1" : "2" : "3" : "4"); "tombstone.gif"; 0)
```
 - c. 列の[Properties]ダイアログボックスで、[Width (幅)]を1に変更し、[Resizable (サイズ変更可能)]チェックボックスを選択解除し、[Display values as icons (値をアイコン表示)]チェックボックスを選択します。
([Properties]ダイアログボックスが自動的に表示されない場合は、[Design (設計)]、[Column Properties (列のプロパティ)]の順に選択します。)



9. [Properties]ダイアログボックスを閉じます。次に[Yes (はい)]をクリックして変更を保存します。

列は複数のフォルダーやビューで共有されないので、メールテンプレートのすべての継承フォルダーと継承ビューにも変更を加える必要があります。この変更を加える前に作成した個人フォルダーでは、アイコンは表示されません。

カプセル化されたメッセージの取得と表示

HP EAs Dominoでは、署名付きメッセージおよび暗号化メッセージはカプセル化されてからアーカイブされます。次の項目を含むその他のいくつかのタイプのNotesの項目もカプセル化されます。

- ・ カレンダー通知
- ・ HTMLリンクが破壊されている古いメッセージ
- ・ ワークフロープログラムのカスタムフォームなどのカスタムフォームを含む一部のメッセージ

カプセル化されたメッセージはNotesデータベース内に入れられて、元のメッセージに添付されます。これにより、メッセージのデータがそのまま保持される形式でアーカイブされます。「[前処理の概要](#)」(145ページ)で、このプロセスについて詳細に説明しています。

Lotus NotesおよびDWAでカプセル化されたメッセージを取得して開く手順

ユーザーのコンピューターにNotesプラグインまたはLocal Cacheがインストールされている場合、カプセル化されたメッセージは自動的に展開され、100%の忠実度で復元されます。このメッセージは、他のすべてのメッセージと同様に開いて表示することができます。DWAで取得されたカプセル化されたメッセージも、自動的に展開されます。

暗号化メッセージは、ユーザーのNotes ID内の秘密鍵を使用して開きます。署名付きメッセージは、ユーザーが送信元の証明済み公開鍵を持っている場合に開きます。この公開鍵はDomino Directoryまたはユーザーのアドレス帳に格納されています。

IAP Webインターフェイスでカプセル化されたメッセージを開いて表示する手順

- ・ ATT添付ファイル、会議招集などのMemo、Reply以外のアイテムを含むメッセージはIAP Webインターフェイスで表示できます。
- ・ ユーザーが送信者の公開鍵を持っている場合、署名付きメッセージをWebインターフェイスで表示することができます。
- ・ Webインターフェイスで暗号化ファイルを表示することはできません。ただし、暗号化メッセージは、コピーをNotesメールボックスに送信またはエクスポートすると、開いて表示することができます。カプセル化されたメッセージがWebインターフェイスから送信された場合、ユーザーは次のセクションで説明する手順を実行する必要があります。

Lotus Notesでカプセル化されたメッセージを開く

ユーザーは、カプセル化されたメッセージを、IAP Webインターフェイスから自分のNotesメールボックスにエクスポートまたは送信することができます。この操作は、[追加オプション]をクリックして、オプションメニューで送信またはエクスポートのいずれかのオプションを選択することで行えます。



メッセージをエクスポートした場合は、カプセル化されたメッセージを他のメッセージと同じように開いて表示することができます。

メッセージをユーザーのメールボックスに (Mail-To-Meメッセージとして) 送信した場合は、これをLotus Notesで開くために以下の手順を実行する必要があります。

1. Notesメールボックスで、メッセージの添付ファイルをダブルクリックします。
この添付ファイルは、元のメッセージを単一ドキュメントとして格納したカプセル化されたデータベースです。
2. ドキュメントを開かずに、クリップボードにコピーします。
3. 空のフォルダーに移動します。
(必要な場合は、新しいフォルダーを作成することもできます。Draftsフォルダーは使用しないでください)。
4. クリップボードに格納されているドキュメントをメールフォルダーに貼り付けます。
5. フォルダーからメッセージを開きます。

Part 6. トラブルシューティングとパフォーマンスの向上

- ・ [トラブルシューティング \(267ページ\)](#)
- ・ [パフォーマンスの向上 \(283ページ\)](#)

6.1 トラブルシューティング

システムの問題のトラブルシューティングに、この項の説明を使用してください。

- ・ [HPサポート向けデータの収集](#) (267ページ)
- ・ [サーバーの安定性](#) (270ページ)
- ・ [メールのルーティングに関する問題](#) (271ページ)
- ・ [Dynamic Account Synchronization \(DAS\) の問題](#) (273ページ)
- ・ [アーカイブに関する問題](#) (276ページ)
- ・ [クライアントアプリケーションの問題](#) (278ページ)

HPサポート向けデータの収集

収集する情報

メッセージのアーカイブやIAPからのメッセージの取得で問題が発生した場合は、HPサポート担当者がこの問題を解決するために役立つ以下の関連情報を収集してください。

- ・ ユーザーのメールファイルまたはジャーナルからのオリジナルメッセージ (バックアップから)
- ・ tombstone (メッセージをメールファイルから選択的にアーカイブした場合)
- ・ リファレンス文書とプリプロセス文書 (ReferenceデータベースとPreProcessデータベースにこれらがある場合)
- ・ メッセージのRFC-822 MIMEバージョン (メッセージがIAPにアーカイブされている場合)
- ・ HPゲートウェイサーバーのmail.boxまたはGet Held Messagesデータベースからのメッセージのコピー (メッセージがIAPにルーティングされていない場合)

Heldメッセージの処理

EAs DominoによってIAPに送られるメッセージの一部がMIME変換処理に失敗し、DominoルーターによってHoldステータスに置かれます。メッセージはMIMEの形式の問題でIAPからも拒否され、IAPからは一般的なSMTP 551エラーが返されます。エラーがルーターまたはIAPのどちらで発生した場合でも、ルーターがエラーをメッセージのFailureReasonフィールドに書き込み、Statusフィールドの値をHoldに設定します。

Get Held MessagesアプリケーションはHoldステータスにあるmail.boxのメッセージを回収して、これをDominoルーターに指定されている回数だけ再送信します (この回数は、データベース内のSetup Controlsビューで設定されています)。

再送信の最大数に達した後、配信不能なメッセージはGet Held Messagesデータベースに保存され、[メッセージの再処理](#)を使用して再処理されます (以下で説明)。Get Held Messagesデータベースに残ったメッセージは、再処理後に診断のためにHPのサポート担当者に送られます。

デフォルトでは、Get Held Messagesエージェントは4時間ごとに実行されるよう設定されていますが、これよりも短い間隔で実行することもできます。

メッセージの再処理

Reference CleanupエージェントをReferenceデータベースで実行すると、まず、そのデータベースにある使用されていないリファレンス文書や重複したリファレンス文書が削除されます。次に、Sentステータスを持つすべてのリファレンス文書がスキャンされます。

あるリファレンス文書がGet Held Messagesデータベースにあるメッセージを指している場合は、Reference Cleanupエージェントは事前に定義されているルールの一覧を使用して、実行する処理を判断します。以下の3つの処理があります。

- メッセージをDominoルーターに再送信する。
- 参照と元のメッセージに前処理とカプセル化のためのフラグを立てる。
- リファレンス文書のStatusフィールドをErrorに変更し、ErrorAgentフィールドをGatewayに更新して、FailureReasonをErrorReasonフィールドに書き込む。

エラーメッセージ

Message Reprocessing文書では、以下のアーカイブエラーに対して実行する処理を定義しています。これらの文書を変更できるのは、HPのサポート担当者だけです。

FailureReason	クラス	説明	メッセージの再処理のための処置
3A:F2	ルーター	このメッセージは破損しており、ルーティングできません。	リファレンスをエラーとしてマーク メッセージの問題の評価について、HPのサポート担当者に連絡してください。
Notesのリッチテキスト形式のメッセージをMIMEメッセージに変更できない	ルーター	MIME変換エラーです。たとえば、2022-JP文字コードなどのマルチバイトの文字の変換で問題が生じた場合などです。	CD-to-MIMEの問題 リファレンスと元のメッセージに前処理とカプセル化のためのフラグが自動的に立てられます。
HTMLに変換するHTML-LAPIの問題	ルーター	リッチテキスト (RTF) からHTMLへの変換エラーです。	CD-to-MIMEの問題 リファレンスと元のメッセージに前処理とカプセル化のためのフラグが自動的に立てられます。
RFC822のヘッダー名がないか、正しくない	ルーター	ルーターで不正な形式のメッセージヘッダーが検出されました。	リファレンスをエラーとしてマーク メッセージの問題の評価についてHPのサポート担当者に連絡してください。
Noteの項目が見つからない	ルーター	通常は、メッセージ構造に含まれる添付ファイルが破損していることを意味します。このメッセージはカプセル化する必要があります。このFailureReasonは、一括アップロードの処理で古いNotesメールアドレスを取り込む際に発生することがわかっています。たとえば、メッセージが最初にDomino 5ルーターで処理された場合などです。	添付ファイルの破損 リファレンスと元のメッセージに前処理とカプセル化のためのフラグが自動的に立てられます。

FailureReason	クラス	説明	メッセージの再処理のための処置
リモートシステムからの応答がない	ルーター	IAPの仮想IP、LoadBalancer、またはSMTPのポータルが使用不可能です。	ルーターへ再送信
SMTPプロトコルからパーマネントエラーが返される	ルーター	IAPから未定義のエラーによってメッセージが拒否されます。	リファレンスをエラーとしてマークメッセージの問題の評価について、HPのサポート担当者に連絡してください。
SMTPプロトコルからパーマネントエラー551が返される	ルーター	IAPから一般的な551エラーによってメッセージが拒否されます。	リファレンスをエラーとしてマークメッセージの問題の評価について、HPのサポート担当者に連絡してください。
指定したデータベースが現在開かれていない	ルーター	データベースが開いておらず、おそらくmail.boxファイルに対して圧縮や修復の処理が実行中と考えられます。	ルーターへ再送信

HPサポート担当者向けのHeldメッセージの収集

Get Held Messagesデータベースに残されているメッセージに対して、以下の手順を実行してください。

1. Domino Administratorクライアントを使用して、HPゲートウェイサーバーを開き、DominoデータディレクトリにあるGet Held Messagesデータベース (hprim\hp_GetHeldMsgs.nsf) を開きます。
2. [Held Mail]ビューを確認し、mail.boxにある配信不能メッセージを探します。
3. [File (ファイル)]メニューで、[Application (アプリケーション)] -> [New Copy (コピー)]の順に選択し、データベースの完全なコピーを作成します。

注記:

データベースのローカルな暗号化を無効にしてから、[OK]をクリックします。

4. Get Held MessagesデータベースのコピーをHPのサポート担当者へ送信し、Heldメッセージの診断を受けます。

データベースのコピーを作成した後、保存する必要のないメッセージは削除できます。

1. 必ず[Held Mail]ビューで作業してください。それ以外のビューでは、他の文書を削除する結果になります。
2. 左の余白で、削除するメッセージをクリックして選択します。
左の余白でマウスをドラッグすると、複数のメッセージをすばやく選択することができます。
3. [Delete]キーを押し、選択したメッセージに削除するためのマークを付けます。
4. [F9]キーまたは[Esc]キーを押して、メッセージを削除します。

Mail Captureエージェントを実行すると、エージェントはさまざまなステータスメッセージをサーバーのログファイルに書き込みます。Dominoログ (log.nsf) でGet Held Messagesという文字列を検索すると、これらのメッセージを表示できます。

Referenceデータベースのトラブルシューティングツール

各Referenceデータベースには、アーカイブに関する問題のトラブルシューティングに使用できるツールが用意されています。これらのツールは、必ずHPのサポート担当者の指示に従って使用してください。



- Find Parentツール: メッセージのアーカイブで問題が発生した場合は、このツールによってジャーナルまたはユーザーのメールファイルにあるメッセージを探ることができます。
- Reset Statusツール: このツールは、メッセージやリファレンス文書の処理ステータスを変更できます。Holdステータス（保留中の文書に対するもの）およびHold-Pステータス（前処理中の文書に対するもの）は、メッセージと対応するリファレンス文書をアーカイブの実行パスから削除します。
- Encapsulationツール: 3つのメッセージフラグオプションによって元のメッセージを見付け出し、HPのサポート担当者向けに適切なフラグを付けます。復帰オプションを使用すると、メッセージの転送用コピーを探し、削除できます。

サーバーの安定性

サーバーの不安定さの防止

サーバーが不安定になる問題を回避するために、HPゲートウェイサーバーでAgent Managerの値とnotes.iniファイルのJavaMaxHeapSizeの値が正しく設定されていることを確認します。詳細については、「Agent Managerのパラメーター値の編集」(57ページ)および「JavaMaxHeapSizeの変更」(60ページ)を参照してください。

マイニングプログラムのシャットダウン

rissminerプログラムの実行中にHPゲートウェイサーバーが停止すると、rissminerの<mining_rule_name_date_time_stamp>.lockファイルが残ります。サーバーが再起動したときにこのlockファイルが存在していると、rissminerがただちにシャットダウンされます。

lockファイルを自動的に検出および削除するには、rissminerを実行しているすべてのHPゲートウェイサーバーのDomino Directoryにプログラム文書を作成します。

1. Domino Administratorクライアントで、[Configuration (設定)]タブをクリックします。
2. [Server (サーバー)]を展開し、[All Server Documents (すべてのサーバー文書)]を選択します。

3. rissminerを実行している各HPゲートウェイサーバーで、以下の手順を実行します。
 - a. サーバーを選択します。
 - b. [Create (作成)], [Server (サーバー)], [Program (プログラム)]の順に選択します。
 - c. [Basics (基本)]タブで、フィールドに次のように入力します。
 - ・ [Program name (プログラム名)]: cmdと入力します。
 - ・ [Command line (コマンドライン)]: /c erase c:\lotus\domino\rissminer_*.lockと入力します
(ここでc:\lotus\dominoはDominoのプログラムディレクトリです)。
 - ・ [Server to run on (実行するサーバー)]: デフォルトは、現在のサーバーです。サーバーを変更する場合は、矢印をクリックし、他のサーバーを選択します。
 - ・ [Enabled/Disabled (有効/無効)]: 矢印をクリックし、[At server startup only (サーバーの起動時のみ)]を選択します。
 - d. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
4. サーバーを再起動します。

サーバーコンソールで次のコマンドを実行して、すべてのlockファイルを検出および削除することもできます。

```
load cmd /c erase c:\lotus\domino\rissminer_*.lock
```

(ここで、c:\lotus\dominoはDominoのプログラムディレクトリです)

JVM panic gc0 error

Agent Managerが使用するDomino 7.0.3 JVMにバグが見つかっています。これにより、サーバーが不安定になり、最終的には「JVM panic gc0 error」というエラーメッセージを表示してクラッシュすることがあります。この問題は、Dominoサーバーの7.0.3より上のバージョン7.0.xでも発生する可能性があります。

Javaで記述されJARファイルを含むDominoエージェントを、サーバーコンソールまたはDomino Administratorクライアントから手動で実行した場合に、この問題が発生します。この問題はHP EAs-D Export SearchデータベースのExport Searchエージェントに関係しています(サーバー側のExportツールのみが影響を受けます)。

この問題を回避するには、次のいずれかの処理を実行してください。

- ・ Export Searchエージェントを必ずスケジュールする。
- ・ IBMのIncident Report (サポート情報) を開き、SPR #CJON7BR3CGの修正リリースを要求して、この問題に対するIBM Lotusホットフィックスを適用する。
- ・ より新しいバージョンのLotus Dominoサーバーソフトウェア (8.5.1など) にアップグレードする。

メールのルーティングに関する問題

メールのバックアップのチェック

HPゲートウェイサーバーのコンソールで、メールの統計値を計算するsh stat mailコマンドを使用して、メールのバックアップ先を確認します。mail.boxを開き、ルーティングされていないメッセージを確認します。トラブルシューティングの際には、mail.boxの設定を3つのメールボックスから1つのメールボックスに変更します([mail.boxファイルの統合](#)を参照してください)。

Hold状態またはDead状態のメッセージ

mail.boxでHold状態またはDead状態にあるメッセージは、HPゲートウェイサーバーのGet Held Messagesデータベースに入れられます。この処理は、Get Held Messagesエージェントが実行されたときに行われます。通常は1日に数回実行されます。Get Held Messagesとメッセージの再処理に関する詳細は、「[Heldメッセージの処理](#)」(267ページ)を参照してください。

mail.boxファイルの統合

単一のHPゲートウェイサーバー上で複数のmail.boxファイルを使用していて、それらを単一のmail.boxに統合する場合は、まず他のmail.boxファイルを削除します。

1. 各mail.boxファイルの中にエントリーが1つも存在しないことを確認します。
2. サーバーを停止します。
3. すべてのmail.boxファイル (mail1.box、mail2.boxなど) を削除してから、新しいmail.boxファイルを1つ追加します。
4. サーバーを再起動します。

HPゲートウェイサーバーからメールサーバーへのルートがない

HPゲートウェイサーバー上の接続文書で、メールサーバーへの接続が作成されていることを確認してください。「[ユーザーのメールサーバーに対する接続文書の作成](#)」(57ページ)を参照してください。

HPゲートウェイサーバーからDominoメールサーバーへのアクセスが許可されていない

メールドメイン用のDomino Directoryで、各HPゲートウェイサーバーが信頼できるサーバーのリストに追加されていることを確認してください。「[信頼できるサーバーの設定](#)」(63ページ)を参照してください。

HPゲートウェイサーバーからメールファイルへのアクセスが許可されていない

メールドメイン用のDomino Directoryで、各HPゲートウェイサーバーが、OtherDomainServersグループ、またはユーザーのメールファイルへのアクセスを許可する同様のグループに追加されていることを確認してください。「[HPゲートウェイサーバーへのアクセス権の設定](#)」(63ページ)を参照してください。

HPゲートウェイサーバーからIAPへのルートがない

外部のSMTP接続文書と、HPゲートウェイサーバー上のSMTP接続文書を確認してください。「[外部のSMTPドメイン文書の作成と設定](#)」(58ページ)および「[SMTP接続文書の作成と設定](#)」(58ページ)を参照してください。

HPゲートウェイルーターに低優先度のメッセージが残る

低優先度のメッセージは、低優先度のメールのルーティング時間帯から逸脱すると、HPゲートウェイのルーターに捕捉されます。これらのメッセージは、低優先度の時間帯が有効になると、IAPに徐々にルーティングされます。

低優先度の時間帯を24時間に設定すると、すべてのメールがIAPに即座にルーティングされるようになります。

1. HPゲートウェイのサーバー設定文書で、[Router/SMTP (ルーター/SMTP)]タブをクリックします。
2. [Restrictions and Controls (拡張と制御)]タブをクリックし、[Transfer Controls (転送制御)]タブをクリックします。
3. 低優先度のメールルーティング時間帯を12:00 AM - 6:00 AMから [12:00 AM - 11:59 PM]に変更します。

Dominoのdebugパラメーター

以下のパラメーターは非常に便利なDominoのデバッグパラメーターであり、HPゲートウェイサーバーのnotes.iniに追加します。

- Set config SMTPCLIENTDEBUG=1
SMTPの発信トラフィックの詳細なロギングを有効にします。これはSMTPとIAPの対話を監視するのに便利です。
- Set config SmtplibSaveOutboundToFile=1
発信されるメッセージのMIMEを、HPゲートウェイサーバーのtempディレクトリにある個々のテキストファイルに書き込みます。これはIAPに送信されているものを調べるのに便利です。

注記:

トラブルシューティングが終了したときには、デバッグパラメーターを必ず= または=0 (空白またはゼロ) にリセットしてください。

Dynamic Account Synchronization (DAS) の問題

ユーザーのDomino DirectoryからHPゲートウェイの統合ディレクトリにデータをコピーする際の問題

次の点を確認してください。

- Notes IDとマスターHPゲートウェイサーバーに、メールサーバーへのアクセス権があることを確認します。「[ユーザーのメールサーバーに対する接続文書の作成](#)」(57ページ)を参照してください。
- Notes IDとマスターHPゲートウェイサーバーに、メールサーバー上のnames.nsfを開くおよび複製する権限があることを確認します。
names.nsfのACLを確認します。Notes IDとHPゲートウェイサーバー(またはこれらがメンバーになっているグループ)にはReaderのアクセス権が必要です。
- メールサーバー上のServer文書を確認して、サーバーにアクセスできる人とできない人を確認します。「[信頼できるサーバーの設定](#)」(63ページ)を参照してください。
- メールサーバー上のnames.nsfで、複製が一時的に無効になっていることを確認します。names.nsfでReplication Settings (Other) からチェックマークを削除します。

DASでユーザーをロードできない

プロセスをバックトレースします。

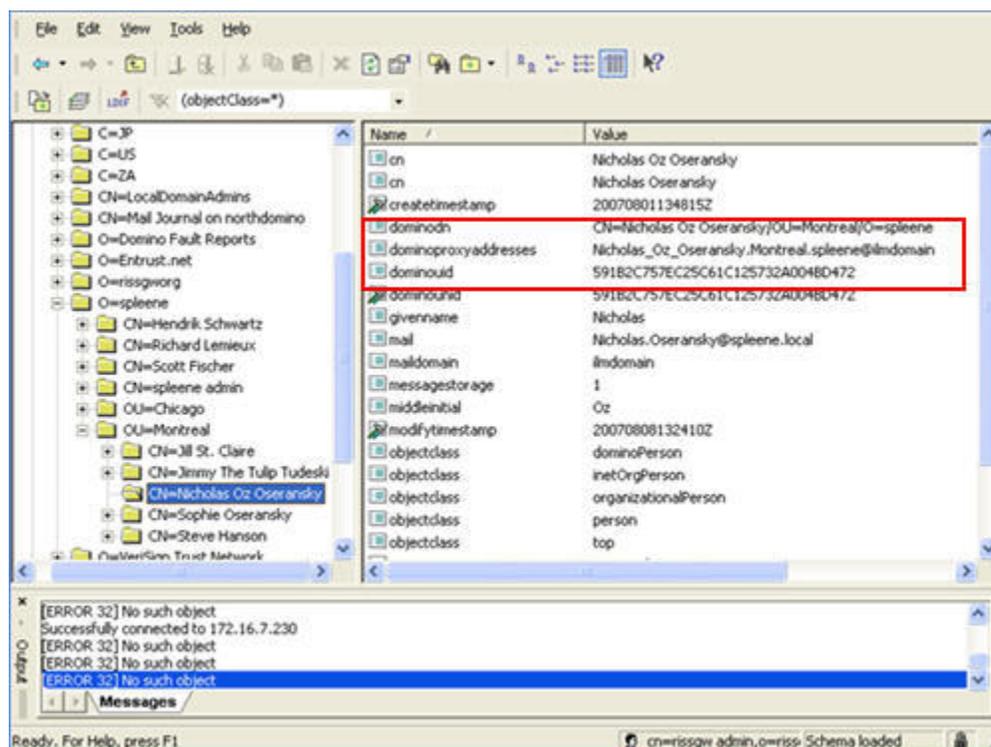
- IAPでDASジョブのパラメーターとDASのログファイルを確認します。

User Management / Account Synchronization Error Recovery					
Search for: <input type="radio"/> User <input type="radio"/> Group <input type="radio"/> Membership					
	Date	Error	USH	UserName	Object GUID LDAP DN
<input type="checkbox"/>	Fri, 2007.08.24 14:21:35 CEST	ADD:ENTRY EXISTS	20070824121529	jib@imdomain	00A55445B500D378C12573410041D92B CN=Jib St. Claire2/OU=Montreal/O=spleene
<input type="checkbox"/>	Fri, 2007.08.24 14:21:35 CEST	ADD:OTHER_ERROR	0		

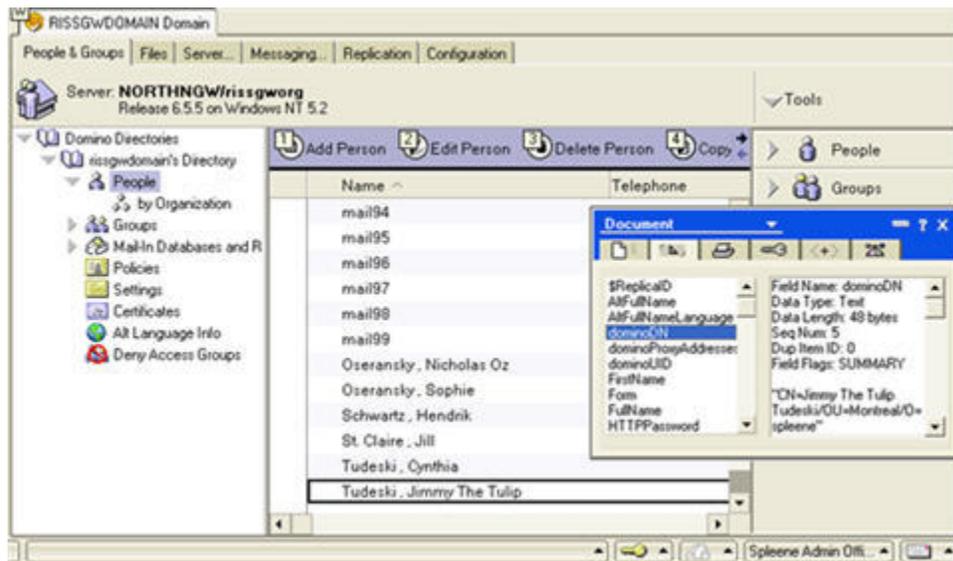
Notes user with NULL username - check DAS logs on HTTP portal

- LDAPブラウザーを使用して、拡張ディレクトリカタログをチェックします。
- 拡張ディレクトリカタログの設定、統合ディレクトリの設定、DAS Names Configuration文書をチェックします。
- dominoDN、dominoUID、dominoProxyAddressesの各属性が、DAS Namesに含まれていることを確認します（文書のプロパティを確認してください）。
- Domino Directoryに現れるLotus Notesの複製や保存の競合を確認します。
- LDAPツールを使用して、LDAPの設定を確認します。

dominoDN、dominoUID、dominoProxyAddressesの各LDAP各属性が、有効であることを確認します



- Person文書のプロパティを調べて、Lotus NotesのdominoDN、dominoUID、およびdominoProxyAddressesの各属性を確認します。



ユーザーがすでに存在する

このエラーは、DAS Names内の複製や保存の競合によって、またはPopulate DAS Namesエージェントがスケジュールされているときにこのエージェントを手動で実行したことによって発生します。

この重複は、PCCの[Account Synchronization Error Recovery (アカウントの同期エラーの復旧)]ページに表示されます。

User Management / Account Synchronization Error Recovery					
Search for: <input type="radio"/> User <input type="radio"/> Group <input type="radio"/> Membership					
<input type="checkbox"/>	Date	Error	USN	UserName	Object GUID LDAP DN
<input type="checkbox"/>	Fri, 2007.08.24 14:21:35 CEST	ADD_ENTRY_EXISTS	20070824121529	jll@domain	00A55445B5D00378C12573410041D92B CN=Jill St. Claire/OU=Montreal/O=spleene
<input type="checkbox"/>	Fri, 2007.08.24 14:21:35 CEST	ADD_OTHER_ERROR	0		

Duplicate username

IAP上の重複するユーザーを削除します。EAs Domino側で、DAS Namesから重複するPerson文書またはMail-In文書を削除して、Populate DAS Namesエージェントを再実行します (DASではEAs Dominoからの削除の同期をサポートしていません)。

ユーザーがIAPのWebインターフェイスにログオンできない

- Domino Directoryのユーザーにインターネットのパスワードが設定されているかどうかを確認します。設定されていない場合は、そのユーザーにパスワードを設定させ、複製が行われてHPゲートウェイサーバーで統合ディレクトリとDAS Namesデータベースがアップデートされるまで待機します (DASを再実行する必要はありません)。
- IAP HTTPポータルでキャッシュの問題が発生している可能性があります。HTTPポータルでデバッグを有効にし、DB2で「UID not found」(UIDが存在している場合でも) というエラーの報告を探します。認証は数時間後に機能するようになります。

アーカイブに関する問題

アーカイブ処理が実行されていない

アーカイブが実行されていない場合は、以下を確認してください。

- HP EAs Dominoエージェントが、HPゲートウェイサーバーでエージェントやプログラムを実行できるアクセス権を持つNotes IDによって署名または変更されていること。エージェントは、エージェントを最後に変更し、保存したユーザーの名前で実行されます (Domino Designerの[Last modified by (最終変更者)]の列を確認してください)。
- EAs Dominoデータベースに署名したNotesまたはサーバーIDに、タスクを実行するアクセス権があること。Server文書のセキュリティ設定を確認してください。「[HPゲートウェイサーバーのセキュリティの設定](#)」(56ページ)を参照してください。
- EAs Dominoデータベースに署名したNotesまたはサーバーIDで、アーカイブを必要とするメールファイルにアクセスできること。

電子メールが正しくない

IAPにアーカイブされたメッセージが正しくない(たとえば、送信者/受信者がいない、日付が正しくない、形式が正しくないなど)場合は、以下を確認してください。

- アーカイブ処理でLNM対応の仮想IP (VIP) を使用していることを確認します。各VIPアドレスには、そのVIPを使用できる機能を定義する3文字の識別子が付いています。LNMは、そのVIPアドレスがIAP上でのLotus Notes Mailの保存やアクセスに使用されることを意味します。LNMはDomain.jcmlファイルで設定されています (NBLという識別子は、Lotus Notesの電子メールとは一緒に機能しないことに注意してください)。
「[LNMの設定](#)」(299ページ)を参照してください。
- HPゲートウェイサーバーに、正しいルーターとMIME設定が適用されていることを確認します。これらのオプションは、サーバー設定文書で設定されています。「[HPゲートウェイサーバーの設定文書の作成](#)」(59ページ)を参照してください。

「Unable to open index table of Mail Details records (Mail Detailsレコードのインデックステーブルを開けません)」エラー

HPゲートウェイサーバーで、複数のマイニングジョブが短い間隔でスケジュールされていると、マイニングプログラムが「Unable to open the index table of the Mail Details records view task aborted (Mail Detailsレコードのインデックステーブルを開けません。ビュータスクを中断します)」というメッセージを表示して中断することがあります。

このエラーの発生を防ぐには、ゲートウェイサーバーでrissminerのプログラム文書を開き、コマンドに-nスイッチを付加します。たとえば、-kSelective -nとします。ここでSelectiveはマイニングプロファイルの名前です。

詳しくは、「[アーカイブジョブのスケジュール設定](#)」(161ページ)または「[アーカイブジョブの手動実行](#)」(163ページ)を参照してください。

グループのメンバーの電子メールがマイニングされない

マイニングルールの[User Membership (ユーザーメンバシップ)]タブにDomino Directoryのグループが追加されていて、そのグループのメンバーが共通名でリストされていると、メンバーのメールファイルはマイ

ニングされなくなります。また、ユーザーのMail Detailレコードは作成されず、既存のユーザーレコードはマイニングルールと関連付けされなくなります。

Profileエージェントでユーザーが処理されるようにするには、このグループのメンバーが完全な階層的な名称でリストされるようにします。

ATTxxxxxという名前のメッセージ添付ファイル

Lotus NotesとDominoは、添付ファイルの名前をメッセージのNSF表現の中で2個所に保存します。ユーザーに対して表示される名前は、リッチテキスト形式のメッセージ本文とともに複合データ (CD) レコードに保存されます。2番目のコピーは、\$File項目に保存されます。

ほとんどの場合、これらの名前は同一です。ただし、Dominoが\$File項目の名前として固有の名前 (文字列「ATT」で始まる) を作成することがあります。この現象は1つのメッセージに同じ名前の2つのファイルを添付したときに発生しますが、他の状況でも発生することがあります。HPゲートウェイサーバー上のDominoルーターは、IAP用にメッセージを変換する際、必ず\$File項目のファイル名を使用します。そのため、元のファイル名が失われることがあります。

このことを防止するため、ATT添付ファイルを含むメッセージは、EAs DominoのPreProcessデータベースに送信されてカプセル化されます。この結果、元のファイル名がそのまま維持されます。

ATT添付ファイルを含むメッセージを開くには、「[Lotus Notesでカプセル化されたメッセージを開く](#)」(264ページ)の手順を実行してください。

大きいMail Detailログ レコード

Lotus Notesのレコードが64KBより大きなテキストを保存した場合はエラーが発生し、画面に次のメッセージが表示されます。

```
Notes error:Field is too large or View's column selection formulas are too large.
```

このエラーが発生するのは、Purge Selective Archive Logエージェントのスケジュールが設定されておらず有効になっていない場合、またはエージェントのParameter文書の行数が過度に大きく設定されている場合です。

このエラーを回避するには、「[Purge Selective Archive Logエージェント](#)」(157ページ)を参照してください。

正しくないコンテンツタイプ

ファイル詳細テーブルは、SMTP経由でメールを転送するために、Notesの\$FILE項目のファイル拡張子をMIMEコンテンツタイプの値に対応させる (およびその逆も) 役目を持ちます。

IAPは、MIMEコンテンツタイプの値に基づいて、添付ファイルにインデックスを付けます。HPゲートウェイに設定されたファイル詳細テーブルが正しくない場合、あるいは空の場合、デフォルトで添付ファイルには正しくないコンテンツタイプでスタンプが設定されるか、application/octet-streamとしてラベルが付けられません。

テーブルが存在するかどうかを確認するには、次の手順を実行してください。

1. Administratorクライアントを開き、[File (ファイル)] → [Open Server (サーバを開く)]の順に選択して、HPゲートウェイサーバーを選択します。
2. [Configuration (設定)]タブをクリックします。
3. [Messaging (メッセージング)]を展開して、[File Identifications (ファイル詳細)]をクリックします。

テーブルには、90個のデフォルトの文書タイプが表示される必要があります。テーブルが空の場合は、デフォルトのテーブルを再ロードしてください。

1. Lotus Notesクライアントを開きます。
2. [File (ファイル)] -> [Application (アプリケーション)] -> [Open (開く)]の順に選択します。
3. HPゲートウェイサーバーで、pubnames.ntfという名前のファイルを開きます。
4. [Ctrl] + [A]キーを押してすべての文書を選択し、次に[Ctrl] + [C]キーを押してこれらをクリップボードにコピーします。
5. Administratorクライアントのファイル詳細テーブルに戻ります。
6. [Ctrl] + [V]キーを押して、文書をテーブルに貼り付けます。

IAPでサポートされているコンテンツファイルの一覧については、「[インデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ](#)」(317ページ)を参照してください。

Microsoft Office 2007 MIMEタイプのサポートの追加 (Lotus Domino 7.x)

Microsoft Office 2007は、データファイルで使用するいくつかの新しいファイル拡張子をサポートしています。IAPが電子メールメッセージと添付ファイルに対して正しくインデックスを作成できるようにするには、これらのファイル拡張子をMIMEコンテンツタイプに対応付ける必要があります。

Lotus Dominoサーバーには、ファイル拡張子とMIMEタイプとのマッピングを行うファイル詳細テーブルが付属しています。ただし、IBMはDomino 7.xでOffice 2007をサポートしていません。また、正しいテーブルエントリを設定するための情報を提供していません (IBM technote 1258670: 『Enhancement Request: Support for Microsoft Office 2007 with Lotus Notes』を参照)。

Domino管理者は、メールサーバー上のDomino Directoryで、ファイル詳細文書を作成することもできます。これによって、拡張子マッピングが予約され、他のソフトウェアがデフォルトのルールを誤って適用し、Microsoft Office 2007のデータを正しくない方法で処理することを防止できます。

Office 2007のファイル拡張子をサポートするようにファイル詳細テーブルを更新するには、以下の手順を実行してください。

1. Domino Administratorクライアントを使用し、サーバー上でDomino Directoryを開きます。
2. [Configuration (設定)] -> [Messaging (メッセージング)]の順に選択し、[File Identifications (ファイル詳細)]ビューに移動します。
3. [Add File Identification (ファイル定義の追加)]をクリックして、ファイル詳細文書を開きます。
4. [File Identification (ファイル識別)]タブで、フィールドに次のように入力します。
 - ・ [MIME type (MIMEタイプ)]: 「application」と入力します。
 - ・ [MIME subtype (MIMEサブタイプ)]: 「[インデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ](#)」(317ページ)に記載されている、最初のOffice 2007のサブタイプを入力します。
 - ・ [File extension (ファイル拡張子)]: 表に記載されている、最初のファイル拡張子を入力します。
 - ・ [Description (説明)]: (オプション) ファイルタイプに適したテキストを入力します。
 - ・ [Outbound (アウトバウンド)]: [Send (送信)]を選択します。
5. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
6. 「[インデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ](#)」(317ページ)に記載されている各Office 2007 MIMEタイプに対して、手順3～5を繰り返します。

クライアントアプリケーションの問題

以下では、Notes WindowsプラグインまたはExport Searchのデスクトップバージョンで発生する問題のトラブルシューティング方法について説明します。

Notes Clientプラグインのトラブルシューティング

クライアントのnotes.iniに次の2つのパラメーターを追加して、HPのサポート担当者によるプラグインに関する問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- ・ HPCCLIENT_HTTP_FILE=1: IAPからダウンロードしたMIMEをhprimdump.emlという名前のファイルに保存します。
- ・ HPCCLIENTVERBOSE=1: 詳細なロギングを有効にします。

これらのパラメーターはHPのサポート担当者から指示があった場合にのみ追加してください。

Phone Message (伝言メモ) に内容が2回表示される

NotesのPhone Message (伝言メモ) フォームを使用して送信されたメッセージは、マイニングルールによって明確に除外されていない限り、選択的にアーカイブおよびtombstone化されます。プラグインを使ってtombstone化されたPhone Message (伝言メモ) を表示すると、メッセージの内容が2回表示されます。これは、プラグインが、IAPから取得したデータとtombstoneに保存されているデータをマージするためです。IAPでメッセージが2倍のストレージ容量を消費しているわけではありません。

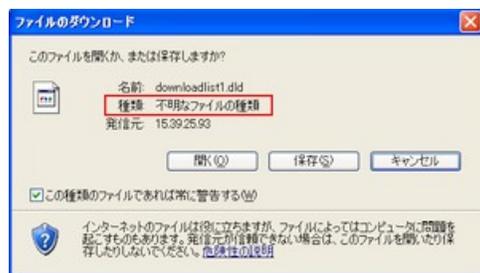
Lotus Notesでミーティング要求を開くときにエラーになる

ユーザーがNotesにアーカイブされたミーティング要求を開くとき、Windowsプラグインがインストールされていると、「Document Command is not Available (文書コマンドを使用できません)」というエラーが発生することがあります。このエラーダイアログボックスでユーザーが[OK]をクリックすると、ミーティング要求が正しく開きます。

この問題は、EAs Dominoの2.1より前のバージョンを使用してアーカイブされた要求に対して発生します。EAs Domino 2.1では、ミーティング要求 (通知) は常にアーカイブから除外されます。また、ミーティング要求がメッセージに.icsファイルとして添付されているときにも発生することがあります。

Export Search (デスクトップツール) のトラブルシューティング

ファイルのエクスポート時に次のエラーが表示された場合は、WindowsシステムでDLDファイルタイプがExport Searchデスクトップツールに関連付けられているかどうかを確認します。



ファイルタイプの確認

次の手順を実行して、コンピューターにDLDファイルタイプがインストールされていることを確認してください。

- ・ (Windows Vistaの場合) [コントロールパネル]で、[既定のプログラム]を選択し、[ファイルの種類またはプロトコルのプログラムへの関連付け]をクリックして、ファイルタイプのリストを表示します。
- ・ (その他のWindowsオペレーティングシステムの場合) [コントロールパネル]で、[ツール] -> [フォルダオプション]の順に選択して、[ファイルの種類]タブをクリックし、ファイルタイプのリストを表示します。

ファイルタイプの関連付けの作成

ファイルタイプのリストにDLDが表示されない場合、DLDファイルタイプへの関連付けを作成します。

Windows Vistaの場合:

1. Webインターフェイスの[検索結果]ページで[追加オプション]をクリックし、検索結果をエクスポートします。
[ファイルのダウンロード]ダイアログボックスが表示されます。
2. [保存]をクリックし、DLDファイルをコンピューターのデスクトップに保存します。
3. DLDファイル (downloadlist2.dldなど) を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
4. [全般]タブで、[変更]をクリックします。
5. [参照]をクリックし、以下の場所を参照します。
`\Program Files\Lotus\Notes\Localcache`
6. [ExportSearch.exe]を選択して[開く]をクリックします。
7. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Searchデスクトップツールに関連付けます。
8. DLDファイルをダブルクリックして、ファイルのエクスポートに進みます。

その他のWindowsオペレーティングシステムの場合:

1. [コントロールパネル]で、[ツール] -> [フォルダオプション]の順に選択して、[ファイルの種類]タブをクリックします。
2. [新規]をクリックします。
3. [ファイルの拡張子]ボックスで、DLDと入力し、[OK]をクリックします。
4. [拡張子'DLD'の詳細]で、[変更]をクリックします。
5. 表示されたダイアログボックスで[一覧からプログラムを選択する。]をクリックし、[OK]をクリックします。
6. [ファイルを開くプログラムの選択]で[参照]をクリックします。
7. 以下のフォルダーを参照します。
`\Program Files\Lotus\Notes\Localcache`
8. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
9. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Searchデスクトップツールに関連付けます。

ファイルタイプの関連付けの変更

DLDファイルタイプが他のプログラムに関連付けられている場合は、その関連付けを変更します。

Windows Vistaの場合:

1. [コントロールパネル]で、[既定のプログラム]を選択し、[ファイルの種類またはプロトコルのプログラムへの関連付け]をクリックします。
2. [.dld]拡張子を選択し、[プログラムの変更]をクリックします。
3. [ファイルを開くプログラムの選択]で[参照]をクリックします。
4. 以下のフォルダーを参照します。
`\Program Files\Lotus\Notes\Localcache`

5. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
6. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Searchデスクトップツールに関連付けます。

その他のWindowsオペレーティングシステムの場合:

1. [コントロールパネル]で、[ツール]->[フォルダオプション]の順に選択して、[ファイルの種類]タブをクリックします。
2. [ファイルの種類]タブでDLD拡張子を選択し、[変更]をクリックします。
3. [ファイルを開くプログラムの選択]ダイアログボックスで、[参照]をクリックします。
4. 以下のフォルダーを参照します。
 \Program Files\Lotus\Notes\Localcache
5. [ExportSearch.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
6. [OK]をクリックして、DLDファイルタイプをExport Searchデスクトップツールに関連付けます。

6.2 パフォーマンスの向上

この章では、HP EAs Dominoのシステムパフォーマンスを向上させる方法について説明します。

- ・ データベースの縮小 (283ページ)
- ・ HPゲートウェイサーバーの設定の編集 (283ページ)
- ・ HPゲートウェイサーバーの監視 (284ページ)

データベースの縮小

HPゲートウェイサーバーは、容量を節約するために、定期的に縮小する必要があります。

1. Domino Administratorクライアントで、[Configuration (設定)]タブをクリックします。
2. [Server (サーバー)]の横にある拡張矢印をクリックし、[Programs (プログラム)]をクリックします。
3. [Add Program (プログラムの追加)]をクリックします。
4. [Program name (プログラム名)]フィールドに`ncompact.exe`と入力します。
5. [Command line (コマンドライン)]に`-B`と入力します。
6. 必要に応じてスケジュール設定を調整します。
7. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。

HPゲートウェイサーバーの設定の編集

以下の設定を実行すると、サーバーのパフォーマンスが向上します。この設定は、HPゲートウェイサーバーの`notes.ini`に追加します。

1. Domino Administratorクライアントで、[Configuration (設定)]タブをクリックします。
2. [Server (サーバー)]拡張矢印をクリックします。
3. [Configuration (設定)]をクリックします。
4. 既存のサーバー設定文書をダブルクリックします。
5. [NOTES.INI Settings (NOTES.INI 設定)]タブをクリックします。

6. [Edit Server Configuration (サーバー設定の編集)]をクリックし、[Set/Modify Parameters (パラメータの設定/編集)]を選択します。[Item (アイテム)]ドロップダウンボックスから選択を行うことにより、次の設定を1つずつ追加します。

 **注記:**

いくつかの項目は、リストの中にあることがあります。

- ・ `log_mailrouting=0`
メール配信と転送に関するルーターのメッセージを、サーバーコンソールのログに記録しないようにします。
- ・ `MaxMailMessageQueue=20000`
ルーターが送信キューに入れるメッセージの数を制限し、バッファオーバーフローエラーとメモリ不足エラーを防止します。
- ・ `MailLogToEventsOnly=1`
サーバー設定文書で設定されているロギングレベルに基づいて、`log.nsf`ファイルに、メールルーティングイベントのログを記録します。
- ・ `log_sessions=0`
個別のセッションをサーバーコンソールのログに記録しないようにします。
- ・ `no_force_activity_logging=1`
すべてのデータベースの動作ログを自動的に記録しないようにします。これはデータベースのパフォーマンスを向上させますが、実稼動環境でのデータベースの動作ログの必要性を考慮する必要があります。

HPゲートウェイサーバーの監視

HPゲートウェイサーバーは、メッセージをIAPアーカイブへ送信する上で、重要な役割を果たします。通常の場合では送信は問題なく実行されますが、複雑なネットワークでは予期できない問題が発生する可能性があります。

Dominolにはさまざまな監視ツールが組み込まれており、単体で使用することも、HP OpenViewのようなネットワーク管理製品と組み合わせて使用することもできます。DominoのDisk.C.Free、Mail.Dead、Mail.Hold、Mail.TotalFailures、およびMail.TotalPendingの各内部統計モニターは、HPゲートウェイサーバーの状態を知るのに特に役立ちます。

IBM Lotus SoftwareのDomino Administratorヘルプピック「Monitoring the Domino system」、「Creating a statistic event generator」、「Platform statistics」を参照してください。ネットワークで使用されているすべての管理製品のマニュアルも参照してください。

EAs Dominoでは、Get Held Messagesアプリケーションとメッセージの再処理をルーティングの問題のトラブルシューティングに使用します。詳細については、「[Heldメッセージの処理](#)」(267ページ)を参照してください。

Part 7. 付録

- ・ [インストールのためのワークシート\(287ページ\)](#)
- ・ [インストール後のチェックリスト\(295ページ\)](#)
- ・ [IAPの設定\(299ページ\)](#)
- ・ [新しいEAs Dominoデータベースの作成\(311ページ\)](#)
- ・ [日本語データ用のHP EAs Dominoの設定\(313ページ\)](#)
- ・ [インデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ\(317ページ\)](#)
- ・ [サポートとその他の資料\(319ページ\)](#)

A インストール準備のためのワークシート

- ・ お客様および製品の情報(287ページ)
- ・ IAPに関する情報(288ページ)
- ・ HPゲートウェイの環境(289ページ)
- ・ マイニングの対象となるDominoサーバー(291ページ)
- ・ HP EAs Dominoの機能(Dominoサーバー)(292ページ)
- ・ HP EAs Dominoの機能(クライアントシステム)(293ページ)

お客様情報

会社名	
-----	--

導入のためのお客様連絡先

名前/役職	電話番号	携帯電話番号	電子メール

導入後/サポートのためのお客様連絡先

名前/役職	電話番号	携帯電話番号	電子メール

インストール現場の情報:現場1

お客様	
インストール現場の住所	
現場の電話番号	
現場への行き方についての特別な注意事項	
郵送先住所(上記と異なる場合)	

インストール現場の情報:現場2

お客様	
インストール現場の住所	
現場の電話番号	
現場への行き方についての特別な注意事項	
郵送先住所(上記と異なる場合)	

インストール現場の情報:現場3

お客様	
インストール現場の住所	
現場の電話番号	
現場への行き方についての特別な注意事項	
郵送先住所(上記と異なる場合)	

インストール現場の情報:現場4

お客様	
インストール現場の住所	
現場の電話番号	
現場への行き方についての特別な注意事項	
郵送先住所(上記と異なる場合)	

IAPに関する情報

説明	値
IAPの名前 (BlackBoxName)	
IAPによる認証のためのEAs Domino認証情報 ユーザーのログインID パスワード	
インストールするIAPソフトウェアのバージョン(インストールするすべてのパッチまたはホットフィックスを含む)	
IAPドメイン名	
IAPドメインID DASジョブの設定で使用するもの	

説明	値
仮想IPアドレス (VIP)	
レプリカのIP名(複製を使用している場合)	
保持期間 <ul style="list-style-type: none"> ドメイン (30日未満は不可) ドメイン (30日未満は不可) 規定レポジトリ(ドメインの保持期間より短い場合は不可) 	例: <ul style="list-style-type: none"> 30 60 60
DASからIAPにロードされるユーザーの推定数	
IAPがマスターHPゲートウェイサーバーとの間でアカウントの同期を実行する間隔(時間)	

HPゲートウェイの環境

この表の情報を使用して、HPゲートウェイサーバーにWindowsサーバーソフトウェアとLotus Dominoサーバーソフトウェアをインストールおよび設定します。

「[HPゲートウェイ環境の準備](#)」(43ページ)を参照してください。

説明	値
組織単位の証明書ID	例: /ou=hparchive/o=acme
証明書IDのパスワード(証明書IDもパスワードもDomino管理者が準備する)	
HPゲートウェイのDominoドメイン名	例: HPGateway
HPゲートウェイの管理者ID	HPAdmin
HPゲートウェイの管理者IDのパスワード(Domino管理者が指定)	
ユーザーのWindowsドメイン(オプション)	
マスターHPゲートウェイサーバー	
マスターHPゲートウェイサーバーのID(DASおよびEAs Dominoソフトウェアのインストールに使用)	
HPゲートウェイサーバーの名前とタイトル	例: HPGateway1、HP Gateway 1
マスターHPゲートウェイサーバーの完全修飾名	例:
マスターHPゲートウェイサーバーの完全修飾インターネット名	例:
マスターHPゲートウェイサーバーのIPアドレス	
マスターHPゲートウェイサーバーのホスト名	

説明	値
追加のHPゲートウェイサーバー	
HPゲートウェイサーバー2	
HPゲートウェイサーバー2のID	
HPゲートウェイサーバー2の名前とタイトル	
HPゲートウェイサーバー2の完全修飾名	
HPゲートウェイサーバー2の完全修飾インターネット名	
HPゲートウェイサーバー2のIPアドレス	
HPゲートウェイサーバー2のホスト名	
HPゲートウェイサーバー3	
HPゲートウェイサーバー3のID	
HPゲートウェイサーバー3の名前とタイトル	
HPゲートウェイサーバー3の完全修飾名	
HPゲートウェイサーバー3の完全修飾インターネット名	
HPゲートウェイサーバー3のIPアドレス	
HPゲートウェイサーバー3のホスト名	
HPゲートウェイサーバー4	
HPゲートウェイサーバー4のID	
HPゲートウェイサーバー4の名前とタイトル	
HPゲートウェイサーバー4の完全修飾名	
HPゲートウェイサーバー4の完全修飾インターネット名	
HPゲートウェイサーバー4のIPアドレス	
HPゲートウェイサーバー4のホスト名	

マイニングの対象となるDominoサーバー

HPゲートウェイサーバーからのマイニングの対象となるメールサーバーやジャーナルサーバーをリストします。

各サーバーではリモートマイニングがサポートされていることを確認してください。

「[サポートされるオペレーティングシステムとLotus Dominoのバージョン](#)」(35ページ)を参照してください。

説明	値
Dominoメールドメイン名	
ユーザーの外部ドメインとの通信に指定されているハブサーバーまたはサーバー	
Selective Archiveのために実装するtombstoneのタイプ	
メールサーバー1 完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン	
メールサーバー2 完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン	
メールサーバー3 完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン	
メールサーバー4 完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン	
ジャーナルサーバー1 完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン	
ジャーナルサーバー2 完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン	

HP EAs Dominoの機能 (Dominoサーバー)

ユーザーのサーバーがEAs Dominoのシステム要件を満たしていることを確認してください。

「サポートされるオペレーティングシステムとLotus Dominoのバージョン」(35ページ)を参照してください。

ジャーナリングやDWA Extensionの容量の要件については、「ユーザーDominoサーバーの要件」(35ページ)を参照してください。

カテゴリ	項目	説明
ジャーナリング	次の機能によってジャーナル化されるメール <ul style="list-style-type: none"> Dominoネイティブジャーナリング HP EAs Dominoの高度なフィルタリング 	
	ジャーナルをホストするメール/ジャーナルサーバー1 <ul style="list-style-type: none"> サーバーの完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン ジャーナルMail-inデータベースの名前 	
	ジャーナルをホストするメール/ジャーナルサーバー2 <ul style="list-style-type: none"> サーバーの完全修飾名 OS Lotus Dominoのバージョン ジャーナルMail-inデータベースの名前 	
	(高度なフィルタリングのみ) Dominoサーバーで使用するウイルス対策ソフトウェアの名前(ある場合)	
一括アップロード	実装する機能	
	ユーザーのLotus Dominoアプリケーションサーバー <ul style="list-style-type: none"> 完全修飾サーバー名 OS Lotus Dominoのバージョン 	
DWA Extension	実装する機能	
	インストール先 (メール/DWAサーバーまたはプロキシサーバー)	
	ユーザーのLotus Dominoサーバー <ul style="list-style-type: none"> 完全修飾サーバー名 OS Lotus Dominoのバージョン 	

カテゴリ	項目	説明
Export Search	実装する機能	
	ユーザーのLotus Dominoサーバー <ul style="list-style-type: none"> 完全修飾サーバー名 OS Lotus Dominoのバージョン 	
	Export Search Webインターフェイスを使用するか	

HP EAs Dominoの機能 (クライアントシステム)

サポートされているクライアントシステムについては、「[サポートされるLotus Notesクライアント](#)」(38ページ)を参照してください。

カテゴリ	項目	説明
Windows Notesプラグイン	実装する機能	
	クライアントOS/サポートされているLotus Notesのバージョン	
Local Cache/Export Search	実装する機能	
	Java Runtime Environmentはインストール済みか	
	クライアントOS/サポートされているLotus Notesのバージョン	
IAPシングルサインオン	実装する機能	
	クライアントOS/サポートされているLotus Notesのバージョン	

B インストール後のチェックリスト

- ・ インストール: マスターHPゲートウェイサーバー (295ページ)
- ・ インストール: 追加のHPゲートウェイサーバー (296ページ)
- ・ 設定: 電子メールのアーカイブ (296ページ)

インストール: マスターHPゲートウェイサーバー

説明	√
Java Runtime Environmentがサーバーにインストールされていることを確認。	
サーバーにセキュリティを設定。	
Agent Managerの値を調整。	
ユーザーのサーバーに対する接続文書を作成。	
IAPIに対する接続文書を作成。	
サーバー設定文書を作成 (mail.boxファイルの数とすべてのルーター/SMTPとMIME設定を指定)。	
サーバーでDominoログファイルのサイズを制限。	
notes.iniのJavaMaxHeapSizeのパラメーターを調整。	
EAs Dominoデータベースをインストールし、データベース用のACLを設定。	
統合ディレクトリを作成し、これを他のゲートウェイサーバーに複製。	
Directory Assistanceを設定。	
DAS Names Configuration文書を編集。	
統合ディレクトリから取り込むためのDAS NamesデータベースでのPopulate DAS Namesエージェントをスケジュールおよび実行。	
サーバーを再起動。 (mail.boxファイルがあればサーバーの再起動時に削除)。	
Global Configuration文書を設定。Server Definition文書を設定および有効化。	

インストール: 追加のHPゲートウェイサーバー

説明	√
Java Runtime Environmentがサーバーにインストールされていることを確認。	
マスターHPゲートウェイサーバーからその他のHPゲートウェイサーバーに対する接続文書を作成。	
サーバーにセキュリティを設定。	
Agent Managerの値の調整。	
ユーザーのサーバーに対する接続文書の作成。	
IAPIに対する接続文書の作成。	
サーバー設定文書を作成 (mail.boxファイルの数とすべてのルーター/SMTPとMIME設定を指定)。	
サーバーでDominoログファイルのサイズを制限。	
notes.iniのJavaMaxHeapSizeのパラメーターを調整。	
マスターHPゲートウェイサーバーから統合ディレクトリが複製されていることを確認。	
DASバックアップとして使用するゲートウェイサーバーに、Directory Assistanceデータベースが複製されていることを確認。	
マスターHPゲートウェイサーバーからEAs Dominoソフトウェアを導入し、HP EAs-D APIデータベースとHP EAs-D Usersデータベースを複製。 DAS NamesデータベースをDASバックアップサーバーに複製。	
EAs DominoデータベースにACLを設定。	
サーバーを再起動。 (mail.boxファイルがあればサーバーの再起動時に削除)。	
その他のゲートウェイサーバーがサーバー定義文書に追加されていることを確認。	

設定: 電子メールのアーカイブ

説明	√
Global Configuration文書とサーバー定義文書が正しく設定されていることを確認。	
マイニングルール文書を設定。 (1つのルールを設定し、必要に応じてコピーおよび貼り付けすることが可能。使用されていないマイニングルールを削除。)	

説明	√
<p>Profileエージェントを実行してHP EAs-D Usersデータベースに取り込む。 (エージェントを実行する前に、各マイニングルールについて[User Membership(ユーザーメンバシップ)]タブの設定が正しいことを確認してください。あるマイニングルールに対してProfileエージェントを有効/無効にすることによるテストや検証のために、選択的にユーザーを追加できます。)</p>	
<p>EAs-D Usersデータベースでエージェントをスケジュールおよび有効化。</p>	
<p>Get Held Messagesデータベースを作成し、コントロールとエージェントを設定。</p>	
<p>PreProcessエージェントをスケジュールおよび有効化。</p>	
<p>Archive、Tombstone、Reference Cleanupの各エージェントをスケジュールおよび有効化。</p>	
<p>マイニングジョブのスケジュールをスケジュール。</p>	

C IAPの設定

以下では、HP EAs Domino 2.1のインストールに対応するために、IAPに加える変更について説明します。

- ・ [LNMの設定 \(299ページ\)](#)
- ・ [フォルダーサポートの無効化 \(299ページ\)](#)
- ・ [デフォルトのLDAP属性のマッピング \(299ページ\)](#)
- ・ [ディレクトリの統合 \(300ページ\)](#)
- ・ [アカウントのセキュリティ \(304ページ\)](#)
- ・ [DASジョブの作成と実行 \(305ページ\)](#)

LNMの設定

電子メールが送られるVIPでは、Lotus Dominoの電子メールを分析する必要があります。そのため、Notesメールの属性となる各VIPに対して、Domain.jcmlの中でLotus Notes Mail (LNM) を設定する必要があります。

この設定の例を次に示します。

```
ipToDomainInfo=172.16.7.226,172.16.7.227
172.16.7.226=LNM,CURRENT
172.16.7.227=RPL,CURRENT
```

フォルダーサポートの無効化

Lotus DominoからアーカイブしたメッセージをサポートするIAPドメインでは、IAPのフォルダーサポートを有効にすることはできません。HP EAs Dominoでは、この機能はサポートされていません。フォルダーサポートオプションを有効にすると、IAPからエクスポートされたメッセージをExport Searchユーティリティで開けなくなります。

IAPキックスタートサーバーの/install/configs/primary/にあるDomain.jcmlを開き、ドメインに対するFolderSupportEnabledパラメーターがデフォルト値のfalseに設定されていることを確認してください。

デフォルトのLDAP属性のマッピング

IAPのユーザー定義の属性のデフォルトのマッピングを行うために、特別なDSE設定ファイルが必要になります。

Domino向けのDASジョブを設定する前に、次の手順を実行してください。

1. DASジョブを制御するHTTPポータルにSSHで接続し、次のコマンドを実行します。

```
cd /opt/DAS/runtime
mv LoadChanges.dse LoadChanges.dse.orig
cp LoadChangesDomino.dse LoadChanges.dse
```

2. Dominoジョブを制御するすべてのHTTPサーバーに対して手順1を繰り返します。

注記:

IAPのログインのためのユーザー名のマッピングを、PCC Web AdministrationのDASジョブフォームを使用して変更できます。「[DASジョブの作成](#)」(306ページ)を参照してください。

ディレクトリの統合

HP EAs Domino 2.1とIAP 2.1では、以下の3つの機能が新たにサポートされています。

- ・ 共有メールボックスに対するIAPレポジトリ。これはDomino Directory内のMail-inデータベースとして表現されます。アクセス制御は、(DominoまたはLDAPの)ディレクトリグループからのマッピングで行います。
- ・ 各ユーザーまたは共有メールボックス用のDomino Directoryの属性によって設定するIAPレポジトリの保持期間。
- ・ 古い形式の電子メールアドレスのサポート。この機能によって、古い形式の電子メールアドレスでアーカイブされたメッセージにアクセスできるようになります。

この機能に対応するために、DASプロセスが変更されています。

EAs Domino側では、HPゲートウェイサーバーの設定の変更と、DAS NamesデータベースおよびDAS Names Configuration文書を追加することでこの機能に対応しています。「[HPゲートウェイサーバーでのDASの準備](#)」(73ページ)を参照してください。

IAP側では、共有メールボックスとレポジトリ保持の属性のサポートを、PCC Service Toolsで有効にする必要があります。古い形式の電子メールアドレスのサポートを追加するために、IAPでは変更を行っていません。ただし、この機能が実装されている場合、DASのジョブは実行に時間が長くなることがあります。

IAPで統合ディレクトリ機能を有効化

共有メールボックスと保持の機能は、IAPではデフォルトで無効になっています。これを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. IAPのスーパーユーザーとしてPCC Web Administrationにログインします。
2. ユーザーをインポートするDASジョブが事前に作成されていない場合は、このDASを作成します。「[DASジョブの作成と実行](#)」(305ページ)の説明に従ってください。
3. [Service Tools (サービスツール)] -> [View Cell Space (セルスペースの表示)]の順に移動します。
4. [View Cell Space (セルスペースの表示)]の[Other Servers (他のサーバー)]の領域で、DASジョブを実行するHTTPサーバーを開き、以下の手順を実行します。
 - a. [name=DASMBean]を探し、クリックします。
 - b. [MBean]の操作のリストから、`enableRetentionAndAccessManangementViaLdap(String dasJob, int miniumRetentionPeriod)`を探します。
 - c. 次のParamNameの値を設定します。
 - ・ DasJob: DASジョブの名前を入力します。
 - ・ MinimumRetentionPeriod: iapRepositoryRetention valueの値を日数で入力します。ドメインの保持期間より短い値は設定できません。
 - d. [Invoke (実行)]をクリックします。

5. 初期化オプションをtrueにしてDASジョブを実行します。

DASが共有メールボックスとiapRepositoryRetentionの値を取り込むようになります。

正しい実行の確認

DASジョブが正しく実行されたら、PCC Web Administrationで次の手順を実行して、ユーザーと共有メールボックスがインポートされたことを確認してください。

1. メインの[Account Synchronization (アカウントの同期)]ページでジョブの履歴ログを確認します。

インポートされたユーザーとグループの数が予測どおりに表示されているはずです。

以下のステータスメッセージは、8人のユーザーと4つのグループ（共有メールボックス）がインポートされたことを示しています。

Job(s) History Logs:

This log contains the job name, the number of integrated Archive Platform users/groups that have been added, modified, or deleted, and the date/time the job was completed.

Previous DAS Job Runs						
Job Name	Added [User(s)/Group(s)]	Updated [User(s)/Group(s)]	Delete [User(s)/Group(s)]	Elapse time	State	Date
domino	8 / 4	0 / 0	0 / 0	4s	🟢 >>>>	2009-11-20 10:01:07

2. PCCの[Account Manager (アカウントマネージャー)]ページで、[Group (グループ)]をクリックして、グループとしてインポートされた共有メールボックスを確認します。

The screenshot shows the 'User Management / Accounts Manager' interface. At the top right, it displays '9 Users', '4 Groups', and 'Domains: sparta.com'. Below this is a search section with radio buttons for 'User', 'Group', and 'Repository'. The 'Group' option is selected. There are input fields for 'Group Name' and 'Email', and a 'Search' button. Below the search section is a grid of letters from A to Z. At the bottom, there is a table listing groups with checkboxes, group names, and email addresses.

<input type="checkbox"/>	Group Name	Email
<input type="checkbox"/>	Shared Mailbox 4 with spaces_change (ShortName)@API1	sharedmailbox4withspaces@test11.com
<input type="checkbox"/>	SharedMailbox1 (ShortName)@API1	sharedmailbox1@test1.com
<input type="checkbox"/>	SharedMailbox2/Test/IAP (ShortName)@API1	sharedmailbox2@test1.com
<input type="checkbox"/>	SharedMailbox3 (ShortName)@API1	sharedmailbox3@test1.com

3. 1人または複数のユーザーを選択して、メンバーになっている共有メールボックスにアクセスできることを確認します。

[Account Manager (アカウントマネージャー)] ページで [User (ユーザー)] をクリックして、ユーザーのレポジトリのアクセスリストを確認します。

User Management / Accounts Manager 9 Users.
4 Groups.
Domains: sparta.com

Search for: User Group Repository

User Name: FirstName: LastName: Email:

W X Y Z

Integrated Archive Platform Account Information:

Username:
 Local
Password:
First Name:
Last Name:
Email Contact:
Mail To Me Address:
Comments:
Domain:
Mail Server:
Billing Group ID:
Personal Repository:
Direct Repositories:

LDAP information:

Membership:
WinDomain:
LDAP Dn:
Source:
ObjectGUID:
ObjectSID:
USNChange:
Created Date:
Last Modified:
All Repositories:

Proxies:

4. ユーザーまたは共有メールボックスに、レポジトリの保持期間が正しく設定されていることを確認します。

[Account Manager (アカウントマネージャー)]ページで[Repository (レポジトリ)]をクリックして、ユーザーまたはグループを選択し、保持期間の値を確認します。

The screenshot shows the 'User Management / Accounts Manager' interface. At the top, there are search filters for 'User', 'Group', and 'Repository' (selected). Below this, there are input fields for 'Repository for User' and 'Repository Name', with a 'Search' button. A navigation bar includes tabs for 'All', 'Regulated', 'Unregulated', 'Quarantine', and 'Other'. The main content area is titled 'IAP Repository:' and contains several fields: 'Name' (GUID.6CEC0697FB177F7C8525764A006139B1.repository), 'ID' (0b000c29b21b9912477c300f41), 'Domain' (sparta.com), 'Retention' (250, highlighted with a red box), 'Type' (Unregulated), 'EMail' (alice.balice@test.com), and 'Routing' (alice_balice.test1@test1). There is also a checkbox to 'Check this box to delete the selected EMail routings from list above.' and fields for 'Add EMail' and 'EMailDomain Routing'.

統合ディレクトリ機能の無効化

以下の手順に従って、共有メールボックスと保持期間の機能を無効にします。

1. IAPのスーパーユーザーとしてPCC Web Administrationにログインし、[Service Tools (サービスツール)] -> [View Cell Space (セルスペースの表示)]の順に移動します。
2. [View Cell Space (セルスペースの表示)]の[Other Servers (他のサーバー)]の領域で、DASジョブを実行するHTTPサーバーを開きます。
3. [name=DASMBean]を探し、クリックします。
4. [MBean]の操作のリストから、disableRetentionAndAccessManagementViaLdap (String DasJob) を探します。
5. ParamNameに対して、新しい機能を実行するDASジョブを入力し、[Invoke (実行)]をクリックします。
6. [User Management (ユーザー管理)] -> [Account Synchronization (アカウントの同期)]の順に移動します。
7. 初期化オプションをtrueにしてDASジョブを実行します。

DASジョブの実行後、統合ディレクトリ機能は無効になっています。DASでは共有メールボックスの更新やインポートは行わなくなり、またiapRepositoryRetentionの値も使用しなくなります。

 注記:

すでにIAPにインポートされている共有メールボックス、アクセスリスト、およびレポジトリの保持期間は、統合ディレクトリ機能を無効にしても削除および変更されることはありません。

トラブルシューティング

共有メールボックスと保持機能のインストールをトラブルシューティングするには、以下の手順に従ってください。

1. DASジョブを実行しているHTTPポータルで、次の操作を実行します。
 - a. vimなどのテキストエディターを使用して、次のログファイルを開きます。
 - ・ /var/log/jboss/stdout.log.X
 - ・ /var/log/jboss/daslog.txt
 - b. ログにエラーがないかどうかを確認します。
2. 以下のことを確認してください。
 - ・ 新しい機能が有効になっている。
 - ・ LoadChangesDomino.dseの名前がLoadChanges.dseファイルに変わっている。
 - ・ 設定がHTTPポータルで有効になっている。「[HTTPポータルの割り当て](#)」(309ページ)を参照してください。

アカウントのセキュリティ

アーカイブされたメッセージの検索や取得のためにHP EAs DominoユーザーがIAP Webインターフェイスに接続するとき、Domino LDAPサービスは認証を行います。すべてのユーザーが有効なインターネットのパスワードを持っていることが重要です。Domino LDAPでは、ユーザーのDomino Directory Person文書のInternet Passwordフィールドを使用してユーザーを認証します。インターネットのパスワードが空白になっていると、そのユーザーのIAPアカウントに誰でも容易にログインできてしまいます。

これは、DominoへのアクセスにNotesクライアントだけを使用している組織では特に重要です。インターネットのパスワードの設定は、最優先で行ってください。

インターネットのパスワードの設定の詳細については、Domino Administratorのヘルプトピックの、「Setting up password verification」、「Managing Internet passwords」、「Providing additional security for Internet passwords」を参照してください。

HP EAs Domino release 2.1では、HPゲートウェイサーバーとIAP間の通信にSSLは対応していません。

DASジョブの作成と実行

以下の説明に従って、DASジョブを作成および実行します。

1. PCC Web Administrationにログインして、[User Management (ユーザー管理)] -> [Account Synchronization (アカウントの同期)]の順に選択します。
2. LDAP接続を作成します。「[LDAPサーバー接続の作成](#)」(305ページ)を参照してください。
3. DASジョブを作成します。新しいジョブを作成するときは、ジョブに名前とLDAP接続を割り当て、LDAPサーバーでジョブクエリを設定します。「[DASジョブの作成](#)」(306ページ)を参照してください。
4. ジョブをHTTPポータルに割り当てます。「[HTTPポータルの割り当て](#)」(309ページ)を参照してください。
5. ジョブを実行します。「[DASジョブの起動、スケジュール、および停止](#)」(310ページ)を参照してください。

LDAPサーバー接続の作成

LDAP接続を作成するには、以下の手順に従います。

1. [LDAP Server Connectors (LDAPサーバー接続)]領域で、[New LDAP (新規LDAP)]をクリックします。

2. フォームに次の情報を入力して、LDAPサービス接続を作成します。

Connection Name	Domino LDAP
Host Name	15.00.00.000
Binder user	cn=Administrator,O=Company
Binder password	*****
Directory Server type	Lotus Domino
Security Option	Simple LDAP
Port	389

- ・ [Connection Name (接続名)]: LDAP接続を識別するために使用される名前。
- ・ [Host Name (ホスト名)]: LDAPサーバーのIPアドレス。
- ・ [Binder user (バインドユーザー)]: バインドしたいLDAPディレクトリツリー内のユーザー。少なくとも、ユーザーはすべてのユーザーオブジェクトに読み取りアクセス権を持っている必要があります。
たとえば、NotesアドレスがCN=Administrator/O=Companyのとき、[Binder user]はcn=Administrator,O=Companyになります。

❗ **重要:**

LDAP接続のBinderのユーザー名には、カンマを使用してください。

- ・ [Binder password (バインドパスワード)]: Binder userのパスワード。
 - ・ [Directory Server type (ディレクトリサーバータイプ)]: 接続するLDAPサーバーの種類: [Lotus Domino]を選択します。
 - ・ [Security Option (セキュリティオプション)]: LDAPセキュリティのタイプ: [Simple LDAP (単純なLDAP)]を選択します。
 - ・ [Port (ポート)]: LDAPサーバーでLDAPポートを開きます。単純な認証には、ポート389を使用します。
3. 作成する前にLDAPサーバーの接続をテストするには、[LDAP test (LDAPテスト)]をクリックします。
コンテンツペインに、LDAP接続のステータスが表示されます。接続とバインドが正常終了したかどうかと、LDAPサーバーがサポートしている認証の種類が表示されます。エラーは、赤色で表示されず。
 4. [Create (作成)]をクリックします。
 5. [Account Synchronization (アカウントの同期)]ページに戻り、新しいLDAPサーバー接続が[LDAP Server Connectors (LDAPサーバー接続)]に表示されていることを確認します。

DASジョブの作成

1. [DAS Available Jobs (有効なDASジョブ)]領域で、[New JOB (新規ジョブ)]をクリックします。
2. [Job Name (ジョブ名)]ボックスに名前を入力してジョブに名前を付け、[Next Step (次のステップへ)]をクリックします。

Job Name:
(the field cannot be blank or contain a "@ \$ % ^ & . , ; : * # () [] \ { + } ' ~ = - | \ " character.)

3. ドロップダウンリストから、ジョブで使いたいLDAP接続を選択します。
4. [Next Step (次のステップへ)]をクリックします。
5. フォームに以下の情報を入力します。
 - ・ [LDAP Domain name (LDAPドメイン名)]: ユーザーが属するドメイン。例: dominoscale.com
 - ・ [LDAP Starting Point (LDAP開始位置)]: ユーザーアカウントが保存されるルートノード。
DAS Namesから情報を取得するには、このボックスを空白にしておきます。
 - ・ [IAP DomainID (IAPドメインID)]: ユーザーがLDAPサーバー上のユーザーと同期化されるIAPドメインID (ドメイン名ではありません)。これは、`Domain.jcml`に設定されるdomainIDと同じです。
 - ・ [Deletion Starting Point (削除開始位置)]: 削除されたユーザーオブジェクトがLDAPサーバーで保存されるルートノード。
Dominoの場合、このボックスは有効にならないので、無視してください。

6. [Advanced Options (詳細オプション)]アイコン (☐) をクリックして、フォームの最下部にある[LDAP Attribute to Map to Username (ユーザー名にマップするLDAP属性)]ボックスの値を変更します。

Parameter Value	
Job ID	DominoDASJob
LDAP Domain Name	dominoscale.com
LDAP Job Starting Point	
IAP Domain ID	domino1
Delete Starting Point	N/A
Advanced Options: ☐	
USNChanged	1
Delete USNChanged	0
Audit Repository	R0000000
Update LDAP Filter	(objectclass=dominoPerson)(mail=*)
LDAP Query Return Attributes	uid,sn,modifytimestamp,createtimestamp,cn,givenName,mail,sn,dominoid,dominodn,dominoproxyaddresses,maildomain,iaprepositoryretention
Delete LDAP Filter	N/A
LDAP Attribute to Map to Username	uid
<input type="button" value="Update"/> <input type="button" value="Back To Main Page"/>	

他の高度なオプションは変更しないでください。

フィールド	説明
[USNChanged]	Dominoの場合、このボックスは有効になりません。
[Delete USNChanged (USN-Changedの削除)]	Dominoの場合、このボックスは有効になりません。
[Audit Repository (監査レポジトリ)]	変更しません。
[Update LDAP filter (LDAPフィルターの更新)]	特定のユーザーを収容または除外する基準。(編集不能) Dominoユーザーの場合 (objectclass=dominoPerson) (mail=*) 共有メールボックスの場合 (objectclass=dominoServerMailInDatabase) (mail=*)
[LDAP Query return attributes (LDAPクエリのリターン属性)]	リターン属性のリスト。(編集不能) 以下のLDAP属性を使用できます。 uid, sn, modifytimestamp, givenName, mail, sn, dominoid, dominodn, dominoproxyaddresses, maildomain, iaprepositoryretention.
[Delete LDAP Filter (LDAPフィルターの削除)]	Dominoの場合、このボックスは有効になりません。

フィールド	説明
[LDAP Attribute to Map to Username]	<p>矢印をクリックして、ユーザーがIAP Webインターフェイスにログインする方法を決める以下のLDAP属性のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [uid]: デフォルトの属性です。これはDominoのショートネームに相当します。 ユーザーがショートネームまたはShortname@MailDomainの形式を使用してIAPにログインする場合は、[uid]を選択してください。 [mail]: この属性はDominoのInternetAddressに相当します。 ユーザーが完全な電子メールアドレスを使用してIAPにログインする場合は、[mail]を選択してください。

- [Next Step (次のステップへ)]をクリックして、ジョブを作成します。
- このジョブをHTTPポータルに割り当てるには、[Assign Job (ジョブの割り当て)]をクリックします。
以後の手順については、[HTTPポータルの割り当て](#)を参照してください。

HTTPポータルの割り当て

DASジョブを実行する前に、ジョブを実行するHTTPポータルを割り当てます。HTTPポータルには、1つのジョブしか割り当てることができません。

- [Assign Job (ジョブの割り当て)]をクリックします。

Job Name	DominoDASJob
DAS server IP	10.0.71.2
Configuration Enabled	<input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No
Configuration running state	0
Period (minutes)	0
DAS server running state	

- フォームに以下の情報を入力します。
 - [DAS server IP (DASサーバーのIPアドレス)]: DASが設定を実行するHTTPサーバーのIPアドレス。
 - [Configuration Enabled (設定の有効化)]: 有効にするには、[Yes]を選択します。有効にしないと、ジョブのスケジュールや起動ができません。
 - [Configuration running state (設定の実行状態)]: 変更しません。
 - [Period (期間)]: ジョブ実行の間隔 (分)。ジョブを1回実行するには、0を入力します。
 - [DAS server running state (DASサーバーの実行状態)]: 変更しません。
- [Save (保存)]をクリックします。

DASジョブの起動、スケジュール、および停止

1. [DAS Available Jobs (有効なDASジョブ)]で、ジョブを選択します。
2. スケジュールを変更せずにジョブを起動するには、[Start (開始)]をクリックします。
3. ジョブを起動する前にスケジュールを変更するには、以下の手順に従います。
 - a. [Schedule (スケジュール)]をクリックします。
 - b. ジョブ実行の間隔(分)を入力します。ジョブを1回実行するには、0を入力します。それ以外の場合は、DASのスケジュールを60分より短い値に設定しないでください。DASジョブが接近して実行されると、問題を引き起こす可能性があります。
 - c. [Confirm Schedule (スケジュールの確認)]をクリックして、変更を保存します。
 - d. 選択したジョブを起動するには、[Start (開始)]をクリックします。

ジョブが正常に起動したことを示すメッセージが表示されます。

4. [Back to Main Page (メインページへ戻る)]をクリックして、[Account Synchronization (アカウントの同期)]ページに戻ります。

DASジョブを停止するには、以下の手順に従います。

1. [DAS Available Jobs (有効なDASジョブ)]で、ジョブを選択し、[Start/Stop (開始/停止)]をクリックします。
ジョブが停止したことを示すメッセージが表示されます。
2. [Back to Main Page (メインページへ戻る)]をクリックして、[Account Synchronization (アカウントの同期)]ページに戻ります。

DAS履歴ログの表示

DASジョブ履歴ログは、設定した各アクティブジョブに関するジョブ実行のリストを提供します。ログには、ジョブの名前、追加/削除/更新されたIAPユーザーの数、ジョブの実行間隔、ジョブのステータス、ジョブが完了した日時が記録されます。

履歴ログを表示するには、[Account Synchronization (アカウントの同期)]ページの一番下にある[Job(s) History Logs (ジョブの履歴ログ)]領域まで移動します。

特定のDASジョブの前の実行履歴を表示するには、ジョブの名前をクリックします。

ジョブのステータスをチェックするには、[State (状態)]列にあるアイコンを確認します。たとえば、▶▶▶アイコンは、ジョブが完了したことを示します。また、アイコンをポイントして、ステータスを表示することもできます。

D 新しいEAs Dominoデータベースの作成

ReferenceデータベースとPreProcessデータベースの作成

スループットを上げるために、追加のReferenceデータベースとPreProcessデータベースを持つマイニングルールを新しく作成し、エージェント処理の負荷を分散できます。

EAs Dominoテンプレートのhp_referenc.ntfとhp_preproc.ntfを使用して、追加のReferenceデータベースと対応するPreProcessデータベースを作成します。

「[Archiveエージェントの設定](#)」(153ページ)の説明に従って、データベース内のエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。

新しいEAs Dominoデータベースの作成

EAs Dominoテンプレートを使用して、アーカイブプロセスで使用する新しいデータベースを作成します。各テンプレートの説明は、「[HP EAs Dominoデータベースのテンプレート](#)」(66ページ)を参照してください。

1. 関係するテンプレートを、インストールメディアのTemplatesディレクトリから、HPゲートウェイサーバーにアクセスするNotesクライアントのルートデータディレクトリにコピーします。
たとえば、C:\Program Files\lotus\notes\dataになります。

(EAs DominoテンプレートをサーバーのDominoデータディレクトリにコピーしないでください。終夜の設計プロセスによってエージェントの更新にテンプレートが使用され、エージェントがスケジュール情報を失ってしまう場合があります。)

2. Notesクライアントを使用して、データベースを作成します。
 - a. [File (ファイル)] -> [Application (アプリケーション)] -> [New (作成)]の順に選択します。
[New Application (新規アプリケーション)]ウィンドウが表示されます。
 - b. [Server (サーバー)]ボックスで、データベースをインストールするサーバーを指定します。
 - c. [Title (データベース名)]ボックスに、データベースの名前を入力します。
 - d. [Filename (ファイル名)]ボックスに、データベースのファイル名を入力します。
ファイルはDominoのデータフォルダーのhprimに配置します。ただし、ジャーナルテンプレートのHP EAs-Dを使用してジャーナルが使用されているときは除きます。この場合は、ジャーナルをDominoデータディレクトリに作成してください。
 - e. ウィンドウの[Template for New Application (新規アプリケーションのテンプレート)]領域で、[Local server (ローカルサーバー)]を選択します。
 - f. スクロールボックスで、関係するHP EAs-Dテンプレートを選択します。
 - g. [OK]をクリックして、データベースを作成します。

3. [File (ファイル)] -> [Application (アプリケーション)] -> [Access Control (アクセス制御)]の順に選択して、EAs Dominoデータベース用のACLを設定します。
 - ・ ジャーナルデータベースの場合は、アクセス制御の設定を次のように調整します。
 - ・ [LocalDomainAdmins]: [Editor (編集者)]を選択します。
削除の権利とすべてのロールも持っている必要があります。
 - ・ データベースに署名するNotes IDがLocalDomainAdminsに含まれておらず、このグループの中に含めたくない場合は、そのIDを追加して、[Editor (編集者)]のアクセス権を割り当てます。
このユーザーは、削除の権利とすべてのロールを持っている必要があります。
 - ・ [Default]: [No access (なし)]
 - ・ アーカイブプロセスで使用する他のデータベースの場合は、アクセス制御の設定を次のように調整します。
 - ・ LocalDomainAdminsには[Manager (管理者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールがある。
 - ・ LocalDomainAdminsには[Designer (設計者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールがある。
 - ・ (LocalDomainAdmins内に存在していない) データベースの署名に使用されたIDファイルには[Designer (設計者)]のアクセス権があり、削除権限とすべてのロールがある。
サーバーIDを使用してデータベースおよびエージェントに署名する場合、そのサーバーがLocalDomainServers内に存在することを確認します。
 - ・ [Default (デフォルト)]には、データベースのアクセス権を[No access (なし)]に設定します。
4. Domino Designerクライアントで、データベース内の関連するエージェントのスケジュールを設定し、有効にします。
[「Archiveエージェントのスケジュール設定と有効化」](#)(158ページ)を参照してください。
5. Domino Administratorクライアントで、新しいデータベースに署名します。
 - a. データベースがアクティブなユーザーIDで署名される場合は、関連するIDに切り替えます。
 - b. [File (ファイル)] -> [Open Server (サーバーを開く)]の順に選択して、新しいデータベースが作成されたサーバーを選択します。
 - c. [Files (ファイル)]タブをクリックし、データベースを選択します。
 - d. 選択したファイルを右クリックして、コンテキストメニューから[Sign (署名)]を選択します。
 - e. ダイアログボックスで、[Active User's ID (現在のユーザーID)]または[Active Server's ID (現在のサーバーID)]、および[All design documents (すべての設定文書)]を選択して、[OK]をクリックします。

E 日本語データ用のHP EAs Dominoの設定

電子メールストレージの形式

Lotus NotesとDominoでは、電子メールメッセージの内容の保存に次の2つの形式を使用できます。

- ・ MIME形式。インターネットの電子メールに使用される標準的な形式です。
- ・ リッチテキスト形式。Notesのネイティブなデータ形式です。

個々のメッセージに使用される実際の形式には、ユーザーの環境設定とサーバーの設定が関係します。

リッチテキスト形式で保存されるメッセージでは、LMBCSというIBMの文字セットを使用して、すべてのテキスト文字を保存します。MIME形式で保存されるメッセージでは、ほとんどの電子メールシステムで認識できる標準的な文字セットを使用します。

Dominoと他の電子メールシステムとの間の相互運用性のために、Dominoサーバーのルーターでは、リッチテキスト形式をMIME形式に、またLMBCSの文字セットをさまざま標準的な文字セットに変換しています。しかし、メッセージに標準的な文字セットを選択する際には、メッセージのサイズを重視するか、正確性を重視するかが常に問題となります。そのためDominoでは、管理者が言語ごとに選択できるような設定を取り入れています。

ISO-2022-JPと半角カナ文字

HPゲートウェイに付属しているDominoサーバーソフトウェアのデフォルト設定では、日本語文字が含まれる電子メールメッセージにISO-2022-JPという標準的な文字セットを指定しています。この標準文字セットは、日本語文字が含まれるリッチテキスト形式のメッセージがIAPに取り込まれる際に使用されます。

ISO-2022-JP文字セットは、IBMによって実装されましたが、半角カナと呼ばれる日本語文字のサブセットはサポートしていません。LMBCSのデータをISO-2022-JPに変換すると、半角カナ文字は全角カナに強制的に変換されます。

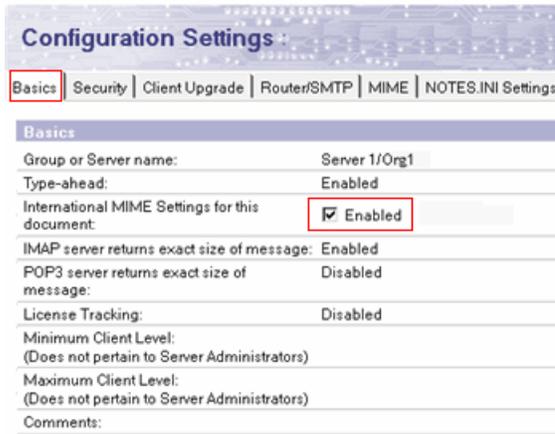
半角カナと全角カナの文字には2つの違いがあります。一部の日本語文字セットでは、半角カナは1文字に1バイトしか使用せず、幅の狭い字体で表現されます。一方、全角カナは1文字に2バイトを使用し、幅の広い字体で表現されます。

IBMは、効率性とメッセージサイズの面を意図してISO-2022-JP文字セットを選択しました。この結果、半角カナ文字は幅広の全角カナに変換されたため、その視覚的な忠実度は失われました。文字自体の意味に変化はありませんが、視覚的な忠実度が失われたことの影響について、EAs Dominoのユーザーが懸念を持つ可能性があります。この影響の1つに、半角カナが含まれるメッセージ内にレイアウトされた表が崩れてしまうことがあります。

HPゲートウェイサーバーの設定文書の変更

半角カナ文字の忠実度を維持するためには、各HPゲートウェイサーバーで次の手順を実行してください。

1. Domino Administratorクライアントを使用して、HPゲートウェイサーバーに接続します。
2. [Configuration (設定)]タブを選択して、ナビゲーションペインで[Server (サーバー)]を展開し、[Configurations (設定)]を選択します。
3. 変更するHPゲートウェイの設定文書を選択して、[Edit Configuration (サーバー設定の編集)]をクリックします。
4. [Basics (基本)]タブをクリックし、[International MIME Settings for this document (この文書のMIME言語設定)]チェックボックスを選択します。



5. 設定文書の[MIME]タブをクリックして、[Settings by Character Set Groups (文字セット)]をクリックします。
6. [MIME settings by character set group (文字セットグループごとのMIME設定)]ドロップダウンリストで、[Japanese (日本語)]を選択します。

7. フォームの最下部にある[Outbound Message Options (アウトバウンドメールオプション)]のセクションで、次のように設定します。
 - ・ 両方の[Character Set (文字セット文字)]のオプションを[Shift_JIS]に変更します。
 - ・ 両方の[Encoding (エンコード)]の設定を[Base 64]に変更します。

Configuration Settings

Basics | Security | Client Upgrade | Router/SMTP | **MIME** | NOTES.INI Settings | Lotus iNote

NOTE: All International MIME settings will only have an effect if you enable 'International MIME'

Basics | Conversion Options | **Settings by Character Set Groups** | Advanced |

For outbound message options below use all possible choices (Advanced users)

MIME settings by character set group: **Japanese**

Settings for Japanese

Inbound Message Options

Font Options

HTML Proportional: Default Sans Serif

HTML Mono-spaced: Default Monospace

HTML Size: 12

Plain Text: Default Monospace

Plain Text Size: 10

Outbound Message Options

	Character Set	Encoding
Header:	Shift_JIS	Base64
Body:	Shift_JIS	Base64

8. [Save & Close (保存して閉じる)]をクリックします。
9. [Server (サーバー)]タブをクリックします。サーバーのコンソールで、Dominoサーバーをシャットダウンします。
10. Dominoサーバーを再起動します。

F インデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ

以下のファイルタイプとMIMEコンテンツタイプには、IAPによってインデックスが作成されます。アーカイブされたファイルや電子メールの添付ファイルのタイプがこの表に記載されていれば、その内容を検索できます。

表8 IAPでインデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ

ファイル拡張子	ファイルタイプ	MIMEコンテンツタイプ
.xml	XMLドキュメント	text/xml
.txt	テキストファイル (特別な指定がない限りISO-8859-1として処理)	text/plain
.htm、.html、.stm	HTMLドキュメント	text/html、rtf/html
.rtf	リッチテキスト形式	rtf/text、application/rtf
.mht、.mhtml、.nws、.eml	電子メールメッセージ	message/RFC 822
.doc、.dot	Microsoft Word 97-2003 文書	application/msword
.xla、.xlc、.xlm、.xls、.xlt、.xlw	Microsoft Excel 97-2003 ドキュメント	application/vnd.ms-excel、application/ms-excel
.pot、.pps、.ppt	Microsoft PowerPoint 97-2003 文書	application/vnd.ms-powerpoint、application/vnd.mspppt
.pdf	Adobe PDF (Portable Document format)	application/pdf
.zip	ZIPアーカイブ	application/zip
.docx	Microsoft Word 2007 文書	application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document
.docm	Microsoft Word 2007マクロ有効文書	application/vnd.ms-word.document.macroEnabled.12
.dotx	Microsoft Word 2007 テンプレート	application/vnd.openxmlformats-officedocument.wordprocessingml.template
.dotm	Microsoft Word 2007マクロ有効文書テンプレート	application/vnd.ms-word.template.macroEnabled.12

ファイル拡張子	ファイルタイプ	MIMEコンテンツタイプ
.xlsx	Microsoft Excel 2007ブック	application/vnd.openxmlformats-officedocument.spreadsheetml.sheet
.xlsm	Microsoft Excel 2007マクロ有効ブック	application/vnd.ms-excel.sheet.macroEnabled.12
.xltx	Microsoft Excel 2007テンプレート	application/vnd.openxmlformats-officedocument.spreadsheetml.template
.xltm	Microsoft Excel 2007マクロ有効ブックテンプレート	application/vnd.ms-excel.template.macroEnabled.12
.xlam	Microsoft Excel 2007アドイン	application/vnd.ms-excel.addin.macroEnabled.12
.pptx	Microsoft PowerPoint 2007プレゼンテーション	application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.presentation
.pptm	Microsoft PowerPoint 2007マクロ有効プレゼンテーション	application/vnd.ms-powerpoint.presentation.macroEnabled.12
.ppsx	Microsoft PowerPoint 2007スライドショー	application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.slideshow
.ppsm	Microsoft PowerPoint 2007マクロ有効スライドショー	application/vnd.ms-powerpoint.slideshow.macroEnabled.12
.potx	Microsoft PowerPoint 2007テンプレート	application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.template
.potm	Microsoft PowerPoint 2007マクロ有効プレゼンテーションテンプレート	application/vnd.ms-powerpoint.template.macroEnabled.12
.wpd	Corel WordPerfect for Windows - バージョン12.0/X3まで	application/wordperfect、application/wpd
.qpw、.wb1、.wb2、.wb3	Corel Quattro Pro for Windows - バージョン12.0/X3まで	application/qpw、application/wb1、application/wb2、application/wb3
.shw	Corel Presentations - バージョン12.0/X3まで	application/presentations

G サポートとその他の資料

参考資料

本書の他に、HP EAs DominoとIAPに関する以下の資料があります。

- ・ 『HP Email Archiving software for IBM Lotus Dominoユーザーガイド』
- ・ 『HP Email Archiving software for IBM Lotus Domino Release Notes』
- ・ 『HP Integrated Archive Platform Installation Guide』
- ・ 『HP Integrated Archive Platform管理者ガイド』
- ・ 『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』

関連情報

HP Integrated Archive Platformの詳細については、以下を参照してください。

www.hp.com/go/ILM (英語)

受賞歴のあるHP産業用ハードウェアの詳細については、以下のHPのWebサイトを参照してください。

www.hp.com (英語)

HP ActiveAnswers Webサイト

www.hp.com/solutions/activeanswers/ (英語)

サポート

HPソフトウェアサポートのWebサイトを参照するには、<http://www.hp.com/go/hpsupport> (日本語) にアクセスしてください。

HPソフトウェアサポートオンラインは、インタラクティブなテクニカルサポートツールへの効率的なアクセスを提供します。大切なサポートカスタマーである皆様は、サポートサイトを使用して、以下の利点を得ることができます。

- ・ 関心のある技術ドキュメントの検索
- ・ サポートケースと拡張要求の送信と追跡
- ・ サポート契約の管理
- ・ HPサポート契約の検索
- ・ 使用可能なサービスの情報の確認
- ・ 他のソフトウェアカスタマーとのディスカッションへの参加
- ・ ソフトウェアトレーニングの検索と登録

ほとんどのサポートエリアでは、HPパスポートユーザーとして登録してサインインする必要があります。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルについては詳しくは、http://support.openview.hp.com/new_access_levels.jsp (日本語) にアクセスしてください。

表記上の規則および記号

表9 表記上の規則

規則	要素
ミディアム ブルーの語句:  1	クロスリファレンス リンクおよび電子メール アドレス
ミディアム ブルーの下線付き語句 (http://www.hp.com/jp)	Webサイト アドレス
太字	<ul style="list-style-type: none">アプリケーション名および強調すべき語句
括弧([])で表示	<ul style="list-style-type: none">キー名ボックスなどのGUIで入力される文字列クリックおよび選択されるGUI(メニューおよびリスト項目、ボタン、チェックボックス)
Monospaceフォント	<ul style="list-style-type: none">ファイル名およびディレクトリ名システム出力コードコマンド ラインで入力した文字列
イタリック体のMonospaceフォント	<ul style="list-style-type: none">コード変数コマンド ライン変数
太字体のMonospaceフォント	ファイル名、ディレクトリ名、システム出力、コード、コマンド ラインで入力される文字列の強調

 **重要:**

詳細情報または特定の手順を示します。

 **注記:**

補足情報を示します。

索引

A

Agent Manager、推奨オプション, 57
Archiveエージェント, 158, 194, 198
ATT添付ファイル, 277

C

Compliance Archiving, 175
Mail-inデータベース, 135
アーカイブ手順, 190
高度なフィルタリング, 176
定義, 19
ネイティブジャーナリング, 185
マイニングルール, 191

D

DAS
DAS Names Configuration文書, 81
DAS Namesデータベース, 73
DASバックアップサーバー, 88
Directory Assistance, 78
EAs-D 2.1での変更, 73
HPゲートウェイの準備, 73
HTTPポータルの割り当て, 309
IAPでの変更, 300
LDAPサーバー接続, 305
LDAPの設定の確認, 81
Populate DAS Namesエージェント, 86
グループのメールボックスのサポート, 73, 300
ジョブの作成と実行, 305
ジョブのスケジュール, 310
定義, 20
統合ディレクトリ, 74
トラブルシューティング, 273
レポジトリ保持の属性, 300
レポジトリ保持の属性, 73
Directory Assistance, 78
DLDダウンロードファイル
Export Searchとの関連付け, 219
DLDファイルからのエクスポート済みメッセージの抽出, 225
DLDファイルタイプの関連付け, 279

DWA Extension, 121
Tombstone Prototype文書, 141, 211
Tombstone Settings, 141, 216
インストール, 206
キャッシュ保持, 112
サーバー定義設定, 121
サーバーの要件, 35
設定, 30
設定手順, 209
定義, 19

E

EAs Domino
Agent Managerの値, 57
Archiving softwareのインストール (新規インストール), 69
Compliance Archiving, 175
Global Configuration文書, 109
HPゲートウェイへのソフトウェアのインストール, 69
JavaMaxHeapSizeの設定, 60
PreProcessデータベース, 146
Selective Archiving, 129
Server Definition文書, 115
新しいデータベースの作成, 311
インストール後の作業, 101
管理アプリケーション, 17
クライアントアプリケーション, 18
サーバーソフトウェアの展開, 91
サーバーのnotes.iniのエントリ, 67
設定, 107
ソフトウェアのアンインストール, 101
定義, 17, 18
データベース, 65
データベースのテンプレート, 66
バイナリ, 68
開く, 107
EAs Dominoソフトウェアのアンインストール, 101
EAs Dominoのパフォーマンスの向上, 283
EAs-D Usersデータベース, 153
EAs-D APIのメインビュー, 107
encapsulatedファイル, 145
DWAの一時作業領域, 121
Encapsulateエージェント, 151, 194, 198
Encapsulationツール, 270

EnsureOwnerReceipt, 118
Exceptions Settings, 133
Export Search, 219, 249
 ACL, 223
 Webインターフェイス, 38
 サーバーファイルのインストール, 221
 サーバーを使用したメッセージのエクスポート, 221
 設定, 31
 デスクトップツールを使用したメッセージのエクスポート, 219
 トラブルシューティング, 221, 279

F

Find Parentツール, 270
Folder Settings, 132

G

Get Held Messages, 158, 267
Global Configuration文書, 109

H

Heldメッセージ, 158, 267, 284
Heldメッセージの収集, 158, 267
HP
 テクニカルサポート, 319
HP_ReferenceInfo, 138
HP_SessionInfo, 138
HPゲートウェイ
 サーバーのパフォーマンスの向上, 283
HPゲートウェイインストールの展開, 91
HPゲートウェイサーバー, 21
 Directory Assistance, 78
 Dominoサーバーソフトウェアのインストール, 44
 Dominoのログサイズの制限, 60
 Java Runtime Environmentのインストール, 48
 Lotus Notesクライアントソフトウェアのインストール, 47
 SMTP接続の作成, 58
 Windowsサーバーソフトウェアのインストール, 43
 監視, 284
 外部のSMTPドメイン文書の設定, 58
 ゲートウェイサーバーの接続文書, 53
 セキュリティの設定, 56
 設定, 55
 設定文書の作成, 59
 追加のHPゲートウェイサーバーのインストール, 49
 定義, 19
 データベースの縮小, 283
 ユーザーのサーバーに対する接続文書, 57

HTTPポータル、割り当て, 309

I

IAP
 アプリケーション, 17
 定義, 18
IAP Webインターフェイス, 18, 249
 サポートされるブラウザ, 38
 署名付きメッセージと暗号化メッセージの表示, 263
 定義, 249
 ナビゲーションペインでのリンク作成, 250
 メッセージのエクスポート, 219, 249
IAPへのLDAP接続
 IAPの設定, 306

J

Java Runtime Environment, 48, 252
JavaMaxHeapSize, 60, 223
JVM panic gc0 error, 271

L

LDAP
 DASプロセスの変更, 73, 300
 IAPユーザー属性のマッピング, 299
 サーバー接続, 305
 設定の確認, 81
 同期化, 78
 ユーザー認証, 304
LNM、Domain.jcmlでの設定, 299
LoadChangesファイル, 246, 299
Local Cache, 249, 258, 261
 SSLのサポート, 255
 インストール, 252
 設定, 253
 定義, 251
Lotus Domino
 サーバーの要件, 35
 サポートされるリリース, 35
Lotus Dominoサーバーソフトウェア
 HPゲートウェイへのインストール, 44
Lotus Dominoのネットワークアーキテクチャー, 21

Lotus Notesクライアント
EAs Dominoアプリケーション, 249
IAP Webインターフェイスへのリンクの作成, 250
Local Cache, 251
tombstoneアイコンの追加, 262
Windows Notes ClientプラグインとLocal Cache, 261
Windowsプラグイン, 258
サポートされるバージョン, 38
署名付きメッセージと暗号化メッセージの取得, 263

M

Mail Detailレコード, 153, 193
Mail Detailレコード、一括アップロード, 197
Mail-inデータベース, 136, 175, 183, 193
Mail-To-Meメッセージ, 186
mail.box
 設定文書での設定, 59
 統合, 272
 バックアップ, 271
Mail-To-Meメッセージ, 182
MIMEコンテンツタイプ, 317
Miningエージェント, 158, 194
Miningジョブ, 194
MS Office 2007 MIMEタイプサポート, 278
MTM Cleanupエージェント, 186
mwadvtタスク, 184

N

notes.ini、サーバーのEAs Dominoのエントリー, 67
Notesの64KBエラー, 157, 277

P

PCC, 18
Phone Message (伝言メモ) フォーム, 279
PKI暗号化, 263
Preprocessing Control文書, 146, 198
PreProcessデータベース, 146, 151
Profileエージェント, 153
Proxy Gateway文書, 210
Purge Not Synchronized person documentエージェント, 156
Purge Selective Archive Logエージェント, 157, 277

Q

Quattro Pro, 318

R

Referenceデータベース, 137, 151, 158, 166, 194

Reset Statusツール, 270
rissminer
 定義, 19
rissminerプログラム, 161

S

S/MIME暗号化, 263
Selective Archiving
 Folder Settings, 132
 Miningエージェントの有効化, 158, 194
 PreProcessエージェントの有効化, 151
 Profileエージェント, 153
 Purge Not Synchronized person documentエージェント, 156
 Purge Selective Archive Logエージェント, 157, 277
 Referenceデータベース, 137, 158, 166
 Time Conditions, 131
 User Activity Alertエージェント, 155
 User Notification, 144
 アーカイブ参照の表示, 166
 アーカイブトラフィック, 142
 アーカイブ日付, 131
 エラー警告, 144
 オンデマンドアーカイブ, 132
 ジョブの実行, 163
 ジョブのスケジュール, 161, 194
 設定, 129
 説明, 129
 定義, 19
 文書サイズ制限, 134
 プロファイル, 136
 プロファイルの作成, 130
 プロファイルへのユーザーの追加, 153
 前処理ファイル, 167
 メッセージ、最大サイズ, 129
 メッセージの添付ファイル, 134
 メッセージの前処理, 145
 ユーザーの同期, 153
 ユーザープロファイル, 135
 ユーザーメールボックス, 153
 例外, 133
 ログファイル, 110, 169
Server Definition文書
 デバッグオプション, 123
Session Settings, 142
SMTP接続、IAPに対するHPゲートウェイ, 58

T

tombstone
 定義, 19
Tombstone Settings, 138
tombstoneアイコン, 262

Tombstoneエージェント, 158

U

Unable to open index table of Mail Details records (Mail Detailsレコードのインデックステーブルを開けません), 276

User Activity Alertエージェント, 155

Usersデータベース, 153

W

Windows Notes Clientプラグイン, 249, 258

Phone Message (伝言メモ) フォーム, 279

設定, 258

トラブルシューティング, 279

Windows Notes ClientプラグインとLocal Cache, 261

Windowsユーザー, 251, 261

WordPerfect, 318

WordPerfectプレゼンテーション, 318

あ

アーカイブ参照の表示, 166

アーカイブトラフィック, 142

アーカイブの設定, 24

アーカイブの説明, 129

アーカイブ文書のサイズ制限, 134, 175

アクセス制御リスト

DWA Extension, 208

Export Search, 223

HPゲートウェイサーバーのEAs Dominoデータベース, 71

高度なフィルタリング, 178

暗号化メッセージ, 179, 207, 260, 263

い

一括アップロード

設定, 33

定義, 19, 195

ファイルのマイニング, 200

マイニングプロファイル, 197

メールファイル所有者の検出, 199

メールファイルのスキャン, 198

インストール

DWA Extension, 206

Export Searchサーバーファイル, 221

HPゲートウェイサーバーのLotus Dominoサーバーソフトウェア, 44

HPゲートウェイのEAs Dominoソフトウェア, 69

Local Cache, 252

Windows Notes Clientプラグイン, 258

一括アップロード, 195

高度なフィルタリング, 176

追加のHPゲートウェイサーバー, 49

インストールの前提条件, 17

インストールのためのワークシート, 287, 295

え

エラーメッセージ, IAP, 268

お

大きい配布リスト, 118

オンデマンドアーカイブ, 132

か

拡張ディレクトリカタログ, 77, 83

カプセル化されたファイル, 151, 260, 263, 277

一時作業領域, 148

外部のSMTPドメイン文書, 58

き

旧バージョンからのアップグレード, 99

け

検索結果の保存, 221

こ

高度なフィルタリング

インストール, 176

サーバーの要件, 35

ジャーナリングルール, 179

設定, 29

定義, 19

さ

サーバーID

作成, 49

バックアップ, 53

サーバーのクラッシュ、回避, 57, 60, 270, 271

サポートされるオペレーティングシステム, 35

Webブラウザー、サポート
Export Search Webインターフェイス, 38
IAP Webインターフェイス, 38
サポートされるプラットフォーム, 35
参考資料, 319

し

証明書ID, 44
署名付きメッセージ, 260, 263
署名付きメッセージと暗号化メッセージ, 121, 145
シングルサインオン
EAs Dominoファイルの設定, 237
Generate SSO Tokensエージェント, 238
IAPでの設定, 245
IAPのキックスタート時に秘密鍵が失われる, 246
Search the IAP Archiveエージェント, 242
ジャーナリング, 175
EAs Domino, 175
EAs Domino (高度なフィルタリング), 179
EAsジャーナルデータベース, 175, 183
Mail-inデータベース, 183
Miningエージェントの有効化, 158
PreProcessエージェントの有効化, 151
受信メッセージ, 180
スケジュール, 161, 194
送信メッセージ, 180
ネイティブDomino, 175
前処理ファイル, 167
メッセージ、最大サイズ, 175
メッセージの前処理, 145
ルール, 110, 179
ルール、高度なフィルタリング, 183, 184
例外, 181, 182

せ

セキュリティ、HPゲートウェイサーバー, 56
セッションサイズ, 120, 150

そ

組織単位の証明書, 44
訴訟ホールド, 221

て

テクニカルサポート
HP, 319
添付ファイル、メッセージ, 134, 263
データ
アーカイブ, 17
クエリ, 17, 221
データクエリ, 17

データベース、EAs Domino, 65
データベース、縮小, 283
データベースのテンプレート、EAs Domino, 65, 66
デバッグオプション, 123, 151, 216
電子メールの配布リスト、拡張, 118

と

統合Domino Directory, 74
トラフィック、アーカイブ, 142
トラブルシューティング, 267
DAS, 273
Export Searchデスクトップツール, 279
Heldメッセージ, 267
HPサポート向けデータの収集, 267
IAP DASのインストール, 304
IAPのエラーメッセージ, 268
Notes Clientプラグイン, 279
Notesプラグイン, 279
Referenceデータベースのツール, 270
アーカイブに関する問題, 276
サーバーのクラッシュの回避, 270
日本語のデータに関する問題, 313
メールのルーティングに関する問題, 271
メッセージの再処理, 268
トラブルシューティングツール, 123, 270
トランザクションの保留, 167

に

日本語のデータに関する問題, 313

ね

ネイティブジャーナリング, 185

は

配布リスト、拡張, 118
バイナリ、EAs Domino, 68
パフォーマンス、HPゲートウェイの向上, 283
パフォーマンス、向上, 283
Dominoサーバーのログサイズの制限, 60
HPゲートウェイサーバーの監視, 284
データベースの縮小, 283

ふ

ファイル詳細テーブル, 277, 278
ファイルタイプ、インデックスを作成, 317
フォルダーサポート、無効化, 299
プログラム文書、rissminer, 161

へ

ヘルプ

入手, 319

ま

マイニングジョブ, 161

実行, 163

マイニングの設定

アクティブゲートウェイ, 25

スケーラブルなマルチゲートウェイ, 28

専用ジャーナルサーバー, 26

複製ジャーナル, 27

マイニングログ, 110, 169

前処理一時ディレクトリ, 146

め

メールボックス、ユーザー, 153

メッセージ、最大サイズ, 129, 134, 175

メッセージの再処理, 268

メモリの問題、回避, 60, 223

ゆ

ユーザーデータベースエージェント, 155

ユーザーの同期, 153

り

リモートマイニング, 24

定義, 19

れ

レポジトリ、IAP

定義, 18

ろ

ロギング, 273

ログファイル, 110, 169, 279

マイニングエントリーの削除, 173

わ

ワークシート、インストールのため, 287, 295

ワイルドカード, 136, 137, 181, 182